令和元年第３回定例会会議録

令和元年第３回菊池市議会定例会会期日程表（会期２２日間）

月　　日	曜日	区　分	日　　程
１１月２９日	金	本会議	開会宣告・開議・会議録署名議員の指名・会期の決定・議案上程・提案理由説明
１１日３０日	土	休　会	（市の休日）
１２月　１日	日	休　会	（市の休日）
１２月　２日	月	休　会	議案調査
１２月　３日	火	休　会	議案調査
１２月　４日	水	本会議	質疑・委員会付託
		委員会	予算決算常任委員会
１２月　５日	木	本会議	一般質問
１２月　６日	金	本会議	一般質問
１２月　７日	土	休　会	（市の休日）
１２月　８日	日	休　会	（市の休日）
１２月　９日	月	本会議	一般質問
１２月１０日	火	休　会	議案調査
１２月１１日	水	委員会	総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会 福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会 経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
１２月１２日	木	本会議	議案訂正
		委員会	総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会 福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会 経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
１２月１３日	金	休　会	議事整理
１２月１４日	土	休　会	（市の休日）
１２月１５日	日	休　会	（市の休日）
１２月１６日	月	休　会	議事整理
１２月１７日	火	委員会	予算決算常任委員会
１２月１８日	水	休　会	議事整理
１２月１９日	木	休　会	議事整理
１２月２０日	金	本会議	委員長報告・質疑・討論・採決・閉会宣言

令和元年　第３回菊池市議会定例会会議録（目次）

１１月２９日（金曜日）　本会議　　**頁**

１．議事日程第１号…… 21
２．本日の会議に付した事件…… 22
３．出席議員氏名…… 24
４．欠席議員氏名…… 25
５．説明のため出席した者の職氏名…… 25
６．事務局職員出席者…… 26
７．開　会…… 27
８．開　議…… 27
９．日程第１　会議録署名議員の指名…… 27
10．日程第２　会期の決定…… 27
11．日程第３　福祉厚生常任委員会行政視察報告…… 28
12．日程第４　総務文教常任委員会所管事務調査報告…… 31
13．日程第５　議案第６１号　上程・説明…… 39
休　憩…… 40
開　議…… 40
議案第６１号　質疑・討論・採決…… 40
14．日程第６　議案第６２号から議案第７６号まで一括上程・説明…… 41
15．日程第７　議案第７７号から議案第８０号まで一括上程・説明・質疑
・討論・採決…… 50
16．日程第８　議案第８１号から議案第８９号まで一括上程・説明…… 52
17．日程第９　報告第２４号から報告第２６号まで一括上程・報告・質疑…… 55
18．日程第10　請願第２号及び陳情第４号まで一括上程…… 56
19．日程通告　散会…… 57

１１月３０日（土曜日）　休　会
１２月　１日（日曜日）　休　会
１２月　２日（月曜日）　休　会
１２月　３日（火曜日）　休　会

１２月４日（水曜日）　本会議　　**頁**

１．議事日程第２号…… 61

２．本日の会議に付した事件…… 61
３．出席議員氏名…… 61
４．欠席議員氏名…… 62
５．説明のため出席した者の職氏名…… 62
６．事務局職員出席者…… 62
７．開　議…… 63
８．日程第１　質疑…… 63
９．日程第２　委員会付託…… 67
10．日程通告　散会…… 68

１２月５日（木曜日）　本会議　　頁
１．議事日程第３号…… 71
２．本日の会議に付した事件…… 71
３．出席議員氏名…… 71
４．欠席議員氏名…… 71
５．説明のため出席した者の職氏名…… 72
６．事務局職員出席者…… 72
７．開　議…… 73
８．日程第１　一般質問…… 73
（１）城　典臣君質問…… 73
「高齢者福祉について」…… 73
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 74
城　典臣君質問…… 74
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 75
城　典臣君質問…… 75
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 75
城　典臣君質問…… 76
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 76
城　典臣君質問…… 77
○市長　江頭　実君答弁…… 77
城　典臣君質問…… 78
○市長　江頭　実君答弁…… 78
（２）城　典臣君質問…… 78
「ドライブレコーダーについて」…… 78

○総務部長　上田敏雄君答弁…… 79
城　典臣君質問…… 79
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 80
（３）城　典臣君質問…… 81
「支所が支所方式で運用しているが、問題はないか」…… 81
○七城支所長　上村雅一君答弁…… 81
○旭志支所長　岩根卓士君答弁…… 81
○泗水支所長　梁池哲也君答弁…… 82
（４）城　典臣君質問…… 82
「各種市民サービスの進捗状況は」…… 82
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 83
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 84
○経済部長　笹本義臣君訂正…… 85
城　典臣君質問…… 85
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 86
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 86
休　憩…… 87
開　議…… 87
（１）平　直樹君質問…… 87
「学校給食について」…… 87
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 89
平　直樹君質問…… 89
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 89
平　直樹君質問…… 90
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 90
平　直樹君質問…… 90
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 91
平　直樹君質問…… 91
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 92
平　直樹君質問…… 93
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 93
平　直樹君質問…… 94
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 95
平　直樹君質問…… 95

○教育部長　木下徳幸君答弁…… 95
平　直樹君質問…… 96
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 97
平　直樹君質問…… 97
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 98
平　直樹君質問…… 98
○市長　江頭　実君答弁…… 99
平　直樹君質問…… 100
○市長　江頭　実君答弁…… 100
（２）平　直樹君質問…… 100
「菊池夏まつりについて」…… 100
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 101
平　直樹君質問…… 101
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 103
平　直樹君質問…… 103
○市長　江頭　実君答弁…… 104
昼食休憩…… 104
開　議…… 105
平　直樹君発言の申し出…… 105
（１）泉田栄一朗君質問…… 105
「魅力ある街づくりについて」…… 105
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 106
○建設部長　中村喜範君答弁…… 107
泉田栄一朗君質問…… 108
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 111
○建設部長　中村喜範君答弁…… 112
泉田栄一朗君質問…… 113
○建設部長　中村喜範君答弁…… 114
○市長　江頭　実君答弁…… 115
（２）泉田栄一朗君質問…… 116
「「あいサポート運動」について」…… 116
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 117
泉田栄一朗君質問…… 117
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 118

泉田栄一朗君質問…… 119
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 120
泉田栄一朗君質問…… 121
○市長　江頭　実君答弁…… 121
休　憩…… 122
開　議…… 122
（１）猿渡美智子さん質問…… 122
「災害に強いまちづくりについて」…… 122
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 122
猿渡美智子さん質問…… 123
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 124
猿渡美智子さん質問…… 124
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 126
（２）猿渡美智子さん質問…… 126
「共生社会実現のための言葉の課題について」…… 127
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 128
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 128
猿渡美智子さん質問…… 129
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 131
（３）猿渡美智子さん質問…… 132
「給食費の徴収について」…… 132
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 133
猿渡美智子さん質問…… 133
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 133
猿渡美智子さん質問…… 134
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 134
猿渡美智子さん質問…… 134
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 136
９．日程通告　散会…… 137

１２月６日（金曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第４号…… 141
２．本日の会議に付した事件…… 141
３．出席議員氏名…… 141

４．欠席議員氏名…… 141
５．説明のため出席した者の職氏名…… 142
６．事務局職員出席者…… 142
７．開　議…… 143
８．日程第１　一般質問…… 143
（１）水上隆光君質問…… 143
「支所について」…… 143
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 144
水上隆光君質問…… 145
休　憩…… 145
開　議…… 145
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 145
水上隆光君質問…… 145
○七城支所長　上村雅一君答弁…… 145
○旭志支所長　岩根卓士君答弁…… 146
○泗水支所長　梁池哲也君答弁…… 146
水上隆光君質問…… 147
○市長　江頭　実君答弁…… 147
（２）水上隆光君質問…… 148
「空家対策について」…… 148
○建設部長　中村喜範君答弁…… 149
○建設部長　中村喜範君訂正…… 149
水上隆光君質問…… 149
○建設部長　中村喜範君答弁…… 150
水上隆光君質問…… 151
○建設部長　中村喜範君答弁…… 151
水上隆光君質問…… 151
○市長　江頭　実君答弁…… 151
（３）水上隆光君質問…… 152
「有害鳥獣対策について」…… 152
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 152
水上隆光君質問…… 153
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 153
水上隆光君質問…… 154

○経済部長　笹本義臣君答弁…… 154
水上隆光君質問…… 155
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 155
（４）水上隆光君質問…… 155
「道路整備について」…… 155
○建設部長　中村喜範君答弁…… 155
水上隆光君質問…… 156
○建設部長　中村喜範君答弁…… 156
休　憩…… 156
開　議…… 156
（１）田中教之君質問…… 157
「菊池一族プロモーション室について」…… 157
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 157
田中教之君質問…… 158
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 158
田中教之君質問…… 159
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 161
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 161
田中教之君質問…… 161
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 161
（２）田中教之君質問…… 161
「菊池市３高校魅力化推進事業について」…… 161
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 162
田中教之君質問…… 163
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 163
田中教之君質問…… 163
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 163
田中教之君質問…… 163
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 165
田中教之君質問…… 165
○教育長　渡邉和博君答弁…… 166
昼食休憩…… 167
開　議…… 167
（１）緒方哲郎君質問…… 168

「中山間地域について」…… 168
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 168
（２）緒方哲郎君質問…… 169
「クリーンセンター花房建設に伴う花房地区からの要望について」…… 170
○建設部長　中村喜範君答弁…… 171
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 171
（３）緒方哲郎君質問…… 171
「地域包括支援体制について」…… 172
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 173
緒方哲郎君質問…… 173
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 173
（４）緒方哲郎君質問…… 174
「災害時における避難所について」…… 174
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 175
緒方哲郎君質問…… 175
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 175
（５）緒方哲郎君質問…… 176
「鳥獣害対策について」…… 177
○総務部長　上田敏雄君訂正…… 177
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 178
休　憩…… 178
開　議…… 179
（１）大賀慶一君質問…… 179
「本市の窓口業務改善について」…… 179
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 180
大賀慶一君質問…… 181
○市長　江頭　実君答弁…… 182
（２）大賀慶一君質問…… 182
「河川の安全対策について」…… 183
○建設部長　中村喜範君答弁…… 184
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 185
大賀慶一君質問…… 186
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 187
（３）大賀慶一君質問…… 188

「学校安全施設の充実について」…… 188
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 190
大賀慶一君質問…… 191
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 191
大賀慶一君質問…… 192
○教育部長　木下徳幸君訂正…… 192
９．日程通告　散会…… 192

１２月７日（土曜日）　休　会

１２月８日（日曜日）　休　会

１２月９日（月曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第５号…… 195
２．本日の会議に付した事件…… 195
３．出席議員氏名…… 195
４．欠席議員氏名…… 195
５．説明のため出席した者の職氏名…… 196
６．事務局職員出席者…… 196
７．開　議…… 197
８．日程第１　一般質問…… 197
（１）東　奈津子さん質問…… 197
「学校給食について」…… 197
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 197
東　奈津子さん質問…… 198
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 198
東　奈津子さん質問…… 199
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 199
東　奈津子さん質問…… 200
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 201
東　奈津子さん質問…… 202
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 203
東　奈津子さん質問…… 203
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 204
東　奈津子さん質問…… 204

○教育部長　木下徳幸君答弁…… 204
東　奈津子さん質問…… 205
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 205
東　奈津子さん質問…… 206
○教育長　渡邉和博君答弁…… 207
（２）東　奈津子さん質問…… 209
「高齢者支援について」…… 210
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 210
東　奈津子さん質問…… 210
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 211
休　憩…… 212
開　議…… 212
（１）福島英徳君質問…… 212
「平成３０年度の癒しの里きくち創生総合戦略における、効果検証報告書の内容について」…… 212
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 214
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 215
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 215
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 216
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 217
○健康福祉部次長　宮村恵美さん訂正…… 217
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 218
福島英徳君質問…… 218
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 218
福島英徳君質問…… 219
○市長　江頭　実君答弁…… 219
（２）福島英徳君質問…… 219
「七城ふるさとコスモスまつりのあり方について」…… 219
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 220
福島英徳君質問…… 221
○建設部長　中村喜範君答弁…… 221
福島英徳君質問…… 222
○建設部長　中村喜範君答弁…… 222
福島英徳君質問…… 222

○建設部長　中村喜範君答弁…… 222
福島英徳君質問…… 223
○市長　江頭　実君答弁…… 223
（３）福島英徳君質問…… 224
「各種委託料について」…… 224
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 224
福島英徳君質問…… 225
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 225
福島英徳君質問…… 225
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 225
福島英徳君質問…… 226
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 226
福島英徳君質問…… 226
○市民環境部長　古田浩敏君答弁…… 227
昼食休憩…… 227
開　議…… 227
（１）荒木崇之君質問…… 227
「菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入にかかる入札問題について」…… 227
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 229
荒木崇之君質問…… 229
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 229
荒木崇之君質問…… 229
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 230
荒木崇之君質問…… 230
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 231
荒木崇之君質問…… 231
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 232
荒木崇之君質問…… 232
休　憩…… 233
開　議…… 233
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 233
荒木崇之君質問…… 233
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 234
荒木崇之君質問…… 234

休　憩…… 235
開　議…… 235
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 235
荒木崇之君質問…… 236
○教育部長　木下徳幸君答弁…… 236
（２）荒木崇之君質問…… 236
「住宅型有料老人ホームの入居者への虐待について」…… 237
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 238
荒木崇之君質問…… 238
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 239
荒木崇之君質問…… 239
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 239
荒木崇之君質問…… 239
○健康福祉部次長　宮村恵美さん答弁…… 240
休　憩…… 241
開　議…… 241
（１）木下雄二君質問…… 241
「世界かんがい施設遺産登録について」…… 241
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 242
木下雄二君質問…… 242
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 243
（２）木下雄二君質問…… 243
「防犯灯、街路灯の現状と今後の対応について」…… 244
○総務部長　上田敏雄君答弁…… 244
（３）木下雄二君質問…… 245
「森林環境譲与税の活用について」…… 245
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 246
木下雄二君質問…… 246
○経済部長　笹本義臣君答弁…… 247
（４）木下雄二君質問…… 247
「市役所庁舎庭園の整備について」…… 247
○建設部長　中村喜範君答弁…… 248
木下雄二君質問…… 248
○建設部長　中村喜範君答弁…… 249

木下雄二君質問…… 250
○市長　江頭　実君答弁…… 251
（５）木下雄二君質問…… 251
「スペインスエカ市との交流の現状について」…… 251
○政策企画部長　元島加奈子さん答弁…… 252
○市長　江頭　実君答弁…… 253
（５）木下雄二君質問…… 254
「竜門ダム市町村交付金の龍門地域への活用について」…… 254
○市長　江頭　実君答弁…… 256
９．日程通告　散会…… 258

１２月１０日（火曜日）　休　会

１２月１１日（水曜日）　総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会
福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会
経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会

１２月１２日（木曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第６号…… 261
２．本日の会議に付した事件…… 261
３．出席議員氏名…… 261
４．欠席議員氏名…… 262
５．説明のため出席した者の職氏名…… 262
６．事務局職員出席者…… 262
７．開　議…… 263
８．日程第１　議案第６９号　説明・採決…… 263
９．日程通告　散会…… 264

総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会
福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会
経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会

１２月１３日（金曜日）　休　会

１２月１４日（土曜日）　休　会

１２月１５日（日曜日）　休　会

１２月１６日（月曜日）　休　会

１２月１７日（火曜日）　予算決算常任委員会

１２月１８日（水曜日）　休　会

１２月１９日（木曜日）　休　会

１２月２０日（金曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第７号…… 267
２．本日の会議に付した事件…… 267
３．出席議員氏名…… 267
４．欠席議員氏名…… 268
５．説明のため出席した者の職氏名…… 268
６．事務局職員出席者…… 269
７．開　議…… 270
８．日程第１　各常任委員長報告…… 270
・総務文教常任委員長報告…… 270
・福祉厚生常任委員長報告…… 274
・経済建設常任委員長報告…… 276
・予算決算常任委員長報告…… 278
委員長報告に対する質疑…… 282
討論…… 283
（１）東　奈津子さん討論…… 283
採決…… 284
９．日程第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について…… 284
10．追加議事日程（第７号の追加１）…… 285
追加日程第１　議案第９０号・議案第９１号　上程・説明…… 285
休　憩…… 287
開　議…… 287
議案第９０号・議案第９１号　質疑・討論・採決…… 287
追加日程第２　決議案第３号　上程・説明・質疑…… 289
討論…… 290
（１）緒方哲郎君討論…… 291
（２）二ノ文伸元君討論…… 291
（３）木下雄二君討論…… 292
（４）福島英徳君討論…… 294
採決…… 294

11. 閉　会…… 295

第　１　号

１１月２９日

令和元年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第１号

令和元年１１月２９日（金曜日）午前１０時開議

第１　会議録署名議員の指名
第２　会期の決定
第３　福祉厚生常任委員会行政視察報告
第４　総務文教常任委員会所管事務調査報告
　質疑
第５　議案第６１号　専決処分の報告及び承認を求めることについて（令和元年度菊池市一般会計補正予算　第７号）
　上程・説明・質疑・討論・採決
第６　議案第６２号　菊池市会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定について
　　議案第６３号　地方自治法及び地方公務員法の一部改正等に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
　　議案第６４号　菊池市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第６５号　菊池市廃棄物の処理及び清掃並びに浄化槽に関する条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第６６号　菊池市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第６７号　菊池市特別養護老人ホーム特別会計条例等を廃止する条例の制定について
　　議案第６８号　菊池市給水条例の一部を改正する条例の制定について
　　議案第６９号　令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）
　　議案第７０号　令和元年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）
　　議案第７１号　令和元年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）
　　議案第７２号　令和元年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）
　　議案第７３号　令和元年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）
　　議案第７４号　令和元年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）

議案第７５号　令和元年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）
議案第７６号　令和元年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第３号）

まで一括上程・説明

第７　議案第７７号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第７８号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第７９号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第８０号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

まで一括上程・説明・質疑・討論・採決

第８　議案第８１号　新市建設計画の変更について
議案第８２号　辺地総合整備計画の策定について
議案第８３号　財産の譲渡について
議案第８４号　公の施設の指定管理者の指定について（菊池渓谷ビジターセンター及び菊池市観光情報発信施設）
議案第８５号　公の施設の指定管理者の指定について（菊池市市民会館）
議案第８６号　公の施設の指定管理者の指定について（菊池市総合体育館）
議案第８７号　公の施設の他の団体の利用に関する協定の締結について
議案第８８号　熊本県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更について
議案第８９号　市道路線の認定について

まで一括上程・説明

第９　報告第２４号　専決処分の報告について（消防積載車物損事故）
報告第２５号　専決処分の報告について（庁用車車両事故）
報告第２６号　専決処分の報告について（庁用車車両事故）

まで一括上程・報告・質疑

第10　請願第　２　号　「菊池地域農業協同組合住吉農業倉庫跡地購入」に関する請願
陳情第　４　号　有害鳥獣被害防止対策に関する陳情

まで一括上程

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　会期の決定
日程第３　福祉厚生常任委員会行政視察報告
日程第４　総務文教常任委員会所管事務調査報告

質疑

日程第５　議案第６１号　専決処分の報告及び承認を求めることについて（令和元年度菊池市一般会計補正予算　第７号）

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第６　議案第６２号　菊池市会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定について

議案第６３号　地方自治法及び地方公務員法の一部改正等に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

議案第６４号　菊池市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第６５号　菊池市廃棄物の処理及び清掃並びに浄化槽に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第６６号　菊池市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第６７号　菊池市特別養護老人ホーム特別会計条例等を廃止する条例の制定について

議案第６８号　菊池市給水条例の一部を改正する条例の制定について

議案第６９号　令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）

議案第７０号　令和元年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）

議案第７１号　令和元年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）

議案第７２号　令和元年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）

議案第７３号　令和元年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）

議案第７４号　令和元年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）

議案第７５号　令和元年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）

議案第７６号　令和元年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第３号）

まで一括上程・説明

日程第７　議案第７７号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第７８号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第７９号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
議案第８０号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
まで一括上程・説明・質疑・討論・採決

日程第８　議案第８１号　新市建設計画の変更について
議案第８２号　辺地総合整備計画の策定について
議案第８３号　財産の譲渡について
議案第８４号　公の施設の指定管理者の指定について（菊池渓谷ビジターセンター及び菊池市観光情報発信施設）
議案第８５号　公の施設の指定管理者の指定について（菊池市市民会館）
議案第８６号　公の施設の指定管理者の指定について（菊池市総合体育館）
議案第８７号　公の施設の他の団体の利用に関する協定の締結について
議案第８８号　熊本県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更について
議案第８９号　市道路線の認定について
まで一括上程・説明

日程第９　報告第２４号　専決処分の報告について（消防積載車物損事故）
報告第２５号　専決処分の報告について（庁用車車両事故）
報告第２６号　専決処分の報告について（庁用車車両事故）
まで一括上程・報告・質疑

日程第10　請願第　２　号　「菊池地域農業協同組合住吉農業倉庫跡地購入」に関する請願
陳情第　４　号　有害鳥獣被害防止対策に関する陳情
まで一括上程

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中	教　之　君
２番	福　島	英　徳　君
３番	緒　方	哲　郎　君
４番	後　藤	英　夫　君
５番	平	直　樹　君
６番	東	奈津子　さん
７番	坂　本	道　博　君
８番	水　上	隆　光　君
９番	猿　渡	美智子　さん

１０番	松　岡　　譲	君
１１番	荒　木　崇　之	君
１２番	柁　原　賢　一	君
１３番	工　藤　圭一郎	君
１４番	城　　典　臣	君
１５番	大　賀　慶　一	君
１６番	水　上　彰　澄	君
１７番	二ノ文　伸　元	君
１８番	泉　田　栄一朗	君
１９番	木　下　雄　二	君
２０番	山　瀬　義　也	君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

説明のため出席した者

市　　長	江　頭　　実	君
副　市　長	芳　野　勇一郎	君
政策企画部長	元　島　加奈子	さん
総　務　部　長	上　田　敏　雄	君
市民環境部長	古　田　浩　敏	君
健康福祉部次長	宮　村　恵　美	さん
経　済　部　長	笹　本　義　臣	君
建　設　部　長	中　村　喜　範	君
七城支所長	上　村　雅　一	君
旭志支所長	岩　根　卓　士	君
泗水支所長	梁　池　哲　也	君
財　政　課　長	山　田　哲　二	君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中　尾　孝　浩	君
市長公室長	前　川　幸　輝	君
教　育　長	渡　邉　和　博	君
教　育　部　長	木　下　徳　幸	君
農業委員会事務局長	坂　本　高　秀	君
水　道　局　長	大　塚　忠　康	君

監査委員事務局長	山　口　浩一郎　君

―――――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――――

事務局職員出席者

事　務　局　長	徳　永　裕　治　君
事 務 局 課 長	歌　岡　憲　一　君
課　長　補　佐	松　寺　盛　親　君
議　会　係　長	安　武　則　貴　君
議　　会　　係	吉　岡　結加里　さん

午前１０時００分　開会

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

ただいまの出席議員は２０名です。定足数に達していますので、ただいまから令和元年第３回菊池市議会定例会を開会します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　ここで、日程に先立ちまして諸般の報告をいたします。

１０月１５日、宇城市において、第２７１回熊本県市議会議長会が開催され、副議長と出席いたしました。九州市議会議長会への提出議案等について審議いたしました。

次に、監査委員から、令和元年１０月分までの一般会計・特別会計並びに企業会計に関する例月出納検査の報告があっておりますので、ご報告申し上げます。

なお、詳細については、事務局に備えつけの書類により、ご承諾いただきたいと思います。

以上で、諸般の報告を終わります。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時０１分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（柁原賢一君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第８８条の規定により、荒木崇之君及び工藤圭一郎君を指名します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第２　会期の決定

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第２、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本定例会の会期につきましては、議会運営委員会におきまして、本日から１２月２０日までの２２日間とすることに結論を見ておりますが、これにご異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、会期は本日から１２月２０日までの２２日間と決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第３　福祉厚生常任委員会行政視察報告

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第３、福祉厚生常任委員会の行政視察報告の件を議題とします。

福祉厚生常任委員会が実施した行政視察の報告を求めます。

福祉厚生常任委員会委員長、猿渡美智子さん。

［登壇］

○福祉厚生常任委員長（猿渡美智子さん）　おはようございます。福祉厚生常任委員会の研修視察についてご報告申し上げます。

当委員会は、１０月１６日から１８日までの２泊３日の日程で、委員６名全員と事務局１名、執行部１名の計８名により、三重県いなべ市の児童虐待防止対策についてと元気づくりシステムについて、また、三重県津市の障がい児等生活支援ファイルはっぴぃのーとについて、研修視察してまいりました。

まず、いなべ市の児童虐待防止対策について申し上げます。

いなべ市では、平成１５年の合併直後から、将来のいなべ市を担う子どもたちへの先行投資として子育て支援を最重要課題と位置づけ、取り組まれています。しかし、市内に療育施設や児童相談所があったわけでも、心理関係の専門職員がいたわけでもなく、いなべ市にあったのは子育て支援センターと保育所、そして、職員は保育士、保健師、栄養士という極めて一般的な施設と職員だったそうです。それでも、子育て支援は単発の事業や単独の課だけでは効果が上がらないという認識のもと、「限られた予算と、今ある施設・人材で、今できることから」を合い言葉に、より効果的な取り組みを実施するためにはどうすればいいのか、担当課が多くの議論と対話を重ねて考えた結果、妊娠前期から出産、乳幼児期、就学、学童・思春期、成人期までの途切れのない子育て支援の充実に取り組むことが大事であるという結論に至ったそうです。

生後二、三カ月で行う保健師による赤ちゃん訪問は全国的に実施されていますが、いなべ市では、そのほかにも、出産後、二、三週間ごろをめどに、全ての産婦に対する電話連絡、満２歳までに全ての親子に２回本を読み聞かせてプレゼントするブックスタート、１歳の誕生日には保育士が全戸訪問しての足型プレゼントなどが実施されています。

ブックスタートは、市内５カ所の子育て支援センターで子育て応援団という市民ボランティアの協力によって行われますが、参加できなかったお宅へは保育士が訪

問し絵本をプレゼントします。こうした取り組みを通して、支援の必要な親子を見つけ、連携して見守り、協働して支援することで、子育て家庭の孤立化を防ぎ、虐待防止につなげています。実際の訪問では、子育ての不安や悩みを聞き、親子関係、養育環境等の把握を行い、親子の状況に応じて具体的な情報を提供し、あわせて、親子の状況を継続して把握できる次の機会をつくることを心がけておられるそうです。

また、年６回の身体計測や健康講座などで支援センターに来てもらう機会をつくったり、支援センターがおもちゃをたくさん積んだ軽自動車で地域に出ていく出前ひろばを実施するなどして、日常的に支援センターとのつながりをつくる取り組みもされています。支援センターをプラットホームにしながら、課題のある親子の支援を課の枠を超えて一本化して捉え、前後の事業にいかに途切れなくつなげるか、関係機関といかに連携していくか、いなべ市が目指しているところを具体的事例を交えて説明していただき、関係職員の意気込みを感じる研修でした。

次に、いなべ市の元気づくりシステムについて申し上げます。

全国的に高齢化は進んでおり、それらに対する待ったなしの対策は、国や自治体における重要な政策の一つであります。

いなべ市の元気づくりシステムは、医療費削減や健康増進、介護予防などの公衆衛生の観点、さらには地域づくりの観点から、住民の力を活用した超高齢社会の切り札として注目を浴びており、厚生労働省の介護予防モデル事業や、総務省の医療軽減事業にも採択されております。

元気づくりシステムは、健康を維持し、将来、介護状態にならないよう、ストレッチ体操、ウオーキング、ボール運動などを取り入れた健康増進・介護予防運動を効率的・効果的に市民に普及させる仕組みであります。一般介護予防事業として取り組まれており、大きく、にこやか集会所コースと元気リーダーコースに分かれます。にこやか集会所コースでは、地区の集会所等で６カ月間に週２回ずつ、１回約９０分を専門のコーディネーターが運動機能向上プログラムを実施します。元気リーダーコースは、集会所コースの参加者のうち、３０回以上受講された方が元気リーダーになって地域へ戻り、指導者として地域の集会所など通いの場で引き続き元気体操プログラムを展開するというものだそうです。このような取り組みを継続してきたいなべ市の介護認定率は１５．３２％となっており、全国平均の１８．０％を下回り、健康寿命の延伸につながっています。

この元気づくりシステムは、医療費を抑えながら元気な生活が送れ、地域のマンパワーを活用した仕組みということが厚生労働省などからも高く評価され、全国の自治体などで導入され、広く展開されるよう普及が進められているそうです。

本市でも、いきいき１００歳体操の普及・拡大が行われておりますが、現在の取り組みをさらによいものとし、長く続けていくために、参考とすべきことが多くあると感じました。

次に、津市の障がい児生活支援ファイルはっぴぃのーとについて申し上げます。

障がい児を持つ親御さんが、進学や受診、相談などのたびごとに、子どもの生育や現状について説明を繰り返さなければならないことに負担感や困難さを抱えておられたことから、津市では、平成２３年度に開催された、津市地域自立支援協議会（子どもワーキング）において、障がいのある子どもの福祉に係る課題について検討された中で、乳児期から青年期に至る生育歴や生活・医療情報を関係機関で情報共有ができるような記録冊子を作成してはとの提案を受けて、試行版の冊子を作成されました。その後、障がいのある子どもを持つ保護者２８人を対象に、モニター調査として記録冊子の内容や構成についての検討を実施し、平成２４年度末にひな形を完成されました。

はっぴぃのーとの利用対象者は、１８歳以下の市内に在住・在学する障がいのある子ども、または発育、発達に心配がある子どもの保護者となっており、Ａ４判の加除式ファイルで、母子健康手帳や健診結果など保管ができるようになっております。中身に関しては、主に生育歴や連絡先などの基本情報、受診医療機関や服用している薬の記録、アレルギーやけいれん症状などの医療情報、保育所や学校などの支援内容や生活等の記録を行うものとなっております。

はっぴぃのーとは、発達障がいのある子どもの母親からの申請が最も多いということで、交付に関してはペアレントメンターと呼ばれる発達障がいのある子どもの子育て経験があり、研修認定を受けたボランティアの方から手渡しで渡されています。今回の研修にはこのペアレントメンターの方々も参加していただき、当事者の話を伺う貴重な機会となりました。交付に際しては、今まで頑張ってきたであろう親御さんの大変さを受けとめ、思いをしっかり聞いてから渡すように心がけておられるそうで、子どもの情報がはっぴぃのーとに全て入っているという安心感が親の心を救うことになるという思いのもとに活動を続けていると話されました。

そして、津市が最終的に目指しているのは、はっぴぃのーとを通して関係機関がネットワークを構成し、地域全体で障がいのある子どもや支援を必要とする人を応援していく社会をつくることにあります。障がいのある子どもやその家族への生活支援については全国的な課題でもあり、本市においても同様であると言えます。津市の取り組み等も含めて参考にしながら、考えていく必要があると感じました。

今回の研修には三つのテーマがありましたが、どれをとっても市民との協働が欠かせない要素となっていました。ここにこれからの地域づくりの方向性があり、菊

池市においても市民との協働をいかにつくり上げていくかが重要な課題であると考えました。

以上、福祉厚生常任委員会の視察研修の報告といたします。

○議長（柁原賢一君）　以上で、福祉厚生常任委員会の行政視察報告を終わります。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第４　総務文教常任委員会所管事務調査報告

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第４、総務文教常任委員会の所管事務調査を議題とします。

総務文教常任委員会から委員会の閉会中の継続審査並びに調査について、所管事務調査の報告の申し出があっています。

お諮りします。本件については、申し出のとおり、所管事務調査の報告を受けることにご異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、総務文教常任委員会の所管事務調査の報告を受けることに決定しました。

総務文教常任委員会委員長、水上隆光君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（水上隆光君）　おはようございます。総務文教常任委員会所管事務調査報告を行います。

総務文教常任委員会で所管事務調査を行いましたので、ご報告申し上げます。

総務文教常任委員会では、平成２９年度に行われました菊池市中央図書館における特注家具、閲覧席椅子３２脚の変更契約事務及び会計事務について疑義が生じたため、令和元年９月１３日から４回にわたり所管事務調査を行いました。

まず、審査経過の主なものを申し上げます。

１回目の所管事務調査において、執行部より、落札された業者がどこから仕入れるかは営業努力であり、たとえ国内在庫を持ってきたとしても、市が関知することではないとされた新聞報道は、一般的な物品納入の場合を言ったものであり、本市の会計規則で定められていないことを申し上げたものである。しかしながら、今回のような海外からの輸入に関して、別途輸送費等がかかる場合など、今後については、輸入事実の確認なども含めて必要書類をとるなどの確認を行いたいと考える。おわびして、訂正申し上げるとの報告がありました。

委員から、輸送費についても検査して残しておくべき、それがないのはなぜかとの質疑に対し、執行部より、会計規則第３７条に支出命令書には当該検査調書を添付しなければならないとある。送料の支払証明書を徴するかは当該自治体の財務規

則の定めるところとされており、本市の会計規則に定めがないことから、徴していない。今後は必要書類をとるなどの確認を行いたいと考えるとの答弁がありました。

さらに委員より、検収調書の中で輸送費の部分についての確認ができる書類が必要では。それがないなら検収したことにならないのでは。輸送費を分けたのできちんと証明しないといけないとの質疑に対し、執行部より、当時の考え方だが、この製品については、当然海外から仕入れると認識しており、インボイス等の確認ができていないものと考える。遅くなったが、インボイスの確認をとっているところであるとの答弁がありました。

第２回目の所管事務調査では、執行部に対し、資料要求を行っていたインボイス、当初契約書、変更契約書の提出を受け、質疑を行いました。

委員より、４６万円の支払いが確認できていないのに、支払いができるのはなぜか。インボイスでも確認できない。これでは教育産業社に支払った根拠にはならない。前回、教育部長は、会計規則に証明書の提出は定められていないとのことだった。まずはこの件を精査したいとの質疑に対し、執行部より、送料の支払証明書に関しては、地方自治法等においては、当該自治体の財務規則によるということだが、本市においては会計規則に定めていない。会計課においては、支出に対して、契約書どおり債務が確定していれば支出している状況であるとの答弁がありました。

また、委員より、輸送費については、何も根拠がない。相手が４６万円と言っているだけで、６０万円、７０万円と言ったら、それも通るのか。それはおかしいだろうと聞いているとの質疑に対して、執行部より、変更契約の諸経費６７万円の中に輸送費も含むとなっており、落札率を掛けて約４６万円となる。６７万円については、図書館のほうで妥当性を確認して変更契約を行っているとの答弁がありました。

さらに委員より、何をもって妥当性があると判断されたのかとの質疑に対し、執行部より、海外からの航空運賃になるので、ＤＨＬの運賃表をもとに、椅子の重量と縦・横・幅で計算し約８０万円となった。こん包等により金額が安くならないか検討している中で、仕様書の中では６７万円ぐらいまでは下がるだろうということだったので、６７万円を基準として確認したとの答弁がありました。

第３回目の所管事務調査では、日本語訳されたインボイスの説明と、委員より事前通告していた当初契約時の諸経費及び変更設計額６７万円の内訳の２点について、執行部より説明がありました。

１点目の当初契約時の物品単価の中に幾ら諸経費がいっているのか、輸送代も含まれているのかについては、乃村工藝社に確認したところ、コンプライアンスの関係上、お答えできないとのことだった。

２点目の変更設計額６７万円の内訳はどうなっているかについては、内訳としては、航空運賃、陸路の輸送費、設置費を諸経費として考えていた。担当課で検討した結果が航空運賃等の計算から見て妥当であると判断したものである。変更設計当時の内訳金額はないが、確認資料から試算すると、航空運賃が５４万５，０００円、陸路輸送費が１０万５，０００円、設置費が２万円と見込まれるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、コンプライアンスで出せないと言ったら終わりなのかとの質疑に対し、執行部より、変更契約の中身としては、当初契約の入札単価になると、諸経費も卸価格もそれからの利益率等もあり、業者としてはコンプライアンス上出せないというのは理解している。変更契約にある見積もり単価の中の８万７，５００円については椅子のみの単価であり、輸送代と書いてあるが、諸経費として６７万円見込んだのは、オープンまでに間に合わないため、輸送費も含めた変更契約であるとの答弁がありました。

委員より、代表監査からも指摘されているが、変更契約では諸経費として計上してある。通常であれば備品代に含まれると考える。一つの設計書の中で諸経費を含むものと、諸経費を含まないものが出てくること自体がおかしい。どうした計算により差額が出ているのか。起案文書からもわからないとの質疑に対し、執行部より、資料の中では当初分と変更分が載っている。変更の閲覧用椅子分以外は当初のままの金額であり、合算し総額を出している。それと当初の差額分だけを変更契約した内容となっているとの答弁がありました。

委員より、積算の基準も計算式もない起案文書の中で事務をされている。もうちょっときちんと考えてもらわなければならない。４６万円で妥当と思いますというが、妥当であるとの書類をつけるべき。実際に調べたら、まだ高いともあったが、高い安いではない。行政の事務処理としては妥当か、適正なのか、６０何万円かかるのを４６万円に下げたのでよかったではないと思うとの指摘に対し、執行部より、ご指摘のとおりである。特に今回は航空運賃等も含まれた諸経費であり、積算の内容を確認しながら今後は行っていきたい。住民監査請求における監査結果の中でも、適正な契約事務を徹底されたいとの指摘もあり、今後、このようなことがないように、契約事務を含めて適正処理に当たっていきたいとの謝罪がありました。

以上、審議を踏まえ、総務文教常任委員会では、閲覧席椅子の輸送については、インボイスにより行われたものと理解したところであります。しかしながら、備品等納入検査において、会計規則に定めがないことから、輸送費に関する確認が行われていない点や、当初契約書と変更契約書において諸経費の取り扱いが異なる点、加えて諸経費の積算根拠に妥当性が見出せない点など、会計事務、契約事務に不備

があったことが認められます。

今後、早急に会計規則の改正を行うとともに、事務執行においても万全を期すよう強く指摘し、所管事務調査の報告とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　以上で、総務文教常任委員会の所管事務調査の報告を終わります。

これから質疑を行います。質疑は３回までとなっています。質疑はありませんか。

木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　皆さん、おはようございます。それでは、総務文教常任委員長報告に対して質疑をさせていただきます。

菊池市中央図書館の閲覧用椅子の契約事務に対する謝罪があったとのことでございますが、これまで何も問題がないと執行部は言い続けてきた責任について、委員会としてどのように理解されたのか、具体的にお答えをいただきたいと思います。

また、これまで執行部の会計事務、契約事務の不備な点についても、具体的にお答えをいただきたいと思います。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　総務文教常任委員長、水上隆光君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（水上隆光君）　木下議員の質問にお答えいたします。

まず、１点目の何も問題がないと執行部は言い続けてきた責任は、委員会としてどのように理解されたかとの質疑でございますが、インボイスにより閲覧席椅子の輸入はあったこと、会計事務、契約事務に不備があったことを委員会では理解しております。

２点目ですが、その会計事務、契約事務における不備の具体的な内容ですが、支出調書に添付しなければならない検査調書において、輸入の事実が確認される資料がないこと。輸送代６７万円の積算根拠が当時の変更契約伺になく、確認できないこと。当初契約と変更契約において、諸経費の扱いが異なる。そういうことでございます。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　今、インボイスの件、いろんなことが不備があったということが確認されてということでございます。インボイスだけの問題じゃなくて、私は、もう当初から中小企業振興基本条例に基づいて、事業所に従業員が常駐していないこととか、最初の入札の同等品不可とか、そういう点についてもしっかりとした意

見を申し上げてきたつもりでございます。再質疑はしませんけれども、このことによって、改めて調査特別委員会の設置の必要性があるということを認識して、質疑を終わりたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　ほかにありませんか。

荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　おはようございます。それでは、総務文教常任委員長に３点お伺いします。本来ならば執行部に聞きたいところですけども、それは一般質問で行いますので、委員会の中身についてお聞きしたいと思います。

私自身、すごくこの問題については憤りを感じておりますので、議事録も取り寄せましたし、音声も聞かせていただきました。その中で、４６万４，０００円の送料が適正であるという根拠がどこにあるのか。どこに示されているのかというのを１点目お聞きしたいと思います。

これまで、４６万４，０００円の支出については、教育産業社が出してきた、ここにあります見積書にたった１行、諸経費を含むと書いたものだけで支払われてきました。４６万４，０００円の送料が適正である根拠はどこにあるかというのが１点目です。

それと２点目、過去の議事録の中で、議員の名前はお伏せしますけども、私は、今回の図書館の備品購入に関しては、入札のあり方とか、契約のあり方という、何か法的な問題があったというふうには、この間の説明を聞いて思ってはおりませんので、この点に関して、何かあり方で提言をするというのは、逆に混乱や誤解を招く危険性があると思うんですよということで、もうさんざん総務委員会では問題ないという見解で言われているんですが、今回、執行部側が謝罪をされております。適正ではなかったと。支出も契約事務も適正ではなかったというふうに言われてますが、ということは、総務文教常任委員会は市の事務の違法性を認めたということでよろしいでしょうか。謝罪を受け入れたということはですね。それが２点目です。

それと３点目、私は、この不当な契約変更によって、市民に対して１１４万円の損害を与えたと考えますが、総務文教常任委員会では責任の所在についての審議はなかったのか。

以上、３点をお伺いいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務文教常任委員長、水上隆光君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（水上隆光君）　荒木議員の質疑にお答えいたします。

１点目の４６万４，０００円の根拠ですが、木下議員からの質疑でもお答えしま

したとおり、当時の変更契約伺になく、確認できませんでした。ただし、今回の所管事務調査における執行部からの説明では、当時の確認資料から試算すると、航空運賃が５４万５，０００円、陸路輸送費が１０万５，０００円、設置費が２万円の合計金額６７万円に落札率を掛けて４６万４，０００円となるとの説明がありました。

２点目に、市の事務の違法性を認めたかということですが、報告させていただいたとおり、会計事務、契約事務に不備があったため、早急に会計規則の改正等、事務執行に万全を期すよう強く指摘するとした総務文教常任委員会の報告となります。

３点目の責任の所在の審議については、行っておりません。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　送料の件に関しては、これは委員長にお聞きすることじゃないと思ってます。私は一般質問でお聞きしたいというふうに思っているんですが、ただ１点だけ、住民監査請求に係る陳述書の中で、職員が空輸代というのはきちんと積算をいたしましてということを言っているわけですよね。その積算の書類が本来残ってないといけない。会計規則につける、つけないじゃないんです。積算の基礎を言っているわけですよね。だから、そこは執行部はしっかり考えていただきたいなと思います。これは一般質問でやりますので。

それと２点目、違法性を認めたのかということは、違法性ということはあれなんですけども、謝罪を受け入れたということは、総務文教常任委員会の皆さんは、今まで何ら問題ないと言ってきた執行部の主張というのを疑い始めてきているということではないでしょうか。

私は、３点目に、ちょっと再質疑をしたいと思いますけども、私、最後の３回目の議事録をテープで聞かせていただきました。その中で、議員さんの中に、コンプライアンスで逃れられるなら、今後、この委員会で調べることができないじゃないかと。業者を呼んで、きちっとこの問題を説明させろという議員さんもいらっしゃいました。

そこで、お尋ねしますけども、業者を呼んで話を聞くべきという意見もあったんですが、どうして呼ばれなかったのか、お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務文教常任委員長、水上隆光君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（水上隆光君）　コンプライアンスの部分ではそういう意見も出ましたけども、それ以上の深い審議はなかったと思っています。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　それ以上、深い審議はなかったとおっしゃいますが、総務文教常任委員会でもうコンプライアンスで逃げられたということは、総務文教常任委員会で審議できる限界に来ているということですか。もう総務文教常任委員会ではこれ以上調べられない、調査権がないから調べられないということでよろしいでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　総務文教常任委員長、水上隆光君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（水上隆光君）　その調べられる、調べられないも、委員会としては審議はしていません。

○１１番（荒木崇之君）　どっちみち終わりですよね。じゃあ、あとは一般質問でしっかりやります。

○議長（柁原賢一君）　ほかにありませんか。

福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　改めて、おはようございます。総務文教常任委員長に２点お尋ねいたします。

先ほどの答弁にもありましたけども、閲覧用椅子の輸送については、インボイスにより行われたものと理解したところであります。また、それで確認できたという答弁がございましたけども、インボイスと輸入許可通知書の整合性はどのようにしてとられたのか、お尋ねいたします。

２点目が、最後のほうの、しかしながら、備品等輸入検査において云々ということで、諸経費の積算根拠に妥当性が見出せない点など、会計事務、契約事務に不備があったことが認められますとのことですが、不備を認めたにもかかわらず、それに対する審議はなかったのでしょうか。

以上、２点お願いします。

○議長（柁原賢一君）　総務文教常任委員長、水上隆光君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（水上隆光君）　福島議員の質疑にお答えします。

まず、１点目のインボイスと輸入許可通知書の整合性はどのようにとったのかとの質疑でありますが、委員からは、製品としての品名でないこと、数量が３６個で、発注数が３２個と違う点について、疑義があると指摘されております。こうしたことは、備品等納入検査において輸入が行われた書類の添付が、当時、行われていなかったことも背景にあり、そういう事務上の不備を含めた執行部の謝罪があったと

理解しております。

２点目の不備を認めたにもかかわらず、それに対する審議はなかったのかという質疑に対してですけども、総務文教常任委員会としては強く指摘して、審議を終えています。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　まず、１点目のインボイスと輸入許可通知書の整合性という点におきまして、私は以前の会社でインボイスとかかわることが多くありました。また、その専門業者とも話したわけなんですが、とてもこのインボイスと輸入許可通知書の整合性はとれるとはいえない。なぜなら、必要な箇所というのが修正液等で消されておりまして、実際、そこに何か書かれているのか、書かれてないのかも判断できません。本来であれば、書かれている箇所を見せたくないんであれば、黒塗りとかで出すのが通常と思うんですが、もしかしたら、公文書偽造にも当たる可能性もあります。そのあたりに対してはどうなんでしょうか。

また、２点目の強く指摘されたということなんですけれども、指摘で終わりなんですか。それで済むなら議会は必要ないんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　総務文教常任委員長、水上隆光君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（水上隆光君）　インボイスの審査において、いろいろ意見、審議はありましたけれども、そのインボイスの一つ一つの項目においては、整合性の確認は行っておりません。

委員会としては、もう今後、このようなことがないように万全を期すよう、強く指摘するとしたことが審議結果であります。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　やはりきちんと精査したというふうな、インボイスを精査したと言われるんであれば、もうちょっときちんと確認していただきたいと私は思います。

２番目の、結局、指摘するだけではなくて、やはりこの際、百条委員会をつくる気はございませんか。ということで終わります。

○議長（柁原賢一君）　ほかにございませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第５　議案第６１号　上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第５、議案第６１号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、改めまして、皆様、おはようございます。

本日、令和元年第３回菊池市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、本会議にご出席をいただき、まことにありがとうございます。

本定例会の会期につきましては、先ほどご決定をいただきましたように、本日から１２月２０日までの２２日間の日程でご審議をお願いするものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、上程されました議案につきまして、ご説明を申し上げます。

議案書その１の１ページをお願いいたします。

議案第６１号、専決処分の報告及び承認を求めることについてでございます。

令和元年度一般会計を、地方自治法の規定により専決処分いたしましたので、これを報告し、承認を求めるものでございます。

内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　改めまして、皆様、おはようございます。

それでは、提案いたします議案第６１号につきまして、説明いたします。

議案書その１の１ページをお願いいたします。

議案第６１号、専決処分の報告及び承認を求めることについてでございます。

令和元年度菊池市一般会計補正予算（第７号）で、地方自治法の規定により専決処分いたしましたので、これを議会に報告し、承認を求めるものでございます。

２ページが、専決第１０号専決処分書で、専決日は、令和元年１０月１日でございます。

あけて、５ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に３５０万９，０００円を追加し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ２９３億４９万５，０００円とするものでございます。

補正の内容につきましては、９月２２日から２３日にかけて接近した台風１７号により被災した市所有施設の災害復旧事業費となっております。

まず、歳入について、事項別明細により説明いたします。

１０ページをお願いいたします。

３枠目の款２２市債、項１市債、目１０災害復旧債３１０万円の増額は、台風１７号により被災した市所有施設の復旧事業の財源のための災害復旧事業債の増額でございます。

１枠目の款１９繰入金、項３基金繰入金、目１財政調整基金繰入金につきましては、補正予算の財源調整でございます。

続きまして、歳出についてご説明いたします。

１１ページをお願いいたします。

１枠目の款１０災害復旧費、項３公共土木施設災害復旧費、目３単独災害復旧費１７万円の増額は、市道への倒木処理に係る建設機械賃借料の増額でございます。

２枠目の項４農林水産災害復旧費、目１農林水産災害復旧費２０万１，０００円の増額は、龍龍館の窓ガラス修繕料の増額及びメロンドーム軒天ボード被災に対する、全国市有物件災害共済からの共済金相当額を、修繕を実施した有限会社七城町特産品センターに交付するものでございます。

３枠目の項７教育災害復旧費、目１教育災害復旧費２３１万円の増額は、泗水Ｂ＆Ｇ海洋センタープール外膜の復旧のための修繕料及び菊池南中学校外灯の復旧のための工事請負費の増額でございます。

最下段の項８総務災害復旧費、目１総務災害復旧費８２万８，０００円の増額は、カーブミラーの倒壊４カ所の復旧のための修繕料の増額でございます。

それでは、７ページに戻っていただきたいと思います。

第２表、地方債補正でございます。

内容としましては、歳入でご説明しましたとおり、台風１７号による災害復旧事業の財源とする災害復旧事業債３１０万円の増額でございます。

以上、議案第６１号の説明とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　以上で、議案の説明を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１０時４５分

開議　午前１０時５３分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

これから質疑を行います。質疑は３回までとなっています。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第６１号は、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なし認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

お諮りします。議案第６１号は、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、議案第６１号は原案のとおり承認することに決定しました。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第６　議案第６２号から議案第７６号まで一括上程・説明

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第６、議案第６２号から議案第７６号までの１５議案を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、ただいま上程されました議案の提案理由の説明に先立ちまして、ご報告をさせていただきます。

去る１１月２３日に、第３回九州のお米食味コンクールを泗水公民館において開催し、九州管内２７４自治体のうち、約５割に当たる１４０の自治体から１，１６８検体のお米が出品されました。

本年は、生育期の長雨や、その後の高温障害、ウンカの大量発生などにより、九州全域で不作と言われる中、これほど多くの出品をいただきましたことは、九州中の生産者の皆様の熱意と情熱のあらわれであり、本市が九州産米のブランド化に貢献できますことは大きな喜びでございます。

その中でも、本市は、分析・食味審査の結果、自治体部門で２年連続の第２位という栄誉に浴することができました。

菊池米はもちろん、今回ご参加いただきました九州産米の食味と品質が向上して、九州産米の全体評価が上がることが菊池米の価値向上にもつながることですので、引き続き他の自治体と連携して進めてまいる所存です。

そのほか、８月の九州北部の大雨災害及び１０月に関東から東北地方にかけて甚大な被害をもたらしました台風１９号と、その直後、同地方を襲った記録的な大雨による災害を受けまして、佐賀県武雄市及び福島県相馬市へ、熊本地震の際にご支援いただいたお礼の意味も込めて、物資や義援金などの支援を、災害協定に基づき、お送りさせていただきましたことをご報告させていただきます。

また、本市におきましても、突如襲ってくる想定外の災害に備え、１１月１０日、七城総合グラウンドにおきまして、間所区・菰入区・宮園区の皆様、およそ３００人が参加した総合防災訓練を実施いたしました。

議長を初め、議員の皆様にも多数ご参加をいただき、まことにありがとうございました。

この総合防災訓練は、市民の皆様の防災に対する知識の向上と、地域の防災力の向上を図るため、平成２６年度から、地域・警察・消防・自衛隊等と一体となった実践的な防災訓練として取り組みを続けているところでございます。

本市での防災は、「早め・強め・多め」を合い言葉とし、市民の命を守ることを第一に、空振りを恐れないことを徹底しておりますが、それ以上に大事なことは、自助・共助の備えでございます。

近隣の住民同士、行政区の単位での声かけや、どこの家庭に支援が必要な方が住んでおられるか、どこに避難すべきかなど、住民の方みずからが理解し、常日ごろから住民同士が助け合う心を持っていただくことが、何よりも災害時においては役に立つということをこれからも市民の皆様に広く周知してまいる所存でございます。

それでは、上程されました議案につきまして、ご説明を申し上げます。

議案書その１の１３ページをお願いいたします。

議案第６２号は、地方自治法及び地方公務員法の一部改正に伴う、菊池市会計年度任用職員の給与等に関する条例の新規制定、議案第６３号は、同じく地方自治法及び地方公務員法の一部改正等に伴う関係条例の整備に関する条例の新規制定、議案第６４号は、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う、菊池市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部改正、議案第６５号は、新たに資源ごみ袋極小を作成することに伴う、菊池市廃棄物の処理及び清掃並びに浄化槽に関する条例の一部改正、議案第６６号は、災害弔慰金の支給等に関する法律の一部改正に伴う、菊池市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正、議案第６７号は、特別養護老人ホームつまごめ

荘の民営化に伴う、菊池市特別養護老人ホーム特別会計条例等の廃止、議案第６８号は、水道法の一部改正に伴う、菊池市給水条例の一部改正でございます。

次に、４１ページの議案第６９号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）につきましては、予算の総額に２億４，０４９万７，０００円を追加するものでございまして、歳出の主なものとしましては、民間医療機関が介護医療院へ転換するためのソフト事業及びハード事業補助金、アフリカ豚コレラの侵入防止対策への助成、東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレー関連経費などが主なものでございます。

議案第７０号から議案第７６号までの７議案につきましては、各特別会計の補正予算でございまして、歳出の主なものとしましては、菊池市介護保険事業特別会計の国・県返納金及び積立金の増額、菊池市特別養護老人ホーム特別会計の民間譲渡に伴う公債費の繰上償還の増額などでございます。

以上、内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　それでは、提案いたします議案第６２号から議案第７６号までの１５議案につきまして、一括して説明いたします。

議案書その１の１３ページをお願いいたします。

議案第６２号、菊池市会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定については、地方自治法及び地方公務員法の一部改正に伴い、会計年度任用職員についての条例を定めるもので、給与等に関する必要な事項を定めるものとなっており、１４ページから２１ページまでが条例案でございます。

第１条で目的、第３条から第１５条までが、フルタイム会計年度任用職員の給料等、第１６条から第２８条までが、パートタイム会計年度任用職員の報酬等、そのほか、必要な事項を定めるものでございます。

なお、この条例は、令和２年４月１日から施行することとしております。

次に、２３ページをお願いいたします。

議案第６３号、地方自治法及び地方公務員法の一部改正等に伴う関係条例の整備に関する条例の制定については、同じく地方自治法及び地方公務員法の一部改正並びにつまごめ荘の民営化に伴い、１６本の関係条例を改正するもので、２４ページから２９ページまでが条例案でございます。

なお、この条例は、一部の改正規定を除き、令和２年４月１日から施行すること

としております。

次に、３１ページをお願いいたします。

議案第６４号、菊池市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定については、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴い、条例を改正するもので、３２ページが条例案でございます。

なお、この条例は、公布の日から施行することとしております。

次に、３３ページをお願いいたします。

議案第６５号、菊池市廃棄物の処理及び清掃並びに浄化槽に関する条例の一部を改正する条例の制定については、新たに資源ごみ袋極小を作成することに伴い、条例の一部を改正するもので、３４ページが条例案でございます。

なお、この条例は、令和２年４月１日から施行することとしております。

次に、３５ページをお願いいたします。

議案第６６号、菊池市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定については、災害弔慰金の支給等に関する法律の一部改正に伴い、条例の一部を改正するもので、３６ページが条例案でございます。

なお、この条例は、公布の日から施行することとしております。

次に、３７ページをお願いいたします。

議案第６７号、菊池市特別養護老人ホーム特別会計条例等を廃止する条例の制定については、つまごめ荘の民営化に伴い、関係条例を廃止するもので、３８ページが条例案でございます。

なお、この条例は、一部の規定を除き、令和２年４月１日から施行することとしております。

次に、３９ページをお願いいたします。

議案第６８号、菊池市給水条例の一部を改正する条例の制定については、水道法の一部改正に伴い、条例を改正するもので、４０ページが条例案でございます。

なお、この条例は、令和２年４月１日から施行することとしております。

次に、４１ページをお願いいたします。

議案第６９号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）でございます。

あけていただき、４３ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に２億４，０４９万７，０００円を増額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ２９５億４，０９９万２，０００円とするものでございます。

まず、歳入について、事項別明細によりご説明いたします。

あけて、５３ページをお願いいたします。

１枠目の款１０地方特例交付金、項１地方特例交付金、目３子ども子育て支援臨時交付金８，９２４万２，０００円の増額は、保育料無償化に伴う国庫負担分について、９月定例会において国庫負担金として計上しておりましたが、その後、国からの通知により、地方特例交付金として交付されることとなったため、組み替えるものでございます。

３枠目の款１５国庫支出金、項１国庫負担金、目３民生費国庫負担金、節３児童福祉費負担金のうち、下段の子ども子育て支援臨時交付金９，２０８万７，０００円の減額は、先ほど説明しました地方特例交付金への組み替え及び認可外保育施設に係る分を、県負担金に組み替えることによる減額でございます。

あけて、５４ページをお願いいたします。

最下段の款１６県支出金、項２県補助金、目３民生費県補助金、節２老人福祉費補助金のうち、２段目の施設開設準備経費助成特別対策事業補助金１，３３５万９，０００円及び３段目の介護基盤緊急整備特別対策事業補助金４，１２５万５，０００円の増額は、市内の民間医療機関が介護医療院への転換のために実施するソフト事業及びハード事業に対する補助金でございます。１００％県費による事業でございます。

５５ページをお願いいたします。

１枠目の款１６県支出金、項２県補助金、目５農林水産業費県補助金、節４林業費補助金５５４万４，０００円の増額は、民間が実施する竹林整備事業に対する補助事業で、１００％県費による補助でございます。

最下段の款１９繰入金、項１特別会計繰入金、目５介護保険事業特別会計繰入金１，２６０万円の増額は、介護保険事業特別会計における前年度事業費の確定に伴い、精算分を一般会計に繰り入れるものでございます。

あけて、５６ページをお願いいたします。

１枠目の款１９繰入金、項３基金繰入金、目２５環境整備基金繰入金２，４１８万８，０００円の増額は、環境保全協力金を原資として積み立てておりました環境整備基金の一部を取り崩し、関係地域の道路整備事業の財源として繰り入れるものでございます。

２枠目の款２０繰越金、項１繰越金、目１繰越金６，０７８万４，０００円の増額は、前年度決算の確定に伴う前年度繰越金の増額でございます。

最下段の款２２市債、項１市債、目７土木債、地方道路等整備事業債３，６００万円の減額は、事業費の確定見込み及び環境整備基金を財源として活用することによる減額でございます。

１枠目に戻っていただいて、款１９繰入金、項３基金繰入金、目１財政調整基金繰入金につきましては、補正予算の財源調整でございます。

続きまして、歳出についてご説明いたします。

６３ページをお願いいたします。

款３民生費、項２高齢者福祉費、目１高齢者福祉費、最上段の節１９負担金補助及び交付金１，４４１万９，０００円の増額は、前年度療養給付費負担金の確定による清算分の増額でございます。

下から３段目の施設開設準備経費助成特別対策事業補助金１，３３５万９，０００円及び１段下の介護基盤緊急整備特別対策事業補助金４，１２５万５，０００円の増額は、歳入でご説明しました、市内の民間医療機関が介護医療院への転換のために実施するソフト事業及びハード事業に対する補助金でございます。

あけて、６６ページをお願いいたします。

２枠目の款３民生費、項４生活保護費、目２扶助費、節２３償還金利子及び割引料３，７２２万１，０００円の増額は、前年度事業費の確定に伴う国庫支出金返納金の増額でございます。

６９ページをお願いいたします。

最下段の款５農林水産業費、項１農業費、目６畜産業費、節１９負担金補助及び交付金４，４８０万円の増額は、アジア地域で急速に拡大し、日本への侵入が警戒されておりますアフリカ豚コレラの侵入防止対策に対する補助金でございます。

７４ページをお願いいたします。

２枠目の款８消防費、項１消防費、目３消防施設費、節１５工事請負費８１５万８，０００円の増額は、民有地内に設置してあります西郷区の防火水槽について、市有地内に移設し、既存施設を撤去するための工事請負費の増額が主なものでございます。

７７ページをお願いいたします。

１枠目の款９教育費、項６保健体育費、目１保健体育総務費、節１９負担金補助及び交付金１，３３９万９，０００円の増額は、東京２０２０オリンピック・パラリンピック聖火リレー等に係る経費のうち、本市が負担すべき額について、県実行委員会及び市実行委員会に対し、負担金として支出するものでございます。

あけて、７８ページをお願いします。

２枠目の款１１公債費、項１公債費、目１元金１，８９８万８，０００円の増額は、熊本地震や大雨に係る災害復旧事業債について、交付税措置率が有利となるよう、措置期間なしで借り入れを行ったことによる増額が主なものでございます。

それでは、４７ページにお戻りください。

第２表、繰越明許費でございます。

繰越明許を設定します７件につきましては、地元や関係機関との協議に不測の日数を要したこと及び全国的に不足している資材の納期がおくれたことにより、年度内の事業完了が困難な見込みとなったものでございます。

あけて、４８ページをお願いいたします。

第３表、債務負担行為補正でございます。

内容としましては、来年度当初より業務を開始しなければならないため、本年度中に業者を選定する必要がある業務並びに施設の指定管理委託等について追加するものでございます。

５０ページをお願いいたします。

第４表、地方債補正でございます。

内容としましては、市道舗装工事費の確定見込み及び環境整備基金を充当することによる、地方道路等整備事業債の減額、防火水槽設置に係る緊急防災・減災事業債の増額が主なものとなっております。

次に、８３ページをお願いいたします。

議案第７０号、令和元年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）でございます。

あけて、８５ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に３，９４７万１，０００円を増額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ６７億９，５８４万７，０００円とするものです。

補正の内容につきましては、システム改修、給付費の確定及び前年度繰越金の一部を基金に積み立てるための積立金の増額でございます。

８７ページをお願いいたします。

第２表、債務負担行為でございます。

内容としましては、来年度当初より業務を開始しなければならないため、本年度中に業者を選定する必要がある業務について、債務負担行為を設定するものでございます。

なお、以降の各特別会計補正予算の債務負担行為につきましても、同様の内容で設定するものでございます。

次に、９３ページをお願いいたします。

議案第７１号、令和元年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）でございます。

あけて、９５ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に１億１，３９８万４，０００円を増額し、補正後の

予算の総額を歳入歳出それぞれ６０億６６０万４，０００円とするものでございます。

補正の内容につきましては、前年度事業清算に伴う国・県返納金及び前年度繰越金の一部を基金に積み立てるための積立金の増額でございます。

９７ページをお願いいたします。

第２表、債務負担行為でございます。

内容は、議案第７０号と同様でございます。

次に、１０５ページをお願いいたします。

議案第７２号、令和元年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）でございます。

あけて、１０７ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から２５１万８，０００円を減額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ１０億４，４１３万８，０００円とするものでございます。

補正の内容につきましては、事業費の確定による減額が主なものとなっております。

あけて、１０９ページをお願いいたします。

第２表、債務負担行為補正でございます。

あけて、１１０ページをお願いいたします。

第３表、地方債補正でございます。

内容としましては、国庫補助金の減額確定に伴う下水道事業債の増額となっております。

次に、１１７ページをお願いいたします。

議案第７３号、令和元年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）でございます。

あけて、１１９ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に１，６０２万７，０００円を増額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ５億４，６９４万円とするものでございます。

補正の内容につきましては、新規接続見込みによる管渠延伸及び公共枡の設置費の増額でございます。

あけて、１２１ページをお願いいたします。

第２表、債務負担行為補正でございます。

次に、１２９ページをお願いいたします。

議案第７４号、令和元年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）でございます。

あけて、１３１ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に２３万４，０００円を増額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ２億２，３５９万３，０００円とするものでございます。

補正の内容につきましては、地方公営企業法適用に伴う出納取扱金融機関システムの改修負担金の増額でございます。

あけて、１３３ページをお願いいたします。

第２表、債務負担行為補正でございます。

次に、１３９ページをお願いいたします。

議案第７５号、令和元年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）でございます。

あけて、１４１ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に１４７万１，０００円を増額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ４億６３９万６，０００円とするものでございます。

補正の内容につきましては、不足が見込まれます処理場及びマンホールポンプ場の電気料の増額が主なものでございます。

あけて、１４３ページをお願いいたします。

第２表、債務負担行為補正でございます。

次に、１４９ページをお願いいたします。

議案第７６号、令和元年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第３号）でございます。

あけて、１５１ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に７億９１万６，０００円を増額し、補正後の予算の総額を歳入歳出それぞれ１４億６，４８８万円とするものでございます。

補正の内容につきましては、施設の民間譲渡に伴う歳入・歳出予算の増額が主なものでございます。

まず、歳入について、事項別明細によりご説明いたします。

１５４ページをお願いいたします。

１枠目の款３財産収入、項２財産売払収入、目１不動産売払収入７億２，０００万円の増額は、民間譲渡に伴う土地及び建物売払収入でございます。

続きまして、歳出についてご説明いたします。

１５６ページをお願いいたします。

１枠目の款４基金積立金、項１基金積立金、目１財政調整基金積立金１億６，７７０万６，０００円の増額は、民間譲渡に伴い、施設建設時に交付を受けた国及び県補助金の一部を返還する必要があり、その請求が来年度となることから、返還金

相当額を基金に積み立て、返還時に繰り入れることとするものでございます。

２枠目の款５公債費、項１公債費、目１元金５億３万１，０００円及び目２利子３，２９４万４，０００円の増額は、民間譲渡に伴い、施設建設時に借り入れた市債の一部を繰上償還する必要があるため、増額するものでございます。

以上、議案第６２号から議案第７６号までの説明とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　以上で議案の説明を終わります。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第７　議案第７７号から議案第８０号まで一括上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第７、議案第７７号から議案第８０号を議題とします。

本件については、地方自治法第１１７条の規定にかかわる議員は除斥する必要がありますが、関係する議員はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、ただいま上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案書その２の１ページをお願いいたします。

議案第７７号から議案第８０号までは人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについてでございます。

現在、本市の区域におきましては、１４人の委員の方々が法務大臣の委嘱を受け、人権擁護活動に従事されております。

その中で、４名の方々が、令和２年３月３１日をもって３年間の任期が満了いたします。

今回、その後任の候補者の推薦につきまして、熊本地方法務局長より依頼がありましたので、人権擁護委員法の規定に基づき、議会の意見を求めるものでございます。

推薦に当たっては、人権擁護委員法の規定により、人格識見高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について理解のある者とされております。

十分検討いたしました結果、議案第７７号、菊池市西寺の櫨川健治さん、新任、議案第７８号、菊池市七城町の牧美代志さん、再任、議案第７９号、菊池市旭志の上野惠里子さん、再任、議案第８０号、菊池市泗水町の北川敬司さん、新任、以上、

４名の皆様を推薦いたしたく、ご提案申し上げるものでございます。

それぞれの方々の経歴につきましては、各議案の裏面に記載のとおりでございます。

いずれの方々も、これまでの経歴を通じて、人権問題に関しての理解と認識が豊富な方々であります。

今後も、積極的に人権擁護活動に取り組んでいただけるものと確信し、推薦するものでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（柁原賢一君）　提案理由の説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第７７号から議案第８０号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。採決は１議案ずつ起立により行います。

お諮りします。議案第７７号については、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第７７号は、適任とすることに決定しました。

次に、お諮りします。議案第７８号については、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第７８号は、適任とすることに決定しました。

次に、お諮りします。議案第７９号については、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第７９号は、適任とすることに決定しました。

お諮りします。議案第８０号については、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第８０号は、適任とすることに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第８　議案第８１号から議案第８９号まで一括上程・説明

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第８、議案第８１号から議案第８９号までの９議案を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、ただいま上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案書その２の９ページをお願いいたします。

議案第８１号、新市建設計画の変更については、市町村の合併の特例に関する法律の規定により、新市建設計画の変更について、議会の議決をお願いするものでございます。

議案第８２号の辺地総合整備計画の策定につきましては、辺地にかかわる公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

議案第８３号、財産の譲渡については、社会福祉法人東康会に対しまして、菊池市特別養護老人ホームつまごめ荘の土地及び建物を有償譲渡、物品その他を無償譲渡するに当たり、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

議案第８４号から議案第８６号までの３議案につきましては、公の施設の指定管理者の指定についてでございまして、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

議案第８７号、公の施設の他の団体の利用に関する協定の締結については、公の施設の他の団体の利用に当たって、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

議案第８８号、熊本県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更については、一部事務組合の規約を変更するに当たって、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

議案第８９号、市道路線の認定につきましては、道路法の規定により、市道路線の認定について、議会の議決をお願いするものでございます。

以上、内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　それでは、提案いたします議案第８１号から議案第８９号までの９議案につきまして、一括して説明いたします。

議案書その２の９ページをお願いいたします。

議案第８１号、新市建設計画の変更についてでございます。

市町村の合併の特例に関する法律の規定により、新市建設計画の変更について、議会の議決をお願いするもので、１０ページから１９ページまでが変更する新市建設計画でございます。

次に、２１ページをお願いいたします。

議案第８２号、辺地総合整備計画の策定についてでございます。

辺地に係る公共的施設の総合整備のための財源上の特別措置等に関する法律の規定により、令和２年度から令和６年度までの５年間の新たな辺地計画を策定するもので、２２ページの小木辺地の整備計画から、４８ページの雪野市野瀬辺地の整備計画まで、１２地域の整備計画について、議会の議決をお願いするものでございます。

次に、５１ページをお願いいたします。

議案第８３号、財産の譲渡についてでございます。

菊池市特別養護老人ホームつまごめ荘の民営化に伴い、財産を譲渡するもので、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

譲渡する財産は、所在が菊池市今の土地、建物及び物品そのほかでございまして、土地の地番・地目、建物の名称・構造は、記載のとおりでございます。

土地の面積、建物延べ床面積及び譲渡価格につきましては、土地が１万４，９２５．５８平方メートル、譲渡価格は４，６１２万７，０００円、建物が８，５８２．０４平方メートル、譲渡価格は６億７，３８７万３，０００円、物品そのほかにつきましては、表に記載のとおりで、譲渡価格はゼロ円、譲渡価格の総額は７億２，

０００万円、譲渡の相手方は社会福祉法人東康会、譲渡の時期は令和２年４月１日でございます。

なお、財産の譲渡に関する仮契約を１１月１１日に締結いたしております。

次に、５５ページをお願いいたします。

議案第８４号から議案第８６号までの３議案につきましては、公の施設の指定管理者の指定についてでございます。

指定管理者の指定につきまして、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするもので、議案第８４号が菊池渓谷ビジターセンター及び菊池市観光情報発信施設、議案第８５号が菊池市市民会館、議案第８６号が菊池市総合体育館でございます。指定しようとする団体及び指定の期間は、それぞれ記載のとおりでございます。

次に、６１ページをお願いいたします。

議案第８７号、公の施設の他の団体の利用に関する協定の締結についてでございます。

公の施設の他の団体の利用に当たって、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするもので、熊本市及び菊池市に設置されたそれぞれの図書館の図書資料を、相互の住民へ貸し出しできるようにするための協定でございます。

次に、６３ページをお願いいたします。

議案第８８号、熊本県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更についてでございます。

一部事務組合の共同処理する事務を変更し、規約を変更するに当たって、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

熊本県市町村総合事務組合規約に規定する退職手当事務に、熊本県後期高齢者医療広域連合を加える改正でございます。

なお、この規約は、令和２年４月１日から施行するとともに、熊本県市町村総合事務組合を組織する関係市町村等と同文議決を行うものでございます。

次に、６５ページをお願いいたします。

議案第８９号、市道路線の認定についてでございます。

道路法の規定により、市道路線の認定について、議会の議決をお願いするもので、６６ページ及び６７ページが認定する路線及び位置図でございます。

以上、議案第８１号から議案第８９号までの説明とさせていただきます。

議案第８２号、辺地総合整備計画の策定について、資料のほうは２１ページになりますけども、こちらの説明において、辺地に係る公共的施設の総合整備のための「財政上」の特別措置等に関する法律というところを「財源上」の特別措置等に関すると申し上げてしまいましたので、「財政上」の特別措置等に関する法律のほう

に訂正いたします。申しわけございませんでした。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　私のほうからも、一部、語句の訂正をして、おわびを申し上げたいと思います。

議案第８２号、辺地総合整備計画の策定の提案理由につきまして、「辺地に係る」公共的施設の総合整備のためのと申し上げるべきところを、「辺地にかかわる」というふうに誤って申し上げましたことをおわびして、訂正させていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（柁原賢一君）　以上で議案の説明を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第９　報告第２４号から報告第２６号まで一括上程・報告・質疑

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第９、報告第２４号から報告第２６号を議題とします。

提出者の報告を求めます。

総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　それでは、議案書その２の６９ページをお願いいたします。

報告第２４号、専決処分の報告についてでございます。

地方自治法の規定により、議会において指定されている事項について専決処分いたしましたので、これを報告するものでございます。

あけていただき７０ページが、専決第１０号専決処分書で、消防積載車物損事故による損害賠償に係る額の決定について、令和元年１０月２８日に専決処分したものでございます。

事故発生日は、令和元年８月２７日、相手方は記載のとおりでございます。

事故の概要は、積載車を格納庫に駐車する際、後方に駐車していた相手方車両のフロントバンパーに接触し、破損させ、損害を与えたものでございます。

損害賠償の額は２８万８７円、そのほか決定事項は記載のとおりでございます。

次に、７１ページをお願いいたします。

報告第２５号につきましては、あけていただき７２ページが、専決第１２号専決処分書で、庁用車車両事故による損害賠償に係る額の決定について、令和元年１１月１５日に専決処分したものでございます。

事故の発生日は、令和元年９月６日、相手方は記載のとおりでございます。

事故の概要は、菊池市隈府の店舗駐車場から市道に出ようとした際、駐車場入り

口のポールに衝突し、破損させ、損害を与えたものでございます。

損害賠償の額は１２万１，０００円、そのほか決定事項は記載のとおりでございます。

次に、７３ページをお願いいたします。

報告第２６号につきましては、令和元年第１回定例会においてご報告いたしました公用車の車両事故の件でございます。

前回、報告しました案件は、相手方ロードバイク等の物品事故のみの損害賠償でございましたが、今回、報告いたしますのは、ロードバイクの運転手の対人賠償に係る額の決定について、専決処分したものでございます。

あけていただき７４ページが、専決第１３号専決処分書で、相手方の通院及び治療を経まして、損害賠償に係る額の決定について、令和元年１１月１５日に専決処分したものでございます。

事故発生日は、平成３１年４月６日、相手方は記載のとおりでございます。

事故の概要は、選挙準備事務のため、国道３８７号から菊池市総合体育館へ右折進入する際、前方から走行してきたロードバイクに気づくのがおくれ、急停止したが、ロードバイクと接触し、相手方が転倒し、相手方ロードバイク及び相手方に損害を与えたものでございます。

損害賠償の額は８８万６５４円、そのほか決定事項は記載のとおりでございます。

以上、報告第２４号から報告第２６号までにつきまして、報告させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　以上で報告を終わります。

総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　申しわけございません。報告第２４号、６９ページになりますけども、こちらの件につきまして、あけていただき、７０ページが専決第１１号の専決処分書でございます。このとき、「専決第１０号」と申し上げましたので、「専決第１１号」に訂正させていただきます。申しわけございません。

○議長（柁原賢一君）　質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第１０　請願第２号及び陳情第４号まで一括上程

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第１０、請願第２号及び陳情第４号の２案件を一括議題とします。

請願第２号及び陳情第４号が、今定例会までに提出されました請願、陳情であります。

その内容については、お手元に配付しているとおりです。

以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

お知らせします。会議を来る１２月４日午前１０時から開き、質疑、委員会付託を行います。議案に対する質疑を行う方は、事務局備えつけの様式により、その要旨を具体的に記載し、１２月２日の正午までに事務局に提出をお願いします。

本日はこれにて散会します。

全員、ご起立願います。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午前１１時４７分

第　２　号

１２月４日

令和元年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第２号

令和元年１２月４日（水曜日）午前１０時開議

第１　質疑
第２　委員会付託

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　質疑
日程第２　委員会付託

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中　教　之	君
２番	福　島　英　徳	君
３番	緒　方　哲　郎	君
４番	後　藤　英　夫	君
５番	平　　直　樹	君
６番	東　　奈津子	さん
７番	坂　本　道　博	君
８番	水　上　隆　光	君
９番	猿　渡　美智子	さん
１０番	松　岡　　譲	君
１１番	荒　木　崇　之	君
１２番	柁　原　賢　一	君
１３番	工　藤　圭一郎	君
１４番	城　　典　臣	君
１５番	大　賀　慶　一	君
１６番	水　上　彰　澄	君
１７番	二ノ文　伸　元	君
１８番	泉　田　栄一朗	君
１９番	木　下　雄　二	君
２０番	山　瀬　義　也	君

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	芳野勇一郎　君
政策企画部長	元島加奈子　さん
総務部長	上田敏雄　君
市民環境部長	古田浩敏　君
健康福祉部次長	宮村恵美　さん
経済部長	笹本義臣　君
建設部長	中村喜範　君
七城支所長	上村雅一　君
旭志支所長	岩根卓士　君
泗水支所長	梁池哲也　君
財政課長	山田哲二　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中尾孝浩　君
市長公室長	前川幸輝　君
教育長	渡邉和博　君
教育部長	木下徳幸　君
農業委員会事務局長	坂本高秀　君
水道局長	大塚忠康　君
監査委員事務局長	山口浩一郎　君

事務局職員出席者

事務局長	徳永裕治　君
事務局課長	歌岡憲一　君
課長補佐	松寺盛親　君
議会係長	安武則貴　君
議会係	吉岡結加里　さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　質疑

○議長（柁原賢一君）　それでは、日程に従いまして、日程第１、質疑を行います。

ここで、申し合わせ事項について申し上げます。

質疑は、一括質疑として３回までとなっています。質疑は、提出議案に対して疑義をただすものであり、一般質問と違って自己の意見を述べることはできません。

発言の通告があっておりますので、質疑を許します。

初めに、平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　おはようございます。通告に従いまして、質疑をさせていただきます。

議案第６９号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）について、款９教育費、項６保健体育費、目１保健体育総務費、節１９負担金補助及び交付金、事業番号７１６番、東京２０２０オリンピック・パラリンピック事業１，３３９万９，０００円の支出について、質疑を行います。

この支出なんですけど、総合計画が立てられたときには、このオリ・パラのことは織り込まれてなかったと私は承知しているつもりなんですが、これが総合計画のどこに位置して、この支払いの根拠は何なのかというものをお尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、改めまして、おはようございます。平議員の質疑にお答えをさせていただきます。

菊池市総合計画では、六つの政策の中の学び合いと地域が育む人づくり、その中の目指す姿にあります、学びを通して人が育つまち、さらに、その中の取り組み施策では、スポーツの振興に関連するものでございます。これを具体的に進めていく後期の基本計画の中では、目的に、東京オリンピックの開催決定により、スポーツ

に対する機運が高まり、健康づくり、生きがいづくりのために体を動かすことを楽しむ方が増加しているため、生涯を通じてスポーツを楽しむことができる基盤整備が必要です。市民の交流と健康増進につながる大会の開催や、市民力を生かした大会運営など、スポーツを通して明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や、一人ひとりの心身の健全な発達に向けた取り組みを推進しますというふうに定めておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　済みません、ちょっと私の理解力が足りないのかもわかりませんけど、その支出の根拠というところをもう少しかみ砕いて教えていただいてもらってもいいですか。なぜこのお金を払うというものなのかというところをもう一回お願いします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、再質問のほうにお答えをさせていただきます。

予算化や事業の執行につなげるには、上位計画であります基本計画にその根拠となる施策や方向性が位置づけられている必要がありますので、先ほど申し上げましたように、スポーツの振興での方向性で、今回、予算計上を行ったものであります。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　次に、猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　おはようございます。議案第６２号、菊池市会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定について質問いたします。

まず１点目、会計年度任用職員という制度そのものの本来の目的は何なのか、お尋ねします。

２点目、国の法改正に伴う条例でありますが、非常勤職員のボーナス支給となると、当然予算が伴いますけれど、実施に当たって、交付税措置はあるのかどうか、お尋ねいたします。

３点目、私の知人は、よその自治体で非常勤で仕事をしておりますが、そこの自治体では、既に給与の基準額を下げるという通知がなされていて、その毎月の給料が減った分をボーナスで支払って、トータルでいうと年額はやや減ってしまうような試算になっているという話をしておりました。

現在、市が雇用している非常勤職員の給与の基準額は変更があるのかどうかをお

尋ねいたします。

以上、３点です。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　改めまして、おはようございます。それでは、猿渡議員の質疑のほうにお答えさせていただきます。

まず、１点目の会計年度任用職員の制度そのものの目的は何かということですけども、地方公務員の臨時・非常勤職員につきましては、国が行った調査によりますと、総数が平成２８年４月１日現在で約６４万３，０００人となり、平成１７年４月１日現在の約４５万６，０００人からは１８万７，０００人ほど増加しております。また、教育、子育て等、さまざまな分野で活用されていることから、現状において地方行政の重要な担い手となっているところでございます。

このような中、任用上の課題として、通常の事務職員等であっても特別職として任用され、服務規律等が課されないものが存在していること、採用方法等が明確に定められていないため、一般職、非常勤職員としての任用が進まないこと、また、処遇上の課題として、労働者性の高い非常勤職員に期末手当の支給ができないことなどから、地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律が平成２９年５月１７日に公布、令和２年４月１日に施行となり、会計年度任用職員の制度が導入されるものでございます。

それから、交付税措置はあるのかということですけども、会計年度任用職員の国の財政措置につきましては、総務省の説明によりますと、国の各府省や各地方公共団体等からの要望が多く、法改正の趣旨が実現できるよう、適切に検討するとの説明にとどまっているところでございます。

また、期末手当を確保するために、報酬等を下げるような動きもあるということですけども、菊池市としての対応はどのように行うかということですけども、報酬等につきましては、現在、最終調整を行っておりますが、法改正の趣旨、また、近隣自治体の状況等を踏まえ、適切な対応をとっていきたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　次に、東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　おはようございます。議案第６９号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）についてお尋ねします。

款３民生費、項３児童福祉費、目５児童福祉施設費について、保育所管理経費で報酬３２１万２，０００円が減額となっていますが、理由は何でしょうか、お聞か

せください。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　改めまして、おはようございます。東議員の質疑にお答えします。

減額した報酬は、嘱託職員の報酬でございまして、嘱託調理師の骨折による欠勤分と、嘱託保育士が３名の雇用の予定が１名しか雇用できなかったことによるものでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　主な理由が、保育士が確保できなかった分の減額であるということですけども、その不足の分のかわりはどのように対応されていらっしゃるのでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　お答えいたします。

保育所は、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準により、職員の配置基準が設けられているため、嘱託職員の不足分は、複数担任のクラスを正規職員である保育士と臨時の保育士で受け持つことで、職員の配置基準を満たすようにしております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　臨時の職員等で補っていらっしゃるということですけども、今年度の見通しとして、今後、嘱託職員の募集は、不足等も懸念されて、かけられる予定はありますか。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　今後の見通しということでございますが、年度末までにゼロ歳の在園児の兄弟等を含め、入所の希望があることから、現在も嘱託保育士の募集を行っているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　これで質疑を終わります。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第２　委員会付託

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第２、委員会付託を行います。

議案第６２号から議案第７６号まで及び議案第８１号から議案第８９号並びに請願第２号・陳情第４号については、お手元に配付しております議案等付託表のとおり、それぞれ所管の各常任委員会に付託します。

各常任委員会は、付託されました案件を十分審査いただきますようお願いいたします。

令和元年第３回菊池市議会定例会議案等付託表

付託委員会	議案番号	件　　名
総務文教常任委員会	議案第62号	菊池市会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定について
	議案第63号	地方自治法及び地方公務員法の一部改正等に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
	議案第64号	菊池市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第81号	新市建設計画の変更について
	議案第82号	辺地総合整備計画の策定について
	議案第85号	公の施設の指定管理者の指定について（菊池市市民会館）
	議案第86号	公の施設の指定管理者の指定について（菊池市総合体育館）
	議案第87号	公の施設の他の団体の利用に関する協定の締結について
	議案第88号	熊本県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更について
	請願第2号	「菊池地域農業協同組合住吉農業倉庫跡地購入」に関する請願
福祉厚生常任委員会	議案第65号	菊池市廃棄物の処理及び清掃並びに浄化槽に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第66号	菊池市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第67号	菊池市特別養護老人ホーム特別会計条例等を廃止する条例の制定について
	議案第83号	財産の譲渡について

付託委員会	議案番号	件　　名
経済建設常任委員会	議案第68号	菊池市給水条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第84号	公の施設の指定管理者の指定について （菊池渓谷ビジターセンター及び菊池市観光情報発信施設）
	議案第89号	市道路線の認定について
	陳情第4号	有害鳥獣被害防止対策に関する陳情
予算決算常任委員会	議案第69号	令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）
	議案第70号	令和元年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）
	議案第71号	令和元年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）
	議案第72号	令和元年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）
	議案第73号	令和元年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）
	議案第74号	令和元年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）
	議案第75号	令和元年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）
	議案第76号	令和元年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第３号）

○議長（柁原賢一君）　以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

次の会議は、明日５日の午前１０時から開き、一般質問を行います。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午前１０時１３分

第　３　号

１２月５日

令和元年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第３号

令和元年１２月５日（木曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中	教　之　君
２番	福　島	英　徳　君
３番	緒　方	哲　郎　君
４番	後　藤	英　夫　君
５番	平	直　樹　君
６番	東	奈津子　さん
７番	坂　本	道　博　君
８番	水　上	隆　光　君
９番	猿　渡	美智子　さん
１０番	松　岡	譲　君
１１番	荒　木	崇　之　君
１２番	柁　原	賢　一　君
１３番	工　藤	圭一郎　君
１４番	城	典　臣　君
１５番	大　賀	慶　一　君
１６番	水　上	彰　澄　君
１７番	二ノ文	伸　元　君
１８番	泉　田	栄一朗　君
１９番	木　下	雄　二　君
２０番	山　瀬	義　也　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	芳野勇一郎　君
政策企画部長	元島加奈子　さん
総務部長	上田敏雄　君
市民環境部長	古田浩敏　君
健康福祉部次長	宮村恵美　さん
経済部長	笹本義臣　君
建設部長	中村喜範　君
七城支所長	上村雅一　君
旭志支所長	岩根卓士　君
泗水支所長	梁池哲也　君
財政課長	山田哲二　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中尾孝浩　君
市長公室長	前川幸輝　君
教育長	渡邉和博　君
教育部長	木下徳幸　君
農業委員会事務局長	坂本高秀　君
水道局長	大塚忠康　君
監査委員事務局長	山口浩一郎　君

事務局職員出席者

事務局長	徳永裕治　君
事務局課長	歌岡憲一　君
課長補佐	松寺盛親　君
議会係長	安武則貴　君
議会係	吉岡結加里　さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立願います。

（全員起立）

おはようございます。

着席願います。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（柁原賢一君）　日程第１、一般質問を行います。

初めに、城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　おはようございます。早いもので、ことしも残り１カ月を切りました。振り返れば、各地で災害が発生いたしまして、亡くなられた方、被災され、いまだ避難生活を余儀なくされている方がたくさんおられます。お悔やみとお見舞いを申し上げたいと思います。

これほど大規模な災害が立て続けに発生するようになり、過去の教訓が参考にならないような時代になっているんじゃないかなという思いがいたします。委員会の所管事務調査の中で、大規模災害に備えてハザードマップの見直し、タイムラインの設定見直しなどをお願いしたところでございました。新年が災害の少ない、すばらしい年でありますようご祈念いたしまして、質問に入りたいと思います。

まず、高齢者福祉について、民営化した養護老人ホームの現状についてお聞きしたいと思います。

平成２３年９月１日、養護老人ホームこすもす荘、ふじのわ荘が民間に移譲されて、８年余りがたちました。今回、つまごめ荘が民間に移譲されますが、先に移譲されました２施設の状況把握についてお聞きしたいと思います。

平成３０年４月１日時点の住民基本台帳によりますと、菊池市は６５歳以上の高齢化率の割合は３１％、高齢者のみの世帯は２５．７％となっております。本年９月末時点では、６５歳以上の人口が約１万６，０００人、高齢化率は３３％で、２％上昇しております。高齢者のひとり暮らし世帯も増加している状況でございます。高齢者の世帯の状況において、本市では総人口自体が減少しておりますので、中でも若い世代が少なくなっていることなどから、高齢者世帯が増加していることは明らかであります。

このような市の状況を踏まえた上で、質問したいと思います。

そもそも養護老人ホームとはどのような方が入所される施設なのか、説明をお願いいたします。あわせて、施設に入居申請から入所決定までの事務手続についてお示しください。また、高齢者世帯の把握はどなたがなさっておりますか、お示しください。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　改めまして、皆様、おはようございます。城議員からの養護老人ホームの状況についてのご質問にお答えします。

養護老人ホームは、老人福祉法第１１条第１項において「６５歳以上の者であって、環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難なもの」が入所対象とされており、市からの措置という形で入所を行います。

具体的に申し上げますと、環境上の理由とは、家族や住居の状況等により、在宅において生活することが困難であること及び入院加療を要する状態でないこと。また、経済的理由とは、生活保護を受けているか、それに準ずる程度の収入等の状況により生活が困窮していると認められること。以上の全てに該当される方が入所対象となります。

次に、申請から入所決定までの流れとしましては、まず、家族などからご相談がありましたら、高齢支援課において入所要件に該当するか否か調査し、協議を行った後、入所判定委員会で措置の要否について判定し、入所が必要と判定されれば、決定の手続を行うという流れになります。

次に、対象となる高齢者の把握につきましては、家族や親族からの相談や、地域の民生委員、ケアマネジャーなどからの情報提供のほか、福祉課等からの連絡などにより把握しております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　入所の手続とか、今、言っていただきましたけども、手続までは言っておらんかな。入所者、対象者、入所も言われましたかね。

それでは、入所手続、高齢者世帯の把握について説明していただきましたが、民生委員さんとか、擁護委員さんたちが把握しに行かれるということでありました。課題を抱える生活困窮者の方が安全・安心に生活、課題と向き合い、自立した生活ができる住居の場が養護老人ホームではないでしょうかね。

それで、そこで、この養護老人ホームの民営化後、この二つの園がどのようにな

っているか、状況把握しに行かれておりますでしょうか。ことしになって、また何回ほど行かれましたでしょうか、お聞きしたいと思います。

また、この施設の運営財源についてお聞きしたいと思います。市が単独の財源で運営されているのですか、それとも、国からの財源で運営されているのですか、お聞きしたいと思います。

それから、施設の入居者１人当たり幾らかかっておりますでしょうか、お答えください。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　民営化後も、担当者は入所等の立ち会いなどで施設に行っておりまして、それ以外にも、相談等があればその都度協議を行っております。

このほかに、今年度につきましては、２施設にそれぞれ出向きまして、状況把握を行ったほか、市役所内でも協議を行っているところでございます。

次に、措置費の財源につきましては、以前は国庫負担金でしたが、現在は一般財源となっておりまして、地方交付税として措置されております。

それから、市が負担します入所者に対する措置費につきましては、一般事務費、生活費、民間施設給与等改善費、夜勤体制加算、その他、冬季加算や期末加算等の各種加算を含め、１人当たり月に約２０万円となっております。

なお、入所者本人からも、菊池市老人ホーム入所者費用徴収に関する規則に基づき、収入に応じて負担いただいております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　１人当たり２０万円ほどかかっていると回答されました。それから、国から一般財源として交付税として市に入ると回答されました。また、市の負担も、本人の負担もあるとお伺いしましたが、そもそも国から交付税は、市が負担している中の何％入っているのかをお示しいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　地方交付税は、基準財政需要額から基準財政収入額を差し引いた財源の不足分に対して交付されるものですので、特定の歳出額に対して幾ら交付されたかという正確な金額は把握できません。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　今の回答では、交付税が幾ら養護老人ホームの財源に回っているかわからないということでありますが、これでは、国から地方交付税で手当てされている福祉関係の財源を他の事業に回しているのではないかと疑われても仕方がないのではないでしょうか。

全国的に養護老人ホームの定員割れが問題となっておりますが、行政による措置控えではないかと言われております。養護老人ホームに入所する方に措置をするよりも、例えば、生活保護を受けてひとり暮らしを続けてもらったほうが自治体の財源負担が少なく、相談に来られた高齢者を生活保護の担当課へ回している自治体があるなどの報告があっております。各地で行政による措置控えの実態が指摘されております。本市はそのようなことはないと思いますけども、全国的にはそういうところがあるようでございます。

そこで、お伺いしますが、養護老人ホームの定員は何名でしょうか。また、入所判定は誰がされるのでしょうか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　市内に２カ所ございます養護老人ホームの定員は、それぞれ５０人で合計１００人、本年１１月１日現在の入所者数は、合計８１人です。そのうち、菊池市からの措置者数は、合計５５人であり、ことしの４月から１１月末までの新規の措置者数は２人となっております。

なお、本市においては、議員が懸念しておられます措置控えは行っておりません。

次に、入所措置の決定に当たっては、国の老人ホームへの入所措置等の指針により、さきに申し上げました入所判定委員会の意見を聞くものとされており、本市の場合は、菊池圏域老人ホーム合同入所判定委員会に諮ることになります。

この委員会は、医師２人、菊池保健所長、菊池福祉事務所福祉課長、養護老人ホーム施設長３人、菊池郡市の高齢者担当課長から構成され、入所措置基準に基づき、入所の要否について総合的に判定し、その結果を市町村長に報告します。

この結果に基づきまして、市町村が入所措置の決定を行うこととなりますが、地方自治法第１５３条第２項の規定に基づき、菊池市福祉事務所長事務委任規則により、市長から市福祉事務所長に権限を委任しておりますので、最終的には福祉事務所長が決定しております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　今、１００人に対して８１名の入居者ということで、この施設もご多分に漏れず定員割れの状態のようです。民間移譲して、民間活力の導入ができて、運営費を他の財源に回せてよかったで済ましてはいけないと思います。養護老人ホームの措置制度は、行政の権限で困っている高齢者を救済する制度です。他の介護保険事業とは意味合いが違ってまいります。

市長が掲げる「笑顔に効く地 菊池市」は、生活課題を抱える高齢者も幸せに安全・安心に暮らせる市でなければならないと考えます。民間活力の導入というのは施設運営だけで終わらせてはいけないと思います。市民の生活課題に対して互いに知恵を出し合い、市民の生活を支える仕組みを考えていかなければならないと思います。それには運営の安定化や事業の計画と経営をもって進んでいかなければならないと思います。その上で、養護老人ホームの役割、意義、大切さを、困った方々がスムーズに入所できる仕組みづくりと予算立てで活用できるよう考えていただけないか、お聞きしたいと思います。

また、入所に対して最終判断は福祉事務所長が行うということでありましたけども、そこに委託しているのが市長であります。定員割れで施設の運営が困難になり、閉鎖にでもなれば、入居者のみならず、今後の生活困窮者にも影響が出るのではないかと懸念いたします。

民営化後、本市と施設内で交わされている運営協定書なるものを見せていただきました。その中に「市は、養護老人ホームへの入居を真に必要とする人のニーズを把握して、適切な措置を実施し、施設と協力して効率的かつ安定的な運営を行うことができるよう努めるものとする」と書いてあります。

そこで、市長にお聞きしますが、市と施設で交わされています内容をお聞きになって、どのように捉えておられるか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　改めまして、皆さん、おはようございます。養護老人ホームに対する考え方という趣旨でのご質問でございました。

養護老人ホームは、経済的に困窮されている高齢者を受け入れるセーフティネットの役割を果たす大切な施設だというふうに考えております。

県内でも入所者が減少している施設も少なくありませんが、本市では、今、議員さんのほうからおっしゃったように、運営協定書にあります「入所を真に必要とする人のニーズを把握して適切な措置を実施する」としてございます。本当に必要な方が入所できるように、入所基準に基づいて適正な措置を行っているところでござ

います。

今後につきましても適切な措置を行い、施設と常に協議をしながら、安定的な運営に協力していきたいというふうに考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　養護老人ホームへ入所される方は、今まで必死に働いて、菊池市を支えてこられた方々でございます。高齢者の方々の立場に立って、お互いが成り立つよう考えていただきたいと思います。

最後にお聞きしますが、観光、市の活性化と考えることが多くあると思いますが、本市の根幹をなすと思います福祉について、市長の頭の中のどの位置に福祉がありますでしょうか。ど真ん中でしょうか、側面でしょうか、外側でしょうか、お答えください。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　今のご質問に対してお答えいたします。

福祉をどのように考えているかというお話でございますけども、福祉に限らず、私たちの菊池市民の生活をどうしたら少しでも幸せなものにできるか、豊かなものにできるか、そういう中に福祉もありますし、教育もあるし、それを支える経済基盤もあるし、全てがハーモニーを保たなければ、その目的は達成できないと思います。とりわけ、これから高齢化、少子高齢化、人口減少を迎える中においては、福祉の役割は今まで以上に重要であると、そのように考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　力強いお答えをいただきました。よろしくお願いしておきます。

次に、ドライブレコーダーについてお聞きしたいと思います。

公用車のドライブレコーダー登載車は、その後、ふえたのか。また、その効果と警察との連携はということでお聞きしたいと思います。

公用車へ安全運転の意識づけのためにもドライブレコーダーを取りつけてはどうかという、平成２９年第２回６月議会、一般質問で聞いております。その後、公用車にドライブレコーダーをつけておられましたが、あれから２年半がたちました。その後、ドライブレコーダーを取りつけた公用車はふえましたでしょうか。また、

何台の車にドライブレコーダーをつけておられますか、お示しいただきたいと思います。

また、事故、防犯等で映像の提供等ありませんでしたでしょうか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　改めまして、おはようございます。

まず、ドライブレコーダーの現在の設置台数はということでございますけども、ドライブレコーダーの設置状況としましては、平成２９年度から市外や県外への出張時に使用しております集中管理車を中心に設置しており、現在、８台の車両がございます。

また、防犯等の警察との連携状況はということでお答えしたいと思いますけども、ドライブレコーダーに記録された映像には、多くの個人情報が含まれております。記録データの取り扱いについては、菊池市個人情報保護条例の規定に基づくほか、記録データの管理運用の適正を期するために、菊池市公用車ドライブレコーダーの設置及び管理運用に関する要綱を定めて運用しております。

記録データの外部提供については、一定の制限がかかりますが、交通事故またはトラブルの状況及びその原因を明らかにするため、法令の規定に基づく対応は可能となります。

現在のところ、幸いにしてドライブレコーダーの映像を必要とする交通事故等は発生しておりませんが、警察との連携については、関係例規に基づいて、適切に対応してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　その後、ふえていないということですけども、また、事故の映像等も提供もあっていないということでございます。

今議会で事故の専決処分が出ております。その中でも、ロードバイク絡みの事故がとても気になりました。人身事故になっていたようですが、下手をすれば裁判ざたにもなり、もめにもめ、示談になったのではないでしょうか。こんなとき、ドライブレコーダーがついていれば、事がスムーズに解決すると思います。

それから、専決処分で消防の積載車の事故も報告されておりました。積載車への取りつけも必要と考えます。そこで、ドライブレコーダーの取りつけを順次ふやしていく考えはないか、お聞きしたいと思います。

また、防犯にも役立つと考えます、走行中の映像に事件、事故の現場や当事者が映っていたりします。犯罪や災害にも役立つと考えますので、そこで、警察などの犯罪防止のために協定を結び、連携して市民を守る考えはないか、お聞きしたいと思います。

名古屋市が映像提供で県警と新協定ということで新聞に載っておりました。今回、９月１９日の新聞でしたけども、これは防犯カメラも入ってましたけども、ドライブレコーダーの映像提供に関しての新たな協定を締結したということで、ここは台数的にも物すごく多いです。道路パトロールなど、ごみ収集車、消防車などの１，５１０台で、それを市と提携して、映像を犯罪や防犯のために提供する協定を結んだということで載っております。昨年だけで約１００件の映像を県に提供したとあります。また、その登載している車にはドライブレコーダー作動中と書かれたステッカーが外から見えるように張ってあるということで、防犯の効果にも期待するということも書いてありました。

そういう意味からも、協定を結んで、より一層の安心・安全なまちにしていく考えはないか、お聞きしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　城議員のご質問にお答えしたいと思います。

まず、事故等の報告を先般させていただいたところでございますけども、職員の安全運転意識の高揚につきましては、公用車の運転に限らず、日ごろから交通法規の遵守及び安全運転の励行など注意喚起を行い、常に安全運転に努めるよう周知徹底を行っているところでございます。

また、ドライブレコーダーには、実際の事故映像が記録されますので、万が一の交通事故の際は、その後の迅速な事故処理につながるメリットがあり、また記録されていることで、あらかじめ意識して運転することになりますので、安全運転の励行につながると考えております。

その上で、警察等の協議につきましては、今後、先進事例も踏まえ、必要に応じ研究・検討したいと考えております。

最後に、公用車へのドライブレコーダーの設置につきましては、現在、集中管理車を中心に設置しておりますが、今後は、可能な限り早急に対応してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　それでは、よろしくお願いしておきます。

続きまして、支所が支所方式で運用されているが、問題はないかということで、支所方式の運用で各支所が抱える問題はないか、お聞きしたいと思います。

平成２９年４月から、支所方式で泗水、七城、旭志の支所が運用開始され、３年目を迎えております。現在、新築や改築作業が続いており、市民の皆さんも不便な思いをされていることと思います。支所に移行される際、議員の間からもさまざまな要望、要請がなされております。サービス低下を懸念しての思いではなかったかと思います。

そこで、各支所長にお伺いしますが、市民の皆様の反応はいかがでしょうか。また、皆様からの要請、要望、陳情の処理はどのような手段で解決していますか。うまくできていればいいんですが、お聞きしたいと思います。

市民の皆様に迷惑がかからないように、気がついたこと、改善してほしいことはどんどん市長に申し入れ、市民サービスが低下しないようにしていただきたい。願わくば、向上するようにお願いしたいと思いますので、考えをお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　七城支所長、上村雅一君。

［登壇］

○七城支所長（上村雅一君）　改めまして、おはようございます。城議員のご質問にお答えします。

総合支所から支所へ組織の改編があり、建設部関係業務が本庁に一元化された当所につきましては、職員が減って寂しくなったとか、市民の声が伝わりにくくなるのではなどのご心配の声がありましたが、現在では不安の声も聞かれなくなり、市民の皆様からの要望については、適正に対応できているものと考えております。

今後とも、本庁と支所の連絡を密に行い、市民サービスの維持・向上等に努めてまいります。

以上、お答え申し上げます。

○議長（柁原賢一君）　旭志支所長、岩根卓士君。

［登壇］

○旭志支所長（岩根卓士君）　改めまして、皆さん、おはようございます。それでは、城議員の質問にお答えいたします。

旭志支所への市民の皆様からの要望、相談、問い合わせ等では、市道や国・県道、そして、農道に関するものが多く、そのほか、ごみの不法投棄、有害鳥獣の情報提供など、行政全般にわたっており、その都度、現地調査や、必要に応じては立ち会いなどを行っているところでございます。

多くの業務で本庁との連携を密にしながら業務に当たっており、総合支所当時と

変わらない対応となっていることから、市民の皆様からの不満の声もなく、今後も市民の皆様に寄り添った対応に心がけていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　泗水支所長、梁池哲也君。

［登壇］

○泗水支所長（梁池哲也君）　改めまして、皆さん、おはようございます。それでは、城議員のご質問にお答えさせていただきます。

泗水支所に寄せられる相談や問い合わせとしましては、市道等の道路の維持管理やごみの不法投棄、さらには、防災、防犯、福祉業務に関するものなど、多岐にわたっておりますが、これらの相談等につきましては、一つ一つ解決を図ってきたところでございます。

現在におきましても、建設部関係業務については、総合相談員が本庁各課と連携し対応しまして、他業務においても、本庁・支所間の内線電話により迅速に対応しており、不安の声は聞かれなくなり、地域の皆様に寄り添った運営が図られていると考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　各支所とも問題はないと、うまく運営されているということでありますので、今後ともよろしくお願いしておきたいと思います。

では、次にいきます。各種市民サービスの進捗状況はということで、プレミアム商品券の申請状況について、マイナンバーカード普及啓発の進捗状況について、以上、２点についてお聞きしたいと思います。

まず、プレミアム商品券の進捗状況についてお聞きします。

本市の対象者はどのくらいおられますでしょうか。また、申請の期間はいつからいつまでになっておりますか。現在までの申請状況をお示しいただきたいと思います。それから、商品券の引きかえはどのようにして行うのかをお示しいただきたいと思います。そして、この引きかえた商品券で買えるのは、店がどれぐらいありますでしょうか。以上について、５点についてお伺いしたいと思います。

次に、マイナンバーカードの申請状況についてお聞きします。

まだ私もカードは持っていないんですが、カードの申請がややこしいことはありませんでしょうか。誰もが簡単にできるでしょうか。マイナンバーカードの申請は、市の人口の、今、何％の方が申請されておりますでしょうか。また、カードを持っていることで、その利点は何があるんでしょうか。私は余り必要性を感じませんが、

利点をお聞きしたいと思います。以上について、お示しください。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　おはようございます。それでは、私のほうから、プレミアム付商品券についてお答えをしたいと思います。

５点あったと思いますけれども、まず、プレミアム付商品券につきましては、１０月１日から消費税率の引き上げが、低所得者や子育て世帯の消費に与える影響を緩和するとともに、地域における消費の喚起・下支えすることを目的として実施しております。

まず、購入対象者は平成３１年１月１日時点の市民のうち、市県民税非課税者と、平成２８年４月２日から令和元年９月３０日までに生まれた乳幼児１，３５３名が属する世帯の世帯主となっております。子育て世帯におきましては購入引換券を送りましたが、非課税世帯につきましては申請が必要となっております。

次に、申請方法でございますが、申請書に記名し返信用封筒を投函いただきます。その後、市で審査を行いまして、対象者には購入引換券を、非対象者には返却のお知らせを送付しているところでございます。

申請状況につきましては、１１月２５日現在、非課税者１万１，８９９名中３，７２１名が申請をされております。申請率で申し上げますと、３１．３％となっております。申請期間につきましては、令和２年１月３１日までとなっております。

購入引換券が送られてきた対象者は、２月２８日まで販売窓口で購入引換券、身分証明書を持参していただきまして、最高２万円で２万５，０００円分の商品券を購入することができるとなっております。あと４，０００円ずつ５回に分けて購入することもできます。

利用登録をされた市内の店舗につきましては、１５２店舗でございまして、令和２年３月１５日まで利用ができるとしております。日用品や食料品を初め、燃料や医療費にも利用できますが、不動産、たばこ、税金など、利用できないものもございます。

１０月末でございますが、申請をされてない未申請者の方につきましては促進の通知を送り、申請率向上を図っておりますが、一人でも多くの対象者に商品券を購入いただけるよう、引き続き広報誌やホームページで周知を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　改めまして、皆さん、おはようございます。マイナンバーに関する質問にお答えをさせていただきます。

本市民のマイナンバーカードの交付枚数及び取得率につきましては、どちらも令和元年１１月２４日が最新データでございますので、そちらをお知らせいたします。交付枚数４，９５６枚、取得率で１０．１０％でございます。これは、現在、熊本県内４５市町村中、３０番目の取得率ということでございます。

議員が申請は面倒じゃないかということですので、そこについてご紹介させていただきます。

マイナンバーカードの申請につきましては、インターネットにつながるパソコンやスマートフォン、タブレットをお持ちの方であれば、ご家庭で簡単に申請することができますが、これらをお持ちでない方や、高齢者の方向けに、市役所において申請のサポートを行っております。

具体的には、本庁の総務課におきまして、通知カードをご持参いただきましたお客様に対して、デジタルカメラでの写真撮影と、タブレットを使ってのオンライン申請サポートを行っておりまして、お一人のお客様に対しての所要時間は５分程度でございます。

通知カードを紛失された方に対しましても、免許証などの身分証明書をご持参いただきましたら、市民課において通知カードのかわりになる申請書を発行し、この申請書を用いて、総務課にてオンライン申請を行っているところでございます。

平成２９年１１月から取り組んでおりまして、これまでおよそ６００人の申請サポートを行っております。

そのほか、紙媒体でのマイナンバー申請を希望される方に対しましては、申請書に貼りつけます証明写真をお持ちいただければ、市民課におきまして、記入の仕方などをサポートいたしまして、個人番号カード交付申請書受付センターのほうへ郵送をさせていただいております。

次に、マイナンバーカードはどのような利用ができるかというお問い合わせに関しましては、マイナンバーカードは、運転免許証などのように、顔写真つきの身分証明書として利用できることはもちろん、住民票、印鑑証明、税務関係証明などにおいて、全国のコンビニエンスストアで、年末年始を除きます午前６時３０分から午後１１時まで取得することができます。

また、行政手続の提出書類の簡素化や、確定申告がインターネットからできるようになるほか、令和元年３月からは健康保険証として利用するなど、順次、国では予定をされているところでございます。

マイナンバーカードが、健康保険証として利用できるようになりますと、医療費

控除の申請がインターネットからできるほか、転職などにより国民健康保険から社会保険に切りかわったとしても、保険証の交付を待たずに、保険診療を受けることができるなどのメリットがございます。

以上、お答えをいたします。

訂正をさせていただきます。「令和元年３月」と申し上げましたが、「令和３年３月」からの間違いでした。訂正させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　私からも訂正を一つさせていただきたいと思います。

先ほど、プレミアム付商品券のご説明の中で、申請方法のところでございますが、対象者には購入引換券を送付いたしまして、非対象者には「却下」のお知らせを送付しておりますと言うべきところを「返却」と読んでしまいました。「却下」でございます。訂正をさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　商品券の申請状況が３１．３％、もう５０を超えておるものと思っておりましたら、えらい少ないんだなと。これちょっと問題じゃないんですかね。もう少し考えながらやっていただきたいと思いますが、今後どうやっていくかも、もう一回、申請状況を上げるにはどうするかをちょっと答えてください。

それと、マイナンバーは１０％で３０番目、それぐらいしか使ってないということでありますので、今回、マイナンバーカードを活用してポイント還元事業を国がやるということで報道なされておりました。「キャッシュレス決済のポイント還元の後継事業として、オリンピック後の景気の落ち込みを防ぐとともに、進まないマイナンバーカードの普及の後押しのため」と書いてあります。また、行政サービスのデジタル化の流れを加速する狙いがあるようです。こうまでしないと普及しないのはどうしたものかと思います。先ほど言われました１０％の普及率でありますが、カードがあれば、役所に行かなくてもできるサービスをふやすことが大切ではないでしょうか。

コンビニで、さっきもいろいろやりましたけども、いつでしたか、税金の納付なんかはできませんかということで、コンビニ納付ができないかということをお聞きしましたけど、各種そういうそのようなサービスをふやすことも大事ではないかと思います。あわせて、国の政策が地方におりてきましたときは、速やかに対応されて、カードの普及に努めていただきたいと思いますが、いかがですか、お聞きします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　それでは、城議員の再質問についてお答えいたします。

プレミアム商品券、なかなか率が伸びないということでございます。私どものほうも、今、事業を推進しながら、いろいろお客様あるいは対象者のお声を分析をしております。そういう中で言えば、先ほど言いましたように、一つは、なかなか周知が難しいということで、先ほどもお答えしましたように、一人でも多くの対象者に商品券を購入いただけるようというところで、１０月末にも促進通知を送っております。再度、このプレミアム商品券が皆様の手に届くように、少しでも多く広報と、ホームページ等でも周知を図りたいと思っております。

また、手続が非常に複雑でございますので、事務手続上、申し込みに来られた方、迅速に対応できるよう、職員のほうも一生懸命今後もやっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　マイナンバーの国の動向と、今後の取り組みについてお答えをさせていただきたいと思います。

国では、マイナンバーカードを普及させるための手段として、マイナンバーカードを取得し、マイキーＩＤ設定まで完了された方を対象に、民間キャッシュレス決済に対して、プレミアムを付与するマイナポイントを活用した消費活性化策を行うと発表しております。これは、○○ペイなど、スマートフォンを使ったキャッシュレス決済の前払い、いわゆるチャージに対してプレミアムを付与する制度でございまして、国からは正確なプレミアム率は発表されておりませんが、ニュース・新聞等では２５％程度のプレミアム率になるのではないかと言われております。実施時期につきましては、まだはっきりしておりませんので、ここではお答えを控えたいと思います。

次に、今後の取得率向上のためには、現在、総務課のみで行っておりますオンライン申請サポートを、令和２年１月より、本庁市民課及び各支所でも受け付けができるように拡大をする方針でございます。

現在、国の補助制度を利用して、市民課に配置する臨時職員の人件費や、オンライン申請に使用するタブレット、写真撮影のためのウエブカメラの購入費などを今回の補正予算に上程をさせていただいているところでございます。

年明けには、広報紙等により、本庁及び各支所においてマイナンバーカードオン

ライン申請が行えることや、通知カードをお持ちでない方も身分証をご持参いただければ申請ができる旨の周知を行い、取得率の向上に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　城典臣君。

［登壇］

○１４番（城　典臣君）　それでは、これで終わりたいと思います。よろしくお願いしておきます。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　これで、城典臣君の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時４８分

開議　午前１０時５７分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　皆さん、おはようございます。菊池市の最高決定機関である菊池市議会定例会は、国旗を掲げ、国歌斉唱して始めるべきだと考えております、議席番号５番の平直樹です。私は、日々の政治活動において、目標を、政治をもっと近くに、判断基準を、子どもたちが大きくなったときにどうかという二つの柱で行っております。今回の一般質問も、まさに子どもたちが大きくなったときにどうかという視点に立って、なるだけわかりやすく深掘りをしていきたいと思います。

今回、通告しておりますのは、学校給食について、菊池の夏まつりについての２問です。通告に従いまして質問をさせていただきます。

まず、学校給食について、使用している原材料についてお尋ねをいたします。

この質問の目的は、子どもたちに安心で安全な給食を食べさせたいというものです。給食についての質問は、今回で３回目となります。平成２８年の９月議会、次の１２月議会で行っておりますが、１回目が菊池市産や熊本県産の使用について、そして、遺伝子組み換え食品についてのことをお尋ねいたしました。

そのときの１回目の答弁が、最後のほうで遺伝子組み換え食品を使ってないよということでしたので、それをもう一回調べてみたところ、どうでしょうかというようなことを２回目で聞いております。その際に、学校で使用している食材の基準を

明記したもの、これを物資納入基準書というものがありますが、こういったものを自分たちでこさえて、この中で、どんなものを使うよというようなものをうたっております。ここに書いてある書き方なんですけども、その書き方も含めて、ちょっと検討しますよというようなことが前回の答弁の主なところでしたので、それの続きというふうになります。

以前、いただいていた物資納入基準書の全体共通事項、これが８個あります。これはなぜ全体共通事項といいますかというと、例えば、菊池、七城、旭志、泗水と、給食センターというのが四つあります。その四つある中で、全体的にここはもう共通で持っておこうねというのが、この全体共通事項なんですけども、前回まで私がちょっと聞いていたところが、その全体共通事項の６番に、遺伝子組み換え食品は不使用とするというようなところの書き方が変わっているんではないかと思って、今回、取り寄せてみたところ、ここが極力控えたものというふうに、いわゆる緩和をされております。子どもたちのこの食の安全を確保するためにあるはずのこのルールであるのにもかかわらず、その理由は何でかなと、なぜ緩和されたのかなと思って、そのときのその改正に至った際の共同調理場運営委員会の議事録を取り寄せて読ませていただきました。そして、ちょっとびっくりしましたので、その部分をちょっと読みたいと思いますが、「全体共通事項６、遺伝子組み換え食品は不使用とするを極力控えたものに変更するというものです。従来の不使用では余りにも厳し過ぎて、二次、三次の材料までさかのぼると、食材の選択に支障が出るとの意見があるためです。なお、県下の約５５の共同調理場においても不使用との文言はございません。よろしくご審議ください」、これは当時の共同調理場センター長からの提案です。そして、それに対し、特に議論もなく、可決、承認されております。

そこで、お尋ねをいたします。

食の安全を守るためにあるルールであるのに、全く逆のこの考え方ですね。このような提案に至った詳しい理由をお聞かせ願えればと思います。

ここにあるように「二次、三次までさかのぼれば」というような文言は、２回目の一般質問を私がやったときの、その当時の部長答弁の中で使われていた言葉であります。ここだけを聞けば、一般質問をして、問題を提起していった先に、ルールを緩和されてしまったというイメージが、私にはこれは払拭できないです。なぜルールを守って、守らなきゃいけないよというお話をしたら、ルールが緩和されてしまったのか。

そして、「５５の共同調理場においても不使用という文言がございません」というふうに、ここでは提案されておりますが、現在も熊本市さんでは「不使用」という文言を使っておられます。

そこで、どういった経緯でこういう提案をされたのかという理由をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、改めまして、おはようございます。平議員の質問にお答えをさせていただきます。

遺伝子組み換え食品の、不使用から極力控えたものに改定した理由はなぜかということでございますが、これにつきましては、油やしょうゆなどは製造の過程で組み込まれた遺伝子や、その遺伝子がつくる新たなたんぱく質が技術的に検出できない場合には、遺伝子組み換え表示は義務づけられていません。加工食品については、その主な原材料に当たらない場合は、表示が省略できることになっております。

加工品等の食品の流通過程のもと、原材料というものまでたどれば、添加物や遺伝子組み換え食品の不存在は確認できないということになろうと思いますので、実情に応じて、極力控えたものに改定したものでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　便宜上というか、実際に運営していく上に当たっては、不使用というルールを設けてしまうと、実際にそれが守れないからということで、緩和されたというお答えだと思いますが、先ほども言いましたけど、もう考え方が全く逆で、それをルールを緩和してしまったら、そこからもう、どどどっと入ってきそうな気がする。だから、ルールで守ってあげなきゃいけないというふうに私は考えております。

その全体共通事項の５番と６番と７番というのがあるんですけど、この５番が食品添加物の使用を極力控えたもの、６番が遺伝子組み換え食品を極力控えたもの、７番が農薬の使用を極力控えたものというふうに、この三つ、極力控えたものというふうに書いてありますが、では、お尋ねしますが、この極力控えるという数値をお示しください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、数値的なところについては、特段持ってはおりません。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　数値がないということであれば、では、この極力控えるということをどのように定義づけられているのかということをちょっとお尋ねしたいと思います。

数値で言えない。でも、極力控えたい。そうなれば、そこで変わってくるのは担当者の主観ということになります。厳しい人が担当者になれば厳しくやるでしょうし、あんまりそれに対して知識や興味がない方になれば、そこはどうしても緩くなっちゃうよというふうに思いますので、ちょっとこの基準書の運用手順ですね。５番、６番、７番は極力控えたものというふうに、自分たちでルールをつくっていらっしゃいますので、どのような手順に照らし合わせて、よし、これで極力控えたというふうにされているのかをお知らせください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまの物資納入基準書の基準にどうやって当てはめているのかということでございますが、物資納入業者と契約をする前に、菊池市学校給食納入組合長及びその他納入業者に対しまして、食品納入希望調書に営業に必要な許可証、それから保健所の食品衛生監視票を添付して提出してもらい、提出されました納入希望調書のほうを精査をいたしております。

農薬につきましては、ＪＡ菊池のまんまでは、生産者から使用した農薬や使用回数、肥料等の文書による提示を求め、また、独自に検査もされておりますので、安全性の担保はあるというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　最初に調書をとるときに、そのようなことで調べているよということですけども、では、そのスパンというか、それに対して月に１回ぐらいやっているのか、年に１回、いただいた資料だけで極力減らすという言葉を担保をとっているのか、どういった会議をされているのかなと私は思っているんですけど、私の感覚では、極力減らすとなれば、こういう材料が欲しいよ、こういう給食をつくるためにこういう材料が欲しいよというときに、最初にまず菊池産を探す。なければ、熊本県産を探す。それでもなければ、国産を探す。それでもない場合は外国産や遺伝子組み換え食品というふうなことを経ていかなければ、極力減らすという言葉にはならないと思うんですが、それをチェックしていくような会議というのがあるのかないのか。あっていれば、どれぐらいのスパンで開催されているのかを教え

てください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、学校納入に係ります関係書類の提出ということで、基準書のほうを出していただくようになっております。物資納入標準規格につきましたところの規格基準書を出していただくようにしておりますけども、そこに、その文面の中にはＪＡＳ法、それから食品衛生法に基づいたものを納入くださいということで、あらかじめ納入業者の方にはご通知をさしあげておるところでございます。

それから、どのくらい点検をしているのかということでございますけども、ただいま、その点につきましては、資料を持ち合わせておりませんので、後でお答えをさせていただきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　ちょっと私の理解力が足りないのか、ちょっとぴんとこないですね。どれぐらいのスパンでやられているとか、どういったチェックをしているのかというのは、お調べいただいた後でも教えていただければというふうに思います。

ここで、ちょっと議長のお許しをいただいておりますので、写真を示したいと思います。

［写真を示す］

○５番（平　直樹君）　遺伝子組み換え食品とはそもそも何じゃというところで、ちょっとこの写真を見ていただくと、この実験用のラットと言われるやつですけども、ある外国の教授の方が遺伝子組み換えをした餌を与え続けた結果、こういった奇形が生まれてしまうよという危険性を示すデータのものでございます。こういったことがあるから、遺伝子組み換え食品は怖いよというようなことですね。遺伝子組み換えとは、もともとないもの、本来ないものをつくり上げていくというところです。

一方では、その環境に適して、じゃんじゃんつくれるからいいじゃないかというような意見があることも承知しておりますし、現在、そういう世の中になっております。でも、反対に、世の中には、この商品は遺伝子組み換え食品は使っておりませんよというような表示をして、それをセールスポイントとして物を売っている商品もたくさんあるんですね。それはなぜかというたら、遺伝子組み換え食品が怖いと思う人がたくさんいるから、そういう商品があるという、これはもう行動原理の基本中の基本だと思いますけども、遺伝子組み換え食品が一体どういうことかとい

うのが、釈迦に説法と思いますが、ちょっと一つ、事例を挙げておさらいをさせていただきたいと思います。

アメリカで、除草剤を散布する仕事の方が、その使っている除草剤のメーカーを訴えて、裁判所がその除草剤の発がん性を認めて、メーカーが敗訴しました。約２，２００億円の支払いを命ずるものというような裁判があっております。これ、皆さんご存じかと思うんですが、つまり、この遺伝子組み換えというのの本当に怖いところは、その除草剤をつくっているメーカーが遺伝子組み換えも一緒にやっているんですね。この除草剤をまきます。でも、この除草剤に対する耐性を持った遺伝子を持った苗や種をつくるんですね。それとそれを植えていく。除草剤をまく。それ以外が枯れるんです。だから、すごく手間が楽になるよというようなものの、これが一つ、ロジックとしてあるというのは覚えておいていただければと思いますが、その除草剤に発がん性があるということを裁判所が認めて、支払い命令をしたと。その除草剤が効かないようなものが遺伝子組み換え食品であると。ここが怖いというポイントだと思うんですけども、ちなみに、名前は言いませんが、その除草剤のメーカーはみんなが知っている、ああ、あれかというようなものです。

そこで、改めてちょっとお尋ねしますけども、遺伝子組み換え食品をどういうふうに捉えておりますか。安全なものと考えられているのか、危険なものと考えられているのか、そこを教えてください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、遺伝子組み換え食品をどう考えるかということでございますが、遺伝子組み換え食品については、食品としての安全性を確保するために、食品衛生法及び食品安全基本法に基づき、厚生労働省が義務づける安全性審査を通ったものが流通しているというふうに認識をしております。

文部科学省では、学校給食は、食品衛生法の範疇で安全性を認められたものであるということを前提としていることから、安全性の確認は食品衛生法に基づき行われていると思います。

学校給食会から納入してもらいます遺伝子組み換え表示義務のある食品については、全て非遺伝子組み換え食品であることを確認しております。油やしょうゆなどの調味料、遺伝子組み換えの表示義務がないものについては、業者、製造元をたどらないとわからないために極力使用を控えたいと考えております。

学校給食の物資納入に際し、児童・生徒の安心・安全を最大限に確保するという意味では、遺伝子組み換え食品は極力使用を控えたいというふうに考えておるとこ

ろでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　国が認めたものならば安全だろうけども、なるべく控えたいなというふうに考えているという答弁だと私はとっております。

ちょっと物資納入基準書のほうに戻りたいと思いますが、この私が今回いただいております、この３回目の一般質問をつくるに当たっていただいております、この物資納入基準書というのは、前回、私、２回やってますので、１回目の一般質問をつくる前にもこれをいただいているんですね。これをいただいて、それをもとにいろいろ一般質問を考えてて、２回目の答弁で、ここの書き方を検討していくよということだから、変わっただろうなと。だから、もう一回取り寄せて変わったところを見て、今言っている「不使用」というところを「控える」というような言葉に変わっているから、ありゃどうしたことかいなというところで、この質問を考えていくんですけど、ここの、前回までは見なかったんですけど、一つあけたら、はじめにというのがあって、全体共通事項でというところで、今、お話ししているところが出てきます。

もう１ページあけますと、契約品目及び納品規格基準書というものがあります。ここには、ちょっと字が小さいので見にくいんですけど、青果、野菜、果物、鮮度良好で生産地、生産者が明確にすることというようなことが、るる書いてあるわけですね。こういったものを入れてくださいねというようなものをここに書いてあるんですが、以前、１回目の一般質問をするときに、以前、私がいただいている、この物資納入基準書というのはちょっと違いまして、１ページまた開いたところに、ここに契約品目の中で、１番に穀類、２番に乳類というのがあります。最後のほうに冷凍、レトルト食品というような、そういった科目があるんですけど、今回、私がいただいたものはそこが抜けております。これはなぜ、この以前いただいた基準書から、今回、その穀類、乳類、冷凍、レトルト食品というものが削除されたのかというのを教えてください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問にお答えする前に、先ほどの食材をどの程度チェックしているかということでございますが、栄養士のほうが毎日、肉や魚など物資納入の際に、生産履歴や産地等を記載した納入伝票のほうで確認をしているということでございます。特段チェックする会議等はしていないということにな

っております。

それから、ただいまのご質問でございます。物資納入基準書の穀類、乳類、パン類等の品目がなくなっているのはなぜかということでございますが、物資納入基準書につきましては、菊池地区学校給食共同調理場ができる際に、何らかの基準が必要ということで設けたものでございますが、当時から米やパン、それから、牛乳は公益財団法人熊本県学校給食会から購入をしていたために、基準書には記載をしておりませんでした。

学校給食会以外から購入をいたします菊池市内外の物資納入業者から購入する際に、必要な品目は、青果からということであり、現在の物資納入基準書に至るまで、米やパン、牛乳を入れた経緯はございません。

歴代の共同調理場の職員のほうにも聞き取りを行いましたが、物資納入基準書の表のほうを改定した経緯はないということでございました。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　多分聞いていらっしゃることは、意味がわからないと思います。私も、最初、説明を受けたときに全く意味がわかりませんでした。

私は、ここで１回目の質問のときにいただいた基準書は、市役所に行って、どういったルールでやっているんですかということを調べる上でいただいたものを持ってやっていたんですね。ところが、改定されたもので削除されているから、これは何で削除されているんですかというのは、もちろんそのもらった時点で聞いたんですけど、それは何ですかというふうにお答えをいただいたんです。執行部も持ってなかったものを私が何で持っているんですかというお話だったんですね。すごく注意深く聞いていただきたいんですけど、私たち議員は、いろいろ調べをするときに、市役所の方々に、あなたたちの持っているルールは何ですかというふうに問うて、そこで従っていらっしゃるルール等をもらって、それに照らし合わせてチェックをします。そのチェックをするべきルールを、今、市役所の職員さんが持ってない、知らないというようなものを私に渡されているんですね。私はそれをもとに一般質問をしているのにもかかわらず、それが存在してなかったというふうに言われて、もうすごく混乱したんです。じゃあ、我々は議会議員として調べるときに、いただいた資料が間違ってた、なかったと言われたら、何をもって調べればいいんだということになると思うんですよ。

これ、何というか、誰がやったとか、そういうことを言いたいわけじゃなくて、こういったことが実際に起こっているんですね。私が持っているものは、執行部と

しては認めてないというか、もうもともとなかったというふうに言われているんですけど、もう少しちょっとわかりやすく説明していただいていいですか。何でこういうことが起きたのか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、平議員に渡されました物資納入基準書は、全体共通事項６に「遺伝子組み換え食品は、不使用とする」と記載され、品目ごとの納品規格基準は穀類、米から記載をされております。平成２８年当時、菊池地区学校給食共同調理場の物資納入基準書は、全体共通事項６に「遺伝子組み換え食品の不使用」とあり、品目ごとの納品規格基準は、青果の野菜から記載をされておりました。

平議員がお持ちの物資納入基準書は、平成２７年に納入基準書の改定を検討した未定稿のものが、何らかの理由で、平成２８年に議員のほうへ渡ったものというふうに思われます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　本当はこれを先に進めていって、もう何でこんなことがあるんだというふうに突き詰めたいんですけど、私、今回の質問はそれを聞きたいわけではないので、ちょっとこれはまた別の機会で調べさせていただきたいと思いますので、ちょっと給食のほうに戻ります。

ただ、私たちがもらった資料が、そちらが公的に認めてないものを渡しているという事実だけは、皆さん、覚えておいていただきたいと思います。

ちょっとパンについてお尋ねをいたします。現在、子どもたちが一週間のうちにパンを食べていますが、これ、普通食べているパンを基準パンというそうですね。いろいろ、お菓子用のパンとかもありますが、この現在、子どもたちが食べている基準パンの原材料、小麦の原材料を教えてください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまの学校給食のパンの材料等についてのご質問でございますが、学校給食用のパンにつきましては、学校給食会からの納入であります。熊本県学校給食会が製粉会社から小麦粉を購入しまして、本市七城町の熊本県パン工場のほうで熊本県規格の学校給食用パンのほうを製造されたものでございます。

一般的な基準パンの原材料の小麦につきましては、輸入小麦約９０％、国産小麦

１０％でございます。

今回も安全性について、輸入小麦が遺伝子組み換えされたものではないか、県の学校給食会より製粉会社に確認していただきましたところ、材料の小麦は遺伝子組み換えではないという回答をいただいたところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　このパンに関しては、９０％外国産ということですので、私もいろいろ調べさせていただいたんですけど、基本的には県下の公立の小中学校の子どもたちは、みんな、この県のパンの工場のつくっているやつを食べているから、ほとんどの人たちが外国産の小麦でできたパンを食べているというのが、これが現状で、これは、ここだけ突き詰めていっても、市がどうこうというお話ではないのかなというふうに思うんですけど、でも、皆さん、よくよく考えていただければわかると思いますけども、基準書の４にも、菊池市には菊池市地産地消促進計画というものもあります。さらに一番最上位計画である、この菊池市の総合計画の随所に、菊池市の農産物、農業の育成の菊池のブランド推進等々、菊池の農産物は宝であると。地域の宝である。これをブランディングしていって、都会の人にしっかり食べていってもらおうよと。それもまちづくりにしていきましょうよ。そして、農家の方々も下支えしていきましょうよというのが、これが基本的な考え方だと思うんですね。

それだけではありません。熊本県にも、熊本県の農林水産物を食べようということで、くまもと地産地消推進県民条例というものがあります。市も県も熊本県のもの、地のものを食べましょうというふうに進めていきながら、子どもたちが食べているパンは外国製の小麦を使っていると。これはちょっとすごいバランスが悪いなというふうに思いまして、ただ、市に言うても、市でやっているわけではないからということで、そのつくっている公益財団法人、県の学校給食会のところへ電話して聞いたんですけど、熊本県産の小麦を何で使わないんですかというふうに聞いたら、その質問自体が、言われたこと自体ないみたいで、ちょっとびっくりされてまして、質問を変えまして、私、菊池市ですけど、菊池市からそういったなるべく地元の小麦を使ってくれ、市の小麦、県の小麦を使ってくれというような動きはありましたかというふうに聞いたら、ありませんと、一度もそんなこと聞いたことありませんというふうにお答えをいただいております。

なぜ、市では地のものを使おう、県でも地のものを使おうと言うてるのに、子どもたちの食べる小麦を国産のものにしていきたいというふうな動きにならないのか

なと思っているんですけど、これ、私、熊本県の地産地消推進県民条例にも反していると思いますが、そこはどう考えますか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、ただいまのご質問にお答えをさせていただきたいと思います。

物資納入基準書には「基本的に、国内産原料、国内生産のものを使用すること」としておりますけども、パンにつきましては、輸入小麦の安全面は、県の学校給食会のほうで確認をされており、安定調達の面からは小麦は輸入となっておるところでございます。

それから、２点目の菊池市の総合計画、それから県のくまもと地産地消推進県民条例あたりに違反しているのではないかというご質問でございますが、第２次菊池市総合計画、後期基本計画のほうでは、学校給食でも地域食材の利用拡大の推進がうたわれておりますので、菊池産の食材で調達可能なものを使用をしておるところでございます。

それから、菊池市地産地消促進計画では、学校給食における地場産物使用率の向上のほうを記載されております。数値目標に、学校給食に地場産物を使用する割合を平成３１年度６５％を数値目標といたしておりました。現在、数値目標のほうには達しておりませんが、ふるさとくまさんデーや、きくちさんデーの取り組みを初め、地元の食材の使用率が向上するように努めておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　これまでの一般質問を通じて、菊池産や熊本県産のものを使っていこうということで、ポイント、ポイントで、ひと月の給食の献立の中にくまさんデーとかきくちさんデーとかというものを使っていく。それによって、地産地消率も上げていくということは伺っておりますし、それはとてもすばらしい取り組みだと思いますし、これからも続けていっていただきたいんですけども、私が言っているのは、普通に食べている、通常出てくるパンの小麦のお話なので、それを県のほうで安全性担保している、もしくは量の確保というふうに言われるんだったら、じゃあ調べたことあるんですかというふうに、ちょっと気持ち的になるんですね。熊本県産の小麦じゃ、じゃあ足りないのかと。あると思いますよ。調べさせていただきましたけど、もう十分あると思うんです。

あと一つ、ちょっと質問を変えますけど、そういったように、じゃあ熊本県のパ

ンをつくってらっしゃるところ、熊本県に対して、菊池市からは自分たちはこういう条例に基づいて、地産地消という観点から、子どもたちが食べるパンは熊本県産の小麦を使ってほしいという要望書を出す考えはありますか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまの質問でございますけども、小麦の安定供給という問題はありますけども、国産小麦の使用率をふやす要望というのにつきましては、今後、熊本県学校給食会のほうへは要望していきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　そういうお答えでよかったです。

先ほどから言いますように、菊池、熊本は、農産物が豊かなものだ、地域の宝だと言いながら、自分たちの子どもには給食でそれを食べさせていないという部分が、パンに関してはあるというところは、皆さんでもう一回、僕も含めて共有して、だったらどうすればいいのかというふうに動いていきたいと思いますので、そのためには私も協力させていただきたいと思いますので、ぜひそこら辺はともに進んでいただけたらなと思いますが、ただ、外国産のほうがちょっと安いとかいうお話になったときに、やっぱり給食費の話にもなると思います。以前もお話をしましたが、給食費というのは、あくまでも保護者が負担するものであって、つくるとなれば自治体の責任で安心・安全なものを出すという、これが大きいルールの中なんですけども、給食費が上がっちゃうよと。これ、どうしようもないよというふうになるということになれば、私はメニューを減らせばいいと思っているんですね。もう今ある、熊本県の中である国産である中でつくればいい、減らしてもいいと思っているんですよ。子どもたちに外国の料理をどうしても給食で食べさせなきゃいけないわけではないですし、優先順位から考えたら、いっぱいの料理を食べさせることと、安心・安全な食材でつくった料理を食べさせることは、どちらが上かということだと思うんですね。メニューが減っても、私は地元でできたものでできた料理を食べさせたいなというふうに思っております。

改めて、ちょっと市長に、ここからの先のお話なんですが、ちょっとお尋ねしたいと思います。

前回、市長は、日本一の給食ということに対して、私への答弁の中で、「質と健康にこだわって、農薬、化学肥料を減らすことで、安心・安全というものをブランド化しているものでございます。別の言葉で言うと、体によくて、高品質で、おい

しい、自慢の品。いわば菊池の一番いいものであるわけです。他人に一番薦めるものだけを一番大事な子どもたちに、菊池ではもう毎日食べているよというような状態が実現できれば、私たちは胸を張って、これが日本一の給食だと言えるはずでありますから」というようなお答えをいただいておりますが、調べていけば調べていくだけ、ちょっとその現実とは乖離している部分が私はあると思うんですよ。

市長が、ここで、なるべく熊本県産、菊池市産、国産を使っていきたいというふうに言うていただければ、またそっちのほうに転び出す、すごいアシストになると思うんで、改めて市長がどういった給食をつくっていきたいというのを考えてらっしゃるのか、教えていただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　学校給食に対する私の考え方を述べよというご質問でございます。

これまで、いわゆる菊池基準ということを一つの売りにしまして、この菊池の農産物についてはブランド化を進めてきたわけでございます。特に菊池の持っている清らかな水、そしてまた、特Ａランク１１年に象徴されるような、これまでのすぐれた農業水準、そうしたものをアピールしながら、安心・安全というものを前面に出していきたいというのが基本的な考え方でございまして、これは当然ながら、私たちの一番大事な宝である子どもたちに、まずこうしたものを食べさせていきたいという考えは全く変わっておりません。

したがいまして、納入基準書においても、特に地元産を推奨しておりますし、また、その中でも、菊池基準であるとか、熊本グリーン農業に基づいた産品を極力利用してくださいということも明記しているわけでございます。こうした比率を今後とも高めていきたいわけでありますけども、食材の選定はＰＴＡの方々もお入りになった委員会で決めていただいております。先ほどの小麦の例にもありましたように、量の安定供給という問題もございます。価格の問題もございます。こうしたことを踏まえながら、それから、今、議員さんからご提案がありました、メニューを減らしてもいいというお考えも、それはそれで一つのご意見としてあり得ると思います。そうじゃないご意見もあるかもしれません。こうしたところをぜひＰＴＡあるいは関係団体、食材の供給されている会社関係、全ての皆様のご理解、協力をいただきながら、少しずつ前進していくという考えで、今、臨んでいるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　ちょっと具体的に、一個だけ聞かせていただきたいと思います。

遺伝子組み換え食品は不使用と明確にうたってあるのは、熊本市さんも実際にうたってあります。菊池市も改定前まではそううたってありました。私は、守れるか、守れないかというところのその手前に、不使用とうたうべきだと考えていますが、また極力控えるではなくて、不使用とするというふうに改正していただきたいと思いますが、その考えはありませんか。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　改正については、今、ご質問いただいたばかりですので、今、この場でイエスともノーとも言えませんが、今、私どもが運営していますのは、調味料など表示義務のないものについて、遺伝子組み換えが本当になされてないものだけであるかがトレースができないという技術的な問題があるためでありますので、トレースができるもの、表示があるものについては、もう全てこれは遺伝子組み換え食品を扱わないということは分別して、少し表示を変えるということで、少しは対応できるのではないかというふうに考えております。その方向で少し検討させていただきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　具体的に現実的にできるところはやっていくよというようなお答えだったと思いますけども、ぜひ、もう本当に子どもたちが食べるものは、もう本当に菊池でできたものを食べさせてあげたい、熊本でできたものを食べさせてあげたいというのは、多分みんな思っていることだと思うんです。菊池でとれた鯛を出せと言っているわけじゃないんですよ。あるもので出せばいいじゃないかというのが私の一つの一人の考え方ですから、それはちょっと酌んでいただいて、よりよいものをつくっていただければと思いますが、次の質問にいきます。

夏まつりについてお尋ねをいたします。

現在、ことしも開催されましたけど、菊池の夏まつりがあるんですけども、今まで白龍等々も取り上げてお話をさせていただきましたけども、この間、ちょっと夏まつりが終わった後に、ある方から警備のことでちょっとお話を受けまして、ちょっと警備をするのが大変だというようなお声をいただきました。ちょうどそういう時期でしたので、全国で夏まつりがなくなっているよというような報道等もテレビや新聞等で見ておりました。その中身が何かと聞けば、やはりどこも警備費が上が

っていっていると。なので、花火大会ができないということで、今、日本全国でどんどん花火大会が減っているということでありました。

私もそうなのかなと思って、いろいろ調べていったんですけども、やっぱり花火大会を続けていきたいんですね。菊池の夏まつりとして花火大会を続けていきたい。ならば、どうすればいいのかなというふうに思っているんですが、まず、この夏まつりについて、今、執行部のほうで考えられている現状の課題は何ですか、教えてください。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　それでは、ただいまの平議員からのご質問、夏まつりについての課題というところでございます。私のほうからお答えさせていただきます。

議員もおっしゃいましたように、警備の費用は値上がりをしております。こういう意味から、運営費の確保、そして、その管理体制、あわせて、白龍まつりで申し上げれば白龍の担ぎ手不足という、３点が課題であるというふうに考えております。

運営費につきましては、打ち上げ花火のスポンサー獲得、これにつきましては、毎年、苦慮しているところではございます。あわせて、景況感も非常に好転しないこともございまして、年々とスポンサーの皆様のご理解が得がたくなっているところでございます。あわせて、この警備費用の値上がりが資金面の確保に厳しくのしかかっているという状況でございます。

また、警備面につきましては、年々と夏まつり、これは盛況、白龍会の皆様あるいは関係団体の皆様のおかげで、来場者数は上がっております。こうした中で言えば、来場者の方の増加とあわせまして、市内の交通規制あるいはまつり会場の安全対策が高いレベルで求められております。こうしたことから、運営スタッフの増加及び充実というものも求められておりますので、警備費用の値上がりも非常に大きな原因でございますし、あわせて、皆さんの参加についても、ご協力についても、今後、考えていく必要があるかなというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　花火大会の不思議なところというか、人にたくさん来ていただきたい。そのために花火大会をやる。夏まつりをやる。でも、人がたくさん来たら、それに伴って警備代がちょっと高くなっちゃう。参加していただく人も集めなきゃいけないというところが出てくるというのがあるみたいです。

もともとこのお話をするときにきっかけになったのは、議員として研修に行った

ときに、あるまちでちょうどそれが夏まつりの時期で、花火大会の週の僕らは月曜日か火曜日にそのまちに入っているんですけど、そこで、もう升席をばっと用意してあったんですね、河川敷で。担当の方に、ここ、升席なんですねと言ったら、ここを２万円で販売していますと。一升２万円で販売してましてって、ところが、もうすぐ売り切れるというようなことを聞きまして、なるほど升席販売ってできるんだなというところからいろいろ調べ出したんですけど、菊池の夏まつりでは、その升席販売というのをしてないんですね。そのときにも聞いたんですけど、そこの升席販売したお金ってどうなっているんですかと聞いたら、もう運営費に回ってますというようなことでした。なるほどというふうに思ったんですけども、そのときには、僕らは升席販売になれてないので、２万円という金額がちょっと高いなと思ったんですけど、もうすぐ売れ切れるというようなことを、これは菊池にも、我々のまちにも当てはめられるんじゃないかなというふうに思いまして、いろいろ私なりに調べはしてみました。

熊本市さんで言えば、江津湖の花火大会というのがありますが、あれもテレビＣＭ等々でご案内のとおり、升席販売や、そのスペースを売るということをされています。熊本市さんのほうに電話して、ちょっと取材させていただいたら、熊本市さんのその江津湖の花火大会の場合は、パートナーシップ協定というものを結んでいる業者さんがいると。そこに市としてこのエリアを借りる。無料で借りる。それをそのパートナーシップ協定結んでいる業者さんに貸し出して、それを切り売りして売ってもらう。そのお金で運営をしていただいているというようなやり方をしているということでした。

ほかにも、全国で調べてみますとたくさんあったんで、そこにもうどんどん電話して聞いてみましたが、やっぱりやり方はそこそこ違って、そこそこの合わせたやり方をされてますけども、やっぱりどこも、課題は何ですかと聞いたら、やっぱり警備費が上がっていると。もう本当にどこも同じことを言われてまして、やっぱりもともと我々のまちではスポンサーであったり、税金であったりというのでやっているのに、これをもって警備費まで上がると、なかなかやっぱり厳しいのかなというやうに思ってきたときに、我々のまちでもこの升席販売をもうしていったらどうかなというようなことで、ちょっと提案させていただきたいんですけども、スポンサーの方の席も今現在あるわけではございませんので、そういった考え方を持っていって、スポンサー席をつくるとか、升席で販売をするとかというようなことをやって、それを警備費を含めた運営費に充てていく考えはないだろうか、お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　２回目の答弁をお答えします。

先ほど、１回目の答弁で申し上げましたとおり、運営費、大変苦慮しているところでございます。平議員からのご提案がありました升席につきまして、確かに販売をされている祭り、花火大会等はふえております。内容につきましても、議員おっしゃったように、警備費の高騰に伴い、有料観覧席を利用して運営費を賄いたいというところが一番多いというふうに考えております。

菊池の夏まつりの打ち上げ花火につきましては、ほかと違いまして、打ち上げる高さ、これは制限があるため、観覧者が比較的花火を近くで見るという、見物するということができておりまして、ほかと大きな違いがあるところが好評を得ているというところでございます。運営費確保が重要な課題であることは我々も十分承知しております。升席の導入については、観覧者の安全性の確保、これが十分であるかどうか。そして、観覧者にとって、やはり升席は売る必要がありますので、特別感が生まれるかどうかなど、そういうことも、今後、まつりの実行委員会の関係者において、協力して検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　升席を販売するという前提で、いろいろ会議を進めていったり考え方を進めていけば、それぞれの知恵が出てくると思います。もちろん、このまつりというのは実行委員会でやってますので、別に市役所が一人でやっているというわけではないんですけども、とはいえ、実行委員会の会議を進めていく中で、市役所としてはこういうふうな意向を持っているというふうに前に押し出していけば、必ずそっちのほうに進みがちになりますので、それは一つは、その地域の方が夏まつりのときに自分の地域の警備をするときに、もう高齢化が進んで、もうきついというようなこともお声も聞いております。これもまた、やっぱりプロを雇って、しかるべき人に配置しなければならないことになりますので、もうどんどんどんどん上がっていくのは間違いないです。時期をずらして秋にやるという考え方も一つあるんですけども、やっぱりどうしても日本人は夏・花火というところで続いてくるところもあると思いますので、升席販売も、別にあの広場だけでなくて、この市役所の３階だとか、２階だとか、屋上とかもいろいろ考え方はあると思います。ただ、それをやるという前提で前向きなお話をしていただければというふうに思うんですが、市長、時間もありますし、何か今後、夏まつりにこういった展望があるというのがもしあれば、お示しください。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　夏まつりそのものについては、やはり定着もしておりますし、特に若い方々が非常に頑張って、白龍のまつりがこの夏まつりと一体となって、大きな名物にもなってきておりますし、そのことは、近年、地域活性化センターのふるさとイベント大賞の優秀賞ももらったということで、要するに、それだけ注目を集めてきている話でもありますので、このムーブメント、この勢いというのはなるべく発展させていきたいというふうには考えているところでございます。

ただ、今の花火の有料化による運営費をひねり出すということについては、大変いいアイデアであろうというふうに思います。ただ、その際に、幾つか注意しなきゃいかんところもあるだろうないうふうに、今、思っておりまして、運営が実態的に市であったり、あるいは市の性格が強くて、市の土地を使って、それを区切って有料化してということであると、楽しみにされている高齢者の方等もおありかと思いますので、民間の方が民間の土地を使ってやるというようなことであれば、そうした制約も少ないでしょうし、そうしたことをよくよく考えながら、少し検討してみたいというふうに考えました。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　一つの方法論としてさしあげたというか、提案させていただいたものですから、目的はもう運営をずっとしていく、花火大会を続けていくというのが目的ですから、そのために何か別の妙案があって、警備費等々、運営費等々がどこかで稼げるようなものがあれば、別に升席にこだわっているわけではないんですけども、一つ提案として、ちょっと前向きに検討していただければいいなと思います。

あと、その白龍会の若手も含めて、夏まつりに対しては、すごく皆さん思い入れを持ってやってらっしゃいまして、若者だけじゃなくて、地域に根差した方々、我々の先輩方も、やっぱり一方ならぬ夏まつりに対しての思いがありますので、これをずっと続けていけるようにやっていけたらいいなというふうに思いまして、私の一般質問を終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、平直樹君の質問を終わります。

ここで昼食等のため、暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時から始めます。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１１時５２分

開議　午後　１時００分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここで、平議員から発言の申し出があっておりますので、発言を許します。

平直樹君。

［登壇］

○５番（平　直樹君）　先ほど、私が一般質問のときに使いましたパネルの写真について、ちょっと説明が足りなかったということですので、説明させていただきます。

私が先ほど使用した写真の出どころといいますか、あれは２０１２年９月、フランス、カーン大学のセラリーニ教授らの研究チームが発表した実験結果の写真でございます。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　各議員に申し上げます。一般質問時に使用されますパネル等での説明について、写真については、どこの場所なのかなど情報元を説明してから説明に入ってください。

次に、泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　皆様、こんにちは。公明党の泉田栄一朗でございます。通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

本日は、魅力ある街づくりについてということで質問をさせていただきます。

まず最初に、菊池市には菊池渓谷を初め、豊かな温泉、そして豊かな食材、また、どこにもない菊池一族の歴史がございます。これらを生かすべく、ソフト面、ハード面を整備し、菊池市を魅力あるまちづくりにしたいという観点から、今回の質問をさせていただきます。

よく観光客が子どもから大人まで楽しめる場所、食べる場所が少ないというふうに言われます。本年４月、菊池市ふるさと創生市民広場がオープンして８カ月が経過しました。生まれ変わった市民広場では、既存のきくち観光物産館と観光案内の菊池観光交流館について、リニューアルしております。新しく遊具施設と大屋根広場を設置し、市内外の子どもから老人まで集まることができる場所となりました。議員一同、大屋根広場でのバーベキューを体験もさせていただき、お客のニーズに合わせて食材や料理が出されて、とても好評でございました。

さて、市民広場については、名前のとおり、市民が集まる広場として、多額の予算を投入し生まれ変わったわけですが、リニューアルしたきくち観光物産館の売り

上げについて、まず質問をさせていただきます。

平成３０年度は工事期間中であったため、平成２７年度、平成２８年度、平成２９年度と比較して、令和元年度４月から１０月までの売り上げの伸び率はどのくらいあるのか、各年度４月から１０月までの売り上げを対象にしてお答えをお願いしたいと思います。

また、芝生広場や大屋根広場などの施設の利用人数と件数、その料金は現在幾らなのか、お答えをお願いします。

次に、２番目の質問ですけれども、以前、平成２３年第４回定例会で、温泉街や商店街の活性化をどうするかという質問をさせていただいたときに、築地井手のオープン化に向けて質問をしております。これは平成２２年度に二ノ文議員も質問をされている内容でございます。その後の築地井手にかかわるオープン化の経緯はどうなったのか、お示しください。

三つ目に、平成２３年、福村市政のとき、菊池らしい風情のある景観づくりができないかというテーマで、自然の木を活用したもみじの里ができないかという質問もさせていただいております。そのときはスペースがないという答弁で却下され、今回、江頭市長の市政に変わり、市長は、平成２５年度から、現実に森まちプロジェクトや花と緑のまちづくりの取り組みを進めておられます。その取り組みの現在の現状はどのようになっているか、お答えをいただきたいと思います。

まず、その３点をお願いします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　それでは、私のほうから、市民広場関係について答弁させていただきます。

まず、泉田議員のほうから、きくち観光物産館の売り上げについてというご質問でございました。

きくち観光物産館、本年４月から１０月までの売上額につきましては、１億３４２万円となっております。

平成２７年度からの対比ということでございますので、比較した数字を申し上げます。平成２７年度の同時期の売上額と比較しますと１２．３％の増加をしております。平成２８年度におきましては０．７％の増加、平成２９年度の比較では４．１％の増加となっているところでございます。

続きまして、市民広場、各施設の売り上げ状況というご質問だったと思いますので、お答えさせていただきます。

本年４月から１０月末までの施設利用件数と利用料金につきまして、既存の施設

というところで、以前、夢美術館と呼んでおりました菊池観光交流館、ここにつきましては、主に展示会場として使用されておりまして、利用件数１４件、利用料金は１３万８，１９８円となっております。

芝生広場につきましては、主にグラウンドゴルフで使用されております。利用件数５０件、利用料金１６万８，７１０円となっております。

また、新しい施設でございます大屋根広場でございます。大屋根広場につきましては、主にバーベキューの会場として使用されておりまして、利用件数１０１件、利用料金３７万１，３７６円となっております。

なお、バーベキュー利用につきましては、１人当たりの利用料金が発生いたしますので、１，６５８人の利用があっているというところでございます。

そのほか、中庭のフリースペース、温泉街テラスにつきましては、各１件の利用があっておりまして、利用料金は４，８４０円となっているところでございます。

市民広場全体では、延べ１６７団体の利用があっておりまして、６８万３，１２４円の利用料金が発生しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　皆様、こんにちは。それでは、泉田議員の質問に答弁させていただきます。

まず初めに、築地井手に係るオープン化の検討の経緯ということで、築地井手は、中心市街地でも特に商店等が集中している地域でございますので、オープン化につきましては、これまでもさまざまな議論がなされてきたところでございます。

平成１５年度から実施しました、まちづくり総合支援事業を活用した隈府中央線及びその回遊道路等の整備の際にも、合わせてオープン化ができないかということでご意見がございまして、その当時、地元住民等を含め、協議が重ねられましたが、道路幅員の確保ができないこと、また、沿線に商店や住家が近接して建ち並んでおり、それらの建造物へ出入りするための橋を全戸に造成する必要があること、そういうことで、さまざまな課題がありますということでございます。そのため、地元の合意が得られずに断念した経緯がございます。

議会でも、議員おっしゃられたとおり、平成２２年、平成２３年、それから平成２６年も一般質問等で本件について問われておりますが、いずれも今申し上げました課題が解決しないということで、オープン化は行わない旨の答弁をしておりまして、現在に至っているというところでございます。

次に、森まちプロジェクトと、花と緑のまちづくりの取り組みでございますが、

森まちプロジェクトの取り組みといたしましては、平成２５年度より街なかの空き地等に植樹を行う取り組みを実施しております。これまで１３カ所に緑地を整備し、緑をふやしながら育む活動を行ってまいっております。

また、花と緑のまちづくりの取り組みといたしましては、平成２７年度からラブベンチデザインコンペ、平成２８年度からガーデニングコンテスト、平成３０年度から花壇づくり講習会等を開催しまして、花々を愛し、景観を大切にする意識の高揚に努めてまいったところでございます。

本年度の状況を申し上げますと、森まちプロジェクトにつきましては、御所通りにございます空き地の所有者と、現在、植樹についての交渉を行っているというところでございます。

ガーデニングコンテストにつきましては、全体で２１点の応募がありまして、厳正なる審査の結果、６作品の受賞者が選ばれております。これらの作品につきましては、２月の景観シンポジウムにおいて展示を行う予定としております。

また、２月には、泗水図書館の庭園において、花壇づくり講習会を予定しているところでございます。

最後に、ラブベンチのデザインコンペにつきましては、全国各地から８２点の応募がありまして、グランプリ作品につきましては製作を行いまして、３月には城山公園内にお披露目をする計画としておるところでございます。

いずれも、花と緑にあふれた癒しの景観づくりへの市民の関心を高め、市民の参画による花と緑のまちづくりを推進することを目的として開催しているものでございます。

癒しの里づくり、街並みの景観向上を図る上では、樹木や花卉による緑化の推進は必要不可欠ということで考えておりますので、今後につきましても、街なかの緑化、それから市民意識の高揚について努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　１点目は、現在、こういう大きな改革がなされ、市民広場が活用されているということで、今、数字を述べていただきましたけども、増になっていると。１２％、０．７％、０．９％増ということで、安心しました。また、各箇所での活用、バーベキュー広場でも１０１件の活用があったと。芝生広場も５０件、そういうことで、少しずつ定着をしているということであります。

ただ、その活用をさらにするために、今回の質問をさせていただいております。

２番目には、一般質問させていただいた築地井手ですけれども、やはり前回と同

じように、なかなか厳しいということがあります。それはもう十分わかっております。ただ、今回、時代の流れといいますか、そういう中で、もう一回考え直してみる時期ではないかというふうにも思っております。

三つ目のところですけれども、市長のまちづくりの中の緑を活用したまちづくり、いろんな角度からしていただいております。私もしっかりとそれに参加させていただきながら、少しずつ定着をしているということがわかってきております。いろいろな問題もあるとは思いますけれども、それをいかに知恵を絞ってまちづくりに生かしていくか。そういうことを今回の質問のテーマにしているわけです。

それで、再質問ですけれども、まず、市民広場には無料駐車場が完備されており、多くの人が集い、スポーツや遊具で楽しめる場所も確保されました。また、今回の市民広場整備により、大屋根広場ではバーベキューなどの飲食が可能になり、菊池の夜を楽しむことができるようにもなりました。菊池温泉の宿泊客にもバーベキューなどを利用できることを紹介していると聞いております。新しい市民広場の特徴を生かして、効果的な利用をされていると感心しているところであります。特に市民広場の大屋根広場では、電気設備、また、トイレ設備もありますし、夜の利用ができることになっております。菊池市の経済が活性化するためには、多くの市民や温泉宿泊客、市外からの観光客、さらに外国からのインバウンド観光客が利用することになれば、菊池の夜は昔のようににぎやかに活気づくと考えております。

そこで、市民広場の大屋根広場を拠点として、菊池の夜を楽しめる空間をつくってはどうでしょうかということで、今回、質問をさせていただきました。

議長のお許しを受けましたので、私は菊池地図のマップ、これはうちの市役所で出しているマップなんですけども、これを活用しながら、そして、私が自分で撮った写真を活用しながら、これから質問をさせていただきます。

［資料・写真を示す］

○１８番（泉田栄一朗君）　まず最初に、１枚目ですけれども、菊池の物産館がございます。芝生が敷いてあり、また、広い芝生があり、そこに何とか活用ができないかということを考えてみました。武光公の前の芝生広場もありますけど、これは大きなイベント等をやっておられます。菊まつり等でございます。

そこで、市民広場の夜を楽しめる空間ということで、市民の人からは夜の商店街が暗いと、にぎわいがないという声があります。まちには昼の顔と夜の顔があると思います。例えば昭和を醸し出すような赤ちょうちんを並べるとか、外灯を工夫して誘導する工夫が必要ではないでしょうか。その流れの中に菊池の農産物をふんだんに使った屋台が並ぶという情景を皆さん頭に思い浮かべてみてください。

それで、先日、商工会の大きなイベントがありまして、商工会の記念イベントの

中に、ここの芝生広場を屋台風な形で並べております。非常に雰囲気的にはよかったと思います。外に出て食べられると。そしてまた、こうやって椅子も、これちょっと形式的に並べてありますけども、これも雰囲気的にまた変えていけばいいと思いますけども、こういう流れでつくってありました。

福岡では以前から屋台が人気で、人が集まっているということを聞いております。我が市も、例えば菊池屋台村なるものを名物にできないだろうかと考えております。当面、屋台は毎日開かなくてもいいと思います。初めのうちはテントなどを活用して、一月に２回程度、これを月２回菊池屋台村と考えてみました。それから、週末開催の週末菊池屋台村とするなど、一工夫考えていけばいいと思います。関心度や知名度がだんだん高まってきて、市民広場と温泉街の名物として、今後の活性化に生かせないかと考えております。

地権者の理解を得る必要がありますが、大屋根広場から温泉街テラス、先ほど１件の利用があったというところでございます。これであります。望月旅館のほうを向いている。こちらが道路側から眺めているところのテラスでございますけども、これは、当初計画はやはりここに車をとめて、いろんなイベントをするという計画でつくられたということでありますので、これも菊池屋台村として活用できるのではないかと思っております。ここを一つの流れとして、温泉街に繰り出していくということであります。

私もこの菊池マップを使って、昼と夜、歩いてみました。そして、その状況というものを自分なりに感じたところを、今、話させていただいております。市民広場を整備するだけじゃなく、いち早く行動することがこれから大事になってくると思います。温泉宿泊客や観光客や外国人観光客、そして、市民が楽しめる憩いの空間づくりになると考えますけれども、どうでしょうか。

また、この市民広場から歩いていきますと、正観寺の通りがございます。そこを通っていって、さらに奥に行くと、宝来館の旅館の前には温泉旅館組合が借りている駐車場がございます。こういうところも、将来、これがうまくにぎわいが増してきたら、こういうところも活用できるのではないかというふうに私なりに考えたところであります。

そういうことで、この市民が楽しめる憩いの場の空間づくりをどう考えられているかというところの質問をまずさせていただきます。

次に、先ほど言われましたいろいろな諸条件、道路の幅員の問題、築地井手の問題ですけれども、地元の合意形成がなかなかこれはとりにくいということもお聞きしました。このようなことをクリアしたとして、築地井手のオープン化をすると、何とかオープン化ができないかというふうに私なりに考えてみました。

そこで、これは提案ですけれども、今、築地井手をオープン化してあるところが一つあります。これは肥後銀行の前のところでございます。ここはなかなか雰囲気がいいなと考えております。やはり菊池は、この井手をうまく活用していけば、本当にすばらしいまちができるんじゃないかと。熊本県下でもこういう井手があるところというのはまずないと私は思っております。そういう意味で、どこにその候補があるかということで、ちょっと考えてみましたら、一度にその井手を空けるというのは非常に難しいと思います。そこで、東に向いて、この井手から東に向いた方向、ここにつなげて、ある一部分をこの井手の名所としていけばいいんじゃないかと考えております。やはり市としてもいろいろな予算の問題、また、その場所の問題あると思いますけども、そういう築地井手をオープン化できる可能性があるところを探していただきたいと思います。私はここは非常にいい適地じゃないかと自分なりに考えてみました。

次に、三つ目の質問ですけども、今回、歩道や車道を改めて自分の足で散策してみて、温泉街や商店街の問題点に気づきました。一つは、その歩道を歩いてみますと、確かに段差はなくなりましたけれども、車がそのまま自由に入っていけるという危険性があります。そこで、市民の方からは賛否両論なんですけれども、歩いていると、車がいきなり入って駐車してきたというようなことで、非常に危険性があるということもお聞きしました。

二つ目に、舗装の問題です。自然石の特殊な舗装、どういう名前か知りませんけども、小石をいっぱい敷き詰めてある舗装がありますけれども、これが経年に伴いその石がはげて、穴ぼこがたくさんできているという状況を幾つも見てまいりました。その一例を挙げますと、望月旅館からおりてきたところの場所なんですけれども、もう相当穴がほげてます。こういうところが何カ所かありました。そこで、特に観光客がここを歩いて、夜にしても昼にしても歩くということは非常に危険じゃないかというふうに思っております。そういうことで、この解消対策はどのようにされているのか、お聞きします。

まず、その３点をお願いします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　それでは、市民広場関係のご質問につきまして、私のほうから答弁させていただきます。

まず、市民広場の大屋根広場、それと隣接する中庭のフリースペース、本当に写真を撮っていただきまして、ありがとうございます。大屋根広場の利用、先ほども説明しましたけども、１０１件のうち、バーベキューの利用が８４件となっており

まして、そのうちの７割、大体６０件が夕方以降に利用されて交流をされているということで、先ほど泉田議員のご質問にあったとおりでございます。また、上水道を初め、机、椅子、近くにはトイレ設備も完備しておりまして、大屋根広場については、人々の交流の場として非常に最適な環境であるというふうに私たちも思っているところでございます。

また、温泉街とつなぐというお話もされておりますので、その辺についてもお答えしたいと思いますが、温泉街の空きスペースを利用したイベントにつきましては、既に市民の方が自主的に開催されているというところでもございます。こうした流れが大きくなりまして、温泉街の皆様や市民の皆様によりまして、マルシェとか、あるいは屋台の出店等が定期的に開催されれば、温泉街の活性化にも大いに寄与するものと私どもも期待しているところでございます。そのような計画あるいはご提案、これをいただければ、市といたしましても実現に向けて協力をしてまいりたいというふうに考えております。

あわせまして、温泉街に通じる温泉街テラス、写真もお見せいただいたところなんですけども、この温泉街テラスにつきましては、屋台や移動販売などのキッチンカーを出店するスペースとして準備をしております。温泉街の観光客の皆様と市民広場をつなぐ重要な役目も持っているというところでの施設でございます。今後も、観光協会あるいは商工会などを通じまして、キッチンカーの出店やスペースの利用促進について周知をしながら、市民広場と温泉街の連携を図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、答弁いたします。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　それでは、再質問にお答えしたいと思います。

まず、築地井手のオープン化につきましてでございますが、さきに答弁をいたしましたさまざまな課題がございますので、なかなか場所については限定されてくるのではないかと考えておりますが、平成１５年の当時の話になりますが、今、議員からご提案をいただきました肥後銀行の東側の上流の一部、今の写真のところでございます。それと、そのほかに菊池笹乃家さん、菊池グランドホテルさんの付近の前の道路が、当時、平成１５年度の候補地として検討された経緯がございました。しかしながら、先ほど申し上げました同様の理由等で、実現ができなかったということで、今、きているところで、大分厳しい状況ということでなっております。

それから、回遊道路の歩車道の段差解消ということで、これにつきましては、平成１５年度に着工して、その後、順次整備が行われて、現在に至っているという状

況でございます。

問題点は、議員おっしゃられたとおり、車道と歩道の段差がなくなったことで、車両の通行がしやすくなり、速度を出す車がちょっと増加しまして、危険であるというご意見も伺っております。

それから、歩道に車両を乗り上げて、ちょっと路上駐車というのがふえまして、歩行者の妨げになるということもお聞きしているところでございます。

整備前には、一応段差解消に伴う今のようなデメリットも含めたところで、住民説明会が実施されております。そこで合意形成がなされたというところでございますので、一応今後、警察等とも協議を行いながら、安全対策について検討してまいりたいということで考えております。

次に、特殊な舗装がちょっとはがれているということでございます。平成１５年度当時に景観にすぐれた道路修景を図ることを目的として施工されました。自然色排水性舗装というのですが、舗装面の剥離が見られて、散乱した石材が側溝や歩道に入り込んで、議員おっしゃるとおり、ちょっと歩きづらくなっているという状況もあるところでございます。

そこで、平成２９年度より、通常の排水性アスファルト舗装ということで敷設工事を計画的に実施しているところでございます。議員よりご説明がございました今の観光ホテルの前ですか、写真のところにつきましては含めたところで、順次、整備を実施してまいりたいと考えております。ただ、議員おっしゃられましたとおり、とても危険であるということがある場合につきましては、臨時的な対応も考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　大屋根広場からのつなぎということで、市もこういう屋台等の考えがある人たちが出てくれば、自分たちも、市も応援したいという、そしてまた、活用していきたいということで言われておりますので、ぜひそういう方々を募って、頑張っていただければと思っております。

次に、築地井手ですけれども、これはひとつ検討していただきたいと考えております。

三つ目は、まずはやっぱり危険なところが相当ありましたんで、そういうところは臨時的にでもしていただければと考えております。

最後の質問になりますけれども、家族連れの観光客は、ホテルに入ったら、夜歩いて楽しむところがないとよく言われております。昔はいろんな夜の遊びがあった

んですけれども、私は健全なこのまちで、子どももお年寄りもみんなが通えるような、集えるような場所にしていきたいというふうに考えております。

市長は、人が集まり、楽しめる場所をつくることをどのように考えておられるか、見解をお聞かせください。

二つ目の築地井手の件ですけれども、この築地井手というのは、世界かんがい施設遺産に登録されております。そういう意味で、この井手を活用すべきだと私は再度強く考えております。皆さんの知恵を絞っていただきたいと思います。

近ごろ、皆さん、お聞きと思いますけど、ＳＤＧｓという言葉をよく耳にします。これは国連サミットで採択された１７の目標を目指しておりますが、簡単に言うと、環境に優しい魅力的なまちづくりをしていこうということであります。そこで、菊池市もこれからＳＤＧｓへの取り組みをしなければ生き残れない時代に入ってくると思っております。そのことを踏まえ、例えば市内の一部区間を歩行者天国にして、車の通行を制限すると。さらに言えば、隈府の中心部で、菊池高校から中原松月堂、立町のローソンまでをぐるりと回るところを歩行者天国にしていくと。そういういろいろな知恵を絞ってやっていけば、観光客の方も浴衣でぶらぶら散策したり、また、先ほど言いました築地井手付近を歩いたり、ポケットパーク、いろんな今まで市がつくったところをつなげていくと、いろんな散策の仕方ができるのではないかと思います。そういう観光スタイルを皆さんの知恵で考えていただければと思っております。

そこで、本市は、築地井手のオープン化と活性化に対して、再度、どのように考えているか、お聞きします。

最後に、景観を考えた歩きやすいまちづくりの取り組みを市はどのように考えておりますか。

３点お願いします。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　まず初めに、私のほうから、築地井手のオープン化の部分と、歩きやすくするまちづくりの取り組みということで、述べさせていただきたいと思います。

まず、築地井手のオープン化を実現するには、これまで答弁いたしましたとおり、さまざまな課題がございまして、なかなか難しいということで、現在につきましては、築地井手のオープン化については、もう検討は行っていないというのが実情でございます。

ただ、今後、地元等からオープン化とかのご要望等ありました折には、市といた

しましても、考慮していきたいと思っておるところでございます。

次に、景観を向上して、歩きやすくするまちづくりの取り組みということでございます。

取り組みといたしましては、ちょっと二、三挙げさせていただきますと、国土交通省が実施する、御所通りと玉祥寺地区をつなぐ迫間川の改修に合わせまして、市民と行政、観光関連団体、大学等が協働して、新たなにぎわいを創出するためということで、現在、かわまちづくりという事業に平成３０年度から取り組んでおります。

本年度につきましては、その本事業の一環として、御所通り等の回遊性を向上するためのウオーキングイベントを開催して、推進を図ったというところでございます。

また、それと別に、景観につきましては、正観寺交差点から立町交差点に向かう国道３８７号沿いでございまして、そこは飲食店等が建ち並び、温泉街を通り、菊池渓谷へ通ずる主要な観光ルートということで、多くの県内外からの来訪者に利用されているというところでございますが、その部分の今申し上げましたところにつきまして、本年度、県の事業といたしまして、その通りの成長した高木がちょっと問題になっておりますので、その植えかえをして、景観整備の検討が行われるということになっております。市及び地元住民や観光関連団体等の意見を取り入れながら、一体的な魅力向上を図るということで、県のほうで進められているというところでございます。

次に、本年度、国は、居心地が良く歩きたくなる街なかの形成を目指すということで、ウォーカブル推進都市を全国の自治体に募集したところでございます。本市もこれに賛同いたしまして、本年９月に推進都市となったところでございます。

街なかを車中心から、ひと中心の空間へ転換するとともに、道路が単なる通行する場所としてではなくて、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げることができる場として改変する計画でございます。

この推進都市に加入したということで、よその先進自治体の情報とか、国の情報とかが入りやすくなるというメリットがございますので、そのあたりを今後、街並み景観の計画のほうに役立てていくならばと考えております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、私のほうからは、特に温泉街を中心とする夜の観光に関する考えを述べよと、こういうご質問であろうというふうに思います。

先ほど来、お話ししましたように、市民広場については、大変利用もふえておりまして、これから恐らくさまざまな利用方法のアイデアが出てくるんだというふうに思います。そうしますと、そこの隣接しております温泉街に、そのお客様をつなぎたいという考えでいるわけですね。特に夜につきましては、ホテル、旅館街が集中しておりますので、飲食店も多数あるということで、大変にぎわっておりますけれども、どちらかといえば、今までのところは市民の方の飲食が中心であると。そこにぜひ市民広場、お楽しみになったお客さんも引き続き温泉街のほうに誘導する。あるいは、その逆もまたあるということで、多くのお客様にそこで長時間滞在して楽しんでいただきたいと、こういう構想を持っているわけでございます。何よりもこの飲食店街に、非常に菊池ならではのグルメの一番楽しめる場であろうと、こういうふうに思っております。

ただ、近年は観光客の多くは女性でありまして、やはりぜひともこういう方々を、今後、菊池ファンとしてふやしていきたいというふうに思っておりますので、やはり心地よい癒しの空間をどう演出、つくり出していくかというのは非常に大事であります。ですから、今後につきましては、地域の方たち、観光関連の産業の方とご一緒になって、こうした空間をつくり出して、みんなが安心して楽しめるような温泉街づくりというものを行っていただくことで、女性のお客様も訪れやすくなってくるというふうに考えております。

本市としましても、引き続き、温泉街の方々や、あるいは関係者と連携をして、市民広場とつなげた温泉街の活性化に向けて、全面的に協力をしていきたいと、支援をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　いろんな角度でこれから活性化することを願います。

次に、質問を変えていきたいと思います。

次に、あいサポート運動についてということで、後でまたサポート運動については内容を伝えますけれども、まず、障がいのある人もない人も、ともに助け合い生活する共生社会という観点から、質問をさせていただきます。

先日、福祉厚生常任委員会で三重県津市に行かせていただき、障がいを持った方々に対する支援の研修をしてまいりました。改めて、私たち市民が障がい者に対する理解を深め、手助けや配慮が自然にできる、誰もが暮らしやすい社会を目指していくことが、同じ人間として当たり前であり、そのことを広めていくことが大事であると認識しました。

また、１１月２４日には、知的障がい者と家族らでつくる、全国手をつなぐ育成会連合会の全国大会が熊本で開催されております。当事者の決議として、災害時に安心できる場所をつくってとか、障がいが重くても軽くても同じ人間として接して等が採択されたと新聞に書いてありました。

本市における障がい者とともに共生する施策がどうなっているのか。また、市民の認識や思いはどうかということで、今回、質問をさせていただきました。

まず初めに、本市在住の障害者手帳を持っておられる方の現状をお尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　泉田議員からの障害者手帳についてのご質問にお答えいたします。

本市におきまして、障害者手帳をお持ちの方は、平成３１年３月末現在、３，２６３人でございます。

障がいの種類別では、身体障害者手帳が２，３０２人、療育手帳が４８４人、精神障害者保健福祉手帳が４７７人でございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　今、菊池市では３，２６３人の方が、手帳を持った方がおられるということをお聞きしました。

先日、三重県津市での取り組みを紹介します。

議会の開会冒頭で、福祉厚生常任委員会委員長であります猿渡委員長が研修報告をしたのと重複するところがありますけども、あえて言わせていただきます。

津市では、生活支援ファイル、はっぴぃのーとをつくっています。これは障がいや発育、発達に心配のある子どもの生育を記録するファイルであります。乳幼児から１８歳までの青年期のライフステージを通して、関係機関が正確な情報を共有し、持続的な支援が受けられるように、発達と成長の記録を１冊にまとめるためのものであります。もともと熊本県の、にじいろ手帳というものを考案されたところから、参考につくったということであります。

このはっぴぃのーとの目的は、障がいのある人や支援を必要とする本人や家族が、生涯にわたり安全で安心な生活を送ることができることを願うというものであります。もともと、こののーとをつくるきっかけとなったのは、精神障がいの子どもさんを持つ両親が健康推進課で話したこと、また、次の福祉課でまた同じようなことを話すという非合理的なことが繰り返しあったということを聞いております。のー

とを見れば、一目で正確に成長がわかる個人カルテを作成しようということから始まったと聞いております。

また、すばらしいことだと思ったのは、障がいの子どもを持つ親が専門的な養成講座を受けて、ペアレントメンターという名称を持ち、行政と一緒になって子どものことで悩んでいる親の相談に乗ってあげるということであります。

最初に、本市において、個人カルテのような取り組みができないでしょうか。もしそういうものがあるなら、紹介をしていただきたいと思います。また、菊池市でペアレントメンターの養成講座を受けた方がおられるでしょうか。もしいるなら、どのような活動をされているのか、お答えください。

次に、障がいを持つ本人、また、保護者が、公共機関や病院、銀行などを利用します。その中で、特に菊池市では市役所、支所でどのような対応がなされているのか。

２点お願いをします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　泉田議員よりご紹介いただきました、はっぴぃのーとの取り組みは、関係機関がネットワークを構築し、障がいのある子どもさんや保護者の皆様が、地域で途切れのない支援を受けられるという大変すばらしいものだと思います。

本市におきましては、独自にこのようなファイルの作成は行っておりませんが、療育支援事業所の中には、サポートブックを作成されまして、保護者や療育支援事業所・保育園などにより生育歴や障がいの特性・支援の内容などを記入されまして、情報共有や情報の引き継ぎに活用されているところもございます。

支援者が変わるたびに生育歴や支援の状況を一から説明することは、大変保護者の負担も大きいものでございます。

したがいまして、今後、療育支援事業所での取り組み状況や他市の状況などを調査いたしまして、また、保護者等のご意見もいただきながら、はっぴぃのーとについて研究してまいりたいと考えております。

次に、ペアレントメンターにつきましては、みずからも発達障がいのある子育てを経験され、相談支援に関する一定のトレーニングを受けた親が、同じような支援を要する子どもを持つ親に対して、寄り添った支援を行うものでございます。

菊池圏域地域療育センター「ゆうず」におきまして、このペアレントメンターを交えまして、意見交換の場を設けたり、相談者とペアレントメンターのマッチングを行いまして、コーディネーター参加のもと、個別支援を実施したりされておりま

す。

ただ、菊池市に何人ペアレントメンターがいらっしゃるかの把握は、今、できておりません。

それから、本市におきましては、そのような場を紹介したり、必要に応じまして、日本ダウン症協会熊本県支部、そういったところですとか、熊本県聴覚障害者（児）親の会などを紹介させていただくこともございます。

次に、市の公共機関での障がいのある方への対応についてお答えします。

本市では、障がいを理由とする差別の解消に関する法律に基づきまして、平成３１年３月に職員対応要領を策定いたしました。この中で、事務や事業を行う際に、障がいのある方への合理的配慮の提供を適切に行うよう全職員へ周知しているところでございます。例えば、視覚障がいのある方に文章を読み上げて説明したり、知的障がいのある方に内容が理解できるよう、ゆっくりわかりやすい言葉で話しかけるなど、障がいの状態に応じた合理的な配慮を行うようにしております。

あわせて、熊本県でヘルプカードが作成されており、これを市の福祉課にも設置し、配布しております。このカードは、内部障がいや発達障がいなど、外見からわからなくても、援助や配慮を必要としている方が、ヘルプカードの裏面に自分の症状や支援してほしいことなどを書き込み、周囲の支援を得ることができます。例えば、耳が聞こえにくい方の場合、はっきり、ゆっくり話しかけてくださいということを書き込み、周囲から見えやすい箇所につけて携行することで、配慮を必要としていることを知らせることができます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　この、はっぴぃの一とはないけれども、それにかわるサポートブックをつくっているけれども、これをまた参考にしながら研修していくということを言われております。

また、広域ではこのペアレントメンターの方がおられるということで、菊池市でもぜひこういうことも紹介をしていただきたいと思います。

また、市役所での対応ですけども、対応要領があって、それを皆さんが同じ共有をしているということで、ぜひ指導のほうをよろしくお願いしたいと思います。

次に、また質問をさせていただきます。

私の近くに障がい者支援施設のサニーサイドさんがあります。サニーサイドでは、田島地域の老人会と一緒に、毎年、運動会を開催しています。また、圏外でも、この秋まつりがありますけども、これを紹介しております。

そこで、その秋まつりには保育園や小中学校、芸能活動をしている人等が来ていただき、また、大抽せん会など盛大に行われております。障がい者とその保護者、地域住民が分け隔てなく楽しめるイベントに発展しています。

また、サニーサイドさんたちの中には、すぐれた才能を持っておられまして、その中に画家の人もおられます。いろんな特技を持った方がおられます。その人たちの紹介も、そのイベントで大きくされています。ちょっときょうは新聞をコピーしまして、熊日新聞さんの新聞ですけれども、このサニーサイドさんのところに渡邊さんという方が通所で来られてますけど、この方は葉っぱの１枚をとって動物をつくられます。それが特に本当にすばらしいということで、イタリアからも呼ばれて、それを展示しておられる。そしてまた、安倍総理にも会われるというぐらいであって、この１枚の葉っぱでいろんな動物をつくられています。その方は葉っぱに生命を吹き込むような気持ちで、小さいときから自閉症だったけれども、そういうことに集中されて、芸術家として頑張っておられます。また、そこにおられる方々もこういう絵を描いて頑張っておられます。そういう中で、すばらしい特技を持ちながら、障がい者としながら、健常者とともに頑張って、そういう理解をサニーサイドさんはされております。そういう交流の場が菊池市にはあるのか、ないのか、そういうことをまず質問させていただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　障がいのある方と共生していくための交流の場についてお答えします。

誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりの実現を目指しまして、菊池こころのネットワークフェアが毎年行われており、ことしは１１月１０日、日曜日に開催されまして、１４回目を迎えました。主催は、身体障がい者福祉協議会、精神保健希望の会、障がい者支援施設、老人クラブ連合会、菊池女子高等学校、ボランティア連絡協議会などの団体で構成されます実行委員会となっており、市もＰＲ等に協力しております。

この中では、保育園や中学校吹奏楽部によるステージ出演などもありまして、障がいの有無にかかわらず、多くの市民の交流の場となっております。

また、サニーサイドさんを初め、障がい者支援施設では、施設の利用者と地域住民による交流会や祭り等を開催しておられまして、こちらにも多くの皆様の参加があっております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　泉田栄一朗君。

［登壇］

○１８番（泉田栄一朗君）　最後の質問になりますけれども、これが一番言いたかったことなんで、あと３分で申しわけありませんけども、あいサポート運動ということで、この障がいを持った人たちは、菊池で言うなら認知症のサポーター講座みたいなものですけども、そういう障がいを持った方々の内容をみんなで共有して勉強して、お互いが共生の社会をつくっていこうというのが、この、あいサポート運動でございます。そういう意味で、菊池市にも、こういうお互いが勉強し合いながら、そういう研修の場ができないかというようなことで、その提案をさせていただいております。

この運動は、全国で５０万の人たちが今されているということでございます。恐らく菊池市にもそういう運動が伝わってくるんではないかと思います。ぜひこの導入をしていただきたいと思いますけれども、この導入の考えはということで質問したいと思ったんですけど、市長、もう市長の、きょう、私が言いました福祉の内容を総括して、市長が障がい者の人と共生していくまちづくりをどのような見解を持っておられるか、お答えをお願いしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ご質問にお答えいたします。

今、ずっと障がい者の方に対する大変温かい目線でのお話が続いております。障がいをお持ちになった方もそうでありますし、それから、さまざまな個性を持った方々がたくさん今はいらっしゃって、世の中の価値観もどんどん変わってきているわけであります。ですから、そうした方々をみんな一緒に暮らすことのできる、共生できる社会づくりというのは、非常にこれからは大事になると思います。特にいろんなニーズが多様化してまいってますので、そうしたことを抱合しながら、みんなが安心して住めるまちということが非常に大事だろうというふうに思っております。

そういう意味では、この障がいのある方というのは、ある意味では、たまたまそういう障がいをお負いになった方が大半であります。そういう意味では、私たちが、今、元気でいるのもたまたまかもしれないということが言えるわけですから、そうした精神で、本当に市民一体となって、そうした方々と一緒になって暮らしていける環境整備は進めていきたいというふうに思っています。

あいサポート運動というのは、概略はお聞きしたところですが、詳細をよく吟味して、今言ったことに対しての非常に具体的な手がかりになるのであれば、前向きに進めていきたいなとは感じたところでございます。大いに研究させていただきた

いと思います。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　これで、泉田栄一朗君の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後２時０１分

開議　午後２時０８分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　皆様、こんにちは。猿渡美智子です。通告に従って、早速質問に入ります。

初めに、災害に強いまちづくりということで質問いたします。

ことしも日本は大きな自然災害に見舞われました。１５号、１７号、１９号と、相次いで日本を襲った台風は各地に甚大な被害をもたらし、災害はどこにでも起こり得ると覚悟せねばならないことを痛感しています。

そこで、今回は総合防災訓練について質問します。

菊池市総合計画には、防災・減災体制を強化する取り組みとして、災害発生時に迅速に対応し、被害を最小限に抑えるため、危機管理体制の充実を図るとともに、市民参加型防災訓練を実施しますと述べられています。ことしは七城総合グラウンドで地震発生を想定して総合防災訓練が開催され、私も参加しました。

そこで、考えたことをもとに質問したいと思います。

まず、２点質問します。

１点目、総合防災訓練の成果と課題をどのように捉えられておられるかということ。

２点目、ことしは、間所、菰入、宮園の方々に参加していただきましたが、市民参加の意義は何かということ。

以上、２点お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　それでは、猿渡議員のご質問のほうにお答えさせていただきます。

まず、１点目の総合防災訓練の成果と課題をどのように捉えているかということ

ですけども、本年の菊池市総合防災訓練は、先ほど猿渡議員がおっしゃいましたように、１１月１０日に七城総合グラウンドをメーン会場に、市民及び関係機関等をあわせて約４００名の参加を得て実施しました。

成果としましては、まず近隣住民の避難及び防火訓練を通じて市民の防災意識の高揚が図られた点、また、区長全員にタブレットを利用した訓練を体験していただけた点、それから、消防、警察、自衛隊等との関係機関との訓練を通じて、相互の連携強化が図られた点などが挙げられます。

また、課題としましては、参加していただく市民の行動がもっと見えやすくできるようにレイアウトを工夫することや、タブレットの活用や操作方法、また、観覧者を含め、会場の皆様に訓練内容をわかりやすく説明を行うことなど、参加者全員の防災意識を高めるための取り組みを行う必要があると考えております。

次回の訓練では、今回の成果と課題を踏まえて、参加者がより一層防災・減災に関心を持っていただけるように取り組んでまいりたいと考えております。

また、２点目の市民参加の意義は何かということですけども、熊本地震のような大規模災害時では、行政のみの対応、いわゆる「公助」だけでは限界があります。いつ起こるかわからない災害に対して官民一体の訓練を行うことにより、市民の防災に対する意識の高揚と、地域防災力向上を図ることで、迅速・的確な災害対応力を強化し、防災・減災につなげることは非常に重要であり、かつ意義深いものであると考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　私も見せていただきながら、区長さんたちがタブレットを使って要支援者の連絡をなさっていたり、それに返答する形で関係機関の方が出動していかれたりする様子は、大変すばらしいと思って見ていたところです。

そこに市民が参加していくということは、そういった区長さんのみならず、全ての住民の方々に対して、防災意識をやっぱり高揚していただく、防災力を高めていただくということが、やはり狙いの大きな一つになっていると思っています。

防災について語られるときに、自助、共助の大切さが繰り返し言われてまいりました。熊本地震においても、行政にできることには限りがあり、みずからの備え、みずからの行動が大切であることを私たちは学びました。しかしながら、具体的にどれほどの実践につながっているか、私自身も反省するところです。だからこそ、市民参加の防災訓練では、住民として必要な行動、地域として必要な行動を実際にやってみることが大切だと考えます。

そこで、防災を考える上で、今、地域や住民に求められることは何なのかということを改めてお尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　猿渡議員の再質問にお答えする前に、先ほど、１点訂正させていただきます。私が「避難及び防災訓練を通じて」と言うべきところを「避難及び防火訓練」と言ってしまいましたので、「防災」に改めさせていただきます。

それから、今のご質問の住民が災害時にすべきことは何かということの点につきましては、市としましては、まずは自分自身や家族の命と財産を守るために、自分や家族で防災に取り組んでいただくことが重要かと思います。「自助」、自分（家族）の身は自分（家族）で守るとの考えのもと、食料、飲料水などの備蓄品の準備、家具、テレビなどの転倒、転落防止、家族間での安否確認の伝達方法の確保や避難経路の確認などをぜひ家族で取り組んでいただければと思います。

次に、「共助」、近所や地域の方々と助け合うという点で、地域の防災活動や、危険箇所の点検などに積極的に参加していただくことで、地域コミュニケーションの充実が図れ、災害時の対応がよりスムーズに行えることとなります。

実際に、阪神・淡路大震災では、人命を救助したそのほとんどが「自助」・「共助」の力でした。

市としましても、広報等で「自助」・「共助」の必要性を今後も引き続き行うとともに、出前講座や地域別防災説明会等での啓発を図っていきたいと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　今の答弁の中で、まずは住民が自分自身の命や財産を守る。自分の身は自分で守るということが言われました。そのための避難経路の確認であったり、さまざまなことが求められています。

共助という視点に立つと地域コミュニケーションという言葉を使われました。地域の住民同士がお互いに協力をし合って、そこで万が一のことが起きたときに対応していく力を身につけるということだと考えます。

これらの答弁と先日の総合防災訓練の実際を重ねたときに、特に地域住民のあり方として捉えると、まだまだギャップがあると正直思いました。みずからの命と安全を守るために、地域住民の防災力をステップアップしていくには、防災訓練のあり方も変わっていかなければならないのではないでしょうか。

総合防災訓練が行われる３日前に、私は熊本県危機管理防災特別顧問の有浦隆さ

んという方の講話を聞く機会がたまたまありました。熊本地震発災当時は企画監として陣頭指揮に当たられた方だということでした。その講話の内容がまだ鮮明に残っているときに訓練に参加したことが、これまでは特に疑問を持っていなかった総合防災訓練を見直すきっかけになりました。

有浦さんの話の中で、避難所生活は、まさにサバイバルです。公助はおくれることを理解して、心と物を準備してください。準備次第で避難所生活の質が変わりますと言われました。この準備のあるなしは、熊本地震のときに多かった災害関連死を防ぐという意味にもつながってくると理解しています。

しかしながら、先日の訓練の中で、非常持ち出しのリュックなどを持ってこられた方は全くおられませんでした。手ぶらではサバイバルは生き抜けません。防災訓練を非常持ち出しの準備をする絶好の機会と捉えて、実際に準備をし、それを持って避難をする体験をしてみることで、生きた防災訓練になるのではないでしょうか。

そんな中、私が目を引かれたのは、訓練に参加された住民の中に、アウトドア用の折り畳み椅子を持参して座っておられる方がいたということです。お話を伺うと、私は座ると足が痛いから、これはいつも車に入れています。軽いんですよと言われました。必要なものは人それぞれに違うのだから、チェックリスト等だけに頼るのではなく、自分で考えてオリジナルな備えが大切だと、これは市民の方から学びました。

また、有浦さんは、避難所運営を地域住民が行うことで、行政職員がほかの業務に当たることができるようになり、災害対応のスピードアップができますということも言われました。先ほどの答弁にも地域コミュニケーションという言葉が出てきて、地域の協力が大事であると述べられましたが、そうであるならば、総合避難訓練でも実際にやってみるべきだと思います。

１１月２０日の熊日新聞には、上天草の松島中の生徒が、本番さながらに避難所設営の訓練を行ったことが記事になっておりました。生徒たちが受付の仕事をしているところの写真が掲載してありました。校長先生が災害時にどんな仕事があるかを学ぶことは、社会人になってからも役に立つと話されていましたが、菊池市の防災訓練でも地域の人たちが実際に仕事を分担し、避難所設営をしてみる体験につなげていくべきではないでしょうか。

先日の防災訓練の中で、受付等の様子はありませんでした。実際の避難所生活では基本の基本ではないかと思います。実際にやってみた上で、何か問題はなかったか、どこがよかったか、集まっていただいた方々にミニ防災講座を開いたりすることも考えられますし、安心メールや防災・行政ナビの設定をまだされていない方には、その場でお手伝いをしていくことなども考えられるのではないでしょうか。

実際に行動するのは私たち住民だと思っておりますが、そのための啓発と仕掛けは行政に知恵を絞っていただきたいところで、事前の仕掛けや準備が肝要です。総合防災訓練が今以上に住民の防災力をステップアップする場になっていくように取り組んでいくべきだと考えますが、市の考えはいかがでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　今、猿渡議員からご指摘がありました防災訓練に対してですけども、課題の中で、観覧者を含め、会場の皆様に訓練内容をわかりやすく説明を行うことができてなかったというところで、課題の点を挙げておりました。この中には、先ほどおっしゃいました受付ですとか、避難所設営に関しては、防災士等も入っていただいて、その際に説明等も行っていただいたところですけども、その辺でちょっとわかりにくかった点もありましたんで、その辺は、今後、改善させていただきたいと思います。

また、防災・行政ナビについても、周知は行ってたんですけども、それを直接入力作業を手伝う等のところまでは至ってませんでしたので、この辺も含めまして、今の現在のご指摘を受けた件については、今後の訓練に役立てていきたいと思います。

それから、市では、今後も「自助」・「共助」・「公助」が互いに連携し一体となることで、災害対応力を強化するとともに、防災・減災への意識の高揚を図る目的で、総合防災訓練を引き続き実施してまいりたいと考えております。

その中で、自主防災組織や防災士の方々との協力を初め、学校などとも連携し地域の防災力向上に取り組んでまいりたいと考えております。

そのほか、地域の防災力向上に向けて、地域の皆様のところに伺ってお話しする出前講座の活用や、地域の自主防災組織の活動活性化支援、また、防災士養成講座による地域の防災リーダーの育成事業等をあわせて進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　例えば、さっき申しました持ち出し用品をちゃんと背負ってくるような住民の姿を出していくためには、最初はやっぱり何人かの人に個別に頼んでおいて、その姿で示してくださいというようなお願いをしておくというようなこととか、ひょっとしたら、私の気づきが悪くて、受付があっていたのかもしれ

ませんが、率直に申し上げて、とてもわかりにくい状況であったことは間違いないです。受付であるならば、それとはっきりわかるような掲示の仕方であるとか、そういった工夫が要ると思いますし、実際、避難所で運営をしていくときには、役割分担が欠かせませんので、どんな係が必要だというようなマニュアル的なものをあらかじめ区長さんにお渡しして、訓練の中では、これとこれとこれをやってくださいというような手法をとっていかないと、実際の行動力に結びついていくというのはなかなか難しいと思うし、やっぱりどこか、きょうは訓練だというような甘さが出てくるのではないかと思います。

学校現場におりましたときに、避難訓練をいたしますとき、よく子どもたちに、訓練だけれども本気でせないかん、本気で逃げましょうということを言ってまいりました。受けとめる私たち住民も意識を変えていかなければならないかと思いますが、呼びかけのほうもしっかりとお願いして、少しずつ総合防災訓練が住民の参加意義が達成できるような姿になっていくことを願っております。

次の質問に移ります。

共生社会のための言葉の課題をどのように解決していくかということでお尋ねしていきたいと思います。

先ほど、泉田議員からも共生社会をつくることが大切だという趣旨でお話がありましたので、重ねて聞いていただければと思います。

国も多文化共生、地域共生、障がい者等と共生などを掲げ、今後の方向性が示されているところであります。

共生社会について語る、次のような文章がありました。読ませていただきます。障がいがあったり、生まれた国や肌の色が違ったり、女性だから、子どもだから、お年寄りだからと、さまざまな違いを理由にだめだと言ったりすることなく、違いの中にこそ、その人らしさがあって、違いを大切にしようということです。まずは自身の周りに気をつけて、さまざまな人の困り事や痛みを感じることのできる力をつけることから始めましょう。そして、積極的に話をして、どんなことを求めているか理解することが重要です。このように書かれていました。

ともに生きるために話をすることはとても重要ですが、言葉の壁があることが多々あります。日本語が堪能でない外国人の方、言葉の理解やコミュニケーションが苦手な障がい者の方、認知能力が低下した高齢者の方、そんな方々への情報提供や、コミュニケーションのあり方を考えなければなりません。

そこで、１回目の質問です。

６月議会で大賀議員と後藤議員が、外国人労働者の受け入れや多文化共生について質問されました。両議員とも言葉の課題があることを指摘され、教育部長は答弁

で日本語教育推進法にも触れられました。

そこで、１点目は、この日本語教育推進法に基づく施策をどのように進めておられるのか、お尋ねします。

２点目、菊池市障がい者計画では、まちづくり目標の一つに、障がいのある人、みんなに対してわかりやすい言葉などを選ぶことができるようにしますと掲げられております。合理的配慮の一つに当たると考えますが、このことにどう取り組んでおられますか。

２点お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、私のほうから、１点目の日本語教育推進法に基づく施策について、答弁をさせていただきます。

日本語教育の推進に関する法律につきましては、議員ご存じのとおり、多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現・諸外国との交流の促進並びに友好関係の維持発展に寄与することを目的に、本年６月に施行されましたが、基本理念を掲げてあるのみで、地方公共団体において、地域の状況に応じた日本語教育の推進に必要な施策の実施に努めることとなっております。

現在の具体的な取り組みとしましては、本市の小中学校に就学している児童・生徒に対する日本語教育については、既に取り組んでいるところでありますが、外国人労働者として在住されておられる多くの外国人の方への日本語教育については、民間において実施されているところもあると聞いておりますが、市といたしましては、現在、実施してはおりません。

しかしながら、多言語・多文化の交流の一環としまして、図書館を中心に、これまで韓国やアメリカ、オーストラリア、中国、ベトナムなどの外国人との交流会を開催したり、緊急時の避難誘導パネルを初め、図書館内のサインやパンフレットを英文表記にするほか、環境課では、生活に密着したごみ分別冊子も多言語で表示するところで進めておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　それでは、２点目の障がいのある方へのわかりやすい言葉についてのご質問にお答えします。

本市では、本年３月に障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律に基づき、職員対応要領を策定しまして、事務や事業を行う際に、合理的配慮の提供を行

い、適切に対応するよう全職員へ周知しているところでございます。

この対応要領の中で、筆談、読み上げなどのコミュニケーション手段を用いた配慮を行うことであったり、ゆっくり、丁寧に、繰り返し説明し、内容が理解されたことを確認しながら応対する、また、なじみのない外来語や漢数字を用いないなど、意思疎通に関しての配慮について、言葉や文字に関する具体例を示しているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　日本語教育推進法に基づく施策として、まだ外国人労働者向けには日本語教室を行っているわけではないという答弁がございましたが、まだ何せ６月に法ができたばかりでございますので、これからさまざまな工夫をなされていくことであろうと期待しています。

ただ、きょう、私がここで申し上げたいのは、そうやって日本語教育を一定受けた方、そして、多分日本に来られる前に、ある程度、学んだり、それから地域の暮らしの中で習得をし始めた外国人の方々に対する、その後、どうやって対応していくのだろうかということ、それから、障がいのある人に対しては、職員対応要領をつくられているということで、それはとても大切なことだと感じます。それをより効果的なものにしていく方法として、どんなことが考えられるんだろうかということで、これからお話をさせていただきたいなと思っています。

神奈川県で外国ルーツの子どもたちの支援に取り組んでおられる方の話を聞く機会がありました。神奈川県は、既に外国籍の県民が２０万人を超え、言葉の支援が大きな課題になっているとのことで、その取り組みの一つとして、外国人向けのやさしい日本語と障がい者向けのわかりやすい言葉を一体化して、自治体職員向けの研修を行っているということでした。

やさしい日本語というのは、外国人にもわかりやすく書きかえた日本語のことです。阪神・淡路大震災の経験で、外国人に避難所などの情報が伝わらず、水や食料を受け取れない人が出てしまったのがきっかけで、外国人がわかるようにやさしく表現する日本語の研究と普及が始まりました。

やさしい日本語について、専門家が書いた本も読みましたが、それはちょっとやさしくなかったので、やさしい日本語について、やさしい日本語ツーリズム研究会というところが発信しているＹｏｕＴｕｂｅを画像はお見せできませんけれども、言葉で紹介したいと思います。

読みます。日本にいても、外国の人に会うことがこのごろ多くなりました。外国

から来て、日本に来て住む人は約３００万人、外国から旅に来る人は２０１８年には3，０００万人以上になりました。こんな時代の言葉について考えたいと思います。

外国から来て日本に住む人が一番話すことができるのは何語だと思いますか。日本人は、外国人は英語を話すと思いますが、英語を話す人は４４％、外国から来て日本に住む人が英語より話すことができるのは日本語です。６３％の人が簡単な日本語なら話すことができます。外国から日本に旅に来る人はどうでしょうか。８０％の人はアジアからです。この人たちは余り英語を話しません。台湾、韓国から来る人のうち、少しでも日本語を話す人は４０％います。例えば、台湾から来た人が３人いれば、誰か日本語がわかる場合は８０％にもなります。このように、日本で外国の人と話すとき、一番伝わりやすいのは日本語なのです。これから大事なのは外国の人にわかりやすい日本語を話すことです。このわかりやすい日本語がやさしい日本語です。やさしい日本語は、短く言う。はっきり最後まで言う。敬語は使わない。です・ますで言う。例えば、今、育休中です。これをやさしい日本語で言うと、赤ちゃんがいます。今、仕事を休んでいますとなります。

やさしい日本語はテレビでも使われています。役所や病院でも見るようになりました。また、やさしい日本語を使うまちもあります。福岡県柳川市です。柳川の人たちは、外国から来てくれる人のために、やさしい日本語を学びました。旅をする人と住む人が話をしやすくなるように、いろいろな試みが始まっています。日本のあちこちで子どもからお年寄りまで、日本人と外国人が気持ちを通わせる、それがやさしい日本語の夢です。これからは日本人が外国人のために、やさしい日本語を学ぶ時代ですと、このように紹介されていました。

現在、このやさしい日本語が、外国人に向けた情報発信のツールとして、全国の自治体に広がってきています。防災関係の広報、自転車の交通安全、施設案内、医療ガイドブック、生活便利帳など、いろいろな実践例があります。窓口対応のための研修をする自治体もあります。外国人ばかりでなく、言葉の理解に困難さを抱える障がいや高齢者の方々への支援の一つとしても有効です。高齢者の方から、市役所の書類は読んだっちゃいっちょんわからんという声を聞くこともありますが、やさしい日本語は公的な文書の書きかえにも使われています。

ＮＨＫのＮＥＷＳ ＷＥＢ ＥＡＳＹでは、やさしい日本語を使ったニュースを毎日５本ずつ発信しています。議場の皆さんに表現の実際を紹介するために、きのうのニュースを一つ読ませていただきます。

首都直下地震というとても大きな地震が起こる可能性が高くなっています。国は、この地震があった場合、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県などで大きな被害が出

ると考えています。２万３，０００人ぐらいの人が亡くなるかもしれないと言っています。京都大学が調べると、関東地方の地下の浅いところで、１年に２センチメートルくらい動いているところがありました。地震を起こす力が地下の深いところでたまり続けていることもわかりました。

国によると、首都直下地震が３０年以内に起こる確率は７０％です。京都大学は、この確率はとても高いです。あす、地震があるかもしれないと考え、今できる準備をしてくださいと言っています。地震の前に準備しておくことや、地震のときに気をつけることは、ＮＥＷＳ ＷＥＢ ＥＡＳＹに書いてあります。これがきのうのニュースの一つです。いかがでしたでしょうか。

情報伝達の手段として、このやさしい日本語というツールについて、菊池市ではどのように考えられるでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　やさしい日本語を使ったところに関して、行政に対してどう思うかということについてお答えしたいと思います。

まず、外国の方についてお答えしたいと思います。

本市においては、外国人居住者は平成３１年３月末現在で５７６人、令和元年１１月末で６８６人と、増加傾向にあります。

そのような状況の中、現在、市民課の窓口においては、小型翻訳機を使用し、外国の人にもわかりやすい説明に努めております。

やさしい日本語は、先ほど議員ご紹介のありましたように、阪神・淡路大震災に際して、日本の地域社会にお住まいの外国人の言語が予想以上に多様であること、また、日本語以外の言葉による緊急時の情報対応が未整備であることが浮かび上がったことから、迅速に、正確に、そして、わかりやすく、それに加えて、誰にでも比較的容易につくることができるということで、多くの外国人に災害時の情報を伝えるために提案されたということでございます。

このやさしい日本語につきましては、外国の方にわかりやすい日本語として他の自治体でも活用されていることから、先進事例を参考にしながら、活用について研究を進めてまいりたいと考えております。

また、あわせて、障がいのある方や高齢者につきましても、やさしい日本語の活用について、調査研究を進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　菊池市にお住まいの外国の方が、平成３０年に５７６人だったものが、令和元年には６８６人というふうに、かなりの割合で増加しているというのがわかりました。実際、市役所に来たときに、市役所の中でも外国人の方をお見かけする機会がもう着実にふえてきているということを感じております。

これからやさしい日本語について検討してみるという答弁をいただきましたが、まずは、そういった窓口の対応される職員の皆さんを対象に、やさしい日本語の研修を実施することを提案したいと思います。

窓口で情報伝達の手段として小型翻訳機を使っているという答弁がありましたが、小型翻訳機に翻訳をしてもらうときも、そのまま私たちが通常使っているような日本語で入れるよりも、自分の中で一回やさしい日本語に変換をして翻訳機に入れて、それを伝えたほうが随分とわかりやすくなるということを聞いているところでございます。前向きな検討をぜひよろしくお願いいたします。

では、次の質問に移ります。

次に、給食費の徴収について質問いたします。

幼児教育・保育の無償化に伴い、保育園での副食費の徴収にも課題があることは認識しておりますが、今回は小中学校の給食費ということで質問いたします。

この夏、地元泗水東小学校のＰＴＡの役員の方と話をしている中で、給食費の口座引き落としに向けて取り組んでいるというお話を聞きました。自分の子どもが小学生だったとき、地区委員として給食費を集めた経験がありましたので、ああ、あのころからまだ変わってなかったんだというのが率直な気持ちでありました。

考えるところがあって調べてみますと、ことしの７月に文部科学省が学校給食費徴収管理に関するガイドラインを出していることがわかりました。ガイドライン作成の背景と目的が「はじめに」のところに書いてありますので、抜粋しながら読ませていただきます。

昨今、広く理解が進んでいるように、教員の長時間勤務は看過できない深刻な状況となっています。このような状況において、平成３１年１月２５日、中央教育審議会でまとめられた答申では、学校における働き方改革の具体的な方策の一つとして、学校給食費の公会計化が提言されました。同答申では、学校給食費については、公会計化及び地方公共団体による徴収を基本とすべきとした上で、文部科学省において給食費の公会計化導入や徴収業務を学校教師でなく、地方公共団体が担うようにするためのガイドラインの早急な作成と周知徹底が求められています。

これらを踏まえ、文部科学省では、学校給食費の公会計化を促進するため、本ガイドラインを作成しました。今後、本ガイドラインを一つの参考として、各地方公共団体において公会計化が進み、教員の業務負担の軽減や長時間勤務の縮減が図ら

れることを強く期待しています。このように述べられ、以下、具体的な公会計化の進め方などが記されています。

そこで、質問です。

文部科学省は、学校給食費の公会計化への道筋を示しているわけですが、菊池市として、公会計化の考えがありますか、お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、猿渡議員のご質問にお答えさせていただきます。

学校給食費の徴収金に係ります公会計化ということでございますが、先ほど議員がおっしゃいましたとおり、ガイドラインのほうが策定をされておりまして、道筋のほうが出ているところでございます。

今、学校現場のほうにおきましても、やはり徴収金の滞納者への督促等につきましてが、大変苦労されているということでお聞きをしております。そこにつきましては、やはり時間的にも精神的にも負担が大きいとされ、実際、学校の先生方の負担は大変だということでお聞きをしているところでございます。

また、納付方法のほうも多様化しまして、保護者の利便性を向上させることができるとされております。そのほか、学校給食費の管理におけます透明性の向上、それから、学校給食費の徴収における公平性の確保、学校給食の安定的な実施などが挙げられておりますので、示されましたガイドラインを見ましても、必要であるということは認識をいたしておりますが、システムの構築ですとか、人の配置ですとか、そういったいろいろなことをまだ考慮する必要があるというふうに考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　必要だとは認識しているけれども、システムの問題であったり、人の配置等にいろいろな課題があるというような答弁でしたが、それでは、公会計化がどのくらいの期間を置けば実現するものと想定しておられるか、お伺いしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、ただいまのご質問でございます。期間はどのくらい必要かということでございますが、移行準備の工程につきましては、移行決定をした後、おおむね２年程度の準備期間を設定するのが標準的だと示されておると

ころでございます。

公会計へ移行するための準備内容を勘案し、また、先進自治体等の例を注視していきたいというふうに考えておるところでございます。

以上、答弁いたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　決定をした後に２年くらいはかかるということですが、じゃあ、決定するまでにはどのくらいかかるんでしょう。決定をするつもりが、意思がおありなのかどうかということも含めてお尋ねしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　移行決定までの期間ということでございますが、具体的には、業務システムですとか、公会計の導入にどのくらいの財源がかかるとか、いろいろなことが必要であろうかと思います。そちらのほうを今後検討をいたしまして、移行のほうに決定するかどうかという判断をしてまいりますので、その明確な期間につきましては、まだわかっておりませんので、お答えのほうは差し控えさせていただきたいと思います。

以上、答弁いたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　国のほうから、これだけ明確に公会計に移行すべきだという方針が出ているわけですから、そこのところはぜひ尊重していただいて、公会計化に向けて取り組むというふうにしていただきたいと、そこは強く要望いたします。

今回の質問に当たって、市内１５小中学校での給食費の徴収方法の現状を調べてみました。児童・生徒が徴収日に現金を袋に入れて持参し、それを担任あるいは事務職の先生が集められているという学校が３校ありました。ＰＴＡの役員さんが担当地区を回って集められている学校が５校、口座引き落としが７校でした。各校での努力で年度を越すような滞納はほとんどないということもわかりました。しかし、さっき、教育部長も触れられましたが、現金の管理や電話での督促など、苦労があることも伺えました。

少し教育部長の答弁にも紹介されていましたが、文科省のガイドラインでは、公会計化で見込まれる効果として、次のように書かれているところがあります。学校において、給食費の徴収管理業務を行っている場合に、滞納者が生じると、教員や学校事務職員が督促業務を行うことになります。しかし、滞納者への督促は税金な

どの督促を専門とする部署でも苦労するものであり、組織として督促業務の専門性を持たない学校において、教員が対応することには肉体的、時間的にも、精神的にも負担が大きいと言えます。特に文書による督促が効果を発揮しなかった場合、電話や個別訪問による督促に移行しますが、保護者が仕事などで不在であることが多い昼間は、保護者と話をすることが難しく、どうしても夜間等に実施せざるを得ない部分があり、教員にとって大きな負担となってきました。このように書いてあって、続いて、枠囲みの中に、１校当たり年間１９０時間の業務削減効果を見込んでいますと書かれています。

ここでは、教員の負担軽減のことが書かれていますが、菊池市の徴収方法の現状から見ると、子どもたちが現金を持ってくるリスクや、ＰＴＡ役員による集金の負担も考えなくてはならないと思います。

最初に、泗水東小ＰＴＡの方とお話をした時期がちょうど消費税増税の手前のところで、世の中、キャッシュレス、キャッシュレスというふうな方向に向けての話が大変騒がれているころでしたので、本当に学校が取り残されているような感がありました。そういったときに、いつ決定するかもまだわからないし、決定してからも２年くらいはかかるというようなことだと、本当にいつのことなんだろうかというのは心配をするところです。その期間、子どもたちが現金を入れた封筒を学校に持って来なんとかねって思ったりもします。

泗水東小学校では、給食費口座引き落としが既にＰＴＡ総会で可決されたと聞きました。滞納が出た場合のことが気になったんですが、泗水東小学校の場合は、口座振込依頼書、自動払込利用申請書と一緒に、銀行に出す分と一緒に、菊池市長宛てに児童手当に係る学校給食費等の領収等に関する申出書を保護者に提出してもらうことになっているそうです。これはどんなことかというと、２カ月給食費の口座引き落としができなかった場合は、児童手当から支払いに充てるということをあらかじめ市長に対して申し出ておく書類です。お話を伺ったときに、教頭先生がこれで給食費はよくなりますと、ほっとした表情で話されました。

泗水小では、既に今年度４月からこのような徴収方法にされたそうですが、問題は出ていないと話されました。また、泗水東小だけではなく、泗水西小においても来年度からは同様の取り組みをされるというお話でした。

給食費の公会計化を進めるに当たっても、ここまでできていると、大変移行はスムーズになると考えます。ですから、給食費が公会計に移行するまでの間は、このような形で口座引き落とし、滞納があった場合は児童手当からの差し引きという徴収方法が菊池市全校に広がっていくように、教育委員会でこのことは積極的に働きかけていっていただきたいと考えます。子どもや保護者に現金を扱わせるリスクを

負わせるべきではないと思いますし、学校職員の負担軽減も急務です。この点に関して市の考えをお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまの猿渡議員のご質問でございますが、児童手当からの引き落としということで、その広げる考えはないかということでございますが、言われましたとおり、児童手当からの申出徴収には、徴収の都度、保護者が納入のための手続を行う必要がないため、保護者の負担も少なく、児童手当からの申出徴収は、徴収率の維持向上のためにも有用だというふうに考えております。

ご紹介がありました泗水小学校では、ことしの４月から実施をされておるところでございます。

児童手当からの申出徴収につきましては、保護者の申し出に基づいて、保護者に支払われる児童手当から徴収、天引きすることができますので、未納につながらず、督促の事務もないため、学校の先生方の負担軽減にもつながります。学校や児童手当を所管とする子育て支援課のほうと連携を図りながら、推進をしていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　猿渡美智子さん。

［登壇］

○９番（猿渡美智子さん）　私が申し上げたのは、いきなり児童手当からの差し引きではなくて、滞納があった場合は児童手当からというふうに思っておりますので、そうですね。わかりました。

小中学校は義務教育であり、給食は教育の一環として行われているわけですから、義務教育の無償をうたった憲法の内容から照らし合わせると、目指していくのは無償化ではないかと、完全無償化ではないかというふうに思っています。しかし、財政的な課題が大きいことも理解しております。せめて初めの一歩として、給食費の公会計化は進めていただきたい。これからするかしないか検討するという、きょうの答弁でしたが、やはりせめて公会計化はすべきだと申し上げておきます。

しかしながら、公会計化に移行して、忙しさが行政側にシフトしただけでは問題解決にはなりませんので、市長には職員の配置などでも十分配慮していただくことを要望して、一般質問を終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、猿渡美智子さんの質問を終わります。

以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。

次の会議は明日１２月６日に行います。引き続き一般質問となっています。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

傍聴席の方で、可能な方はご起立願います。

（全員起立）

お疲れでございました。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後３時０５分

第　４　号

１２月６日

令和元年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第４号

令和元年１２月６日（金曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中	教　之　君
２番	福　島	英　徳　君
３番	緒　方	哲　郎　君
４番	後　藤	英　夫　君
５番	平	直　樹　君
６番	東	奈津子　さん
７番	坂　本	道　博　君
８番	水　上	隆　光　君
９番	猿　渡	美智子　さん
１０番	松　岡	譲　君
１１番	荒　木	崇　之　君
１２番	柁　原	賢　一　君
１３番	工　藤	圭一郎　君
１４番	城	典　臣　君
１５番	大　賀	慶　一　君
１６番	水　上	彰　澄　君
１７番	二ノ文	伸　元　君
１８番	泉　田	栄一朗　君
１９番	木　下	雄　二　君
２０番	山　瀬	義　也　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実君
副市長	芳野勇一郎君
政策企画部長	元島加奈子さん
総務部長	上田敏雄君
市民環境部長	古田浩敏君
健康福祉部次長	宮村恵美君
経済部長	笹本義臣君
建設部長	中村喜範君
七城支所長	上村雅一君
旭志支所長	岩根卓士君
泗水支所長	梁池哲也君
財政課長	山田哲二君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中尾孝浩君
市長公室長	前川幸輝君
教育長	渡邉和博君
教育部長	木下徳幸君
農業委員会事務局長	坂本高秀君
水道局長	大塚忠康君
監査委員事務局長	山口浩一郎君

事務局職員出席者

事務局長	徳永裕治君
事務局課長	歌岡憲一君
課長補佐	松寺盛親君
議会係長	安武則貴君
議会係	吉岡結加里さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（柁原賢一君）　日程に従いまして、日程第１、一般質問を行います。

初めに、水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　おはようございます。議席番号８番、水上隆光です。我がふるさとの里山の裾野に広がりますこの菊池市が活気づくまちになりますよう、いろんな質問をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

きょうは、支所について、空家対策について、有害鳥獣対策について、そして、道路整備についてを質問していきたいと思います。

支所について、まず質問いたします。

令和元年１１月１３日の熊日新聞において、「平成の大合併のその後」という記事で、「周辺部廃れる懸念現実に」という記事が載っておりました。ちょっと読んでみますと、１９９９年から２０１０年までの平成の大合併で合併した旧町村地域の人口減少のスピードが、合併しなかった近隣の小規模町村を上回るという調査結果を日弁連がまとめた。県内は調査対象になった泉村、波野村ともに該当した。合併で周辺部は廃れるとの懸念が一部で現実となった格好だという記事があり、菊池市に人口の変動として２００５年と２０１５年が載っております。菊池市全体として、２００５年5万1，８６２名、２０１５年4万8，１６７名、７．１％の減、旧菊池市2万6，７１６名から2万3，９１１名、１０．５％の減、七城町5，６５４名から5，１７２名、８．５％の減、旭志村5，２１０名から4，５６２名、１２．４％の減、泗水町1万4，２８２名から1万4，５２２名、これは1．７％の増ということで載っております。

記事として、菊池市は市役所のある旧菊池市や、旧七城町、旧旭志村が減ったのに対し、周辺部の旧泗水町はふえた。泗水町は大型商業施設のある合志町と隣接することが影響したと見られるという記事になっております。

そういう中で、きょうは支所について質問しますけれども、支所の機能または周辺部の現状をどう認識しているか。それから、現在、泗水支所、旭志支所の工事が進められております。また、来年度は七城支所ということになるかと思いますけれども、支所のリニューアルを周辺部の発展にどのようにつなげていくかというところをお尋ねいたします。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　皆さん、改めまして、おはようございます。水上議員が支所についてということですが、私のほうからは、人口の減少の話もございましたけれども、周辺部の状況をどう認識しているかという分を中心に答弁をしたいと思っております。

まず、本市は、平成１７年３月の合併以来、旧４市町村の枠を超えた一体感の醸成と均衡ある発展を目指して、新たなまちづくりに取り組んでまいりました。

この間、社会情勢は大きく変化を遂げており、東京への人口一極集中や地方における少子高齢化による人口減少に対する危機感というのは、本市においても例外ではございません。

昨年３月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の推計によりますと、本市の人口は２０年後の令和２１年には３万６，７１７人まで減少するとも言われております。

先ほど水上議員からもご紹介がありましたように、２００５年（平成１７年）と比較して平成２７年の国勢調査では、泗水地区は増加しておりましたけれども、ほかの３地区は減少するという結果になっております。

この地区ごとの人口減少率の差につきましては、それぞれ居住環境であったり、地域の課題というのが異なりますので、できる限りその課題を解消しつつ、各地区の魅力を高めていかなければならないというふうに考えております。

このようなことから、本市の最上位計画であります第２次菊池市総合計画を基本とし、平成２８年３月に策定しました、癒しの里きくち創生総合戦略に基づき、人口減少に歯どめをかけ、将来にわたって活力ある社会を維持するために、さまざまな施策に取り組んでいるところでございます。

今後も引き続き、子育てをしやすいまち、安心安全で暮らしやすいまちとなるよう環境整備を行いながら、転出抑制や移住定住の施策を促進し、市民の皆様とともに将来の人口減少を穏やかにする取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　現在の支所整備が行われて、リニューアルができるということを周辺部の発展にどうつなげていくかというところの質問ですけれども。

○議長（柁原賢一君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時０７分

開議　午前１０時０８分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　改めまして、おはようございます。

支所のリニューアルをどう周辺部の発展につなげていくかということでのご質問でございますけども、先ほど政策企画部長からも申し上げましたとおり、引き続き、子育てしやすいまち、安心安全で暮らしやすいまちとなるよう環境整備を行いながら、転出抑制や移住定住の施策を促進し、市民の皆様とともに将来の人口減少を穏やかにする取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　どうもありがとうございました。

そういう現状の中で、支所というのはいろんな問題を取りまとめたり、また、いろんな人の証明書とかを発行するという役割を果たしているわけでございますけれども、そういう中で、相談員という方が３年目を迎えているところでございます。その相談員を一番近くで見ている各支所長に聞きたいと思います。

相談員は、支所長から見て、十分役割を果たしているか。それからまた、これはきのうの城議員の質問とも重なりますけれども、どのような相談が多いのかを支所長に答弁していただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　七城支所長、上村雅一君。

［登壇］

○七城支所長（上村雅一君）　改めまして、おはようございます。水上議員のご質問にお答えいたします。

城議員に答弁した内容と重複する部分もありますが、ご了承ください。

平成２９年４月１日に組織の改編が行われ、支所においては、市民に身近なサービスを残しながら、今後、さらに増加する高齢者等への配慮など、市民生活に適切に対処するため総合相談員が配置されました。

その役割として、市民からの相談受付対応、関係部局との連絡調整、支所管内における関係部局等の業務及び事業推進に係る支援・協力等の職務があります。現在、再任用の職員が配置されておりますけども、豊富な行政経験と人的ネットワークにより相談内容を的確に把握し、事務処理もなされ、かつ支所内の事務及び職員の管理等についても助言、指導を行っており、十分役割を果たしていると考えています。

また、総合相談員への相談につきましては、支所業務全般にわたりますが、建設部関係の相談が多く寄せられます。相談内容につきましては、道路関係の維持補修に関する相談並びに要望等です。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　旭志支所長、岩根卓士君。

［登壇］

○旭志支所長（岩根卓士君）　それでは、改めまして、おはようございます。それでは、水上隆光議員のご質問にお答えいたしたいと思います。

旭志支所における総合相談員につきましては、他の支所同様に再任用の職員がその業務に当たっております。

地元旭志の出身者ということもあり、長年にわたる行政経験を生かしながら、現在嘱託員に関する業務を担当し、地域づくり補助金やコミュニティ事業の申請・受付、また、管轄する市道の補修の対応などを担っております。

特に、嘱託員と緊密に連携をとりながら業務に当たっていることから、信頼関係も構築し、十分機能していると認識しております。

相談案件といたしましては、市道はもとより農道及び国県道の補修等に対する相談が多く聞かれています。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　泗水支所長、梁池哲也君。

［登壇］

○泗水支所長（梁池哲也君）　改めまして、皆様、おはようございます。それでは、水上隆光議員のご質問にお答えさせていただきます。

まず、支所長から見て相談員は十分な役割を果たしているかとのご質問でございますが、泗水支所の総合相談員につきましては、他の支所同様、再任用職員が業務に当たっておりまして、総合相談員業務につきましては、支所における行政全般に対応しているところでございます。

この業務遂行につきましては、本庁担当課と常に協議しながら業務を進めておりまして、十分その機能を果たしていると考えております。

２点目の総合相談員の相談内容の主なものとしましては、道路の破損箇所の補修依頼や要望等となっております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　ありがとうございました。

支所で相談員が十分活躍しているというふうな話で、安心はしたところでございますけれども、その声が市民の反応に返ってくるということを期待するところでございます。

私、旭志の現状を見ますと、時代的にしようがないかなと思いますけれども、昔、役場だったころ、利用していた飲食店がなくなり、畑から帰るとき、トラクターに燃料を入れるガソリンスタンドがなくなり、個人商店も後継者がいない。幼稚園も、この間、ご存じのように、今、売りに出されているというような状況でありますけれども、こういう中で、支所中心に何とか旭志でも輝きを見つけていきたいという思いをみんなは持っているわけでございます。

市長に質問でございますけれども、将来像という意味でお尋ねしますが、コンパクトシティという言葉がありますし、そのほうがお金がかからないという話もよく聞くところでございますけれども、七城の間所の発展、泗水町はベッドタウンとして発展中、また、発展するであろうと。

そこで、旭志地区は何とか国道３２５号沿線に施設あたりを持ってきて、沿線に若者定住をというその辺の発展が期待されると、期待したいと思っているところでございますけれども、旭志においては、やはり大津と菊池の中間で便利な面が多い。いつも言ってますけども、空港、大津駅、光の森、菊池市街地にも等距離であることを考えて、総合的に、市長にどういうふうな、この３支所の将来像、また、菊池全体の将来像をどうお考えかをお尋ねしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　改めまして、皆さん、おはようございます。ただいま、水上議員からのご質問は、各地域の今後の発展を念頭に置いての市の全体像をどう考えるかと、こういうご質問であろうかと思います。

今後の人口減少というのは、恐らくしばらくはとまらないだろうというふうに考えられるわけでありますけども、これを踏まえまして、菊池市の将来像としては、

より効率的な都市構造へと変化させていく必要があるというふうに考えております。

そのため、現在の本市の都市計画マスタープランにおきましては、菊池と泗水の中心部においては、都市機能や居住機能の誘導により、いわゆるコンパクトシティの形成を図るとともに、七城、旭志地域においては支所を中心として地域の生活拠点として位置づけまして、国県道や幹線道路の整備によるネットワークの形成により、各拠点間を相互に結ぶことで、市全体が一つになるという、そういうシームレスなまちづくりを目指しております。

また、大きなくくりとしては、七城は農業、旭志は畜産、泗水は居住促進、菊池は観光といったそれぞれの地域特性を生かすようなまちづくりを行っていきたいというふうに考えております。

なお、将来的には、いわゆる中九州自動車道路というものの整備が間もなく始まると思いますし、空港の規模拡大によりまして、お客様の流れも大きく変わると。こうした周辺環境が大きく変化するということが十分に考えられますので、今後の環境の変化に応じて、弾力的に見直しを図ってまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　市長からも話がありましたように、空港、中九州道路、それともう一つは、旭志関係では、やはり川辺工業団地に旭志の市民の人たちは非常に期待をしているところでございます。そういう面で、川辺工業団地のそういう面での目配りもよろしくお願いしたいと思います。

次の質問で、空家対策について質問していきます。

よく空き家のことにつきましては、空き家が崩れかかっていて、通学路として危険な箇所があるとか、隣の家のほうに傾いているとか、そういう問題をよく聞くところでございますけれども、その空き家の親族といいますか、子どもさんとか、そういうのは遠くで暮らしていて、なかなか連絡がつかないと。非常にそういう話をよく聞きます。更地にするということの難しさもあるかと思いますけれども、将来的には空き家を何とかしなければならないということで、質問をしていきたいと思います。

まず、私は玉名市の老朽危険空家等除却促進事業という事業は聞いたことはありますが、他市の空家除却促進事業の状況はどのようになっているのか。また、本市、菊池市において空家除却補助はあるのかということと、菊池市における空き家の数をまずはお示しください。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　改めまして、皆様、おはようございます。水上隆光議員の質問にお答えいたします。

まず、他市の状況ということでございます。他市にも空家除却等に関する補助制度ということがあるのかということでございます。県内１４市で申し上げさせていただきますと、熊本市、山鹿市、玉名市、荒尾市、八代市、天草市、水俣市に同様の制度がございます。本市を含めまして、１４市のうち８市が空き家の除却等に関する補助制度を設置しているという状況でございます。

それから、本市にそういう補助金があるのかということで、今申し上げましたとおり、本市もございまして、本市につきましては、市民の安全、安心の確保及び住環境の改善を目的といたしまして、本年８月に菊池市空家等撤去補助金交付要綱を制定いたしております。

補助の概要といたしましては、危険空き家等の解体撤去工事に係る経費の２分の１、それから補助限度額につきましては５０万円としているところでございます。初年度に当たる本年度につきましては、２件分の予算１００万円のほうを計上させていただいたというところでございます。

周知につきましては、本年９月に、市内の全区長さんに空き家照会を依頼しました際に、本補助制度につきましてもご案内を申し上げたところでございます。今後も市の広報誌やホームページ等で十分周知のほうを図っていきたいと考えております。

最後に、本市の空き家の件数ということでございますが、平成２９年度に実施しました空家等実態調査というのを行っておりまして、その調査結果といたしましては、５８５戸という結果が出ているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　申しわけございません、訂正をお願いいたします。先ほど空き家の件数につきまして「５８５」と言いましたですか。済みません。申しわけございません。「５４８戸」が正確でございます。申しわけありません。おわびして、訂正いたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　５４８戸ということで、かなり多くの空き家というのがあるわ

けでございますけれども、そういう中で、菊池市は５０万円・２戸分、ことし初めてと思いますけども、やり出したということで、今、紹介がありました。

他市でもかなりやっているということで、他市の数字も出てきましたけれども、他市もやっているということでございますけれども、玉名市がかなり詳しくやっているということで、玉名市の老朽危険空家等除却促進事業と、本市の空家等撤去補助金、さっき部長がおっしゃられた１００万円の部分なんかも考えて、比較してみたいと思います。

まず、菊池市と玉名市ということで、４項目ほど比較をさせていただきたいと思います。まず、１番目が対象となる家屋、２番目が不良度判定はお互いの菊池市と玉名市でどうなるのか。それから、１件の補助金額、また、上限があれば、その上限額、それから、補助金の概要を執行部で比較していただきたいと思います。菊池市の金額が、今、２戸・１００万円という数字が出てきましたけれども、空き家の数からしても、空家対策を進めるためにも、増額すべきと思いますが、その辺のお考えもお聞きしたいと思います。

１１月の２３日の農業新聞で、国のほうで空き家売却に税優遇という記事も載っております。これは土地の有効活用促進にという意味合いで載っているところでございます。売却益に対して税負担を軽くしますよというふうな大綱も出ておりますので、この辺もお知らせしながら、先ほどの菊池市と玉名市の比較のほうと、この空家対策の増額のあたりの考えをお示しください。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　それでは、玉名市との比較ということで答弁させていただきます。

まず、玉名市も戸数ということで、平成２８年度に空家等実態調査を実施されておりまして、本市の３倍に当たる１，６５７戸が空き家ということで、結果が出ているということで、約３倍になります。

判断基準ということでございます。補助金の対象空き家であるかの判断は、国土交通省が公表しております住宅の不良度判定基準というのがございまして、１００点以上を対象にするということで、両市とも、この判定基準につきましては同じものを使っておりますので、ここについては変わりはございません。

それから、補助制度の概要ですが、先ほど水上議員に申し上げましたとおり、名称が玉名市老朽危険空家等除却促進事業補助金という名称になっておりまして、制度の目的や運用等につきましては、本市と同様ということになっております。補助率につきましては若干違いまして、除却費用の８割に３分の２を乗じた金額という

ことで、菊池市が２分の１というふうになっておりますので、若干違います。それから、限度額につきましては６０万円、菊池市が５０万ですので、そこも若干高くなっているというところでございます。本年度の予算につきましては、１２戸分を計上しているというところでございます。

あとは補助金の増額ということでございます。補助金の増額をということでございますが、今後も空き家は増加し続け、道路や近隣家屋等、生活環境に大きな影響を与えかねない現状ということで、その辺は十分認識しているところでございます。

しかしながら、本年は事業開始の初年度ということでございますので、しばらくは今後の申請等の実績や、他市の利用状況等につきましても情報収集をさせていただいて、その状況によって判断させていただくならと考えております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　今のところで、玉名市の６０万円が、上限が１２戸という理解でいいですかね。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　限度額６０万円で１２戸分を、今、予算を持っているということで、７２０万円が玉名市の今年度の予算というところでございます。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　玉名市、かなり頑張っておられますから、菊池市も何とか空き家をそういうふうに整理して、何とか有効に使うという意味で、市長にお尋ねしますけれども、街並みの整理または若者定住のためにもこの補助金の増額をし、若者定住のための宅地として向いているところを優先的にでもこの事業をやって、若者を引きつけるということを市長には考えていただきたいと思いますけれども、市長のお考えをお示しください。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　空家対策への考え方というご質問でございます。

空家対策は両面ございます。危険家屋の問題、それから有効活用の問題もございますが、まず、危険家屋につきましては、全国的に見ても大きな社会問題でありますので、景観を阻害するのみならず、安全・安心な生活も脅かしかねないということで、そういう現状にあるというふうに認識しております。

空き家は、本来、個人の財産でありますので、所有者等が適切に管理していく義務がございますけども、空き家の解体あるいは撤去には相当の費用を要しますので、本年度にその支援策として補助制度を設けたところであります。

今後は、これを活用いただくことで、危険空家対策を促進して、特に防犯、防災、衛生及び景観等の生活環境の保全に努めてまいりたいというふうに思っております。また、空き家の有効活用についても、定住支援室を通じて積極的に行っていきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　若者から見て、ああ、ここは宅地としていいところだなというようなところが多々あると思います、この菊池には。そういう面とマッチングをしてやっていただきたいと思います。

次に、有害鳥獣対策について質問していきます。

近年、イノシシ被害というものは、ここ１０年から２０年、延々と言われているところでございます。本定例会にも陳情にも上がっているように、一段と農作物被害または市街地への侵入が多く見られるようになりました。昨日のニュースでも、東京都足立区や埼玉県の富士見市でイノシシ捕獲がニュースとなっておりました。もう私は、いよいよ市、県、国を挙げて、有害鳥獣対策が必要不可欠となったものと認識しているところです。

そういう状況で、昨年１２月定例会で泉田議員がこの農家ハンターについて質問されておりますけど、再度、本市における農家ハンターの現状を、他市における農家ハンターはどうなっているのか、そういうものを含めてお尋ねしたいと思います。農家ハンターについてのご答弁をよろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　おはようございます。今、水上議員から農家ハンターのご質問が出ましたので、答弁させていただきたいと思います。

まず、農家ハンターといいますものは、農家がみずから有害鳥獣による野生動物からの被害防止対策をするために狩猟免許を取得されまして、有害鳥獣の捕獲を実施する民間の団体でございます。宇城市を拠点として、県内全域で活動されているというところでございます。

この組織についての取り組みを紹介させていただきますと、名称は「くまもと☆農家ハンター」ということで、こういう組織でございまして、２０１６年の７月か

ら活動を始められております。約１００名の若手農家、年齢は２５歳から４０歳までとされているようでございます。若手農家の方が主体となりまして、イノシシ被害を抜本的に解決するためにハンターを育成しながら、捕獲イノシシをジビエ肉や肥料等に活用する、捕獲から加工・流通までを見据えた循環型の地域事業の構築に向けた取り組みをされているというところでございます。現在、本市からも３名の方が加入されているというふうに聞いております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　ありがとうございました。

やはり有害鳥獣対策は、行政、猟友会頼みというのはこれまでの実情であったんですけども、もうこれは限界が来ていると思います。これからは農家、市民、銃器のほうは難しいですから、わな猟免許を取得し、農家みずからが動き出す時期に来ていると思います。本年度から菊池市においても狩猟免許の取得に対する補助金も出してますよという話でございましたので、そういう面では市も一歩前進していただいたと思います。

市議会におきましても、５名が取っておったんですけども、今年度、また１名が取っていただき、市議会でも６名の議員が免許を取得しております。この行政、猟友会頼みじゃなくて、農家、市民あたりが動き出すということに対する市のお考えをお示しいただくならと思います。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　水上議員の再質問にお答えします。

農家みずからが有害鳥獣の対策、市民も含めてというご質問だったと思います。

有害鳥獣対策の基本的な対策といたしましては、イノシシがよく出現します中山間地になると思いますけども、まず集落単位で潜み場をなくすこと、そして、餌となるものを放置しないこと、こういうものをやることによりまして、イノシシなどの野生鳥獣を寄せつけない、いわゆる餌づけストップ対策を進めることが重要だと考えております。

この対策を実施した後に、現在進めております電気牧柵やワイヤーメッシュ柵などの侵入防止柵を設置することで、効果は大幅に上がります。

このようなことから、本市といたしましても、農家が自力で行う対策が重要であるというふうに認識しておりまして、鳥獣対策の軸となるものと考えているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　ありがとうございました。

多くの人が防御するほうが、数少ない人が防御するよりも効果があるというのは見えていると思いますので、そういう面で何とかそういう防御の幅を広げていくならと思います。

次に、やはり有害鳥獣となると猟友会の活動が中心となるわけでございますけれども、私の友人が免許取得したけれども、銃を撃つのに、３年ぐらいは撃てないとかなんかいうことを悩んでおられましたので、その辺の深いところは私もわかりませんので、猟友会と有害鳥獣捕獲隊の違いは何なのか、また、狩猟免許を取って、すぐに有害鳥獣捕獲隊へ入隊できないのはなぜなのか、この辺をお尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　それでは、まず、有害鳥獣捕獲隊と猟友会の違いはというご質問にお答えさせていただきます。

猟友会は、狩猟免許を取得した方のうち、入会を希望された方々で組織されます狩猟者の一般社団法人となっております。狩猟免許取得者の多くの方が入会されているところでございます。

一方で、本市の有害鳥獣捕獲隊につきましては、猟友会に入会されている方のうち、狩猟の経験が豊富で、銃器の免許を取得している方で組織されているというところでございます。

また、免許取得後、すぐに捕獲隊への入隊ができないかというご質問でございますけれども、本市におけます有害鳥獣捕獲隊への入会につきましては、菊池市有害鳥獣捕獲協議会の総会において承認を受ける必要がございます。入会の条件でございますけれども、銃器の免許、これは１種及び２種となっております。これを取得していることが定められております。

また、熊本県の有害鳥獣捕獲実施要領におきまして、有害鳥獣捕獲に従事できる者の規定がございます。銃器による有害鳥獣捕獲を行う従事者は、従事する年度から過去５年以内に３年以上、狩猟捕獲に関する県の狩猟者登録を受け、有害鳥獣捕獲の趣旨を十分理解している者で、随時有害鳥獣捕獲に従事できる者であることとございます。この要領によりまして入会を認められているということで、やはり経験年数が多少要るというふうな形になっております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　今の話からいきますと、この最後の質問ですけども、猟期間、今が猟期間に入ってますけども、１１月から、ちょっと２月か３月かは忘れましたけれども、この今の時期の猟期間は捕獲隊に入ってなくても、１年目から銃器の捕獲ができると。この猟期内では銃器での捕獲ができるという認識でいいですよね。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　ただいまのご質問にお答えします。

狩猟免許を取得された方につきましては、取得した年度の猟期から、取得された免許の猟法、これは銃器もわなも一緒でございます。取得された免許の猟法での鳥獣の捕獲が可能になっております。

現在、猟期でございまして、先ほど議員も言われましたけども、３月１５日までは可能というところになっております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　何とかこのイノシシ問題、減らすほうに進むことを願っております。

次に、最後の質問ですけども、道路整備について質問します。

県道旭志鹿本線工事の進みぐあいは、進捗はどうかということでありますけれども、この県道旭志鹿本線というのは、今、旭志の伊坂のほうから国道３２５号が４車線になって、消防署のところまで４車線になるという工事が行われていますけれども、そのゴルフ練習場のところに出てくる森北工業団地の横を通っている、山からおりてくる県道になります。今は２車線の国道３２５号ですけども、これが４車線になれば、ましてうちのほうからも深川、菊之池、七城、山鹿あたりに通勤する人は、案外この道を今も通っておられます。非常に離合箇所もなく、狭い県道であります。そういうこともありますので、まずこの県道旭志鹿本線の工事の進みぐあいをご説明ください。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　それでは、県道旭志鹿本線の進捗状況ということでお答えいたしたいと思います。

県道旭志鹿本線についてでございますが、県管理となりますので、県北広域本部

土木部のほうに確認をいたしたところでございます。本年６月に地元説明会を開催いたしまして、境界立ち会い等の用地測量を実施したというところで、現在は用地交渉のほうを進められているという状況でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　用地交渉に入ったということで、進展を望むところでございますけれども、森北工業団地のところを旭志のほうからおりてきて、４車線ができれば、４車線に突き当たるわけでございますけれども、今は片側１車線の２車線ですら、大津に行くときはそのまま左折して、菊池のほうに行くときは車の合間を見て、車の間を縫って、その車が出ていくという状況をしていますけども、これが４車線になった場合に、計画でどうかわかりませんけども、信号となるのか、それとも、交通の合間を見て、今みたいに４車線であろうとも、すっと入って菊池のほうに行かなければならないのか、その辺の計画があるならば教えていただきたいと思いますけども。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　国道３２５号と県道旭志鹿本線の交差点につきまして、今後、どうなるかということでございます。

国道と県道の交差点につきましても、県のほうの管理になりますので、県北広域本部土木部のほうに確認をいたしております。信号機をつけるところで施工予定ということで回答をいただいているところでございます。

○議長（柁原賢一君）　水上隆光君。

［登壇］

○８番（水上隆光君）　終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、水上隆光君の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

休憩　午前１０時４８分

開議　午前１０時５７分

――――――――――――――――○――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　皆さん、おはようございます。田中教之です。

本日は、菊池一族プロモーション室と市内３高校魅力化推進について、現在の状況、そして、今後の取り組みについて、報告の質問と数点提案をさせていただきたいと考えております。

まず、菊池一族プロモーション室についてです。

この質問の趣旨は、本年度、新しくこの部署が立ち上がりまして、せっかくですので、今後、もっともっとさらに発展させるためには、どういうことを考えたらいいかというところの視点によって、質問したいと考えております。

本年度は、菊池武光公生誕７００周年記念事業が主な役割だったと思いますが、現時点でどのような成果が出ておりますか、具体的にお答えください。

つきましては、イベント等で情報発信の際、インスタグラムやツイッターなどと言われるソーシャルメディアでの告知等が見受けられました。そのときのいわゆる反応の数といいますか、ハッシュタグの数、ツイート数という、そういう受け取った方のリアクションがわかるような数値がわかれば、お答えください。また、来年度以降、新たに取り組まれる事業等があれば、お示しください。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　菊池一族プロモーション室のまずこれまでの取り組みと、まず成果についてということでお答えしたいと思います。

菊池一族プロモーション室は、ことし４月に創設され、菊池一族の歴史文化資源を活用し、市内の関係団体と連携しながら、市内外に向けてさまざまなプロモーション業務を行ってきております。

これまでの主な取り組みの実績としましては、熊本県立美術館でのＰＲのほか、博多祇園山笠や九州国立博物館、福岡市博物館と連携し、県内外で歴史ファンをターゲットに、一族と菊池市の魅力を発信してきております。特に、課題でありました若い世代の興味・関心を高めるため、イラストを活用したＰＲもあわせて行ってまいりました。

また、広報紙での連載や公民館講座、自治会や学校への出前講座など、市民向けの啓発も行ってまいりました。１０月には菊池武光公生誕７００周年記念ウイークとしまして、史跡めぐりや図書館脱出ゲーム、歴史講演会など、さまざまな催しを行い、県内外から全部のイベントをあわせまして約１，５００名の方にご参加をいただきました。

講演会の参加者の方に実施しましたアンケートでは約８割の方が、菊池一族の魅

力を家族や友人に伝えたくなったと回答されており、一族の魅力を伝える上で一定の成果があったものというふうに考えております。

なお、インターネット上では菊池一族や菊池武光をキーワードとした月別の検索数が、ことし３月は約５００件でしたが、徐々にふえてきておりまして、現在は約１，０００件となっております。さらに、ツイッターやインスタグラム、フェイスブックなど、ＳＮＳと呼ばれるインターネット上の交流サービスでも情報が拡散をされております。ツイッターにつきましては、昨年度の菊池一族に関する投稿記事数は月平均で５７件でしたが、本年度は月平均で１１９件の記事が投稿されておりまして、少しずつ認知度が高まってきているというふうに感じております。

さらに、１０月には、菊池武光公とゆかりの深い福岡県内の５自治体、久留米市、八女市、小郡市、うきは市、大刀洗町と連携し、南北朝・菊池一族歴史街道推進連絡協議会を設置いたしました。各自治体の地域資源を結びつけ、ヒト・モノ・コトの循環を促しながら、広域による地域活性化につなげたいと考えております。

それから、今後の取り組みについてということですけれども、今後は、今申しました南北朝・菊池一族歴史街道推進連絡協議会がスタートしましたので、行政間の連携・企画を進めるとともに、民間レベルの交流を促進したいと考えております。

また、来年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、訪日外国人の増加が予想されますので、本市への誘客を図るための外国人向けの情報発信や、体験型観光の商品化に向けた取り組みを行いたいと考えております。

さらに、市外に住んでおられる菊池市出身の方や、全国のきくちさん、歴史ファンなど、菊池にゆかりある人たちと継続的なつながりをつくることを目的としたファンクラブのような仕組みをつくり、本市を継続的に支援していただけるような関係人口の創出・拡大を図りたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　お答えいただきました。

済みません、インスタグラムのハッシュタグの数等は調べていただいてますでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　済みません、その部分も質問のほうでいただいてたんですが、そこの分について、ちょっと把握はできないということで、申しわけございません。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　ありがとうございました。

まず、成果のほうですが、やはりまずもって、やっぱり７００周年記念事業とこの周年事業、やっぱりできればカウントダウンをもうちょっと２年前とか、せめて２年前ぐらいからやっていただくほうがいいのかなと。ちょっと１年ぐらいだと、あんまりそういう機運が盛り上がるのが遅かったのじゃないかなと思います。そこはちょっと残念な気がします。

先に、ちょっとソーシャルメディアの数値について感じたことが、検索数が月１，０００件にふえたというところは、まあいいかなと思っております。ただ、ちょっとやっぱりインスタグラムやツイッター等の拡散なり広がり、そこの数字にはもうちょっと、できれば同じぐらい、月１，０００件ぐらい、リツイートなりあるといいのかなと。

私のほうでちょっと調べたところ、菊池市の公式のアカウントだったり、観光協会のアカウントだったりを見ていますと、美術館とか博物館の場合は、がっとトレンドとして上がっているふうな機運がありました。リツイート数も大体五、六件が平均ぐらいなんですけど、２０数件前後に、４倍ぐらい上がるような動きがあったように思います。

このように、ホームページのアクセス数やメールでの問い合わせ数とか、やっぱり今回の７００周年記念事業だけじゃなくて、デジタルメディアというのは、どうしてもはっきり数字があらわれます。なので、今後、今回は７００周年事業についての成果というところで検証してほしかったんですが、全庁的に、例えばこの事業は市民に広く周知するとか、対外向けに発信するとかという、そういう事業の目的がある場合は、やはりできればこういうふうなデジタルメディアの数値目標も掲げていただいて、そうすると非常に検証しやすいなというふうに思っております。予算案をつくる時点でとなると、どのように発信していくのかという具体的な戦略、紙とか、ファクスとか、そういう媒体も必要ですし、ただ、それと同じように、アンケートを集めたり、そういう紙媒体も必要ですが、あわせてデジタル媒体も、数値目標もしっかり掲げていきたいと思っております。

成果の中で、とりわけ福岡の自治体と関係ができたのは本当によかったなと思っております。特に福岡県は、もともと複数の自治体に菊池一族は身近に感じられる方が少なからずいらっしゃいまして、福岡市の七隈とか菊池公園とかがございますし、大刀洗には菊池小学校というところで、菊池は残っているところもありますので、この方が１，５００名ですか、この期間、バスツアーとかで、あと菊まつりの

ほうにも福岡の方が結構いらっしゃったなというふうに感じております。

あと、ちょっと余談といいますか、これも結構影響したかなと思うんですが、元寇を題材にした、アンゴルモア元寇合戦記という漫画がございまして、それがちょうどことしの７月ぐらい、アニメ化されて放映されております。これは元寇を舞台にした漫画・アニメなんですが、現在、アニメのほうは津島編という、元が攻めてくるのは津島のほうで終わってしまってるんですけど、現在、漫画のほうでは博多編というところで、今、ずっと連載ありまして、ちょうど菊池武房公とか、弟の赤星有隆公がちょうど主役として、赤坂の戦いをずっとやっているシーンがございます。その中でも日本一の武将というふうなせりふが周囲から上げられまして、それに対してのツイート発信が菊池一族に対して非常に出ていたので、いいタイミングだったなというふうに思っております。

あと、今後についてなんですけど、今おっしゃったとおり、ファンクラブのようなものをということだったので、菊池市には中世だけでなくて、やっぱり近世だったり、現代も含めて、いわゆる偉人と言われる方がいらっしゃいます。とりわけ近世においては、木下家及び渋江家とか、菊池の教育にかかわった方、多くの歴史上の偉人がいらっしゃいますので、その方を、顕彰会をぜひ発足をさせていただいて、将来的には菊池課といいますか、室ではなくて、課として、市全庁全体で菊池の歴史や、先ほどあったファンクラブの事務局を担うような部署ができないかなと思っております。

また、菊池一族プロモーション室は、提案としてほかの部署を横断的にまとめるような室にならないかなと思ってまして、今後ですね。あくまでも一つの例ですが、先日の菊まつりに中学生が歴史ガイドということで、観光客に袖ヶ浦の別れとか、その辺のガイドを一生懸命やっておりました。こういう取り組みをできれば中高生にもっと担わせてというか、やってみようというふうに持ちかけて、特に外国人向けに英語の翻訳だったり通訳だったり、あるいは中高生はＩＴ系が得意ですので、それをデジタル化してＷＥＢ上にアップすることによって、二次元バーコードで読み取れば、外国人の方でもスマートフォンを通じて英語のガイドが受けれると、紹介を受けれると。そういうようなことを、もちろん日本語と英語で通訳だったり、日本語でしっかり日本人のお客様をもてなすというのも大事なんですけど、そういう教育と観光をつなげるようなところも菊池一族プロモーション室が担っていければなと思いまして、２回目の質問なんですけども、今後、そういうふうに菊池課というような部門をつくる予定があるのか、また、部署を横断するような動きをする予定があるのか、観光とか教育面を申しましたけど、あくまで方向性として政策企画部長にお答えいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　済みません、そこの今後の取り組みについてということで、こちらで通告いただいた分は中身のほうというふうに認識しておりましたので、組織のことについては、済みません、ちょっと私のほうではお答えかねます。申しわけございません。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　田中議員のご質問の組織の件ですけども、組織については、必要に応じ、今後、検討するところでございますけども、今のところ、菊池課とか、そういったところの考えはございません。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　菊池課というのは、ある程度、あくまでアイデアでございまして、さっき言ったように、偉人の顕彰をする部門とか、現行のきくちさんのファンクラブ事務局みたいなところはどうでしょう。そういった方向性というのは、今後、考えられますでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　組織については、必要に応じ、検討していきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　組織のことですが、今後、菊池一族プロモーション室として、私が提案いたした２点については、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

では、済みません、次の質問に移ります。

市内３高校魅力化推進についてお聞きしたいと思います。

この質問は、市内３校の魅力を高めるために、市民参画での留学支援ができないかというところの趣旨でございます。

菊池市は、総合計画の中で、市内３高校との連携ということを明記されております。さらに、３高校の魅力化を推進するというために、いろいろな取り組みがされております。そして、もともとあった事業から、今回、４月に菊池市３高校魅力化推進事業と。補助金も４月から設けられたとお伺いしております。

具体的に、この魅力化推進の補助金について、まず最初に、どのような実績があ

るのか、また、交付要綱には菊池市３高校魅力化実行委員会というところが記載されておりますが、構成員をあわせてお示しください。

加えて、３高校は、県立２校と私立１校で、本来であれば市が管轄するところではないんですが、留学生の留学というのは高校の魅力化の一つとして、市が支援する取り組む予定があるか、お答えください。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　改めまして、おはようございます。それでは、田中議員の菊池市３高校魅力化推進事業についてお答えをさせていただきます。

まず、菊池市３高校魅力化推進事業補助金の実績及び実行委員会の構成メンバーはということでございますが、菊池市３高校魅力化推進事業補助金につきましては、ことし４月に、議員おっしゃいましたとおり、要綱のほうの改正を行っております。以前は教育支援ネットワーク事業補助金として実施していたものを廃止しまして、菊池市３高校魅力化推進事業補助金を新たに制定いたしたところでございます。

このことは、平成３０年度以前は、教育支援ネットワーク事業補助金として、３高校に同様の補助金を交付しておりましたので、こちらの実績のほうを報告させていただきます。

平成２８年度から平成３０年度までの３年間の市補助金は、各年度６０万円で、実績につきましては、平成２８年度が３１万５，３７４円、平成２９年度が４０万４，６５１円、平成３０年度が２４万１，０１４円となっております。

教育支援ネットワーク事業の目的につきましては、新たな小・中・高連携の取り組みを充実させ、菊池市の小中学生の学力向上に寄与するために交付いたしております。平成３０年度の実績としましては、３高校合同共同発表会（ハイスクールフェスティバル）や菊池農業高校による中学校への花壇づくり、小学生の農業体験の支援に支出されております。そのほかにも、ＡＬＴ派遣事業、農福連携事業などの高校魅力化事業も実施しております。

次に、菊池市３高校魅力化推進協議会の構成員につきましては、市長、政策企画部長、３高校の校長、それから３高校の同窓会や後援会代表、教育長、教育部長、市内５中学校長、市内５中学校ＰＴＡ代表、市内小学校長代表となっております。

それから、最後にお尋ねがありました高校生の海外留学を支援することはできないかということでございますが、高校生の海外留学に対しまして、市が直接支援を行う予定は、今のところ、考えておりません。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　構成員については、わかりました。承知しました。

実績のほうで、たしか平成２４年から菊池高校の拓志館のほうにも、高校生が中学生に勉強を教えるという事例があったと思いますが、それとは今回のこの事業は関係ありませんか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、教育支援ネットワーク事業補助金というのをやっておりまして、その中では、議員、今おっしゃいました拓志館での勉強会というのも、その事業の中でやっておったところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　なぜ質問したかというと、当時、非常にいい取り組みだなと思った記憶がございまして、高校生が夏休みでしたか、中学生に勉強を教えるというところで、さまざまな諸事情があったと思いますが、なぜ今はやってられないのかという、そういうのは、中止になった要因があれば教えていただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、菊池高校の生徒さん方が中学校のほうで教えて、菊池高校の先生方も一緒に教えられたということで、それは菊池高校への進学をなるべくしていただきたいという意図からでございましたけども、残念ながら、その事業をやっておりますけども、菊池高校への進学の方がいらっしゃらないといったことが続きましたので、高校のほうから事業のほうを取りやめたいということで申し出があったところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　承知しました。

今回、なぜ県立高校、私立高校に市がやるかというところで、留学を市が支援すべきかというところで提案させていただいたのは、実際、中学校、高校という連携が、留学によって結びつきが強くならないかなというところがあります。

具体的に申しますと、まず高校生が留学する、意義ですよね。その点は皆さんも大体ご理解いただいておりますけど、やっぱりなるべく、まず母国語がしっかりし

た状態で、なるべく早くやっぱり海外へ行って、長期的な生活をしたほうが、圧倒的に語学の吸収は早いというところが挙げられます。大抵高校１年生の夏から１年間行くケースが多いんですが、やはり大学生になってから途中で行くよりも、はるかに語学の習得スピードは、私の周囲の方を見てても、やっぱり速いと思いました。

私自身は、高校生のときに行ってませんが、高校の同級生が１年間行って、帰ってくると、全然もう違うような形であったと思いますので、まず高校生の留学をふやすべきだというところは、私のその一つの考えでございます。

大学の場合は、どうしても最初、語学研修から始まりますので、そこで日本人同士が固まって、どうしても日本語をしゃべってしまうというケースが多いですが、高校生だと、１校について、大体日本人１人という形で、あとホームステイになりますので、日本語が通じない環境というところで、非常にハングリーさが出てくると思います。

あともう１点ですが、今、国やほかの市町村も、県立高校とか私立高校の留学を支援しようという動きがあります。文科省が推進している「トビタテ！留学ＪＡＰＡＮ日本代表プログラム」というものがございます。これは大学生、高校生を対象として、その「トビタテ！ＪＡＰＡＮ」というところが企業から寄附金を集めまして、日本代表というように選定しまして、返済不要型の奨学金を留学支援として提供すると。これは国がやっているものがございます。

大学生については、熊本県、県庁も熊本県内の大学生に対して、この「トビタテ！留学ＪＡＰＡＮ」についての説明をやられてますが、高校生に対しては、熊本県は行っておりません。

また、市町村がふるさと納税を使った留学支援をやっております。具体的な例として、長野県の白馬村ですか、白馬村のほうは、そこは県立高校の白馬高校というところに対して、そもそも高校が１校しかないというところで、地域の人材を育てる高校をしっかり応援しようという、これはもともと土壌としてあったと。スキー場として有名ですので、国際観光科というところをつくりまして、実際、ホテルとかにも研修に行くと。その中で、外国人の対応というところで、英語の公営塾をつくったり、山のほうなので、そういった教育寮みたいなのも設置されていると。そこはそういう土壌があったというところなので、すぐに菊池市が当てはまると思いませんが、そういうとこがふるさと納税を募って、白馬村出身の方、また、白馬村に訪れたファンの方から、それはクラウドファンディング方式なんですけど、４００万円という目標を掲げて、４００万円集まったというところで、それで留学を支援しているという土壌がございます。

ですので、菊池市もこのような高校生が留学する意義と、ほかの自治体、国もや

っているという現状を含めて、こういった留学生のふるさと納税を使った取り組みをする予定はございませんでしょうか、お聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまの質問に入ります前に、先ほどの答弁の中で、拓志館事業がなくなった理由といたしまして、菊高への就学希望者がいないというふうにお答えしましたが、いないではなくて、少ないというところでございます。訂正して、おわびを申し上げます。

それから、ただいまの件でございますけども、現在、高校魅力化につきましては、３高校の魅力はさまざまであることから、それぞれの特色を生かすため、学校ごとに打ち合わせ等も始めておるところでございます。

魅力化の主体は高校でありますので、まずは高校の目指す姿は何なのか、その目標に向かっていくために、高校はどんなことを行うのか、高校の目指す姿を支援するために、市を初め地域住民、それから企業等は何ができるのか、個別に話し合いを始めたところでございます。

田中議員よりご提案がありました、ふるさとチョイスを利用したクラウドファンディング等につきましては、興味深い提案だと感じております。ふるさと納税の活用の一つとして、各高校の意見を聞きながら、検討してまいりたいと思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　今、どうしても物のふるさと納税ということがやっぱりＰＲされがちというか、注目されがちなんですが、長崎県の平戸市は、同じようにふるさと納税で高校生の留学をというところでＰＲされております。そのように、人材育成だったり、まち全体の発展というところで、物のリターンを求めるんじゃなくて、ぜひ子どもたちに使ってほしいとか、その地域に住んでいる、使ってほしいというふるさと納税も、意外とふえているんだなと思っております。特に企業版のふるさと納税というのは、この子どもたちへというところの募集のほうが、物よりも広がっているようにも感じております。ですので、ぜひ、これは一つの菊池のファンの方にお願いして、菊池の子どもたちをというところで強くアピールすると、一つの方向性は見えるのかなと思っております。

この魅力化の補助金の内容で出てきましたハイスクールフェスティバル、こういうのを留学支援の一つに活用できないかなと思って、前段階で質問を進めてまいり

ました。というのは、菊池市が３校の高校生に支援するとなれば、菊池らしい留学をやるべきだと思っております。まず、事前に菊池市のことを知ってもらうと、留学に行く前に。なぜかといいますと、私も経験ありますが、海外へ行くと、必ず日本ってどんなところだというふうに聞かれます。日本ってこういうことだよと。なかなか最初は答えれずに、日本のこと何も知らなかったなと思います。気づかされます。次に、あなたのふるさとはどういうところだというふうに必ず聞かれます。そこで、やっぱり、ああ、自分のふるさとってどういうところなんだなというところがあって、かえって、海外に行くと、離れてしまうんですが、だんだんふるさとのことを思い出すというところで、帰ったらこういうことをしたいなというような思いが募るってくるのが、一つのその考えというか、人の成長の過程に必要なことだと思っております。

そういった企業とか、例えばアメリカに行くんだったら、アメリカへ行った人がこういうところだよと。事前に危険なところはこういうところだとか、こういうところは行ったほうがいいよとか、事前研修を企業や市民の方と一緒に、留学が決まったら行っていくと。留学中はテレビ会議とか使って、中高生、小学生に向けて、こういうことをやっていますよというふうに発信していくと。最後に、帰ってきて、今度はそのハイスクールフェスティバルはいいですし、中学生に向けて、菊池の３高校に行けば、こういう留学経験できると。英語が得意な人もしくは海外に行ってみたい人という方に向けてのＰＲですね。中学の段階から留学という選択肢の一つが考えられると。こういう先輩がいる高校に行ってみたいなというふうになると。こういう何か一連の流れを支援としてパッケージで考えた留学支援をできないかなと思っているんですよね。ですから、単に高校生１人、２人がそういう個人の英語、語学力向上だけではなくて、ひいては地域の再認識といいますか、地域の方がいろいろ教えて、戻ってきてどうだった、菊池市をこういうふうにアピールしたとかできるような、一つの社会教育だったり、生涯教育につながると思うんですよね。

先ほど、１点目の質問で申したとおり、観光分野のガイドブックだったり、案内を中高生がやると。英語の翻訳や通訳をこういった留学経験者がやって来て、祭りで活躍するとか、いろんなイベントで活躍するとかということも考えられます。

ちょっと長々話しましたが、教育長、やっぱり菊池市全体で留学を支援することによって、高校の魅力化、ひいては小中学生の外国及び英語教育につながると考えておりますが、この方向性についてどのようにお考えか、お示しください。

○議長（柁原賢一君）　教育長、渡邉和博君。

［登壇］

○教育長（渡邉和博君）　それでは、皆様、おはようございます。ただいまの田中議員

のご質問にお答えいたします。

高校魅力化事業の目的は、市内にある３高校に入学希望者がふえて、それぞれの特色や強みを生かした魅力づくりを支援していくことだというふうに考えております。

この取り組みによりまして、３高校が今後も存続し続け、高校生が菊池に集うことが、ひいては地域の活性化にもつながる非常に重要な施策であるというふうに考えております。

ただいま田中議員に紹介いただきました留学支援と、それから３高校の魅力化を結びつけるようなお話や、あるいは、観光、教育を結びつけるというふうな例を出していただきましたけども、これらについては参考にしていきたいなというふうに思ったところでございます。

ただ、教育部長も答弁いたしましたが、魅力づくりの主体が高校でありまして、熊本県ということになります。現在、熊本県教育委員会においても、高校活性化推進事業を今年度スタートさせておりまして、そういう県の動きにも注目しながら、高校側のご意見を伺い、菊池市を初め地域住民、それから、先ほどご紹介もありました企業等が何ができるのか、しっかり話し合いながら実践してまいりたいというふうに考えます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　田中教之君。

［登壇］

○１番（田中教之君）　これは菊池市全体として、一つの留学を切り口とした菊池市全体で地域を再認識する取り組みだと思いますので、ぜひ前向きに考えてもらいたいと思います。

以上、終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、田中教之君の質問を終わります。

ここで昼食等のため、暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

休憩　午前１１時３６分

開議　午後　１時００分

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　こんにちは。私は、農業の振興と発展、福祉の充実、教育の充実を柱に、議員としての意識を高め、また、議員としての資質を向上させることを旨とし、市民の皆様の絶対幸福のために頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして一般質問のほうをさせていただきます。

まず、中山間地域についてお尋ねをいたします。

上流域の発展なくして下流域の繁栄なしと言われますが、私は、中山間地域の発展なくして平たん地域の繁栄はないと考えます。５５％を森林が占める本市にとっても、中山間地域の発展は必要不可欠であり、重要課題の一つだと考えます。

本年、認定農業者の会の総会の席で、中山間と言われている地域で農業をされておられる方とお話をする機会がございました。その中で、おたくの地域はどんな状況でしょうかとお尋ねをしましたところ、もうどぎゃんもならんばいたと。人間も減ってしもうてということをお答えになり、さらに、もう今から何ばしたってもう遅かろうとつけ加えられました。そのようなお答えに、また、お考えに大変驚きましたし、また、早急に対策を講ずべきだと思い知らされました。

そこで、中山間地域の農業についてお尋ねをいたします。

農地を維持していくために、中山間地域等直接支払制度というものがありますが、この制度は、まさしく中山間地域の集落や農地の維持にとって不可欠な制度であると思います。しかしながら、全国的に見てみますと、この制度への不安を感じる農家がふえているという実態があります。それは、この制度が農地を維持するための活動を集落協定というもので定め、さらに、５年以上継続して取り組む農家や集落に対し、その面積に応じて交付金を支払うという制度であり、この制度条件にあります５年以上継続して取り組んでいけるかどうか、この５年間の継続ができなければ、交付金の返還ということになります。本市においても、そのような不安を感じている方も当然おられると思いますが、この集落協定の現状と課題があれば、お答えください。

あわせて、これから中山間地域の発展のためには、本市独自の支援体制も必要ではないでしょうか。あわせてお答えください。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　それでは、緒方議員の質問にお答えします。

まず、中山間地域の問題の中で、集落協定についてお尋ねをされておりますので、集落協定について、菊池市の現状、課題をご説明させていただきます。

本市では、平成１２年度から中山間地域等直接支払事業に取り組んでおりまして、

現在は平成２７年から令和元年までの第４期対策として活動がなされております。

集落協定数につきましては、第１期対策が８５協定、第２期対策が８７協定、第３期対策が８６協定、そして現在の第４期対策は８４協定となっており、最も多かった第２期対策と現在の協定数を比較しますと、３協定が減少しているというところでございます。

内訳は、新たに組織された協定が２協定、統合により減少した協定が２協定、取り組みを辞退された協定が３協定ございます。

取り組みを辞退された３協定につきましては、高齢化などによりまして農業の担い手不足や協定の核となる人材の不足が課題となって、取り組みを辞退されたというふうになっております。

本市といたしましても、中山間地域における高齢化や過疎化を背景とした人員・人材不足を課題として捉えております。引き続き、将来の地域農業の主体となる人材の育成・確保に取り組むとともに、地域の維持・活性化に資する多様な人材を取り込む必要があるというふうに考えているところでございます。

現在のところ、この制度を実施しておりまして、中山間地の支援策としては、中山間地の直接支払等、これが円滑にいくような形で応援しているというところで対策を練っているところでございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　集落協定については、協定数において最も多かった時期からすると３協定、わずかな減少ということでございますけれども、これから、やはり減少の傾向にあるものと私は考えます。

また、取り組みを辞退された三つの協定においては、高齢化であったり、担い手不足ということで、やはり人材不足があるということですので、今の本市においては独自の支援体制はないということでございましたけれども、ここで、中山間地域の支援体制としてご紹介したいものがございます。

これは１０月に福岡県庁のほうで開催されておりました中山間の魅力役割発信というイベントに行ったときに目にとまったものでありますけれども、「地域を守れ伝統を守れ 未来を守れ」のキャッチフレーズのもとに、このように中山間応援サポーター募集というパンフレットがございました。これは魅力あふれる中山間地域を県民みんなで支えるために、中山間地域でのさまざまな活動にボランティアでの参加を要請するものでした。

主な内容としては、草刈り、用水路の清掃等の環境保全活動、植栽・下草刈り等

の森林保全活動、伝統・芸能の実施サポート、集落の祭りや地域行事の運営補助、その他、中山間地域の集落等の維持・活性化を図る上で必要な活動としてあります。

先ほどお答えになりましたように、本市独自の施策は行われていないということでございますけれども、県として支援事業があるとも思いますし、しかしながら、やはり一番近いところにおり、私たちの地域性がわかる本市独自の支援というものも考えていくべきだと思います。

私は、国が進める大規模化や個人化は必要なものと思いますけれども、中山間地域等に圧倒的に多い小規模農家や家族農家をどう維持するかは喫緊の課題だと考えます。また、農業は、食料政策だけでなく、空気や水、土地といった環境や地域の問題でもあります。したがって、中山間地域の発展は、これから本市にとっても必要不可欠なものになってくると考えます。

そこで、この中山間地域を包括的に支援していく部署、例えば仮称ではありますが、中山間地域支援課というものをつくってみてはどうでしょうか。今現在、大変苦労してつくっておられる、作成しておられる中山間地域直接支払事業における協定書、これらの作成であったり、前回お尋ねしました農泊の推進であったり、また、耕作放棄地の問題であったりと、多岐にわたりいろんな支援を包括的にしていく課です。

きょうの熊日新聞の１面の県政点検が、農業という課題で記載してありました。その最後に、農業法人の会長の木之内均東海大学経営学部長が、体力のなくなっている山地を長期的に支えるには、個別の対策だけではなく、横串的な施策が必要だと注文をつけたと掲載してありました。

このようなことからも、ぜひ前向きに検討していただくよう提案して、次の質問にまいります。

次に、クリーンセンター花房建設に伴う花房地区からの要望についてお尋ねをいたします。

平成１５年の花房クリーンセンター建設に伴い、花房校区より１１項目の要望があったものですが、既に１７年という年月を経過している中で、まだ未達成のものがあると思いますが、その項目についてお答えください。

お答えいただく中で、私が認識しておりますものは、花房坂周辺公園整備と花房小学校周辺の駐車場整備の二つの項目が未達成というふうに考えております。花房坂周辺公園整備については、先月の月例会において、進捗状況についての説明はお受けしましたが、この２項目について、再度、進捗状況をお答えください。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　それでは、緒方議員の質問のほうにお答えしたいと思います。

緒方議員さんおっしゃるとおり、平成１５年に、旧菊池市、花房地域振興対策協議会、花房校区区長、菊池広域行政事務組合におきまして、クリーンセンター花房の建設に関して１１項目の同意書が締結されております。言われるとおり、そのうち、花房坂周辺の公園整備と花房小学校隣接地における駐車場整備の２項目がまだ未達成ということでございます。

私のほうからは、花房坂周辺公園の進捗状況について答弁させていただきます。

花房坂周辺公園の整備につきましては、地元との協議を重ね、整備場所の確定を行いまして、平成３０年１２月から測量設計業務に着手いたしまして、平成３１年２月には地元にてワークショップを行いながら、整備方針をまとめているところでございましたが、ご承知のように、整備計画についてのご指摘等がございまして、一時事業を中断していたという状況がございました。

その後、令和元年９月に地元花房地域振興対策協議会及び花房校区区長様方の連名によりまして要望書のほうが提出されましたので、１０月の議会の月例会におきまして状況の報告等をさせていただいたところでございます。その後、現地調査に入っているという状況でございます。その後に、また１１月になりまして、花房校区の現区長さん及び前任の区長さん方に出席いただきまして、意見交換等を行いながら、今後の進捗等について話をしたところでございます。今後は、地元と協議を進めながら、事業計画の合意形成に努めるというところに進んでいくというところでございます。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、私のほうからは、駐車場整備に関する進捗状況についてお答えをさせていただきます。

現在、地元が希望されています候補地には地権者が２３名おられますので、農地転用を行い、駐車場として賃借させていただくことが可能であるか、交渉を進めている状況でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　花房坂周辺公園整備については、私もワークショップへ参加したりしながら携わってきました。この事業については、お伝えしたいこと、意見等

もございますが、それはまたの機会にいたしまして、校区の方々からまだまだ要望されることが多くあると思います。また、そのような機会もこれからつくってこられるということです。その都度、しっかりと検討していただき、地元の方々はもちろん、菊池平野を一望できるような、市民の皆さんに愛される公園整備をしていただきたいと思っております。

また、花房小学校周辺の駐車場整備については、２３名の地権者がおられるということで、なかなか厳しい状況になっていると思いますけれども、これも１７年という長い年月かかっていることによりますマイナス要因であると考えられます。

この未達成の２項目については、さきにも述べましたように、要望から１７年も経過している状況です。地元の方々も首を長くして待っておられますことから、最優先課題としていくべきものと考えます。

ここで、改めて強く要望して、次の質問にまいります。

次に、地域包括支援体制についてお尋ねをいたします。

この地域包括支援体制については、前回お尋ねをさせていただきました。大変広範囲にわたるものであり、これからの地域づくりの基礎となるべきものであるということは、皆さんもご理解されていると思いますが、今回は、地域包括ケアシステムにおける人材育成と、その人材の確保について、お尋ねをいたします。

近年、どの分野におきましても、後継者やその体制等を維持していくための人材の確保は大変大きな問題となっております。そのような中、本年１０月２１日、厚生労働省は看護職員、内訳としまして、看護師、准看護師、保健師、助産師が、２０２５年に約６万人から２７万人不足するとの推計を発表しております。２０２５年といいますと、１９４７年から４９年に生まれた、いわゆる団塊の世代全員が７５歳以上の後期高齢者となり、医療や介護などの社会保障費が急増するとされております。

このようなことから、特に、今後、需要が大きく高まると見られる訪問介護や、介護の分野ではその負担の重さなどから離職者が多いために、全国的な不足が課題になると分析しております。幸い本県においては、看護職員は過剰との見込みが出ておりますが、これから医療費、介護費を抑制していくことからも、住みなれた地域で暮らす高齢者の方々に、医療や介護、生活支援で一体的なサービスを提供する地域包括ケアシステムの構築は重要な課題の一つと考えます。

そこで、本市における地域包括支援センター職員の方たちの人材の育成と人材確保についての現況と、これからのお考えをお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　改めまして、皆様、こんにちは。緒方議員からの地域包括支援センター職員の人材育成と確保についてのご質問にお答えいたします。

本市の地域包括支援センター職員の人材育成としましては、研修会への参加や経験のある職員からの助言、スタッフミーティングの実施等によりまして、職員のスキルアップや育成をしております。

次に、人材確保につきましては、ハローワークに募集をかけても応募がない状態が続いておりまして、現在、嘱託職員の保健師１名、介護支援専門員２名が不足している状況でございます。

今後も引き続きまして、ハローワーク等を通じて募集を続けてまいりたいと思います。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　人材の育成に関しましては、研修会の参加等でしっかりとされているというお答えでしたけれども、確保については、ちょっと難しい部分が少し出てきているのかなと思います。不足する分に関しましては、ほかの職員の方々への負担増にもなっていると思いますので、早目にしっかりとした人材確保をされることをお願いいたします。そのときの状況に合わせたしっかりとした対応をしていただくことで、地域包括ケアシステムの構築も早まるものと思いますので、よろしくお願いをいたします。

そこで、関連してお尋ねをいたします。

前回、この地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みとして、元気な高齢者を目指す目的で、いきいき１００歳体操などを行われていることをお聞きいたしました。大変よい実践の一つだとも思います。

しかしながら、私の知り合いとの話の中で、いきいき１００歳体操など行われていることはわかっているけれども、なかなかそこへ行くまでがおっくうになって、行っていないということでございました。また、つけ加えて、行ったときにはもう本当に楽しいということもお話しくださいました。

そこで、このいきいき１００歳体操などへ参加していただくための後押しといいますか、啓発活動はどのような体制で行われているのか、お答えください。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　いきいき１００歳体操を行う通いの場は、令和元年１１月末現在、８０団体が取り組まれておりまして、１，３００人以上の方が参

加されております。

体操の効果とあわせまして、毎週、顔を合わせてお話ができるなど交流を楽しみに参加されています。

緒方議員がおっしゃいますように、関心はあるが、一人では参加しづらいなど、最初の一歩を踏み出すのに少し抵抗のある方がおられる場合には、初めて参加される際に、地域包括支援センターの職員が同行することもございます。

また、同じ地域の参加者が声かけをして誘っていただいたり、老人クラブの会員であるシルバーヘルパーさんが閉じこもりがちな高齢者をいきいき１００歳体操に誘われるなどの活動をされているところもございます。

これからも、地域包括支援ケアシステムを強化していくために、地域の力を引き出し、高齢者の社会参加など、役割を持って活動ができるよう支援してまいります。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　市として、８０団体１，３００名と、たくさんの方が参加をされているということでございましたけれども、市としては、この制度自体が地域の方々が主体であるということであると思います。そこに対しましての、市としては橋渡し的な存在であったり、きっかけづくりのお手伝いということだと理解しましたけれども、そうでありますならば、なお一層、地域の方々と密に接しながら、より多くの参加が得られるような工夫も大切になってくるのではないかと考えます。この地域包括支援制度は地域づくりの基礎となるものと思っておりますので、今後も他の部署との連携も大切にしながら、制度を構築されることを要望して、次にまいります。

次に、災害時における避難所についてお尋ねをいたします。

近年、異常気象等により、全国的に大規模な災害が発生しております。大雨・長雨による土砂崩れ、河川堤防の越水・決壊による濁流被害、また、強さ、大きさともに最大となってきた台風被害、ともに私たちの想像を超えるものとなっております。気象庁は、自分の命を守る行動をとるようにとの見解をするようになりました。

そこで、何か災害が発生した場合、また、発生が予測される際には、避難所を開設するわけですが、まずは、私が考えます短期避難所、例えば１日か２日ほど設置をされる避難所と、長期にわたる避難所との違いがあると私は思うのですが、この二つにおける定義みたいなものがあれば、お答えください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　それでは、緒方議員の質問のほうにお答えします。

本市の避難対策としましては、災害が発生し、または発生のおそれがある場合に際し、その危険から逃れるための避難場所、これは一時的なとか短期的な避難の場所として、指定緊急避難場所というところを指定しております。

また、そのうち、災害の危険性があり、避難した住民等や、災害により家に戻れなくなった住民等が滞在させるための施設、こちらは長期的な避難の場所ですけども、こちらを指定避難所として、菊池市地域防災計画において指定しております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　今のお答えによりますと、私の思っておる避難所というものに対しては、短期、長期の区別はなく、一律に指定避難所ということの理解ということでいいと思いますが、日数的に、そこで、１点目に、近年、１日もしくは２日ほどの避難所の開設になりますけども、そのような避難所の開設、年間に何回ほどあって、どれくらいの方が利用されたのかということ。

また、２点目に、熊本地震の際には多くの方が長期にわたり避難所生活を余儀なくされたわけですが、地震発生後に多くの自治体などから支援物資が届きました。その支援物資は、地震、震災が発生してから何日後に届き始めたのか、また、その支援物資が私たちの必要とする品物であったのか、また、その調達ぐあい、その辺、把握されておればお答えください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　それでは、緒方議員の再質問のほうにお答えいたします。

再質問にお答えする前に、先ほどの指定緊急避難場所、短期的な避難場所と長期的な避難場所というところの箇所数まで、あわせてお伝えしたいと思います。

まず、一時的、短期的な避難場所として、指定緊急避難場所を５２カ所設置しております。また、そのうち、長期的な避難場所、指定避難場所として４０カ所のほうを指定しております。

次に、ことしの避難所の開設状況はということでございますけども、ことしの開設状況につきましては、大雨や台風に備えての避難所の開設回数は６回、指定避難所延べ２７カ所、避難者数は合計で１２５人となっております。

なお、開設につきましては、災害の規模や状況に合わせて、協議を行いながら、必要な箇所を早目に開設するようにしております。

それから、熊本地震のときの支援物資の受け入れ状況についてでございますけど

も、熊本地震での救援物資の受け入れ状況につきましては、平成２８年４月１７日本震の翌日、１８日に物資集積拠点として菊之池体育館を開設しております。

支援いただきました物資の主なものといたしましては、水５００ミリリットルのものが１０万１，６８６本、御飯類が２万９，７９２食分、パン類が１万５８食分、麺類が１万５，９１０食分、缶詰類が１万５，５２８食分、毛布やマット６，６７８枚、ブルーシート５，７１１枚、また、そのほかにも、衣料品や衛生商品など、約１００種類にも及ぶ多くの物資を、国や自治体を初め、たくさんの方々からご支援いただきました。これらの物資は、避難者や被災者の復旧に大いに活用させていただいたところでございます。

また、市としましても備蓄品の見直しを行い、水や食料品につきましては、５，０００食分を計画的に備蓄するとともに、地区の防災説明会等を開催し、最低３日分の水や食料品を家庭や区で備蓄していただくように啓発を進めているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　年間６回、２７カ所、このような避難所の開設というのは、これからの気象状況あたりを考えますと、多くなってくる傾向にあると考えられますし、支援物資の把握については、これから本市のことだけでなく、他の自治体への支援の参考になるものだと思っております。しっかりした準備等をお願いするところです。

そこで、物資面においては、体験上、これからも、今の把握状況などを考えますと、考えていけるものとしてよいのですけれども、一方、避難所の環境について、どのようなお考えがあるのかなというふうに思っております。それは熊本地震の折にも、避難所があるにもかかわらず、車中泊をしたり、まだ危険な自宅で生活をしたりとの現実がありました。

避難所に避難しない理由としては、体育館等に雑魚寝であること、トイレの問題、冷暖房がない、プライベートの部分が保てない、食事の問題などがありますが、この避難所の質の向上を考えるときに、参考とすべき基準となるスフィア基準というものがあることはご存じだと思います。この基準の根幹には二つの信念があると言われております。一つは、災害などにより影響を受ける人々は、尊厳を持って生活する権利があり、援助を受ける権利がある。二つ目に、災害等から生じる苦痛を和らげるために、実行可能なあらゆる手段が尽くされるべきである。この信念のもとに基準が設けられているわけですが、内容としては、一つ紹介をいたしますと、公

衆トイレについてですが、公共の場所ではトイレは定期的に適切な方法で清掃、維持するシステムとともに提供されると。女性用と男性用のトイレの個室数の比率が３対１になるような基準がございます。自治体として全てができるわけではないと思いますが、これからの避難所の質の向上のためにも、参考にすべき点は多くあると考えますので、このスフィア基準という存在をお伝えをいたしまして、次の質問にまいります。

最後に、鳥獣害対策についてお尋ねをいたします。

このことについては、今回、水上隆光議員、また、前回の定例会においても数名の議員さんが質問されておられますが、私は、狩猟されたイノシシなどの鳥獣の処分について、本市のお考えをお尋ねいたします。

鳥獣害対策に取り組む県内の若手農家でつくる熊本農家ハンターが建設を進めていたイノシシなどの解体施設が、宇城市の三角町に完成したと熊日新聞に掲載してありました。これは野生鳥獣肉、いわゆるジビエとして活用するものです。全国的にも加工施設をつくって、商品開発等に取り組んでおられる組織も多くあります。

また、一方、日本農業新聞には宮城県村田町のことが掲載されておりました。村田町には加工処理施設がなく、狩猟された鳥獣は地中に埋設されていたそうですが、この埋設作業は、他の野生動物に掘り返されることを防ぐために、スコップで２メートル以上掘る大変な作業だったそうです。

そこで、全国に先駆けて、減溶化施設というものを導入され、穴を掘って埋めるという重労働を克服されました。この減溶化施設というのは、スクリューのついた発酵槽にイノシシを丸ごと入れ、水を含んだおがくずとまぜ合わせます。そして、６０度程度の温度を保つことで、微生物の増殖をさせ、分解処理を行うと。肉においては約５日、骨まで考えますと１カ月で分解されるそうでございます。

電話をしてお尋ねをいたしました。本年４月からこの施設の稼働率は８５％で３００頭の捕獲頭数中、２５０頭をこの施設で処理したとのことでした。また、昨年までは年間２００頭ほどの捕獲頭数が、本年４月からではありますが、もう既に３００頭を超えているというお話でした。

そこで、本市において、ジビエとしての活用を考えておられるのか、また、違う考え方があるのか、方向性を示すことにより、鳥獣害対策がより効果的に行われていくと思います。本市のお考えをお示しください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　申しわけございません。先ほどの災害時における避難場所の答弁について、一部訂正がございますので、それを先に申させていただきます。

先ほど、熊本地震での物資の受け入れ状況につきましては、「平成２８年４月１７日本震の翌日、１８日に」とお答えしましたけれども、正確には「本震が４月１６日で、その翌日の１７日に」物資の集積拠点として菊之池体育館を開設したところでございます。訂正させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　緒方議員の捕獲後の鳥獣の利活用のご質問にお答えさせていただきます。

二つの事例を紹介いただきまして、ありがとうございます。私どももいろいろ研究をしているところではございますけれども、本市といたしまして、市が事業主体となって実施するイノシシなどの処理加工施設の設置については、現在のところは計画をしておりません。

ただ、有害鳥獣捕獲協議会などの地域協議会や民間団体がというところで、先ほどの事例も有害鳥獣の駆除協議会であるとか民間の団体でございますので、こういう民間の団体が施設の建設から処理・加工まで取り組む場合においては、国や県の補助事業等を紹介しながら、実現に向けて市としても支援してまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　現在のところ、施設の計画等はないということでございましたが、確かに、今現在、ジビエとして活用するにしても、今、全国的にも猛威を振るっております豚コレラの媒体となっているイノシシでございますので、厳しい現状だとも思います。

しかし、さきにも述べましたように、しっかりした方向性を示すことにより、鳥獣害駆除の頭数もふえてくるものと考えますし、被害対策として大きな柱ができるということだと思っております。被害が年々ふえてきている現状を考えたときに、このように早急に方向性を示すことは、被害対策の重要課題だと考えております。しっかりとしたお考えのもと、方向性をお示しくださいますことを要望して、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（柁原賢一君）　これで、緒方哲郎君の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後１時４２分

開議　午後１時５０分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　議席番号１５番の大賀慶一でございます。ことしも残すところ、あと２０日余りとなりました。ことしは令和元年ということで、新天皇が即位された記念すべき年でもございました。また、しかしながら、こと、令和元年は非常に災害も多い年でございました。来年は我が国で東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。新しい年が本市にとりましてもさらなる飛躍の年になることを祈念しまして、一般質問をいたしたいと思います。

まず初めに、本市の窓口業務の改善についてお尋ねをいたしたいと思います。

市の窓口業務の改善については、市役所の役割は、直接市民に対応して、地域住民が安心・安全な環境の中で、快適に生活を送れるようにサポートすることだと思っております。住民の生活は、市役所と切っても切れない密接した関係がありまして、市民の生活は市役所を中心としたさまざまなルールの中で営まれております。

そこで、当然さまざまな届け出や書類の発行のため、毎日、頻繁に市民の方々が市役所を訪れられます。中でも市民の方が一番多く利用される機会が多いのは、住民票の発行などを行う窓口業務でございます。窓口業務といっても多種多様なことがありますので、今回はこの窓口業務の改善についてお尋ねをしたいと思います。

また、これまでには、住民の方が窓口を訪れたとき、用件次第では複数の課や係に出向かなければならないこともありますし、時間もかかりましたし、何度も書類に書かなければならず、書類の不備によって、たまには出直すこともありました。

現在は、市民からの要望もあり、全国の市町村の窓口においても、随分と改善がなされているようでございます。担当業務の枠を超えて、待ち時間の短縮や手続の軽減を図る窓口業務の改善が今日では行われております。

窓口業務の改善は、役所にとっても、また大きな課題でもあったと思います。本市におきましても、これまでに行政改革の中での位置づけで窓口業務の改善は行われてきたと伺っております。しかし、まだまだ改善の必要性はあることは事実だと思っております。

そこで、３点についてお尋ねをいたします。

１点目に、これまでに本市としても、合併以来、窓口業務の改善については取り組んでいただいたということですが、どのような改善を行い、成果が得られたのでしょうか、お示しをいただきたいと思います。

２点目に、窓口業務として、市民の方が一番多く訪れられるのは市民課だと思っておりますが、一日どのくらいの方が窓口を訪ねられているのか、数字がわかればお示しをいただきたいと思います。

３点目に、死亡時におけます諸手続の窓口業務についてお尋ねをいたします。

年間、本市では大体六百二、三十名の方が亡くなられております。亡くなられた方にもよりますけれども、保険や市税、福祉の状況によって手続が異なります。そのほか、市役所以外のさまざまな手続が必要になり、全国を調べてみますと、多い方では１００種類にも上る書類があるし、１０カ所以上の役所を訪ねることもあるというお話でございました。そのことによって、時間的にも非常に時間がかかりますし、数日にまたぐこともあるというお話でございました。私もそのようなことにつきまして、市民の皆さんから何とか死亡時の業務の手続が簡素化できないかというようなお話を聞いておりました。

そこで、私も本市のことを調べてみますと、本市では既に取り組みが行われておりました。おくやみねっと菊池という業務をスタートさせておられまして、非常に手続が簡素化されていると伺っております。これまで、何をしていいかわからないということが非常に多かったということでございますので、この立ち上げたということは、非常に私もよかったなと思っております。まだまだ市民にも、しかしながら、周知されておりませんので、これまでと比べて、どのようなことが改善されたのか、また、時間の短縮や、ほかの窓口との連携についてはどのようになっておりますか、お示しをいただきたいと思いまして、１回目の質問とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　改めまして、皆さん、こんにちは。ただいまの大賀議員のご質問にお答えさせていただきます。

まず、窓口の業務改善についてでございますが、新庁舎建設に伴いまして、窓口改善部会を開催いたしまして、窓口の利便性を高めるために、１階フロアに届出書や申請の部署を配置いたしております。また、ユニバーサルデザインを取り入れ、わかりやすい案内表示や、カウンターにおいても業務に合わせ使いやすくしております。

あわせて、フロアマネジャーによる案内や、番号表示モニターでの見える化と、ボイスコールや相談時等に職員を呼び出すチャイムを設置して、待ち時間のストレス軽減を図っておるところでございます。

さらに、窓口の利便性を高めるため、行政改革の取り組みの中で、現状の課題抽出を行い、事務改善や窓口業務のＩＴ化など継続して検討しているところでござい

ます。

次に、市民課窓口での１１月分の１日平均の発行枚数をお答えいたします。

発行枚数は１８３通で、主な内訳としまして、住民票５１通、印鑑証明書３５通、税務関係証明書２６通、戸籍証明２４通でございます。

また、本庁及び支所での戸籍届出の１日平均受け付け数は５件でございます。主な内訳といたしましては、出生届、死亡届、婚姻届、離婚届になります。

次に、議員も紹介いただきました、おくやみねっと菊池についてですが、これまでご遺族は、どの課を回ればよいか、どんな書類が必要なのかなど、死亡後の手続に不安を感じられておられたと思います。その不安を解消するために、窓口改善部会を開催いたしまして検討を行い、各課の意見を反映させた菊池市オリジナルで手づくりのシステム、おくやみねっと菊池を本年６月から開始をいたしております。

このシステムは、市民課に提出されました死亡届に関する情報を共有フォルダに入力しますと、関係各課が確認して必要書類に死亡者情報が入った届出書等を作成いたします。その際、手続一覧表に部署の欄に丸がつきますので、後日、遺族が最初に訪れる部署が、その後の手続の必要な部署へご案内する仕組みとなっております。

新聞に掲載されたこともありまして、県内外の自治体や議会などから視察が４件と電話での問い合わせが８件あっております。

今後も、市民サービスの充実について検討を行い、改善を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　これまでに大変ないろいろな取り組みをされておりまして、大変改善がされていると思います。しかしながら、まだまだ改善をできるということは、まだまだ取り組まなければならないところも多々あると思っております。今、部長のほうから申されましたソフト面、ハード面のほかにも、やはり高齢者の方にもわかりやすいような文書の作成とか、弱い立場の方に対する思いやりなども必要じゃないかと思っております。また、職員の窓口業務をするためのスキルアップのための研修なども必要ではないかと思っております。

市長にお尋ねをしたいと思いますが、今後、業務の改善について、そのようなことを含めまして、もう１点お伺いをしたいと思いますが、死亡時の事務改善につきましては、おくやみねっと菊池ということで、今、部長のほうから説明がありましたけれども、別府市なども菊池市を参考につくったというようなことを聞いており

ます。

しかし、先日、宮崎県の都城市が窓口をつくって、おくやみ窓口ということで、１点に絞ってそこで全てのことができるというような、ちょっとお話がニュースでございました。そのことで、今、本市の今の部長の説明の中で比べますと、もうちょっと都城市のほうが進んでいるのではないかと私は思っておりますけれども、そういうような窓口業務の一本化で、一日で終わるような手続ができないものかと思っております。市長の所見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　おくやみねっと菊池に関して、さらなる合理化はできないかという趣旨のご質問でございました。

先ほど、市民環境部長が答弁しましたとおり、おくやみねっと菊池に関しましては、サービスの充実と事務効率化に幾らか役立ってきているというふうに考えているところでございます。

それから、今、お褒めをいただきましたんですけども、一つ、情報として申し上げておきますと、別府市が菊池市を参考にされたということであるのは大変ありがたいんですが、私どもは別府市がやられているのを参考にさせていただきましたんで、その点は、そう言われるようになりたいというふうには思っております。

それで、おくやみ窓口というものを新たに設置した市があるという、都城市さんの例をお出しいただきました。私どもの例は、システムをつくり上げて、精緻なものをつくるというよりは、まずできることからやっていこうということで、それから、市においては死亡届が大体１日に平均２件ないし３件程度なんですね。そういうことで、まず、この自分たちの仕事の手順を見直して、それから横の連携をすることで、もう今ある仕組みでもできるじゃないかという問題意識から始めまして、この特徴はどこの窓口に行かれても、そこからおくやみねっと菊池がスタートしますので、全体、こういう手続がございますので、次はもうこちらでございますというご案内をしますので、むしろ窓口を探す必要がないんですね。そういったところが特徴でございますので、今のところは、専用の窓口の設置は必要ないというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　菊池市のほうが別府市を参考にしたということですね。このおくやみねっとというのは、私もこれまでの手続に比べれば非常に簡素化できたと

思っております。

今後、事務の窓口業務の改善につきましては、本市の事務全般にわたってのスピード化やスリム化に結びつくことでございますので、今後もしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

次に、河川の安全対策についてお伺いをしたいと思います。

ことしは本当に災害の多い年でございまして、全国各地で川が氾濫し、あのニュースを見ておりますと、本当に悲惨な状況が見えております。近年は毎年のように台風や梅雨の大雨により河川堤防の決壊など、全国至るところで甚大な被害が発生しております。そして、多くのとうとい人命や貴重な財産が失われております。ことしも九州を初め全国各地での氾濫による大規模な災害は、皆さん、記憶に新しいところでございます。

これらの災害の恐怖は、何と申しましても、短時間に集中的に大雨が降り、予想だにしなかったところで河川が氾濫し、一気に濁流が押し寄せ、全てのものが一瞬にして飲み込まれてしまうことです。本当にテレビの映像を見ておりますと、もう他人のことのようには思えませんでした。

本市にも一級河川の菊池川を初め、合志川、迫間川などの中小河川など多くの河川があります。今日の雨の降り方は、線状降水帯となって、時間雨量１００ミリ以上を超える雨が次々と、雲が次々と押し寄せて雨を降らせております。どこでも河川の氾濫の可能性がございます。

本市では、ハザードマップを全世帯に配布して、河川の氾濫時の予想される浸水状況をお知らせしたり、年１回、菊池川の氾濫を想定した水防訓練を実施しておりますが、今、発生しております全国の状況は、予想外の規模で河川の氾濫が発生しております。

昨日も、猿渡議員から本市の災害対策についての質問がございました。本市で現実的に発生したとき、どのような対応をすればいいのか、本当に私としても不安でございます。しかしながら、行政としては、市民の不安を少しでも解消する準備をすることは責務だと思っております。

そこで、お尋ねをいたします。

１点目に、河川の大規模氾濫に対する基本的な本市のシミュレーションや点検は実施されているのでしょうか。取り組みをどのように考えておられますか、お示しください。

また次に、河川堤防の予想される決壊箇所や、オーバーフローの可能性がある場所は把握されておりますでしょうか。

また、平成２４年に泗水と旭志で橋梁に流木がひっかかり、大きな災害となりま

した。このようなこともございますので、橋梁の危険箇所の点検や、これらができておりますでしょうか、お尋ねをしたいと思います。

２点目に、本市は、迫間川上流に竜門ダムがございます。最近、ダムの大雨時の緊急放流時に下流域での大規模な水害が、これまでに他県でもいろいろと問題になっております。本市のダムを管理する国交省との協議や対策はどのように考えておりますでしょうか、お示しを願いたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　それでは、大賀議員の質問のほうにお答えしたいと思います。

まず、河川氾濫に対するシミュレーションは行っているかということでございます。

河川氾濫における本市の対策についてお答えいたします。

大規模氾濫によるシミュレーションについてですが、国・県においては、氾濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションし、浸水想定区域の設定を行い、議員おっしゃられたとおり、ハザードマップということをつくって、市のほうもハザードマップをつくりまして活用しているという状況でございます。

なお、本市の管理河川につきましては、小規模の河川ということでございまして、シミュレーションのほうは行っていないというところでございます。

次に、危険箇所の把握についてでございますが、毎年、出水期前に、国・県・市、消防等の関係機関と合同巡視を行っております。本年度におきましては、堤防の危険箇所約１０カ所及び河川内の土砂等の堆積状況等を確認したというところでございます。

それ以外にも、国・県が管理する河川の危険箇所等につきましては、地元の要望等もございますので、毎年、それを含めまして改善要望を行っているという状況でございます。

それから、橋梁の安全性の確認でございますが、本市では、平成２５年度に菊池市橋梁長寿命化修繕計画を策定しております。平成２６年度から、５年周期で市内の全橋梁５４４カ所の定期点検を実施し、同計画に基づき、危険度の高い橋梁を順次、補修工事及び修繕工事等を実施しているという状況でございます。

さらに、国・県管理河川にかかる市道の橋梁におきましては、定期点検実施内容を確認し、出水期前の５月ごろに職員による目視確認を行っているという状況でございます。

定期点検の５年周期が終わりましたので、令和元年度よりその２巡目の周期に、

今現在、定期点検が入っているという状況でございまして、今後も点検結果をもとに補修工事、修繕工事を実施していくという計画でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　それでは、続きまして、竜門ダムの放流による対策はということで、防災の面から私のほうでお答えさせていただきます。

竜門ダムに関しましては、国の管轄となっておりますので、国土交通省九州整備局菊池川河川事務所竜門ダム管理支所に確認しました事項についてお答えいたします。

竜門ダムは、洪水調節及び利水の目的を有する多目的ダムでございます。総貯水要領４，２５０万立方メートルのうち、洪水調節として８００万立方メートルの容量を常時確保し、迫間側沿川の洪水被害低減のため、過去の洪水をもとに、おおむね１００年に一度程度発生すると想定される洪水に対応した洪水調節機能を有しているとのことでございます。

竜門ダムでは過去の洪水を想定し、水をためる量を確保しておりますが、想定以上の洪水が発生した場合には満水となり、ダムに入ってきた量をそのまま下流に放流する緊急放流を行うということですが、これまでに緊急放流を実施した実績はないとのことでございます。

また、緊急放流に向けた対応としましては、毎年４月に本市を含めた関係機関による、菊池川竜門ダム放流連絡協議会を開催し、通常の洪水時の放流及び異常洪水時の連絡内容及び連絡系統の確認を行い、出水期前には竜門ダム管理演習を実施し、実践に即した通知、連絡、警報等の演習を行っておられます。

また、１５カ所の警報局と５カ所の電光掲示板により、周辺住民への周知も行うとのことでございます。

緊急放流実施の際には、予測可能な範囲で放流４時間前には菊池川河川事務所長より市長へのホットラインで連絡及び市役所へ文書での連絡が届くようになっております。

以上が、竜門ダム管理支所からの確認事項でございます。

本市としましては、竜門ダム管理支所からの河川の水位予測及びダム放流の情報等を踏まえ、迅速な避難勧告等の発令、関係機関との連絡等に努めてまいりたいと考えております。

また同時に、引き続き竜門ダム管理支所と連携を図り、周辺住民の安全対策に万全を期してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

非常に住民の皆さん方も、この水害につきましては関心を持っておられますので、竜門ダムの放流に対しましても、今まではかつて放流はしたことがないということでございますけれども、今後が想定できないような雨も降ることがございますので、よろしくお願いしたいと思います。

最後の質問を行いたいと思います。

これまで、本市では、年に１回、菊池川の水防訓練を行っておりますけれども、これはもう地震時の避難訓練ということでございますので、今後は河川の氾濫を想定した避難訓練もする必要もあるんじゃないかと私は思っております。

最近は、避難を呼びかける放送は、自分の命を守る行動をとってくださいという放送がよく流れます。それだけ最近の水害というのは逼迫した状況下にあることが多いと思っております。

そこで、本市におきましても、水害を想定した避難訓練を行うことがぜひ必要ではないかと思っておりますが、どのように考えられておりますか。

次に、防災マップを見ておりますと、避難所の中には水没地の中にある避難所もあるんじゃないかと思っております。先ほどは緒方議員が避難所のことについて質問されましたけれども、特にそういう水没を想定されておる中に避難所というのが見受けられたと思いますので、そのような見直しをする必要があると思っておりますので、その点についてお伺いをしたいと思います。

たまたま、きのうの新聞で、熊日新聞に載っておりました、県の河川管理３２２河川が豪雨に備え、浸水想定図を独自作成という記事が載っておりましたので、ちょっと抜粋して読んでみたいと思います。

県は、４日、県議会の一般質問で、水防法で作成が義務づけられていない県管理の３２２河川に関し、千年に一度程度の豪雨を想定した浸水想定区域図を作成する方向を明らかにした。同区地図は、市町村が策定する洪水ハザードマップの基礎になるものであるということです。全国の大規模災害では、対象河川以外でも被害が発生しており、独自の対応が必要と判断したというような記事がありました。

先ほどの答弁の中で、国管理河川、県管理河川というのが大半でございますが、市の管理河川もございますので、どこで想定外の災害が発生するかというのはわからないと思いますので、そういうこともお含みをいただきたいと思います。

そこで、３点目でございますが、竜門ダム、先ほど部長のほうから答えられまし

たので、ちょっと私も重複するかと思いますけれども、緊急放送時について、４時間半前には市長のほうに連絡があるということでございましたけれども、今、ダムの放流というのは非常に難しいということが言われております。想定外のことを想定していなければできないほど難しいというようなことが言われております。本市と国交省との打ち合わせの連絡協議会の中で、密接な連携が必要になると思いますが、ダムの緊急放流について、いま一度、お聞かせを願いたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　それでは、大賀議員の再質問にお答えしたいと思います。

まず最初に、防災マップの浸水区域のところに避難所があるがということで、その件についてお答えしたいと思います。

まず、防災マップに記載しております浸水想定区域は、Ｌ１、Ｌ２の２種類の想定区域がございます。

まず、Ｌ１とは、国が管理する菊池川、迫間川、上内田川及び合志川が大雨によって増水し、氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションで予測したものを示したもので、計画規模と言われております。

また、Ｌ２とは、Ｌ１区間について、想定し得る最大規模の降水を想定しており、想定最大規模と言われております。こちらのほうの想定される部分については、菊池川流域の１２時間の総雨量が５４５ミリをあらわしております。通称で言いますと千年に一度の大雨ということを想定しております。このＬ２は平成２９年３月に国により公表されたところでございます。

現在、本市の地域防災計画で指定をしております指定避難所におきまして、このＬ２（想定最大規模）の浸水想定区域には１４カ所の指定避難所が入っております。

ただし、Ｌ１（計画規模）の浸水想定区域内には指定避難所は入っておりません。

対策につきましては、事前に想定最大規模（Ｌ２）クラスの大雨が降る予想があれば、情報を市民へ迅速的確に伝達するとともに、浸水想定区域外への避難を早目に呼びかけてまいりたいと考えております。

また、災害から命を守ることを最優先に考え、既に災害が発生している場合には、避難先や、そこへの避難経路が必ずしも安全とは限らないことから、地域の状況や住居形式、災害の種類に応じて適切な避難先や避難方法を選んでいただくよう、こちらからも周知してまいりたいと思います。

また、そのためにも、防災マップ等で自分の住んでいる地域を確認していただくとともに、家族で避難方法などについてお話しする機会をつくっていただけるような取り組みを行ってまいりたいと考えております。

また、市の総合防災訓練で水害に関する訓練の必要性ということでございますけども、水害に対する訓練に関しましては、現在、菊池川流域の山鹿市、玉名市、菊池市持ち回りで行っております菊池川水防演習がございます。

この演習は、国、県、消防、消防団等の参加をいただき、出水期に備えて、水防活動の保持と能率向上並びに水防意識の高揚を図ることを目的に、本年は５月１２日に本市で実施いたしたところでございます。

市の総合防災訓練に関しましては、これまでは熊本地震も発生したこともあり、地震対応訓練で行ってまいったところでございますけれども、今後につきましては、周辺区長などからの意見を聞きながら、住民が必要としている訓練が何かを確認し、希望に沿った訓練が開催できるように取り組んでまいりたいと考えております。

また、竜門ダムの緊急放流のときですけども、先ほど緊急放流の際には予測可能な範囲で放流４時間前に菊池川河川事務所長より市長へのホットラインで連絡があるということ及び市役所へ文書での連絡が届くようになっております。

今後につきましては、竜門ダム管理支所に確認しましたところ、国土交通省におきまして平成３０年１２月に出された、異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調整機能と情報充実に向けての提言を受けて、現在、今後の対応を検討されているとのことでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

この水害、河川堤防の決壊というのは、これは起きてみなければわからないことでございますが、起きたら大変ということでございます。

本市は、非常に菊池郡市内におきましての他市町と比べましても面積も広く、中山間地もございますし、平地もございますし、河川も多くございます。今日のような大型台風や大雨に対する防御も非常に大変でございます。職員の皆さんも、一旦災害が発生すると我が身も振り返らず働いておられます。

今回、河川災害についてお尋ねしましたけども、今後、やはり河川災害、災害にいろいろ上下はありませんけれども、河川水害が一旦発生しますと、その後の処置の中で大変泥水があったり、また、土があったり、非常に水害の復旧に時間と労力と金を費やす災害だと思っております。しっかりとまた市の取り組みをお願いしまして、次の質問に入りたいと思います。

学校安全施設の充実についてお尋ねをいたします。

今、冬場でございますが、今の季節は日が暮れるのが非常に早くて、天候次第で

は５時過ぎ、５時ごろになりますと、すっかり暗くなる日もございます。そのような中に、最近、私は孫の部活動の送り迎えに行くことがありますけれども、旭志の中学校、小学校に行っておりますが、そのときに感じることが、非常に学校校舎周辺の敷地内がまだ暗いんじゃないかと思っております。もう少し明るくならないかというのを常々思っております。以前に比べれば、外灯も非常にふえておりますけれども、改善もなされておるということは承知をいたしております。

しかし、今の時代、変化とともに、子どもを取り巻く安全・安心な環境も変化しており、事故や事件も、都会や田舎に限らず、想像を絶するようなことが発生することがございます。特に旭志に限らないのですが、学校のある地域というのは、ある程度、民家から離れたところにありますし、周囲には明かりが余りございません。つい最近、旭志中学校の付近には、夜間にイノシシも出没するなどのような状況もございました。

また、都市部の学校では、学校安全のために、学校の敷地は柵や塀で完全に仕切られておりますが、本市の学校は、ほぼどこからでも学校に入ろうと思えば、敷地内に侵入することは可能のような状況でございます。そのことを思いますと、本市の宝でございます子どもたちが集う学校の夜間の外灯や防犯灯の設置も、もっと必要ではないかということを思っております。

また、学校を明るくすることによりまして、防犯とは別に、学校内の安全やいじめ防止、あるいはまた、事故防止の面からも、ぜひ明かりがもっと明るくしてほしいと思っております。

学校はよく、以前もそうでしたけれども、窓ガラスを割られるなどの物損、器物破損の被害が発生しておりました。また、先生方のお話を聞きますと、やはり子どもたちも、昼間でございますが、やはり夕方暗くなった時点でも、まだ子どもたちはおるわけでございますので、そういう中で、防犯灯や防犯カメラがあると、やはりいじめ防止にもなるというようなお話でございました。

そこで、お尋ねをしたいと思います。

１点目に、教育委員会は、現在の学校防犯対策としての照明や防犯灯、防犯カメラなどの設置状況をどのように捉えられておりますか、また、現状での防犯灯や防犯カメラの設置状況がわかればお示しをいただきたいと思います。

２点目に、子どもの安全面からお尋ねをしたいと思います。

小学校は、本年度からスポーツの部活動が社会体育に移行しました。それにより外部からの指導者の方が子どもたちを指導されているようですが、スポーツにはけががつきものでございまして、発生することが多くあります。そういうようなことで、学校部活動で行われた時点では、万が一の事故で負傷した場合など、スムーズ

に学校から家庭への連絡ができていたと思いますけれども、社会体育の場合、学校内に限らず、また、外部指導者ということで、連絡体制はどのように行われておりますか。さらに、スポーツ保険などの補償などはどのように完備しておりますか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、大賀議員の質問にお答えをさせていただきたいと思います。

１点目の小中学校の施設内の外灯と防犯カメラの設置状況についてお答えをいたします。

最初に、市内小中学校施設内の外灯数についてお答えをさせていただきたいと思います。

隈府小学校が３基、それから、菊池北小学校７基、菊之池小学校９基、花房小学校６基、戸崎小学校８基、七城小学校３基、旭志小学校１１基、泗水東小学校５基、泗水小学校６基、泗水西小学校４基、それから、中学校のほうですが、菊池北中学校７基、菊池南中学校８基、七城中学校５基、旭志中学校２１基、泗水中学校４基、それぞれ小中学校をあわせまして１０６基を設置をいたしておるところでございます。

次に、防犯カメラについてでございますが、学校警備保障委託の一部として、平成１８年度から順次整備を進めております。平成２０年度からは市内全小中学校に２台ずつの設置となり、不審者侵入の把握手段などとして活用をしてまいりました。

その後、各学校からの増設要望を受けまして、平成３０年度に２台ずつを増設し、現在では市内全小中学校で４台ずつ、合計６０台の防犯カメラを設置しております。

なお、カメラ映像は職員室にて集中管理しておりまして、録画のほうもしておるところでございます。

それから、２点目の小学校の社会体育へのクラブ活動移行についてということでのお尋ねでございますが、本市では、熊本県教育委員会が出しております児童・生徒のための運動部活動及びスポーツ活動の基本方針に基づいて、小学校運動部活動の社会体育移行を行っております。

社会体育移行により、クラブ等のスポーツ活動が学校管理から外れておりますので、学校や社会体育課への連絡の義務はありませんが、必要に応じて学校や社会体育課へ連絡を入れるよう、小学校運動部活動の社会体育移行検討委員会のほうで話をしていきたいというふうに考えております。

それから、各クラブの保険の状況でございますが、それぞれのクラブ活動のほう

で保険のほうに加入されているということでお聞きしております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

今の数字を見てみますと、市内の小中学校には防犯灯、少ないところは３基ですね、小学校。旭志小中は結構多いほうでございますが、その中で、私もまだ暗いと感じるんですから、もうちょっとよその学校も、そういうところもあるんじゃないかと思いますので、再質問をいたしたいと思います。

学校敷地内の外灯や防犯灯については、冬場の日照時間の短さだけに限らず、夏場でも子どもたちは遅くまで部活動もしますし、先生方も仕事をなさっております。やはり事故防止や犯罪のために、できるだけ明るい環境をつくるというのは非常に大切だと思っておりますが、今は太陽光発電でのセンサーライトなどもございますので、ぜひそういうのを安価でできると思いますので、つけていただきたいと思います。また次に、その考えはないのか。

また次に、防犯カメラについてですが、今、全ての学校に４機ほど設置してあるということでございましたけども、防犯カメラ、本当に先生方も、さっき言いましたように、子どもたちのいじめ問題などにも非常に役に立つというようなお話でございましたので、ぜひこれを増設するような考えはないのか、お尋ねします。

それから、また、防犯カメラにつきまして、よく学校では、防犯カメラ作動していますよという看板が学校によってはあります。このことは、私は非常に抑止力になるんじゃないかと思っておりますので、そういう、防犯カメラが作動してますというような看板をできれば各学校につけていただくならと思いますが、教育委員会のご所見をお伺いしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、大賀議員の再質問のほうにお答えをさせていただきたいと思います。

まず、先ほど答弁しました内容で、外灯数の合計を「１０６本」とお答えしましたが、申しわけございません、「１０７本」の間違いでございましたので、訂正をお願いしたいと思います。

それから、外灯のほうで、センサーライトのほうはつけていないかということでございますが、こちらつきましても、小学校のほうで１０本、それから中学校で９本、あわせまして１９本のセンサーライトのほうは設置をしておるところでござい

ます。

それから、質問のありました防犯カメラの看板等につきましてでございますが、議員ご案内のとおり、泗水小学校や泗水東小学校を初め、隈府小学校や菊池南中学校、七城中学校にも、防犯カメラ作動中と書いた看板を設置しております。

設置価格も比較的安価で、抑止力はさらに高まると考えますので、各学校の状況に応じて設置をするよう働きかけてまいりたいというふうに考えております。

次に、防犯カメラの増設について、先ほど答弁しましたとおり、平成３０年度に増設し、現時点で各学校４台ずつ設置していることから、教育委員会としましては、十分な設置数とは考えておりますが、今後は各学校の要望を聞きながら、必要に応じて対応してまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　大賀慶一君。

［登壇］

○１５番（大賀慶一君）　ありがとうございました。

これは本当に子どもたち、市の宝でございますので、ぜひ子どもたちに何かがあってからしたでは間に合いません。やはり早いうちに対策を講じることは、無駄になってもいいと思いますので、ぜひ学校に対するそういう防犯対策をしていただきたいと思います。

私の質問はこれで終わります。ありがとうございました。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　申しわけございません。ただいま大賀議員さんの答弁の中で、センサーライトを「１９本」とお答えしましたが、「２０本」の誤りでした。申しわけございませんでした。

○議長（柁原賢一君）　これで、大賀慶一君の質問を終わります。

以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。

次の会議は、１２月９日に行います。引き続き、一般質問となっています。

以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後２時３９分

第　５　号

１２月９日

令和元年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第５号

令和元年１２月９日（月曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中	教　之　君
２番	福　島	英　徳　君
３番	緒　方	哲　郎　君
４番	後　藤	英　夫　君
５番	平	直　樹　君
６番	東	奈津子　さん
７番	坂　本	道　博　君
８番	水　上	隆　光　君
９番	猿　渡	美智子　さん
１０番	松　岡	譲　君
１１番	荒　木	崇　之　君
１２番	柁　原	賢　一　君
１３番	工　藤	圭一郎　君
１４番	城	典　臣　君
１５番	大　賀	慶　一　君
１６番	水　上	彰　澄　君
１７番	二ノ文	伸　元　君
１８番	泉　田	栄一朗　君
１９番	木　下	雄　二　君
２０番	山　瀬	義　也　君

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実君
副市長	芳野勇一郎君
政策企画部長	元島加奈子さん
総務部長	上田敏雄君
市民環境部長	古田浩敏君
健康福祉部次長	宮村恵美君
経済部長	笹本義臣君
建設部長	中村喜範君
七城支所長	上村雅一君
旭志支所長	岩根卓士君
泗水支所長	梁池哲也君
財政課長	山田哲二君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中尾孝浩君
市長公室長	前川幸輝君
教育長	渡邉和博君
教育部長	木下徳幸君
農業委員会事務局長	坂本高秀君
水道局長	大塚忠康君
監査委員事務局長	山口浩一郎君

事務局職員出席者

事務局長	徳永裕治君
事務局課長	歌岡憲一君
課長補佐	松寺盛親君
議会係長	安武則貴君
議会係	吉岡結加里さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。

傍聴の方で可能な方はご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席願います。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○議長（柁原賢一君）　それでは、日程に従いまして、日程第１、一般質問を行います。

初めに、東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　皆さん、おはようございます。議席番号６番、日本共産党、東奈津子です。通告に従って一般質問を行います。

まず最初に、学校給食について質問いたします。

この質問を取り上げようと思ったきっかけはある新聞の記事でした。８月２９日付の新婦人しんぶんの１面に、輸入小麦でつくられた学校給食のパンから発がん性が指摘されている化学物質、除草剤グリホサートが検出されたとの内容の記事でした。とても衝撃を受け、私自身も小学生の子どもを持つ親として危機感を感じました。

また、食の安全・安心に関心を持って取り組みをされている菊池市にお住まいの皆さんから、学校給食についての強い要望を受けて、今回、この質問を取り上げることとなりました。

先日の平議員の質問とも重なりますが、改めて質問をいたします。

まず最初に、菊池市内の学校給食の安全性についてお聞きします。

菊池市内の学校給食に提供される食材について、食材の安全性のチェック体制はどのようになっているでしょうか。

以上、１回目の質問とします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、改めまして、おはようございます。東議員の質問にお答えさせていただきます。

学校給食食材の安全チェック体制はどのようになっているかというお尋ねでございますが、学校給食においては、食品衛生法やＪＡＳ規格等に適合した地元産物を優先に、基本的に国内産のものを取り入れているところでございます。

現在、食材については、市内の給食物資納入組合を初め、公益財団法人熊本県学校給食会などから納入していただいております。

個別に申し上げますと、米についてはＪＡ熊本経済連を通じて学校給食会が買い入れております。パンについては七城町にある熊本県パン協同組合の工場でつくられたものを使用しており、いずれも熊本県学校給食会やその委託機関で品質検査、衛生管理指導等を行っております。

牛乳については、熊本県酪連から熊本県産１００％の牛乳を納入しており、県酪連のほうでも、味や風味を調べる官能検査、成分検査、細菌検査など厳正な検査が行われています。

そのほか、給食物資納入組合により納入していただいております肉、野菜、卵等については、物資納入基準書に適合したもののみ納入しております。また、肉、野菜等については、生産履歴や産地等を記載した納品伝票を確認しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　物資納入基準書に基づいて行われているとの答弁でした。

しかし、先日の平議員の質問でも指摘があったように、添加物、遺伝子組み換え食品、農薬については、極力抑えたものという記述にとどまっています。これでは子どもたちに安全・安心の給食は提供できない、こう思います。

とりわけ、最近問題になっているのが、学校給食に提供されているパンの原材料です。日本は年間５００万トンから６００万トンの小麦をアメリカから輸入しています。農水省の検査で、小麦に残留している発がん性が指摘される化学物質グリホサートの検出率は、アメリカ産は何と９８％にも上ります。質問の冒頭でも述べましたが、全国はもちろん、菊池市内の学校給食のパンの安全性が懸念されます。

そこで、再質問します。

菊池市内の小中学校で提供されるパンの輸入小麦の占める割合はどれくらいでしょうか。具体的な輸入国までお示しください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、学校給食用のパンの輸

入小麦の割合につきましては、輸入が９０％でございます。内訳としましては、アメリカ４５％、カナダ４５％となっております。そのほか、国産小麦が１０％でございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　今、答弁にあったように、輸入小麦が９割、そのうちアメリカ産４５％、カナダ産が４５％、子どもたちに提供されるパンのほとんどが輸入小麦であります。

農業団体で農民連というところの食品分析センターが、学校給食会のホームページに公開されている情報をもとに、全国、三つの県のパンを分析した結果は次のとおりでした。

今回、分析したパンは、国産と輸入小麦を配合したもの、輸入小麦のみ、国産小麦のみの３種類です。分析の結果は、アメリカ産もしくはカナダ産輸入小麦を使ったパンから発がん性物質であるグリホサートが検出をされております。学校給食のコッペパンから、食パンから、０．００５ｐｐｍから０．０８ｐｐｍのグリホサートが検出をされております。一方で、国産小麦からは検出はされておりません。成長期であり、感受性の強い子どもが食べて大丈夫なのか、私はこの思いを強くしています。大いに危機感を感じております。

そこで、質問をいたします。

グリホサートや遺伝子組み換え食品の危険性を行政としてどのように認識していらっしゃるでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、ただいまのご質問でございますが、学校給食で使用しているパンは、熊本県学校給食会やその委託機関で品質検査、衛生管理指導などを行っております。

また、熊本県学校給食会から製粉会社のほうに確認していただきましたところ、アメリカ、カナダ、オーストラリア産の小麦は、残留農薬検査の基準値以下であることを農林水産省のデータで確認しているということでございます。

農林水産省の残留農薬等の分析結果、平成３０年度を見ますと、輸入小麦からグリホサートが検出されているようですが、食品衛生法及び飼料安全法に基づく基準値を超えたものはないと公表されております。

輸入小麦につきましては、学校給食の食材としても使用されているところであり

ますが、農林水産省において残留農薬の検査を実施しており、グリホサートは食品衛生法の基準値内で安全性が確認されているものと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　今の部長答弁では、国の基準以内なので安全性は確認できているとの答弁でした。

私はこの認識は間違いであると思います。グリホサートについては、がんのリスクにとどまらず、少ない量でも影響がある環境ホルモン作用、発達神経毒性、脳や精神に及ぼす腸内細菌叢への環境を指摘する論文も相次いでおります。

２０１５年には、世界最大規模の国際がん研究機関（ＩＡＲＣ）、これはWHOの下部組織であります。ここがグリホサートを発がん性に関して５段階の上から２番目にリスクが高い２Ａと評価をしております。これは恐らく発がん性があるという意味の評価であります。オーストラリアやチェコはグリホサートの全面禁止、ベトナムは輸入禁止など、今、世界は規制の動きが進んでいます。

先日の平議員の質問でも紹介されましたが、アメリカでは、昨年、学校の校庭にグリホサートを主成分とする除草剤ラウンドアップを散布していたため、がんを発症した男性が製造会社を訴え、勝訴、裁判に勝っております。会社は８８億円の賠償金支払いを命じられました。今、この訴訟が全国で急増しています。調べましたら、ことし７月にアメリカだけで１万８，０００件とありましたが、最近で４万２，０００件をアメリカでは超える件数の裁判が起きているとのことです。

また、１１月２５日には、メキシコはグリホサートの輸入を禁止しました。これだけ見ても、輸入小麦の危険性ははっきりしているのではないでしょうか。

一方、日本はどうか。部長は国内基準だから安全と言いましたが、日本は全体の８割を超える規模で小麦を輸入しています。その多くはアメリカ、カナダです。この二つの国では、収穫前のグリホサート散布が一般化しています。農水省の２０１３年から２０１７年の残留農薬検査でも、アメリカ産の９割、カナダ産小麦のほぼ全てからグリホサートが検出をされています。

先ほど、世界各国が規制を強め、訴訟も急増していると紹介しましたが、日本は逆行しています。日本政府は農薬メーカーの要望に応えて、２０１７年にグリホサートの輸入穀物における残留基準値を最大１００倍までに緩和をしています。輸入小麦については、残留農薬基準５ｐｐｍから、アメリカ基準に合わせ、３０ｐｐｍへと大幅に緩和をしているんです。そして、基準を超える違反はないとして、検査数値の公表すらしておりません。

先ほど、部長答弁で国の基準以内だから安全との趣旨の答弁がありましたが、世界の規制強化の流れとは逆に、日本は農薬メーカーの要望に応える形で基準をどんどん緩和している実態を見るならば、私はとても安全とは言えないと思います。まして、成長期にある感受性の強い子どもが残留農薬のあるパンを食べて大丈夫なのか、私は非常に懸念があります。

先月、１１月２８日に開かれた参議院の外交防衛、農林水産、経済産業の連合審査で、日本共産党の紙智子参議院議員が、発がん性が指摘されるグリホサートが学校のパンから検出されている問題で政府に対応を求めました。農林水産大臣は、学校給食については、少しステージが違うと思うので考えたい、こう答弁がありました。つまり、国でさえ、学校給食に輸入小麦のパンが提供されることに大丈夫と言い切れない状態、考えたいと慎重な姿勢を、今、示さざるを得ない状況です。菊池市の教育委員会としても、待ったなしの問題として考えていただきたいと思います。

そこで、次に質問します。

菊池市の学校給食のパンは輸入小麦の使用が９割であるとの答弁でした。そうであるならば、直ちに残留農薬の検査をすべきと思いますが、どうでしょうか。そして、検査結果を踏まえ、国産小麦１００％に切りかえるべきと思いますが、どうでしょうか。切りかえがすぐに難しいのであれば、現在、週２回となっているパンの提供を米飯、主食をお米に切りかえる対応をすべきと思いますが、どうでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、ただいまのご質問でございますが、１点目の市独自で残留農薬の検査を行ってほしいということでございますが、市独自での検査は考えておりませんけども、検査につきましては、熊本県学校給食会のほうへは要望をしてまいりたいというふうに考えております。

それから、２点目でございます。国産小麦１００％のパンに変えていくべきではということでございますが、熊本県学校給食会のほうにもお尋ねをしておりますが、安定供給、それから価格の面、価格に伴います需要があるか、製造面など考慮しないと一概には言えないということでございました。

それから、３点目でございます。米飯給食に切りかえるべきではないかというご質問でございますが、農産物の普及拡大の面でも大事なことではあり、特に日本でも有数の米どころであります本市にとっても米飯給食をふやすことは、子どもたちにとって、まさに食を学ぶよい機会であります。しかしながら、現代の食習慣や栄養バランス、それから献立の多様化等の面でもパンの提供も必要と考えるところでございます。

学校給食は、文部科学省の学校給食実施基準に基づき、食品構成や栄養価等の基準がございます。その基準に基づき栄養士の先生に献立を作成いただいております。栄養価の面ばかりでなく、例えば、ふだん家庭でなかなか摂取しないような豆類や海藻類を週に何回取り入れるとか、そういった基準もございます。鉄分、カルシウム、食物繊維など家庭で不足しがちな栄養素を積極的に取り入れるなどもございます。

今後も、季節の地元の食材を積極的に利用し、子どもたちに喜んで食べてもらえるような安心・安全な学校給食を目指してまいりたいと考えております。

以上、答弁いたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　検査のほうは学校給食会のほうに要望していきたいということなので、ぜひ強く要望していただきたいと思います。

次に、国産小麦１００％使用というところで、安定供給の面で、向こうからははっきりとした回答がもらえていないということですけれども、全国では、この１００％国産小麦使用のパンの供給を行っている自治体もあります。調べましたら、東京立川市では、実際に国産１００％のパンの提供を学校給食で行っているということでした。私はやろうと思えばできると思います。ぜひ、この点も県の学校給食会に強く要望していただきたいと思います。

そして、実際に安全な国産小麦１００％のパンが提供されるまで、市として何もしないというのは、私はだめだと思います。学校給食というのは、子どもの健康に直結する問題です。成長期にある子どもたちへの対応は速やかに行っていただきたい。危険性がこれだけはっきりしているのに、そのままにしておくというのはよくありません。安全なパンが提供できないのなら、主食をお米に変えるべきです。

部長の答弁では、文科省の栄養基準に基づいて献立が作成されているとの回答でしたけども、私は栄養のバランスも大事ですが、優先されるべきは安全性だと思います。

余談ですが、この間、農政課ともお話をする機会がありましたが、農政課としても、学校給食での菊池米を使っての米飯の回数をふやしてほしいとの要望をお聞きしました。子どもたちの健康にかかわる問題です。農政課など関係機関とも連携して、早急に検討していただくことを改めて要望しておきます。

次に、質問します。

子どもたちに安全で安心な給食を提供するためにも、食材の選定基準である納入基準書に遺伝子組み換え食品は使用しないときちんと明記をすべきと思いますが、

どうでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、遺伝子組み換え食品については、食品としての安全性を確保するために、食品衛生法及び食品安全基本法に基づき、厚生労働省が義務づける安全性審査を通ったものが流通していると認識しております。

文部科学省では、学校給食は、食品衛生法の範疇で安全性を認められたものであるということを前提としていることから、安全性の確認は食品衛生法に基づき行われていると思います。

学校給食会から納入してもらいます遺伝子組み換え表示義務のある食品については、全て非遺伝子組み換え食品であることを確認しております。油やしょうゆなどの調味料、遺伝子組み換えの表示義務がないものについては、業務、製造元をたどらないとわからないため極力控えたいと考えております。

学校給食の物資納入に際し、児童・生徒の安心・安全を最大限に確保するという意味では、遺伝子組み換え食品は極力控えたいと考えております。

表記につきましては、遺伝子組み換え表示義務のあるものについては、遺伝子組み換え食品を使用しない、表示義務のないものについては、遺伝子組み換え食品を極力控えるという方向性で、給食運営委員会の意見を伺いながら検討してまいります。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　運営委員会で検討したいとのことでしたので、ぜひ検討していただきたいと思うんですけども、平議員の質問の市長答弁でも、技術的に確認が可能なところではそのように進めていきたいとの答弁がありましたが、私は、調味料も含めて遺伝子組み換えに関しては徹底をしていただきたいと思います。技術的に確認が不可能な調味料等は難しいという答弁もありましたが、菊池市ではもちろん、国内でも完全に遺伝子組み換えでない調味料を生産・販売をしている生産者はあります。コストの問題等はありますが、この問題は後で質問しますが、やはり給食は教育の一環です。調味料も安全性に問題のあるものは使用するべきではありません。徹底をお願いをしたい。改めて要望しておきます。

次に、この点に関連して質問します。

全てをすぐに遺伝子組み換え不使用とすることが難しい場合、揚げ物やいためも

のに使用する油から直ちに遺伝子組み換え不使用を進めていくべきと思いますが、どうでしょうか。

このことに関しては、食の安全に詳しい方からお話を聞く中で、せめて油からでもすぐに徹底をしてほしい、油は大事とのご意見を伺っています。この点はどうでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、油については、遺伝子組み換えの表示義務がございませんが、食用油の例として、「遺伝子組み換え関連不分別」というようなものがございます。これは、分別生産流通管理されていない農作物、遺伝子組み換え農作物がまじっている可能性があるという表示になります。

このように、表示の義務がなくても、調べると「不分別」のような表示の食品もありますので、学校給食の納入に際し、児童・生徒の安心・安全を最大限に確保すると、遺伝子組み換え食品は極力控えたいと思っております。

今後、このような、遺伝子組み換え不分別という食品から、分別生産流通管理された、遺伝子組み換えではない食品に変えていけるよう努めたいと思いますが、給食費の問題等もございます。保護者の皆様や学校等の意見を運営委員会を通して聞きながら対応してまいりたいというふうに考えております。

以上、答弁いたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　努めたいとの答弁でしたので、ぜひ早急に検討していただきたいし、最終的には運営委員会で検討となると思うんですけども、ぜひ、その導入する方向で検討を進めていただきたいと思います。

ここで、この運営委員会の検討に関して要望させていただきたいと思います。

学校給食で地産地消を進めたり、安全な食材の提供を進めていく上で、取り組みの鍵となるのが献立をつくる栄養教諭や栄養職員の皆さんです。日ごろからできるだけ安価でバランスのとれた給食を子どもたちに提供するために努力されていることに、改めて感謝をする次第です。

今回、提案したいのは、この専門職の皆さんに、遺伝子組み換えの問題など食の安全性についてのさらなる研修をしていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまの栄養教諭、栄養職員等の研修の件でございます

が、栄養教諭、栄養職員の研修につきましては、衛生管理研修や、食の安全性など年間に６回程度行われております。

栄養教諭・学校栄養職員研究会の春季研修会、夏季研修会、それから、熊本県学校給食会の研修や菊池郡市の学校給食会の研修も例年行われますので、市が独自で研修を開催するという考えはございません。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　県などで年６回行われているので、市では研修は考えていないとの答弁でしたけども、県の研修で安全性の問題がきちんと内容的に含まれていれば問題はありません。しかし、私は、それは非常にどうかなと疑問を持ちます。だからこそ、市できちんとこの遺伝子組み換えなどの安全性についての専門職の知識をつけれるような研修を行っていただきたいと思います。

先ほど、基準書への遺伝子組み換えの表記の問題などを運営委員会で議論、検討したいとのことでしたが、この運営委員会のメンバーは、学校長、ＰＴＡ役員の皆さん、保健所職員、学校教育課職員、それに栄養教諭や栄養職員の皆さんが参加されていると聞いています。実際の検討の内容は、どうしても給食費の問題が主であると聞いています。今、これだけ安全性が問題になっているときに、参加しているメンバーが食の安全の問題に関心を持って詳しく提案しなければ、安全性の議論は進んでいかないと思います。運営委員会の中でも議論の鍵を握るのはこの専門職の皆さんであると思いますので、ぜひ検討していただくことを要望しておきます。

次に、質問します。

調味料や油も含めて遺伝子組み換え食品不使用を徹底すると食材費が上がり、給食費の保護者負担が懸念されます。運営委員会の協議でもその点でＰＴＡなどから心配の声が上がると聞いております。

私は、以前の一般質問で、給食は教育の一環であることを踏まえ、学校給食の無償化を取り上げたことがありましたが、今回の遺伝子組み換えの不使用を徹底する上で、仮に保護者負担がふえることがあるならば、完全無償化とまではいかなくても、増額分は市がきちんと補助をするべきと思いますが、どうでしょうか、お答えください。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまの給食費が負担増となった場合、市が助成する考えはないかというお尋ねでございますが、学校給食会法におきましても、学校給食

は保護者負担とするとうたってございます。市の助成は今のところ考えておりません。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　考えていないとの答弁でしたが、学校給食は、子どもたちの心と体の成長を支える大きな教育的役割があります。食材全般が値上がりする中で、費用の心配なく、どの子にも安全でおいしい給食が保障されることが、今、求められています。そのためには、本来は国が給食費を補助し、憲法で義務教育は無償とうたわれているように、国の責任で無償化に踏み出すことが求められていると思いますが、子どもたちの成長は待ったなしです。こういうときこそ、地方自治体の役割が求められているのではないでしょうか。

今回、この質問を準備するに当たって、幾つかの県内の自治体の学校給食の状況を調べました。水俣市は、ことし４月から小中学校の給食に補助を始めています。一月に１人当たり１，０００円です。水俣市は、給食センターに直接伺ってお話を伺いましたが、食材の発注書のただし書きにきちんと「遺伝子組み換えを使わない」とうたってありました。

また、南関町でも、完全無償化ではありませんが、半額補助を実施しています。この施策も力になって、地方の人口減少が進む中で、小学校の統廃合もなく、若い移住者を呼び寄せているとのことでした。

私は、菊池市が学校給食に力を入れることは、単に子どもたちのためだけではなく、まちづくり、地域の振興にもつながると思っています。

ここで、千葉県いすみ市を紹介させていただきます。

ここでは、市内の小中学校全てに地元産の有機米を使用しています。約２，３００人の給食１００％にいすみ産有機米を使用しています。時間がないので、取り組みの経過などは詳しく述べませんが、給食に地元のお米を使ったことで、保護者から地域へと取り組みが広がっています。市役所にも、どこでつくったものですか、有機米はどこで買えますかといった問い合わせや、給食にもっと有機の食材をふやしてほしいなどの要望も寄せられています。

さらに、スタートから３年目には新たに１０人の生産者が取り組みに参加するなど、学校給食に自分たちのつくったものが使ってもらえるということが生産者の背中を押しているとのことです。もちろん有機米を使い始めたことで、それまでとの費用の差額も発生しております。しかし、その分は市の予算で補填をしています。この取り組みで新たな新規就農者もふえるなど、農家の所得も支え、新たな担い手

を呼び込む力ともなっているとのことです。また、農家以外でも、給食を気に入って移住する人があらわれるなど、地域に新たな活力を呼び込むきっかけとしても注目されています。

いすみ市の太田市長は次のように述べています。経済を大きく発展させることだけが日本の進む道ではありません。この地域をいつまでも続く地域としていきたい。給食から始まった取り組みは、地域そのもののブランド化や移住者希望者の増加、海外からの修学旅行生の来訪など、持続可能な地域づくりへと多面的な広がりを見せています。こう述べられています。

菊池市が安全な学校給食実施に向けて取り組みに力を入れることは、地域の振興にもつながると思います。

最後に、教育長にお伺いします。

学校教育の責任のトップである教育長は、発達期における子どもたちにとって、輸入小麦の残留農薬の危険性、遺伝子組み換えの食品の危険性をどのように認識していらっしゃるでしょうか。

学校給食に提供されるパンの危険性を述べてきましたが、国産１００％の小麦使用のパンに切りかえるべきと思いますが、どうでしょうか。

また、それがすぐに難しいときには、米飯に切りかえるべきと思いますが、どうでしょうか。

また、納入基準書にきちんと「遺伝子組み換え食品は使用しない」と明記すべきと思いますが、どうでしょうか。

そして、安全な給食を提供するために、保護者負担が懸念されるならば、市として補助を検討するべきと思いますが、どうでしょうか。

以上、お答えください。

○議長（柁原賢一君）　教育長、渡邉和博君。

［登壇］

○教育長（渡邉和博君）　改めまして、おはようございます。ただいまの東議員のご質問、学校給食の安全性についてというようなことで、考えを答弁したいというふうに思います。

学校給食食材の安全面につきましては、先ほど教育部長が申し上げたとおり、食品衛生法やＪＡＳ規格等に適合した地元産物を優先に、基本的に国内産のものを取り入れているところでございます。

米、パン、牛乳などの基本物資については、米はＪＡ経済連を通して、パンは県の学校給食会、それから牛乳は県酪連など、それぞれの機関で品質検査、衛生指導、細菌検査など行われた安全なものを納入していただいているものというふうに思っ

ております。

そのほか、肉、野菜、卵などは、物資納入基準書に適合したものを納入していただいております。

その表記につきましては、遺伝子組み換え表示義務のあるものにつきましては、遺伝子組み換え食品を使用しない、表示義務のないものについては、遺伝子組み換えの食品を極力控えるという方向性で給食運営委員会の意見を伺いながら、今後も検討してまいります。

油については、先ほど教育部長が答えたとおりでございます。

食材の中で、パンについて、国産小麦１００％にできないかということについてでございますが、県の学校給食会にお尋ねしたわけですけれども、安定供給あるいは価格の面、それに伴う需要があるか、あるいは製造面など、総合的に考慮しないと、する必要があるというふうにお答えをいただいたところでありました。

先日、平議員にお答えしましたとおり、小麦の安定供給という問題はありますが、国内小麦の使用率をふやしていく、そういう要望につきましては、今後、学校給食会へ要望してまいりたいというふうに思っております。

また、米飯給食についてですけれども、現在も行われておりますけれども、価格の面あたり等もあります。原材料の面もあるかと思いますので、これについては、他部署等とも相談しながら考えていきたいというふうに思っているところです。

また、先ほどありました輸入小麦のグリホサートの件についてですが、農林水産省において残留農薬の検査が実施されており、グリホサートは食品衛生法の基準値内で安全性が確認されているものというふうには考えております。

グリホサートについては、東議員のお話のように、子どもに与える影響を心配される面は承知しておりますので、今後もいろんな情報等を入手していきながら、考えていきたいと思いますが、現在のところ、学校給食会のパンは、熊本県学校給食会や、その他委託機関で品質検査、衛生管理指導がされておりますので、安全なものというふうに思っております。

学校の子どもたちの健康を支える、あるいは成長を支える給食の食材については大切なものですので、食材全般につきまして、子どもたちの学校給食においては、給食運営委員会と、あるいはご紹介がありました他県やほかの市町村の動向も見ながら、より安心・安全な地元の食材の使用を今後も引き続き促進していきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　お答えいただきましたけども、結論から言うならば、私はパンの安全性が確認されているという答弁には納得がいきません。これだけ世界でも規制が始まって、実際に残留の値が出ている中で、もうちょっと危機感を持って危険性を認識していただきたい。

教育長は情報を入手していきたいと言われましたが、積極的に情報を入手していただきたい。やはりこの問題は、感受性の強い子どもたちの命と健康に直結する問題です。学校給食会などに要望を上げていくというお答えもありましたが、スピード感をもって、すぐにでも取り組みを進めていただきたいと思います。

最後に、菊池市にお住まいの保護者の方々に、学校給食に対する声を寄せていただきました。時間の関係上、割愛して紹介をさせていただきます。ぜひ聞いてください。

菊池市在住の小さいお子さんを育てているお母さんからです。食の安全は命をつなぐということです。人は食べ物でできているので、遺伝子組み換えやゲノム編集食品はできるだけ食べさせたくはありません。最低でも給食、家庭の食事は安全なものを食べさせたいです。給食の遺伝子組み換え食品を使わないことは大人の担う責任です。

次は現職の小学校の先生で、ご自身も子どもさんを育てていらっしゃる方です。給食は子どもたちの体と心を育てるものです。一日の中で一番楽しみにしているのが給食の時間です。手間暇かかるかもしれませんが、遺伝子組み換え食品を使用しないことを希望します。

次は菊池市で看護師をされている３人の子どもを持つお母さんです。私は子どもが学校から帰ったら、必ず学校はどうだったと聞きます。その中で必ず給食の話が出てきます。子どもたちは食べることを純粋に喜んでいます。そんな給食にまだ安全性がわからない遺伝子組み換えの食品が使われていたら、将来、何かしら問題が起こったとしたら、子どもたちの未来を奪ってしまうことになります。子どもたちは大人を信じて出されたものを食べて生活をしています。周りの大人が正しい知識と判断で安心・安全なものを子どもたちに提供する必要があると思います。

次は小学１年生の娘さんのお母さん、東日本大震災の後、菊池市に越してこられた方です。子どもたちに選択権はありません。出されたものを何の疑いもなく食べます。このまま私たちは安全を国に依存し続けてよいのでしょうか。子どもたちのために真っ先に取り組まなければいけないこと、それは本当に安全・安心な給食の提供、そして、その食育ではないでしょうか。切にお願いします。

今、紹介した保護者の皆さんの声はどれも本当に切実です。これだけ不安な声が上がっているときに、その不安に目を向けてしっかりと対応するのが行政の役割で

はないでしょうか。学校給食は子どもたちの心身の成長を支える大きな教育の役割があるものです。単なる食事の提供ではありません。そして、農薬などの影響を一番受けるのが子どもたちの世代です。安全・安心な学校給食をコストや慣例にとらわれず実施をしていただきたい。このことを最後に強く要望しまして、次の質問に移ります。

次に、高齢者支援について質問します。

今回は、加齢性の難聴者の補聴器の助成についてお聞きします。

高齢者の難聴者は、７０歳代の男性で２３．７％、女性で１６．６％、８０歳代では男性は３６．５％、女性は２８．８％と言われています。

難聴になると、家族や友人との会話が少なくなり、会合の出席や外出の機会が減り、コミュニケーション障がいが起こるとされています。さらに認知機能低下が正常聴力の人より３２％から４１％の悪化が見られます。

厚労省の新オレンジプランでは、難聴は認知症の危険要因の一つとされ、国会でも補聴器購入助成を求める質問に前向きの答弁がされています。

ここで、お聞きします。

加齢性難聴が認知症の重要な危険因子との認識をお持ちでしょうか。市として、加齢性難聴についての認識をお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　改めまして、皆様、おはようございます。ただいまの東議員からのご質問にお答えいたします。

認知症の発症原因はいまだ不明であり、予防法は十分に確立されておりませんが、東議員もおっしゃいましたように、厚生労働省が策定いたしました認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）におきまして、難聴は認知症の危険因子として挙げられております。

市としましては、難聴が早期に発見され、補聴器を正しく使用されることで、コミュニケーションが図られ、外出の機会がふえるなど、活動的な生活を送ることができるようになると考えます。これにより、認知機能低下を防ぐとともに、介護予防につながる可能性があると認識しております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　介護予防につながるとの答弁でした。

厚労省の介護予防マニュアル（改訂版平成２４年３月）では、社会活動が不活発

であることが認知症の発症リスクを上げる。閉じこもりは認知症の発症リスクとなっている可能性があるとした上で、閉じこもりの身体的要因の一つに聴力の低下を挙げ、対策を求めています。

これは日本補聴器学会の調べですけれども、現在、難聴者の１４．４％しか補聴器をつけていないとの推計もあります。理由の一つは補聴器の価格です。補聴器は３万円くらいから３０万円以上のものもあり、平均で１５万円となっており、価格が高過ぎるとの声が多くあります。

このような中、補聴器購入助成に取り組む自治体が少しずつ広がってきています。全日本難聴者・中途失聴者団体連合会のホームページや、インターネットで調査をしてみると、私が掌握しているところでは、全国で２０の自治体が実施をしています。助成額、対象年齢とともに、住民税非課税世帯や住民税非課税の人など、所得制限のあるところ、全く所得制限のないところなど、補助の内容は、地域の事情、財政力など、さまざまであります。長野県木曽町では、６５歳以上の必要な人に所得制限なしで３万円の助成をしています。また、助成金ではなく、現物給付のところもあります。東京都江東区では４万５，０００円の２種類の補聴器を毎年４００個予算化していて、年間３８０個くらい支給実績があるとのことです。

そこで、再質問します。

認知症の予防のためにも、高齢者の生活の質を落とさないためにも、菊池市でも補聴器購入に対する補助制度の導入を検討すべきと思いますが、どうでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　加齢によります難聴者への補聴器購入に関する助成についてでございますが、まずは、既に助成をしている自治体の状況を調査しながら、国・県等の今後の方向性を注視してまいりたいと考えます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　ぜひ、実施をしている他自治体の調査も行って、検討を進めていただきたいと思います。

国会では、ことしの３月に加齢性難聴者の補聴器購入の助成制度の創設についての質問が行われております。欧米では難聴を医療のカテゴリーで捉え、補助制度があるが、日本では障がい者のカテゴリーで捉えているので、補助を絞り込んでいるため、補聴器所有率が圧倒的に低い。どういう対応が可能か、研究、検討に入るべきではないかとして、補聴器購入に補助制度を求める質問が行われております。

これに対し厚労省は、補聴器を用いた聴覚障がいの補正による認知機能低下予防効果を検証するための研究を推進すると答弁があっています。また、麻生太郎財務大臣も、やらなければならない必要な問題、こう述べ、国会でも前向きの答弁が返ってきています。

また、全国の自治体では、国に補聴器購入の助成を求める意見書採択が急速に広がっています。それだけこの問題は切実な問題であると認識しています。国に意見を上げると同時に、それ待ちにならず、市としても検討、調査を進めていただきたい。このことを最後に重ねて要望しまして、私の一般質問を終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、東奈津子さんの質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１０時５０分

開議　午前１０時５８分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　皆様、おはようございます。福島英徳です。

本日は、令和元年９月に報告されました平成３０年度（２０１８年度）癒しの里きくち創生総合戦略効果検証について質問をいたします。

本年度は５カ年計画の最終年度になりますし、次の計画、目標設定も行われていると思います。そこで、目標設定から４年が経過した内容について、６件を事例にとって、目標設定の根拠と各年度の結果に対する要因分析をどのように行われたのかをお尋ねいたします。

まず１例目は、効果検証報告書の５ページに記載されております、ホームページ、観光サイトへのアクセス数について、基準値、これは平成２６年度の実績４万２，２７８件に対して、平成３１年度の目標設定を２０万件にされています。また、翌平成２７年度には２倍の８万４，４５７件にふえました。その後、平成２８年度から３０年度は約７万件台で推移しており、目標値の５０％にも届いておりません。要因分析にも具体的な記載がないため、目標設定件数の経緯、翌年度に倍増した理由、その後、平成２７年度から１万件前後減少して、横ばいで推移していることに関する説明をお願いします。

２例目は、１１ページに記載されている、新規雇用者数、これは累計です。これに関しまして、基準値７，０３８人に対して、平成３１年度の目標を６．５％増、

人数にして約５００人の７，５００人に設定された理由、また、翌平成２７年度から毎年５％前後、少ない年で２００人、多い年では５００人の伸びを見せ、平成３０年度の実績は、既に平成３１年度の目標数を１２％ほど上回る８，４２５人となっています。１例目と同様に、目標数設定の根拠と実績が大きく増加した理由の説明をお願いします。

３例目は、２０ページに記載されている、ファミリー・サポート・センター利用者数について、基準値、これも平成２６年度の３０２人に対して、平成３１年度の目標数を３８２人に設定された根拠、また、基準値を設定された翌年の平成２７年度に８０９人と３倍近くも増加した理由、さらに、その翌年、平成２８年度以降は横ばいで、平成３０年度には２６４人と、基準年度から１３％前後まで落ち込んで推移している実績の要因分析をお願いします。

４例目は、２４ページに記載されている、あいのりタクシー・べんりカーの利用者数についてです。基準値３万３，０３６人に対して、平成３１年度の目標数を３万５，０００人に設定された根拠、翌年は５％減の３万１，３２２人で、その後、平成３０年度まで３万人台で推移しており、目標値ではなく、基準値の９０％前後となっている実績に対する要因分析をお聞かせください。

５例目は、２７ページに記載されている、特定健診の受診率です。基準値、これも平成２６年度の３２．４％に対しまして、平成３１年度の目標値は６０％と大幅増で計画されています。目標設定率の根拠として、国の目標値で設定しており、受診率が低い本市にとっては高い目標値であったと要因分析されていますが、実績では翌年の平成２７年度に６．５％減の３０．３％となり、その後、平成２９年度まで３１％前後で推移しています。ちなみに、毎年１０月に数値が確定するため、平成３０年度は示されていません。これも目標値云々の以前に、基準値を下回る状況について、具体的な要因についてどのような分析をされているのか、お聞かせください。

最後に６例目です。３８ページに記載されている、きくち田舎暮らし移住・定住推進計画についてです。この事業は、平成２８年度から平成３２年度の５カ年計画ですが、移住者数については、事業開始前の平成２７年度の１０人を基準として、最終年度の計画は、平成３２年度ですけども、７７人となっています。しかし、平成３０年度時点で計画３７人に対して、実績は１０１人、いずれも累計です。と既に２倍以上です。空き家バンクの利用者数に至りましては、事業開始前の７３人を基準値として、平成３２年度の計画は１３７人に設定されています。しかし、翌年の平成２８年度は計画１７人に対して実績は１５１人と９倍弱、平成２９年度も計画３０人に対して実績は１８６人で６倍強となっています。平成３０年度時点で計

画７７人に対して実績は２９４人で４倍弱の実績となっております。計画数の設定根拠及びなぜこのような結果になったのか、分析されたであろう要因をお示しください。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　皆様、改めまして、おはようございます。

総合戦略の取り組み、各部局にわたっておりますので、質問を受けた順番に各部長のほうでお答えをしていきたいと思います。

まず、ホームページの分につきまして、政策企画部のほうからお答えをさせていただきます。

まず、その基準値設定の根拠につきましてですが、こちらについては、ホームページ観光サイトのアクセス件数でございますが、基準値はホームページの観光サイトの分につきましては、リニューアルを平成２６年９月に行っております。その後の半年間、１０月から翌年３月までのトップページへのアクセス数４万２，２７８件と設定をまずいたしました。

目標設定の根拠ですけれども、観光サイトをリニューアルした２６年度というのが、今申しましたとおり半年分でございます、４万２，２７８件。そのため、平成２８年度の目標値は基準値の２倍、１年分としまして８万４，４５７件と見込んだ上で、平成３１年度の目標値を１１万５，０００件のアクセス数増を目標としまして、トータルで２０万件というふうに設定をいたしました。

ただし、先ほど福島議員からもございましたように、実際のところは下回っております。その要因としまして、分析しております内容としましては、まず、平成２８年４月に発生しました熊本地震の影響によりまして、市の代表的な観光名所であります菊池渓谷を初め、市内施設にも甚大な被害が出ておりまして、その影響を受け、平成２８年度、それから２９年度の観光サイトへのアクセス数は減少したというふうに考えております。

それから、そもそも設定しております、この観光サイトへのアクセス数というのが、あくまでトップページでのカウントというふうになっておりますので、トップページをカウントせずに、いきなりコンテンツのほうに入ってアクセスした場合というのはカウントをされておりません。

それから、この間、観光ということでいけば、市外の方への情報提供を市のフェイスブックであります、癒しの里きくちのほうにも移しておりますので、そちらのほうがふえております。そちらのほうに移っているということ、それから、若者向けにはインスタグラムの投稿にも力を入れたこと、それから、うちのホームページ

に関して言えば、継続しての閲覧者というよりも、初めての閲覧者が多い傾向にあるということ、新規での閲覧者が７６％に対して、リピーターは２４％と、そういったことが件数がふえてない要因かというふうに考えております。

さらに、３０年３月には、菊池一族の専用サイトを開設するなど、これまで観光サイトに集約していた分も分散されたということもあるかと考えております。

今後は、ＳＮＳとの連携を強めまして、観光ページへの誘導を図るとともに、リピーターとなっていただけるように、コンテンツの見直し等も進めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　改めまして、おはようございます。ただいま福島議員のご質問がありました、１１ページ、新規雇用者数累計についてご説明させていただきます。

まず、基準値の設定につきましては、まず、７，０３８名というところにしております。これにつきましては、平成２６年度におけます誘致企業の累計従業者数を基準値、目標値に設定をいたしております。その後、計画につきましては、きちんとしたものがございませんので、雇用者の増加人数というところで、年間１００名程度を見込んだというところでございます。この辺につきましては、明確な数値と、目標になるようなものというよりも、１００名程度と見込んだというところでございます。このため、最終的に７，５００名というところで計画をしておりました。最終的には３０年度につきましては８，４２５名というふうになりましたけれども、これにつきましては、平成２７年度から２８、２９、３０というところで、地震もあったんですけれども、この間、各誘致企業の皆様の増設であるとか、新規の企業誘致、これがあったものでございますので、そのときの従業員数という形でふえたというところの数字については、各企業様のそこでの雇用増の分を記載しているというところでございます。非常に悩んでおりました田島工業団地にも企業が誘致しましたので、その辺も含めての数字というところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　それでは、ファミリー・サポート・センターについてお答えします。

ファミリー・サポート・センター利用者数の基準値３０２人につきましては、平

成２５年度の実績で設定しております。目標値３８２人につきましては、現状と利用傾向等を考慮し算定したものでございます。

ファミリー・サポート・センターは、子どもを預けたい人と預かりたい人でつくる相互援助活動の事業でございます。平成２７年度は泗水にございます保育園の改築整備によりまして、仮園舎が七城に設置された際に、子どもさんの送迎のために利用されたケースがあり、急激に利用者がふえたものと分析しております。

また、平成２８年度は、熊本地震により協力会員が被災されたりなど、ご自身の受け入れが困難な状況もありまして、利用者数が減少したのではないかと考えております。

このような要因や、その時点での家庭の状況等によりまして、年度、年度で増減はございます。

そして、現状値が目標を下回っておりますが、こういった要因としましては、依頼会員に対し協力会員が不足していることや、事業の周知不足等があると考えております。

これからも次代を担う子ども一人一人の育ちを応援するために、子育てに係る経済的負担の軽減や、安心して子育てができる環境整備のための施策などとあわせまして、総合的な子ども・子育て支援を進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　次に、あいのりタクシー・べんりカーの利用数をＫＰＩとして上げている分についてお答えいたします。

こちらにつきましては、基準値を平成２６年度末の利用者数３万３，０３６人と設定しております。

目標値につきましては、平成３１年度までの５年間で約２，０００人の利用者増を目標として、目標利用者数を３万５，０００人というふうに設定いたしました。

先ほどもございましたが、平成３０年度末の利用者数は３万５７０人であり、特にべんりカーの利用者数が基準値よりも２，９２４人の減というふうになっております。

平成２９年度に公共交通に対する市民アンケート調査というのを実施いたしました。その中では、利便性の向上を望む意見や、周知不足といった改善点が示されております。それらが利用者減の要因の一つだというふうには捉えております。

そのため、今年度は利便性の向上のため、１０月からあいのりタクシーの増便というのを実施しております。また、周知活動としまして、利用促進を図るため各戸

へのチラシの配布や公共交通の現状を広報誌に特集として掲載をいたしました。また、区長会等で利用方法の説明等も、今、行っているところでございます。

今後も引き続き、周知や改善を図りながら、持続可能な公共交通の確保に努めたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　特定健診受診率についてお答えします。

国民健康保険特定健診の受診率でございますが、まず基準値につきましては、平成２５年度の特定健診受診率３２．４％を設定しております。また、目標値の６０．０％につきましては、高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定健康診査等基本方針に示されております市町村国保の加入者に係る特定健康診査の実施率６０％以上を参考に、６０％と設定しております。

この報告書の現状値では、平成２９年度の受診率が３１．８％となっておりますが、本年１０月に確定いたしました平成３０年度の健診受診率は３２．５％でございました。

土日を含めた集団検診では、がん検診と同じ日に特定健診を受けることができるようにしたり、市内の２３の医療機関を指定いたしまして、個別に特定健診が受けられる体制をとるなど、受診率向上に努めておりますが、なかなか受診率アップにはつながっておらず、目標の６０％とは依然として乖離がございます。

また、健診未受診の理由としましては、医療機関で治療中であるためが最も多く、本市の国保のデータによりますと、未受診の方のうち、治療中の方が約６割となっております。そのほかの理由としましては、ほかに自覚症状がないため、自分で健康管理をしているといったことが上がっております。

今後、さらに健診を受けやすい体制を整えるとともに、未受診者対策としまして、健診を２年間続けて未受診の方や、過去５年間に一度は受けた方を対象に、個別に受診勧奨を行ったり、また、治療中の方につきましては、医療機関と連携いたしまして受診勧奨を進めるなど、さらなる受診率の向上に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　先ほどの答弁で、私が本年１０月に確定しました平成３０年度の健診受診率を「３２．５％」と申し上げましたが、正しくは「３２．

８％」でございます。訂正させていただきます。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　移住者数についてお答えいたします。

基準値につきましては、平成２７年度末の移住者１０人と設定しておりました。また、目標値につきましては、平成３２年度までの５年間で毎年１０人から１５人というのを段階的に増加することを目標として、目標移住者数を６７人と設定いたしておりました。

平成２７年４月に集落・定住支援室というものを設置以降、移住希望者に対するＰＲ活動とあわせ、空き家バンク制度の充実や、お試し住宅の活用、それから補助金制度による支援など移住者に向けた各種取り組みにより、目標人数を上回ったものというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ありがとうございます。

計画目標というものに関しまして、達成に向けた取り組みというのは当然必要です。しかし、先ほど説明された根拠または分析されている要因をもとに、目標値から大きく上振れまたは下振れする場合には、目標値の見直しも行う必要もあるのではないかと思います。それがなぜ行われなかったのか、その理由を簡単にお示しください。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　全体的なことということで、私のほうからお答えをしたいと思います。

目標と乖離した指標について、なぜ見直しを途中で行わなかったかということにつきましては、まず、計画期間が３年を経過しましたところで、平成３０年の第１回目の菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議という外部の方を入れた会議がございまして、そこで評価をしていただいておりますけど、その場で熊本地震の影響や高い目標設定というのがあり、目標値と乖離した指標は見直しを行ったほうがいいというご意見も、その当時、いただきました。

それを受けまして、その後、指標の見直しについて、県のほうに助言もいただきながら庁内で検討いたしましたところ、地震の影響で実績値にばらつきがあり、見直しができない指標が多くあったこと、見直し後の平成３１年度（令和元年度）が

計画の期間の最終年度となるため、計画全体の検証を行うなど、次期計画の策定に取りかかること、それから、県内の市町村で指標の見直しだけを行ったところはないということから、指標の見直しは行わない方針というふうにいたしました。

最終的には、平成３１年の１月２３日に開催しました第２回の総合戦略の推進会議のほうにお諮りし、現計画の指標の見直しは行わず、次期計画策定の中でそこの見直しを行っていくというふうに決定をするところでした。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　何もされてなかったというわけではなくて、きちんと会議の中で決められたということで、多少は安心をいたしました。

ただ、いろんな答弁を聞いてますと、計画というものをどのようにお考えなのか、計画なんて作文にすぎないとか、外向けに外部の者に説明するために、とりあえずつくっておくといったような考えであれば、それは無計画とも言えます。また、ロジカルにつくられていない計画に固執しても失敗を招くと思います。

執行部の方々からは、よくＰＤＣＡといった言葉を聞きますが、Ｐ（プラン）、要するに計画ですね。これが適当ならば、到底ＰＤＣＡを回すことなどできないと思います。

そこで、市長にお尋ねいたします。

いろんな答弁はございましたけども、今後も今のやり方を踏襲されるのか、それとも、状況によっては変えていく考えがあるのかをお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

当面につきましては、今のやり方を続けることにして、精度を上げていきたいと、こういうふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ぜひとも、その計画の精度及び要因分析というのをきちんとやっていただきたいと思います。

次に、七城ふるさとコスモスまつりのあり方について質問をいたします。

ことしの七城総合グラウンドのイベント会場で行われたイベント、これは盛況で、うれしく思います。グラウンド内の駐車場も満杯で、駐車場入場待ちの車も多く、

私は原付バイクで行かせてもらいました。また、ウオークラリーの参加者も、昨年の６６０人から８５０人と、２００人ほど増加したとも聞いております。

参加者の増加によって、ことしのふるさとコスモスまつりは成功だったように感じます。それにはまつりを盛り上げるためにさまざまな取り組みをされてきた効果だと思われますが、これまでどのような取り組みをされてきたのでしょうか。あわせて、今後、さらに取り組まれる内容を含めた方向性をお聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　それでは、七城コスモスまつりについてお答えいたします。

福島議員もおっしゃいましたとおり、コスモスまつり、近来ない盛況でございました。ちなみに、３年間の参加数とイベントの来場者数で申し上げますと、平成２９年のコスモスウォークの参加者が６６５人でございます。イベントの来場者が約３，０００人でございました。平成３０年度のコスモスウォークは６６３人、イベント来場者が前年と同じく３，０００人というところでございました。

本年につきましては、コスモスウオークの参加者が８０７人です。イベントの来場者が５，０００人となっております。イベントにつきましては約というところでございます。過去２年間の実績と比較しても、コスモスウオークの参加者が２割強、イベントが６割強の増加になっているというふうに、市としても捉えているところでございます。

増加した要因につきましては、平成３０年度からでございます。コスモスウオークラリーでございますが、このコースの途中に特産品のメロン、そして、七城米のおにぎりの試食のコーナーを設置いたしました。これが参加者から好評を得ていたこともございまして、本年度も試食コーナーの設置につきましては、ポスター及びチラシ等で掲載いたしまして、こういうものもございますよということで募集をしたというところが、増加した要因の一つであるというふうに考えております。

また、９月の上旬につきましては、ウオークラリーの参加につきまして、ＮＨＫ福岡放送局でございますが、お昼の情報番組「はっけんテレビ」に出演し、放送直後には数十件の申し込みがあったとか、あるいは、ステージイベントのＰＲについて、幼稚園・保育園向けの企画を盛り込んで充実をさせたというようなことから、子ども連れの来場者が増加したというふうに考えているところでございます。

今後につきましても、コスモスまつりにつきましては、実行委員会でやっております。この反省も踏まえて、実行委員さんと話し合いながら、ことしの成果、いいところは伸ばしながら、あるいは新たな取り組みについても実行委員さんのアイデアをお聞きしながら、今後も来場者が伸びるような形で取り組んでまいりたいとい

うふうには思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　何もせずによくなることはないと思います。先ほどもメロンですとか、七城米のおにぎりですとか、やっぱりこういったものというのは、余り役所には見られない、横のつながりといいますか、横断したこともあったんじゃないかなと思います。やはりそのように、縦だけじゃなくて、横のつながりによって相乗効果が出てくれば、もっともっとやっぱりまつり、そういったイベントというのは発展していくと思いますんで、よろしくお願いします。

次には、残念に感じたことを述べます。冠でもあるコスモスの状態が悪かったことです。私も河川敷を見て回りましたが、昨年よりもさらにひどかったように映りました。近隣及び遠くは玉名の介護施設から見に来られた方々からも残念な声を多く聞きました。なぜこのような結果になったとお考えでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　改めまして、おはようございます。コスモスの管理につきましては、建設部のほうの所管でございますので、私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

まず、現状の取り組み状況ということでございますが、コスモスの耕うん・種まきにつきましては、七城地区の河川除草作業員が行っているという状況でございます。河川の除草時期と種まきが重なりますので、なかなか人手不足で、種まきの時期がちょっとずれたというのはお聞きしております。

それから、種まき後の草取りですが、これにつきましてはシルバー人材センターのほうにお願いしております。ただ、以前に比べまして、市のほうが希望するだけの人員の確保ができてないということで、それだけの草取りがちょっとできなかったという状況でございます。

コスモスの咲き方の原因につきましては、土壌の問題、それから、今言いました種まきの時期、それから、草取り不足というのが考えられますが、特段原因ということになりますと、ちょっと特定はできておりませんが、それらのことが要因ではないかということで考えております。

一応人員につきましては、七城区長会等もお願いして募集は行いましたが、確保できなかったというのが本年度の結果でございます。

今後は、人員の確保に努めるとともに、夏場の猛暑時期等で作業を行いますので、

作業時間の見直しで、朝できるとか、そういうところを見直したり、ほかに人員が足らないということでございましたら委託等を、その辺のことまで検討していきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ちょっと話を変えますけども、合併前には七城町に河川の堤防の管理費として、国交省から年間約２，０００万円程度の委託金がありました。その委託金を上手に活用して、毎年、見事なコスモスを咲かせていたと聞いております。その委託金は現在も継続していると思うんですが、年間幾ら交付されて、それがどのように使用されているのか、お聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　国のほうから河川の美化作業という、美化委託といいますか、それで委託費が入っております。平成２８年から３年間をちょっと申し上げますと、平成２８年が１，６５９万６，０００円です。平成２９年度が１，６５９万６，０００円、同額です。平成３０年度が１，７１７万２，０００円というところで来ております。実質、作業員さんの賃金、あと消耗品、燃料費、修繕料、保険料、それから各行政区等の委託も行っておりますので、その委託、それから、コスモスの今言いました種まきとか、そういうところ、あと機械の借り上げですね。それから、機械の購入を大体３年に一遍程度、大きな機械を購入しておりますので、それらのほうに充てております。そういうところで年間通して、あと事務費ということで、職員の人件費等も見られておりますので、その辺に活用しているというところでございます。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　この使い方というのは、合併前の七城町と同じように使われているのでしょうか。そして、この委託金１，６５９万６，０００円、１，７１７万２，０００円というものは、毎年きちんと全部使われているのか、お聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　今申し上げました歳入に対する支出ということでございます。

まずは、ちょっと七城のほうの、以前どのように使われていたかというのが、ちょっと把握しておりませんので、合併前の七城と今のやり方がどうなのかというのは、ちょっと申しわけございませんが、把握できておりません。

それから、今、歳出のところでございますが、七城の部分だけを申し上げますと、平成２８年度は支出のほうを申し上げます。１，９０６万円で、約２４６万円程度、赤字になっております。平成２９年度は、逆に１，２５２万円で、４００万円程度の黒字です。それから平成３０年度につきましては、１，１５４万５，０００円で、５６０万円程度の黒字ということにはなっておりますが、あとまだ七城だけじゃなくて、菊池市関連とか、泗水のほう、それから県のほうの委託とか、トータル的に考えれば、逆にちょっと赤字のほうが多いという形にはなっております。

ただ、本年度につきましては、また機械の購入で７３０万円程度の機械を買いましたので、ことしはちょっとまた赤字になるという計画ではございます。

以上、お答えいたします。

済みません、ちょっと私の説明の仕方が余りよくありませんで、赤字とか黒字とはちょっと言えませんで、一応収入に対して支出が足らなかった、それと支出のほうが少なかったということにちょっと変えさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　赤字、黒字じゃないと思います。

ただ、合併前に、この七城の河川に対しての管理費として委託されているお金だったわけですので、これはやっぱり同じように今後も使っていっていただきたいと思うんですよね。そういった費用によって、以前のコスモスというのは質がよかったんじゃないかな、そういうふうにも聞いております。

先ほどおっしゃいました河川除草の方々のお話を聞いても、コスモスをきちんとしろというような、そのような話は聞いてはいないというふうにおっしゃるんですね。言われたらやる、そういうこともおっしゃっております。ぜひともそういったものを考えていただきたいな。私は、やはり合併前に咲き誇っていたコスモスというものを復活させるリソースはまだまだ十分にあると思っております。

そこで、春先の桜と同様に、秋には秋桜と書くコスモスも名物にしたいという考えが私にはありますが、これまでの答弁や質問を聞かれて、市長にはその考えがあるのかをお聞きいたします。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　コスモスまつりにつきましては、毎年、お客様が、特にことし

はふえまして、天候によって増減する場合もあるわけでありますけども、おおむね私は大変好評をいただいているんではないかと。今もおっしゃいましたように、何のためにやっているかといえば、それはもうもちろんこの七城地区、そして、それを菊池の盛り上げとしてつなげたいという思いでありますから、だんだんに名物になりつつあるのではないかというふうに私は考えておりますし、今後についても、そのように進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　確かに、楽しみにしておられます。そういった方々からも残念な声も聞きますので、ぜひ、やっぱりよかったと言われるようなものにしていただきたいと思います。

それでは、最後の質問です。

ここ数年、いろんな分野で外部委託がふえていると感じます。時代の流れもありまして、民間企業でも人件費削減等によって、アウトソーシング、要するに、外部委託がふえるようになりました。しかし、最近では情報の流出や、質の向上を見直すため、外部委託は減らす傾向にあります。本庁でも外部委託がふえているようですが、外部委託料の実態をお聞きします。

最初に、ソフトウエアを含めた電算システム改修費についてお示しください。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　改めまして、おはようございます。福島議員の質問に関しまして、委託料全体にわたりますので、まずは私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

委託料については、過去３年分でよろしかったでしょうか。ソフトウエアを搭載した電算システムの保守、管理、改修等に係る委託料につきましては、ホームページシステムやＧＩＳ（地理情報システム）等に係る経費も含めた一般会計の電算システムに係る総額でお答えしたいと思います。

まず、平成２８年度につきましては、電算システムに係る委託料の総額が７，６８５万６，０００円でございます。そのうち、国の法改正等により必要となったシステム改修等の委託料は７２５万３，０００円でございます。

次に、平成２９年度につきましては、委託料の総額が１億９９４万７，０００円、うち法改正に係る委託料が１，３００万１，０００円、それから、平成３０年度につきましては、委託料総額が１億５６１万１，０００円、うち法改正に係る委託料

が１，２２６万７，０００円となっております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ありがとうございます。

ほとんど、やはり法改正によるシステム改修ということで、市の負担としては大体１０％ぐらいというふうに思ってよろしそうですね。

ただ、数字を見てますと、改修費１件７０万円、１件１００万円とかというのがよく目にするんですけども、外部に改修委託をされる場合には、知識を持たれた職員の方々によって、見積もりの妥当性等の検証はされているのでしょうか。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　システムの改修につきましては、昨年度末に情報システムガイドラインという、今の時点では素案でございますけども、そういったものを作成しておりまして、それに基づきまして、電算システムの改修委託につきましては、政策企画部において事前に審査をして発注という形にしております。

内容に疑義が生じた場合には、ＩＣＴ推進アドバイザーにも相談し、内容、費用について助言をいただき、精査をいたしております。今後も適正な内容、金額となるかを精査していきたいというふうに考えております。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ということは、丸投げではないと。それなりの検証をされているということですので、ただ、見てますと、ほとんど金額というのが、もう一定、固定しているような感じなんで、確かにソフトウエアというのはそういうもんかなとも思います。ただ、ぜひとも、やはりブラッシュアップして、さらにこういった検証は進めていただきたいと思います。

次に、２年ほど前からコンビニで住民票等各種交付が可能となって、便利になったとは思いますが、過去２年間の交付件数と、それに伴う歳出経費をお示しください。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　改めまして、おはようございます。申しわけございません、ちょっと今の件数を調べておりませんので、後でお答えさせていただきます。申しわけございません。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　済みません、私が調べておりました。ですから、結構です。

平成２９年度は３７０件の交付数で、経費が約３７０万円です。１件当たり約１万円。平成３０年度は５６１件に対して約４７０万円の経費ですので、１件当たり約８，３００円。ただし、平成３０年度には、固定費３７０万円に加えて、システム改修費に約１００万円がかかっております。これ、システム改修が平成３０年度になければ、交付件数は５６１件ですので、１件当たり６，６００円ぐらいに下がります。やはり交付数がふえると、１件当たりの経費は下がると思うんですが、平成３０年度に行われたようなシステム改修は、今後、どれほどの頻度で必要になるのか、お聞かせください。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　ただいまの質問についてお答えいたします。

今回の改修につきましては、旧姓併記というのがありましたので、そこで出ておりますが、これは頻繁にあるものではないということで伺っております。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　ということであれば、ほぼコンビニ交付に係る年間の固定費３７０万円で今後も推移していくのかなというふうには感じております。

年末年始を除き、土日も含め、朝６時半から夜は１１時まで、全国各地で交付が可能ということですので、利便性は上がって、本庁や支所での業務も軽減できると思います。

先週の城議員からの質問に対する答弁にもありました、申請窓口をふやす等の答弁はお聞きしましたが、済みません、マイナンバーカードですね。コンビニで交付するにはマイナンバーカードが必要だ。ここは話はちょっとそれるんですけども、やはりこの単価を下げていくには、マイナンバーカードの普及というのは必要かとも思います。

ただ、それに加えまして、市役所の窓口で証明書等を交付される場合に、全て同額じゃないんですけども、今、３００円ぐらいの費用がかかっております。これをコンビニで交付した場合に、２５０円とか、２００円とか、利用者がコンビニでやることのメリットというのもあれば、さらにそういった普及というのは上がってくるであろうし、また、マイナンバーカードの普及率も上がっていくんじゃないかとは思われますが、そのあたりはいかがお考えでしょうか。通告はしておりませんの

で、答えられる範囲で結構です。

○議長（柁原賢一君）　市民環境部長、古田浩敏君。

［登壇］

○市民環境部長（古田浩敏君）　今、議員がおっしゃるとおりに、導入当初につきましては、コンビニ交付が少なかったために単価が高うございましたが、ふえていきますと、今おっしゃったように、窓口での交付件数が減りますし、対応等にも効果が上がってくるのではないかというふうに考えております。

それで、コンビニ交付につきましては、先ほど言われたように、マイナンバーカードが必要になりますので、これの推進をするというので、紹介していただきましたように、体制をつくっていくところで、そっちのほうはつくっておりますが、また、今ご紹介いただいたコンビニ交付手数料を下げるとかいう、そういった事例につきましては、先進事例のほうを研修していきまして、そして、導入等ができれば、その辺について検討をしていきたいというふうに思っています。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　コンビニでの交付がふえることによって、窓口業務の軽減となれば、またそういった人というのを別のところにも使うことができるかもしれません。いろんな相乗効果は出ると思いますので、ぜひとも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、福島英徳君の質問を終わります。

ここで昼食等のため、暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１１時５４分

開議　午後　１時００分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　皆さん、こんにちは。議席番号１１番、荒木崇之です。通告に従いまして一般質問を行います。

中央図書館閲覧用椅子１脚１０万円の購入に係る入札問題について質問いたしま

す。

この質問については、今回で四度目の質問となります。これまでのおさらいをと考えましたが、９月１２日に熊日新聞にて、批判やまぬ高級椅子として大きく報じていただきましたので、市民の多くの方がこの椅子問題について知ることとなりました。

また、この椅子問題は、菊池市だけにはとどまらず、１０月に西原村のゴルフ場レストランで、菊陽町の方と２年ぶりに再会したときに、挨拶もそぞろに、その方が私が座っているゴルフ場の椅子を指さし、その椅子１脚１０万円と冗談まじりでおっしゃっていました。改めて、市民や市外の方も、椅子の問題に対する菊池市への批判の高まりを感じたものであります。

では、本題に入ります。

前回、９月の一般質問において、イタリアのＭＡＧＩＳ社製の椅子を空輸する際には、インボイスという貿易用語で納品書、送り状を意味するもので、発送する荷物の中身を説明する書類、税関手続には必ず必要な不可欠な書類があるので、そのインボイスを落札業者である株式会社教育産業社から提出させてくださいと、８月２６日に依頼しましたが、私の一般質問には間に合わず、提出要請からおくれること１カ月後の９月２４日にようやく提出されました。しかも、提出してきたのは受注業者である株式会社教育産業社ではなく、日本ＭＡＧＩＳ社というところであります。

今回は、この提出されたインボイス及び輸入許可通知書についてお尋ねいたします。

傍聴者の方がわかりやすいように、１点ずつお聞きいたします。

パネルを示します。

［パネルを示す］

○１１番（荒木崇之君）　これはちょっと小さいですから見にくいですが、総務文教常任委員会に１０月１０日に市から提出されたものです。これがインボイスというものですが、まず初めに、通常、行政が公開する資料について、個人情報等が記載されている場合には、よくマスコミとかで見ます黒塗りにされています。福島議員が言う、民間ではのり弁というらしいですけども、ノリを張ったように見えるから、黒塗りをしてあります。しかし、今回のインボイスは修正液で消してあります。なぜそれがわかるかといいますと、線が消えています。ここにインボイスというところに、本来は番号が入ってなきゃいけないのに、きれいにそれも消してあります。そのほか、複数カ所消された形跡がありますけども、誰が修正液で消したのか、まず１点目、お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　それでは、荒木議員のご質問にお答えさせていただきます。

インボイスを修正液で消したのは誰かというご質問でございますが、ＭＡＧＩＳ社のほうでコンプライアンスや個人情報の利用制限のあるもの、機密性の高い情報など、保護すべき情報について判断をされて、提出されたものだと思います。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　それでは、日本ＭＡＧＩＳ社が修正液で消したということのお答えなんですが、市は、もちろんこの原本を確認した上で、その日本ＭＡＧＩＳ社に消させたのか、お尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございます。原本を確認したのかということでございますが、原本は確認をいたしておりませんが、ＭＡＧＩＳ社より公式な文書として提出されたものであり、不明な箇所につきましては聞き取りをしながら、インボイス、輸出証明書ともに閲覧用の椅子のものと認識しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　ということは、原本は確認してないけども、重要な部分についてはＭＡＧＩＳ社と確認を行ったというところですが、原本も確認せずに、総務文教常任委員会にこれを提出しているわけなんですよね。

そもそも論からいきますと、このインボイス及び輸入許可通知書は、市が支払いの際に必要な書類であります。なぜなら、菊池市会計規則第３７条に、支出命令には請求書、その他支出原因及び計算の基礎を明らかにした書類を添付しなければならないと定めてあります。このことは総務文教常任委員会の中で松岡議員もご指摘されています。まさに、このインボイス、先ほど示しましたインボイスは、支出原因の計算の基礎を記載した書類です。ですから、市は、インボイスの原本を業者に提出させる義務があると私は考えます。そして、それを公開するときには、先ほど言われたように、業者と打ち合わせをして、利益などコンプライアンスにかかわる部分を黒塗りで公開すべきであると私は考えます。

では、執行部が確認しているから間違いないと言われるインボイスの中身について質問をいたします。

パネルを示します。

［パネルを示す］

○１１番（荒木崇之君）　これもちょっと小さいので見にくいんですが、これは輸入許可通知書という日本語で書かれたものです。この中で、上段のほうにＡＷＢ番号とＭＡＷＢ番号というのが二つあります。ここ、線が切れているんですよ。修正液で消してあるんですが、これが、この上段のＡＷＢ番号とはＡｉｒ Ｗａｙｂｉｌｌ番号といって、荷物が現在どこにあるかを追跡するとき、確認するときに使う番号なんです。下、ＭＡＷＢ番号というやつはＭａｓｔｅｒ Ａｉｒ Ｗａｙｂｉｌｌ番号といいまして、航空会社が発行するやつなんですね。この番号をもとに、どの飛行機に乗ったか、荷物が乗ったかを追跡することができます。

ですから、この二つの番号が記載されているからといって、椅子の仕入れ値や利益率がわかるものではありません。それなのに、なぜ修正液で消してあるのか、お尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、調査では、書類に記載された送り主、依頼主、それから、発着空港、発着日、品名、数量、重量、原産国等について、ＭＡＧＩＳ ＪＡＰＡＮに聞き取りを行いながら確認を進めてまいりました。輸入に関する不審な点はなく、確実に輸入されたものと認識しているところでございます。

また、今、議員のほうから説明されましたＡＷＢ番号、荷物が今どこにあるかの確認をするときに使うもの、それから、ＭＡＷＢ番号、こちらについては荷物をどの飛行機に乗せたかを確認する場合に使うものであるということでございますが、途中経過を確認するものにすぎないために、市が求めている情報ではないと判断されたものだというふうに思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　あのですね、ＭＡＧＩＳ社に対しての発注主というのは市なんですよね。それは市が消すか消さないかをＭＡＧＩＳ社に指示するのであって、ＭＡＧＩＳ社が判断するものじゃないんですよ。

こちらで、また、修正液で消してありますね。そういうことで、非常に不明な点

が多いので、じゃあ次に、椅子の数について質問をいたします。

これは英語で書かれたほうのインボイスの数量のところです。これは執行部が赤くしてますけども、３６脚と。これを輸入したと。数量は３６脚というふうにされています。３２脚を輸入しているのに、なぜここは３６なのか、お尋ねをします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまの椅子の輸入の数の件でございますが、こちらにつきましては、ＭＡＧＩＳ　ＪＡＰＡＮからの文書のほうにも、発注ロット、こん包する場合の単位でございますが、その関係で数量が３６脚になったと記載をされておるところでございます。また、４脚追加したことにより、輸送費の増減はないというふうに聞いております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　ロットの関係で、ＭＡＧＩＳ　ＪＡＰＡＮが自社の椅子を一緒に送ったということの答弁ですが、おかしくないですか。例えば、私が隈府から飲んでタクシーで帰るとします。一座席あいているからといって、同じ方向だからと、知らない人をタクシー会社が勝手に乗せるようなもんなんですよ。普通は４客分の椅子の航空運賃代というのは、これは別にＭＡＧＩＳ社が負担しますよ。しかも、その空輸費は税金から支出されているのであれば、民間会社で空輸したものに税金を払ったことになりませんか。その分が数量が３６になっても、金額が変わらないということであれば、３２で輸入しなければ、私は誤解を招くというふうに思ってます。よそ様のに自分のを乗せるなんて、そんなことはまず考えられない。しかも、これは公的なお金で運んでいるわけですから、４６万４，０００円で運んでいるわけですからね。これはやっぱり乗せるのは、私はＭＡＧＩＳ社はおかしいなというふうに考えるわけでもあります。

では次に、椅子の重量についてお尋ねします。

これ、先ほどの英語版のほうですが、下のほうに、Ｔｏｔａｌ　Ｇｒｏｓｓ　Ｗｅｉｇｈｔ、これは、つまり、こん包材込み、パレットとかこん包材全部込んだ総重量が１６６．４５キログラムというふうになっております。輸入許可通知書のほうも１６６．５キログラムですので、これは誤差ですね。５００グラムの誤差で、同じなんですけども、Ｔｏｔａｌ　Ｎｅｔ　Ｗｅｉｇｈｔ、この横です。このＴｏｔａｌ　Ｎｅｔ　Ｗｅｉｇｈｔというのは、これは正味重量、こん包材や箱の重さなどを含まない製品そのもの、椅子そのものの重さは、インボイスが１３４．４０キログ

ラムに対して、輸入許可通知書では、こちらになりますね、キログラムってあります。１４８．１キログラムと。１４キログラム違います。同じものを運んでいるのに、なぜ重量が違うのか、お尋ねをします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございますが、ネット重量の相違についてはわかりませんが、いずれにしても、閲覧用の椅子のものと認識しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　重さは違うけども、これ、椅子のやつですよと。イギリスと日本ではキログラムの単位が違うんですかね。１４キログラムも合わない。

もう一つ、ちょっと執行部には残酷な現実をお示ししたいと思います。

私は、先日、中央図書館の椅子をもう体重計ではかってきました。物をはかったほうが早いので、安永館長もその事実を把握されています、会いましたので。椅子の重量は、これ、見てください。これ、健康推進課の体重計ではかったんですけど、赤ちゃんをはかるやつで。４．１キログラムでした、１脚。ここに写真もありますね。１脚４．１キログラムなので、３６脚輸入しましたから、４．１キログラム掛ける３６、イコールは１４７．６キログラムと、やっぱりインボイスの１３４．４キログラムと合わないんです。１３キログラムぐらい違うんですよ。

これだけではありません。限界、そろそろ答弁も多分お答えできないほうになっているかと思いますので、本来、私、これ、教育部長に聞きたくなかったんですよ。教育部長、ことしの４月から異動されてきてます。事務を全部やっているのは、安永館長がやってますよね。検品作業も安永館長がやっているから、こんな重さが違うなんていうのをわからないというはずがないわけなんですよね。安永館長に出席を求めたいところなんですけど、時間もないので、ちょっと別の今度は角度から見てみます。

またインボイスの中身です。インボイスの品名のところに、この上段のところですね。これ、品名なんですよ。上から２段目のところに、ここにＳｕｂｓｔａｎｃｅ　Ｏｎｌｙ　Ｓｅａｔと椅子の名称が記載されていました。その下に小さく、私がこれは蛍光ペンでつけてますけども、ＨＳコードナンバーというのがついているわけなんですね。

このＨＳコードとは、国際貿易商品の名称及び分類を世界的に統一する目的のた

めにつくられたコード番号であり、貨物を輸出・輸入する際、品目分類に用いる輸出・輸入の統計品目番号のことですと、日本郵政グループはホームページの中で説明しています。わかりやすく言いますと、ちょっと野球に例えます。守備で言ったらば、１番がピッチャーになりますね。２番がキャッチャー、９番がライトというように、このＨＳコードというのが入っていると、これはどんな材質のものを、そして、どんなものを運んだかという番号なんですよ。

さあ、この番号、虫眼鏡でしっかり見ないとわかりませんが、インボイスのほうは非常に不鮮明なんですが、９４０１３０－００と、これ読み取れます。一方、輸入許可通知書では、これにも番号がありまして、ここになりますね。税品目番号というのがあります。税表番号というところがこのＨＳコードに当たります。これは２種類あって、一つが、表の部分が９４０１９０－２と番号が違います。裏の部分です。金具とされているところは、９４０１７９－２となっています。お尋ねしますけども、ＨＳコードがインボイス、この二つが、インボイスとＨＳコードが、インボイス、輸入許可書のＨＳコードがなぜ合わないのか。同じものを輸入しているのに、なぜ合わないのか、お尋ねをします。

○議長（柁原賢一君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時１８分

開議　午後１時１９分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございます。インボイスと輸入許可通知書のところでの品番のところが違うんじゃないかということでございますが、輸入許可通知書のほうの品番につきましては９４０１が椅子の部分、それから、枝番の９０－２と書いてありますのは部品等の番号ということで聞いております。

いずれにいたしましても、ＭＡＧＩＳ社より公式の文書として提出されたものでありまして、インボイス、輸入許可書ともに、閲覧用椅子のものと認識をしておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　では、先ほどの輸入許可通知書には二つ番号がついておりま

した。しかし、この英語版のインボイス、一つしか番号がついてないんですね。ただ、よく見てください。このＴｗｏ　Ｐａｌｅｔｔｅと示してある２段目、荷書きのところのこの先に、ＨＳコードナンバーといって、その先を消されているんですよ。輸入許可通知書のほうは二つ書いてあって、こっちには一つしか書いてない。なぜ消してあるのか。これ、出せるものなんでしょう。上は出ているわけですから、輸入許可通知書では二つ出てますから、合いませんね。このＨＳコードナンバー、ここの部分を何で消してあるのか、ここは何番だったのかというのをお尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございます。ＨＳ番号のほうをなぜ消してあるのかということでございますが、先ほど来言っておりますとおり、ＭＡＧＩＳ　ＪＡＰＡＮのほうから提出されたときにはもう消えておりましたので、こちらのほうでは確認をしていないところでございます。

いずれにいたしましても、公式文書の中で添付されたものでございますので、閲覧用椅子のものというふうな認識で扱っておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　この件に関して、部長がＭＡＧＩＳ　ＪＡＰＡＮと直接やりとりしたわけじゃないですよね。もちろん安永館長がされていると思うんですけど、ちょっとこのＨＳ番号のところは、ＨＳコードのところは非常に重要なところなんで、安永館長を、ここに出席を求めたいんですけど、私はちゃんと通告書にも館長を書いてますけども、その出席を求めたいと考えます。

○議長（柁原賢一君）　答弁者を誰にするかは、答弁する側が決定することになっています。

荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　そうであれば、しっかり答えてください。これは私が出した書類じゃなくて、市が総務文教常任委員会に出した公文書、この公文書の内容に答えられないというのはおかしな話です。これが私が出してきた書類なら答えられないのは当然です。

では、ここに、この小さく、インボイスのほうです。先ほど言いました９４０１３０-００は何を意味するかといいますと、その前に、こっちのほうがわかりやすいですね。輸入許可通知書のほうから見てもらいましょう。９４０１－９０という

のは、先ほど部長がお尋ねあったとおり、執行部の説明では、樹脂シートとの説明で、同じくこの９４０１９０－２というのは部分品というふうになっています。裏のもう１個載っている９４０１７９－２というのは、これは先ほど言われた足の金具と説明されてて、輸出入統計表でもそのように記載されて、間違いないんです。

では、インボイスに記載されている非常に不鮮明ですが、９４０１３０－００というのが何を意味するかというのが、輸入統計品目標を仕入れましたので、これによって見たら、何と回転腰かけ椅子、高さを調節できるものとなっています。私はこの椅子の現物をこの議場に持ち込むことを議長にお願いしましたけれども、許可されませんでしたので、写真を示します。

［写真を示す］

○１１番（荒木崇之君）　もう何回も皆さん見てますね。これ、４回目ぐらいになるかな。この写真ですけども、これは１１月２９日、最新で撮ってきました。図書館の閲覧用椅子は、私が見る限り、回転もしなければ、高さの調節もできないようになってますが、これ、回転するか、お尋ねします。

また、インボイスのＨＳコードでいけば、回転椅子を輸入したかのようになっていますが、なぜ、閲覧用椅子の現物と違うＨＳコードなのかというのを、２点お尋ねいたします。

○議長（柁原賢一君）　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時２６分

開議　午後１時２８分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　先ほどのご質問でございますが、図書館の椅子が回転するのかということでございますが、回転はいたしません。

それから、番号の件でございますけども、こちらにつきましては、先ほど来申し上げておりますとおり、ＭＡＧＩＳ社のほうから公式な文書として提出をされましたもので、インボイスと輸入許可証ともに閲覧用の椅子のものというふうな認識でおります。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　私は、当初からこのインボイスを提出するのに１カ月も要することに疑念を抱いてました。私も、これは中国から物を取り寄せたときに出されたインボイスなんですけど、これ、ネットで３分で出るんですよ。私のＩＤとパスワードを入れると、その会社がすぐ発行してくれる。ちなみに、これ、送料まで載ってるんですよね。

疑念を抱いていました。ですから、インボイスが提出されたら、専門家の方に見てもらおうということで、福島議員が民間会社にいらしたときに、輸出・輸入を相当されてたので、日通の知り合いの方に見てもらいました。一人じゃいけないので、アメリカで衣料品を輸出していた私の友人に、このインボイスと輸入許可通知書の整合性について訪ねました、日通の方、その二人に。答えは、これだけ重要な部分が修正液で消されている状態で、この二つの整合性がとれるとはいえないとのことでした。専門家というより、個人的な経験がある方ですよね、専門家ではないですけども。

では、お尋ねします。

市は、この出されてきたインボイスと輸入許可通知書を誰かに見てもらったのか、専門家の方に。

もう一つ、図書館の閲覧用椅子の書類であると判断された理由をお尋ねします。

○議長（柁原賢一君）　教育部長、木下徳幸君。

［登壇］

○教育部長（木下徳幸君）　ただいまのご質問でございます。１点目の誰かに見てもらったのかということでございますが、これにつきましては、見てはいただいておりません。

それから、この椅子が図書館の椅子と言えるのかということでございますが、先ほど来言っておりますとおり、ＭＡＧＩＳ社のほうから公式な文書で提出されたものでありますので、閲覧用の椅子ということで認識をいたしておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　二つの書類で、重さも合わなければ、番号も合わない。重要なところは消してある。このほかに聞きたいことはたくさんあるんですけども、それを一個一個していくと、ちょっと専門的になるので、別の機会でやりたいと思っているんですが、今回、インボイスと輸入許可通知書の整合性がとれない。それどころか、インボイスがにせものであるとの疑惑まで出てきましたが、今回の一般質

問で執行部が的確に答えられないのは、その答えだと私は思います。しかし、総務文教常任委員会では、このインボイスについての質疑はほとんどなく、これがＭＡＧＩＳ社の椅子を輸入したものであるというふうに認められています。議員の方も、今、聞かれて、へえ、はあとおっしゃっているかもしれませんけど、やっぱりしっかり調べる必要が私はあると思うんですよね。

ただ、株式会社教育産業社及び卸元の金剛株式会社は、私が９月議会でインボイスの提出を私個人で求めたところ、株式会社教育産業社はインボイスの存在さえ知りませんでした。それは何ですかと聞かれました。金剛株式会社は、コンプライアンス上、提出できないとのお答えでした。恐らく日本ＭＡＧＩＳ社にも原本を提出しろと言っても、日本ＭＡＧＩＳ社も同じコンプライアンスの理由で原本提出を拒否すると考えます。

ただ、一つ、傍聴者の皆さん、一つだけ提出させる方法があります。それは関係者の出頭や証言、記録提出を求めることができるなど、強い調査権限を持つ、そう、議会の伝家の宝刀、百条委員会なんです。しかし、こんなに明確な説明もできず、傍聴の方ももやもやしているのに、ご賛同いただけない議員の考えが私には理解できない。議員の皆さんがこの問題の早期解決を考えるなら、最終日に百条委員会の提出をしますので、全員ご賛同を賜りますことをお願いして、次の質問に移ります。

では次に、住宅型有料老人ホームの入居者への虐待について質問いたします。

先輩の木下議員はヘルパー２級という福祉の免許を持ってらっしゃいます。実際、介護ができると。ヘルパー２級というのを持ってらっしゃいますので、私は地方自治体の基本的な役割は住民福祉の増進を図ることであり、少子高齢化の現状分析と対策の一助になるかと考え、社会福祉主事という資格の取得に向けて、専門学校に２年前に入学しました。１年間のスクーリングと１６教科の試験及びレポートの提出があるのですが、昨年、レポートを間違って提出しまして、１教科単位が足りず、落第してしまいました。高校、大学と、一度も落第したことないのに、４５歳にして選挙落選と落第を同時に経験しまして、落ちるということがこんなにもつらいものかと思った次第であります。今現在は来年の卒業、そして資格の取得に向けて、しっかり勉強しておりますので、来年３月には取れましたという報告ができるかと思います。

では、真面目な話に入ります。ことしの７月１８日の朝日新聞で、深さ５センチの床ずれを放置、菊池市の老人ホームで虐待と報じられました。先ほど言いました同じ社会福祉主事を目指す介護士の友人から、床ずれが起こること自体、介護士は恥だと考える。ましてや、深さ５センチの床ずれは身体拘束を行っているので、調査したがいいよと言われましたので、市に情報公開請求をしたところ、その実態は

想像を絶するものでした。

虐待を行っていた施設は、本市の西寺にあるケアホームともづなです。市の調査によると、経管栄養のチューブが定期交換されていない。チューブを使い回ししている。吸引器にカビが発生している。病院から処方された薬をスタッフが勝手に抜き、残薬を他の入所者へ服用させていた。信じられないですね。寝たきりの方の膝のあたりからの皮膚から突き出た骨を爪切りで２回切断していた。入居者にけがや病変があっても、家族への報告をほとんどしない。さらには、介護士に対して、介護士は監視カメラで常に見られていて、家族と接触すると、インカム、このマイク、無線を通じて離れるように指示されるなど、一部を話しましたが、どれも福祉に従事する者には考えられない虐待が行われていました。

では、お尋ねします。

市は、何をもって、このケアホームともづなを虐待と認定したのか、虐待をしていると認定したのか、お尋ねをします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　荒木議員からの虐待認定についてのご質問にお答えします。

市では、当該有料老人ホームにおきまして、身体的虐待、介護・世話の放棄・放任、心理的虐待などがあるとの疑念を持つに至ったことから、高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律、いわゆる高齢者虐待防止法に基づき立入調査を行いました。調査の結果、虐待の事実を確認しましたので、同法に基づき、虐待と認定いたしました。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　市は、高齢者虐待防止法に基づいて立入調査を行ったと。これは児童福祉防止法でも同じですが、通報があった場合、通報というか、もうそういう疑いがあった場合にはすぐに入れるという権限を市は擁しているわけですが、このケアホームともづなは２０１３年１２月に開所しています。発覚したのがことしの２月、２０１９年の２月に虐待が発覚しています。これは市の立ち入りでですね。その５年の２カ月の間に、入居者の方の死亡がどれだけあったのか。開所からことしの２月まで、死亡が何件あったのか。

あわせて、市が監査に入った後の２０１９年３月から１０月までの死亡者数もお示しください。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　施設での過去５年間の死亡者数ということについてお答えいたします。

住宅型有料老人ホームの経営者が、そのホームの入居者数や死亡者数を市に報告する義務はございませんが、今般の虐待事案を調査するに際し、必要な資料として、当該有料老人ホームに対し、開設以降の入居者名簿一覧を提出いただいております。その中に入居・退居を示す内容が含まれておりまして、その数を確認いたしました。把握できておりますのが、開設された平成２５年１２月から平成３１年１月までの死亡者数でございますが、４６名であると推量しております。

また、平成３１年２月以降の死亡者数につきましては、先ほど申し上げましたように、定期的な報告義務はありませんので、市では把握しておりません。

以上、お答えします。

ただいまの答弁で、「入居者名簿一覧を提出いただいております。その中に入居・退居」と申し上げましたが、「死亡退去を示す内容が含まれており」でございます。訂正いたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　４６名ということなんですけど、これ、福祉厚生常任委員会協議会の中でもそうお答えされてますか。６０人ぐらいいるんじゃないですか。これ、４６名で間違いない。ちょっとそこ確認です。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　ただいまのご質問に関しましては、こちらで確認させていただきまして、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　死亡者数が５年と３カ月で、執行部の答弁では４６名ですね。私、６０人ぐらいいるというふうにちょっと聞いているんですけど、１年間で約１０人から１２人が亡くなられております。

市の監査に入ってからは、答えられないということでありますが、これ、インフルエンザ等の影響や、入居者の方の年齢の違いがあるので、一概では言えませんけど、１年で約１０人から１２人、月にお一人の割合で亡くなっておられるということからすると、私は非常に多いかなというふうに思うんですが、また、亡くなられ

た要因が、直接的な要因でないにしても、虐待が引き金となって亡くなった方がいるのではないかというような疑念も残るわけであります。

では、市は、このような実態を踏まえて、この虐待が起因として死亡された過去を調べる、その調査をされる考えはあるのか、お尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　健康福祉部次長、宮村恵美さん。

［登壇］

○健康福祉部次長（宮村恵美さん）　まず、先ほどお尋ねの福祉厚生常任委員会協議会では何人と答えたかという点でございます。

その際には５０名程度ということで説明をさせていただいております。

それから、虐待が起因と考えられる死亡について調査をする考えはないかというご質問に対するお答えでございます。

高齢者虐待防止法では、虐待の有無を確認いたしまして改善を求めるところまでが市の権限でございます。

仮に、虐待行為が死に至らしめた可能性のある事案が発生した場合は、死亡診断をする立場にある医師が、警察に通報され、警察の捜査により明らかにされるものと思われます。

ただし、今回の案件に関し、市が虐待認定をしたことで、当該有料老人ホームで虐待が行われてきたことが、利用者やそのご家族の認知につながりましたので、そのご家族が不審に思われた場合には、ご家族が警察に相談、被害届を提出されるものと認識しております。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　今現在の入居者の方は、虐待されたら証拠が残りますから、発覚がわかる。ただ、虐待によって、もし万が一、死亡した方がいるとすれば、その方たちの証拠というのはもうないわけなんですよね。ただ、勤められているスタッフとか、その方たちに聞けば、聞き取り調査をすれば、可能だと私は思います。何で市がそこまで厳しくやらないのかなというふうに考えるわけであります。

先日の城議員の質問の中で、たしか、ちょっと言い方が間違っていたら済みません。市長の頭の中で、福祉はどこにありますか。真ん中にありますか。内側にありますか。外側にありますかという問いに対して、江頭市長は、少子高齢化を考えると、福祉は最重要課題であると答弁されましたので、私は福祉に思い入れがあると思っておりました。しかし、調査はされないという答えは非常に残念でなりません。

平成１８年に制定された高齢者虐待防止法では、市町村の役割として、これは皆

さん、もう熟読しているのでわかられると思いますけど、高齢者虐待の防止、虐待を受けた高齢者の迅速かつ適切な保護や、養護者への適切な支援について、第一義的な役割を担うのは市町村であると定めています。第一義的な役割を果たすのは市町村であると定めている。

また、市町村は、高齢者虐待に該当するか判別しがたい事例であっても、高齢者の権利が侵害されていたり、生命や健康、生活が損なわれるような事態が予測されるなど、支援が必要な場合には、高齢者虐待防止法の取り扱いに準じて、適切な援助を行う必要があるとも、同じく定めています。

以上のことを鑑みたとき、口先だけで福祉、福祉と言わずに、第２の虐待施設を発生させないためにも、ただ単に改善計画書を提出させて終わりではなくて、徹底した過去の調査が必要であるということを提言し、私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○議長（柁原賢一君）　これで、荒木崇之君の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

休憩　午後１時４９分

開議　午後１時５７分

――――――――――――――――○――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　皆さん、こんにちは。それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

まず最初に、世界かんがい施設遺産登録についてお尋ねをいたします。

本年９月４日、国際かんがい排水委員会が認定する世界かんがい施設遺産に菊池市の築地井手、原井手、今村井手・宝永隧道、古川兵戸井手の四つの用水群が今回登録をされました。

国際かんがい排水委員会は、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全を目的として、世界かんがい施設遺産制度が創設されたもので、建設から１００年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したものなど、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰しております。

登録によって、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供など、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されること

が期待されております。

国内では３９件が登録、菊池のかんがい用水群は県内４件目となり、菊池市のかんがい農業の歴史を評価されたものであり、建設に努力された先人の方々、その後、守り続けてこられたそれぞれの地域の方々に、敬意と感謝を申し上げたいと思います。

そこで、お尋ねをいたしますが、菊池市の４施設の用水群が、世界かんがい施設遺産に登録されましたが、市として、今後、それぞれの井手を活用した地域活性化策をどのように考えておられるのか、具体的にお示しをいただきたいと思います。

以上、１回目の質問とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　それでは、木下議員のご質問にお答えします。

菊池のかんがい用水群として登録されました４施設につきましては、歴史的、文化的に重要な施設でありますので、広く理解醸成を図るとともに、施設の持続的活用、また、施設を核としました地域づくりへの活用をやりたいという期待をしておりまして、そういう形で活用してまいりたいというふうに思っております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。まだある面では具体的には決まっていないということでございます。

実は、ここで私の地元の古川兵戸井手のこれまでの取り組みの紹介をしたいと思います。平成１５年度菊池北小学校の４年生が、地域学習で、現在、泗水西小学校の桑机久子校長先生が担任のときに、古川兵戸井手の歴史を版画による冊子をつくり、本をつくられました。これがその本でございます。子どもたちが版画を彫って、こんな冊子にしたわけでございますけれども、その後、平成２７年度の県の里モンプロジェクトというのがございまして、私どもが市の民間の団体の菊池寄り合い衆というのをつくっておりまして、一応私が代表をしておりますが、そのほうのプロジェクト推進事業で、これを紙芝居につくり直しました。そのような行動もやっております。

それと、もう１点は、県の補助をいただきながら、私どもの古川兵戸井手には百間マブというマブがあるんですが、その改修のときに、古川兵戸井手物語というＤＶＤもつくらせていただきました。

そのような形で、先般、第３回九州のお米食味コンクールｉｎ菊池のときには、

このつくり上げた紙芝居と、このＤＶＤを来客された方々に流していただきました。部長も見ていただいておりますので、後で感想でもいただきたいと思いますが、そのような形で、古川兵戸井手はこういった形で、先人のご苦労に対しての敬意を表しながら、その当時、古川兵戸井手は、本田義則さんという委員長がいらっしゃったんですが、その方の監修のもとにこういうことができました。

ほかの井手も、それぞれに歴史のある、それぞれの庄屋の方々とか、そういう方が一生懸命つくり上げたものでございます。だから、こういったものをつくっとかないと、後で啓発をしようと思っても、なかなか難しいと思いますので、私の提案としては、こういった古川兵戸井手みたいに、原井手にしても、宝永隧道にしても、築地井手にしても、それぞれの先人の方の歴史の継承をしながら、こういったＤＶＤ等をつくっていただきたいと。そういうお願いをしておきたいと思います。

よければ、経済部長、先般、紙芝居もＤＶＤも見ていただきましたので、その感想があればお答えいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　今、議員のほうから、部長の感想はということですけれども、個人の感想ですので、全体を見た中でのお話をちょっとさせていただきますと、議員おっしゃいましたように、１２月２２日と２３日、菊池米の米コンクールと、九州お米のコンクールがございました。このときに、やはり米づくりには水が大事ということで、これ、木下議員のお手持ちの紙芝居、これとＤＶＤ、これを審査の合間に流させていただいております。見られた方、非常にいいものが残っとるという話もされてはおりました。今回のかんがい遺産もそうなんですけども、こういうものにつきまして、紙芝居とか、記録のＤＶＤ、こういうものも後世に残る、あるいは地域の理解を深めるための一つの方法であるというふうに考えたところでございます。また、あわせて、せっかくのものでございますので、語り部の育成等もできれというふうには考えているところです。

今後は、どのような方法がよいかということでありますけれども、これについても検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

申しわけございません。ちょっと慌てましたので、「１１月２２日、２３日」を、「１２月」と申し上げました。訂正をさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

そのときのチラシがここにございますが、紙芝居、古川兵戸井手物語、世界かんがい施設遺産登録記念と、こういうことまで書いて使っていただきましたので、ありがとうございました。

教育部長にも見ていただいておりますので、古川兵戸井手ＤＶＤは教育委員会のほうでつくっていただいておりますので、連携をとりながらやっていただきたいと思います。よろしくお願いしときます。

それでは次に、防犯灯、街路灯の現状と今後の対応について、特に過疎化、高齢化の地域への対策についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、これまでＬＥＤ化も含め、特に中山間地の防犯灯の電気代負担等に対する要望について、一般質問をさせていただいております。地域住民の生活環境、安全なまちづくりを推進するためには、防犯灯、街路灯の設置は最優先で取り組む必要があります。

前回、平成２７年第４回定例会では、市として設置状況も把握されておりませんでしたので、そのときに現状把握とＬＥＤ化による負担軽減等も要望しておりましたが、市として、その後の対策と防犯灯の設置数、ＬＥＤ化率について、お示しをいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　それでは、木下議員の防犯灯関係についてお答えさせていただきます。

防犯灯につきましては、最新の状況を把握しておりませんが、平成２８年度に区長の皆さんにご協力をいただきまして、防犯灯調査を実施いたしております。

平成２８年度時点で設置基数は３，７７０基となっております。そのうち、ＬＥＤの防犯灯は５５８基でありました。ただし、その中には１５区が未回答であったために、その分は入れておりません。

その後、市が区などからの要望によりＬＥＤ照明に交換等を行った基数は、平成３０年度までに６１３基設置しております。また、区が本市の地域づくり補助金を活用されて設置した基数が、平成３０年度までに２８４基あります。

これらを合計いたしますと、平成３０年度までに１，４５５基がＬＥＤ照明となっており、その設置率というか、ＬＥＤ化率でいいますと、大体約３９％となっております。

ただし、この中には区が独自でＬＥＤ照明に交換された基数等は入っておりませんので、ご了承いただきたいと思います。

以上、お答えさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

まだ３９％ぐらいのＬＥＤ化率だということでございます。私は、地元、高齢化率も高くなっておりますし、例えば電気のホヤ一つ交換するにしても、なかなかできない。そら金額的にも、また、高齢でのぼれないとか、そういう状況がどこの地域でもいっぱいでございます。

何で、あえて今回、こういった形で言うかといいますと、お隣の合志市のほうをちょっと調べてみましたら、国の補助で外灯については１００％、ＬＥＤ化になっているということでございます。平成２５年度に１００％補助でやりましたと。

それと、街路灯については９０％以上で、１００％を目指して、どんどん推進していると。すぐお隣の、どっちかというと、都市化が進んでいる街路灯とか、そういうのが要らないような地域がどんどんＬＥＤ化になって、私どもに絶対必須の地域が全然できていないというのが、もう本当に悲しい状況でございます。

それと、合志市は電気代も一部補助をしているということで、本当に市民の方は喜んでいらっしゃると思います。

私ども菊池市は、市長が肝いりでさくら千年プロジェクトという形の中で、平成２５年度からこれまで、７０９本、３３カ所のほうで各地域で桜を植えておられます。総事業費はこれまで、平成３０年度までで２，７７６万９，０００円だそうでございます。当初は私も委員会の中で質問したときに、１本当たり５万円かかっていると。今、徐々にちょっと安く、それでも４万円弱かかっているということでございますけれども、ＬＥＤ化の器具の交換だけであれば、３万円でできるそうです。それと鉄塔を建てて、器具を取りつけても１２万円でできるということでございますので、私としては、やっぱり市民の安心・安全を守る、やはり桜ももちろん大事だと思いますが、やはり市民の目線から言えば、やっぱり外灯とかそういうのの設置が直接市民の安全、また、安心、そういうのにつながってくると思います。

先月も、１１月に青森県で小学校６年生の女児が切りつけられたとか、昨年は新潟県で女児が殺害されたとか、そういう命にかかわることがたくさんございます。これは菊池市でも何があるかわかりません。そういうことの抑止力のためにも、外灯設置については、来年度当初予算には、もう各区から要望があったのが、いや、待ってください、待ってくださいと、そういうふうにならないように、きちんとした予算化を、組んでいただくことを要望して、次の質問に移りたいと思います。

それでは次に、森林環境譲与税の現状と今後の活用についてお尋ねをいたします。

国が約１００億円を森林の整備や保全に充てる資金として、各自治体に初めて配

分をしましたが、配分額は森林面積だけではなく、人口も考慮して決める仕組みとなっており、このため、大都市が手厚く、森林が多くても人口が少ない自治体は少額になる傾向となるために、森林の荒廃が進み、担い手不足に悩む地方からは困惑と不満の声が上がっているとのことであります。

森林環境譲与税の使い道は、法令により森林環境整備や人材育成、木材利用などに限定されておりますが、市として配分額、今後の取り組む事業が決まっていれば、お示しをいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　木下議員からの森林環境譲与税についてのご質問にお答えいたします。

配分額につきましては、本年度、森林環境譲与税につきましては１，８３１万８，０００円、これが市のほうに交付されるというところでございます。９月末に２分の１の額であります９１５万９，０００円が既に交付されております。残りにつきましては３月末に交付される予定でございます。

現在、市としての使い道につきましては、本年度は旭志の一部地域において、森林所有者の方々の意向調査及び森林台帳の整備を実施しているところでございます。

今後につきましても、やはり森林の整備につきましては、所有者の意向調査に基づいた森林整備が必要ということで、本年度はそういう形で使わせていただくところで、今、進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

旭志あたりは意向調査とか、そういうのに使われるということでございます。いずれにしても、使途目的は決まっていると思いますので、いろいろなものには使えないかもしれませんが、私としては、所管の委員会の中でも、いろいろこの森林環境譲与税については質疑、また、要望しましたが、私としては、旧菊池市だけが地籍調査が全然進んでないんですね。だから、そのことについて使えるのであれば、やはりそっちのほうの推進に極力予算を使っていただいて推進してほしいと。

理由については、やはり高齢者がふえておりまして、その山の持ち主さんが現地にも行けないような状況にどんどんなっていくんですね。だから、早目早目にそういう調査をして、やっぱり伐採がきちんと、分筆とか、相続とか、そういうのがきちんとできるようにしとかないと、いざ、やっぱり森林の管理をしようと思っても、

その相続とかそういうのが全然進んでないとできないわけですね。だから、いずれにしても、地籍が決まってないと、やっぱりいろんな事業に踏み込めないと。そういう状況になると思いますので、特にほかの地域は終わっているのに、何で旧菊池市だけは終わってないのか、ちょっと計画どおりにいってないところがございますので、そういうことをきちんと踏まえた上で、やっぱり取り組んでいただきたいと思います。何か部長のほうでお答えができれば、いただきたいと思いますが。

○議長（柁原賢一君）　経済部長、笹本義臣君。

［登壇］

○経済部長（笹本義臣君）　ただいま木下議員のほうから、森林環境譲与税の使い道で地籍調査にもというご提案ですけども、森林環境譲与税につきましては、地籍調査にも活用は可能になっております。今、意見の中で言われましたように、やはり地籍調査をという形でございますので、活用は可能になっておりますけれども、ちょっと私のほうが地籍調査のほうではないものですから、その辺のやつはお答えできませんが、地籍調査も可能でありますので、今後も森林環境譲与税、森林整備という目的がありますので、これに照らして森林環境譲与税を有効活用して、使ってまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

地籍調査に使えるということでございますので、ちょっと参考に申し上げますと、平成２９年度末で旧菊池市は４７％ですから、それから少しは進んでいると思いますけれども、５０％を切っておりますので、それでも全然ほかの地域とは、ほかの地域は終わってますので、だから、そのことを踏まえて、できればどんどんどんどん推進をしていただきたいと思います。よろしくお願いしておきます。

それでは次に、まちかど広場等建設事業、特に今回は市役所庁舎庭園の整備についてお尋ねをいたします。

市役所本庁舎と生涯学習センターを利用される方々のために、本庁舎南側に水車を含む庭園が整備されております。高額な整備費による事業となっておりますが、執行部より提出いただいた資料によると、今回の部分の１工区から３工区の事業費は8，２１０万円となっておりますが、内訳の中で、その他一式の事業費が２，８７０万９，０００円となっており、一番高額な事業費がその他でございますので、そのところの確認を含め、お尋ねをしたいと思います。ほかの事業費も、できればお願いいたします。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　それでは、まちかど広場ということで、当時は整備しております。現、水車テラスでございますが、平成３０年度に工事を完了したというところでございます。一応１工区から３工区まで分離発注しておりますが、総計ということで、直接工事費に諸経費を加算したという額で内訳をご説明させていただきたいと思います。一応１，０００円未満は端数調整しておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、ウッドデッキの設置工事費が１，５９３万４，０００円、コンクリート舗装工事費が３５８万１，０００円、フットライトの設置工事費が２４６万９，０００円、あずまやの建築費が１，０２９万９，０００円、地被植物、多年草のタマリュウ植栽費が３９６万９，０００円、張り芝工事が８５万円、水車改修費が１，２４４万２，０００円、転落防止柵の設置費３１３万円、電気配管の工事費７１万７，０００円、先ほど言われましたその他の工事費ということで２，８７０万９，０００円ということで、合計８，２１０万円となっております。

それから、その他の工事費の内訳についてご説明申し上げます。

掘削や床掘り等の基礎工事費１９０万３，０００円、樹木の伐採に係る工事費２９０万８，０００円、既設の構造物の撤去費１３３万５，０００円、樹木等の植栽費１２７万３，０００円、園路の縁石工事費８７万９，０００円、駐車場の車どめ設置工事費１３６万４，０００円、現場打ちコンクリートベンチの設置工事８５２万円、給水設備の工事費７６万１，０００円、石材系の舗装工事費３６０万１，０００円、擁壁の工事２１３万２，０００円、フェンスの工事費１８９万円、記念碑等の移設費７９万５，０００円、そのほかに、階段等の設置費と軽微な工事を８件、あわせまして１３４万８，０００円ということで、その他の工事費合計２，８７０万９，０００円となっております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　ありがとうございました。

この資料については、もう決済認定を含む資料でございましたので、普通は内訳を出すときには、その他が２，８００万円ということであれば、やはり誰もがどういう事業されたのかなというふうに思うのが普通の感覚だと思います。もっと小さな項目でも書いてあるのは書いてありますから、やっぱりそういう提示も含めてお願いをしたいと思います。

今回は、水車の件について、改めてちょっとお聞きしたいと思いますが、水車の改修費が１，２４４万２，０００円ということでございますが、私がこの委員会、分科会の中で質疑したときに、えらい高いですねと。改修、石積みはもうそのままありましたので、木の枠の部分だけで１，２００万円かかったのだろうという感覚の中で、改修ですから、えらい高いですねと言ったら、発電をしていますという答弁がありました。発電をしているということであれば、その発電をしているということをわかるようにしておかないと、私はいけないんじゃないかということで、その指摘をしたわけでございますが、市の広報の６月号に、水車の仕組みを学んだよという形の中で載っておりましたけれども、工事をされた方は久留米の方ということでございますが、まず１点は、やっぱり何で地元の方に発注ができなかったのかということですね。

私も、前川水源のほうにちょっと調べに行きました。水車テラスのところにできているあれよりもちょっと大きいんですが、予算的にはもう全部総工費で５００万円弱くらいでできておると。その当時、ご健在だった木庭の方に発注をされたということでございました。

今回は久留米市の方に発注してありますが、そんな大規模工事ではございませんので、まずは地元の産材、地元の方に発注ができたんじゃないかなというふうにして思うもんですから、そのことをちょっとお聞きしたいと思います。

それと、私がこれまで、何で発電にこだわるかというと、これまで小水力発電についても、何回も何回も再生エネルギーを推進するという形で、一般質問を続けてまいりました。平成２８年第４回定例会で、その当時の部長の答弁では、新庁舎建設に伴って、築地井手を利用した小水力発電を平成２９、３０年度で取り組む予定と答弁をいただいております。そうであれば、やはりこの水車改修費の中に発電の費用はもちろん入っているんだと思いますので、その予算的なことも含め、何でそういう、市民が見て、これが発電して、この電気がちゃんと再生エネルギーによって点滅してますよというのがなぜできなかったのかということも含めて、ちょっとお答えをいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　建設部長、中村喜範君。

［登壇］

○建設部長（中村喜範君）　まず、水車の中に幾ら、その発電の分が入っていたのかということでございます。水車改修費は１，２４４万２，０００円ということで、今、議員おっしゃられたとおりでございまして、その中で、発電ユニットに係る材料及び設置費というのがございまして、それが３６３万７，０００円かかっているというところでございます。

それから、なぜ地元の業者さんに発注できなかったのかということでございますが、一応１回目の答弁で、まちかど整備工事は１工区から３工区、分離発注しているということで申し上げましたが、その１工区、２工区、３工区、全てにおいて地元の造園業者が請負契約を締結をしたというところでございます。

水車の施工につきましては、３工区に含まれますが、施工には特殊な伝統技術を要することから、受注した地元業者のほうから、福岡県在住の専門の水車大工さんに下請工事を依頼されたというところでございます。お聞きしたところ、熊本県内には、今、水車大工さんというのが、専門的にできる方がちょっと存在しないということはお聞きしております。

それでは、啓発について申し上げます。

それにつきましては、水車は、その景観にマッチしたモニュメントとしての位置づけを重要視して、専門の水車大工により伝統技術を駆使してつくられております。当時、３月には水車の仕組みを講話していただくということで、その手がけられた水車大工さんを講師にイベントを開催したというところで、子どもたちを対象に行っております。

それから、先ほどちょっと言われましたとおり、菊池の広報で６月号に載っておりましたし、１１月号にもちょっと関連の水車の記事が載っております。

それから、５月にはテレビ放送ということで、プランづくりから水車の完成までの５カ月間の様子がテレビで放送されたということでなっております。

ただ、言われるとおり、現地のほうが看板等もございませんし、ＰＲできるものが今現在ないということでございますので、その辺につきましては、看板の掲示等を実施するとともに、あと子どもたちへの教材としても活用できるような、何かそういうＰＲのものを考慮してまいりたいということで考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　今、発電ユニットについてが３６３万７，０００円ぐらいかかっているということで報告いただきましたけれども、これだけの発電に関するあれがかかっているわけでございますので、そのときに一緒につくっとかなければ、なかなかやっぱりそういう、また新たにその設備をつくるとなると、また経費がかかってきます。

先ほど、私が一般質問の中で、その当時の部長が平成２８年第４回のときに答えていらっしゃったように、小水力発電をある面ではＰＲするためのリノベーションというか、そういうのでやるということで答えをいただいておりましたので、市長

もこれまで、ずっと小水力発電、再生エネルギーについては、もう常におっしゃってましたので、せっかくこういう水車をつくって発電をしているということであれば、やっぱり市民にちゃんとわかるような啓発的な設備をそのときにきちんとつくっておけばよかったんだろうと思いますけど、市長として、何でこういうふうになってしまったのか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　水車に関する広報周知ということでございますけども、今、部長のほうからも説明しましたとおり、３月のお披露目の際には、仕組みから理解してもらおうということで、子どもたちをキクロスの中で、大工さんのお話を直接聞いていただいて、また、実際に現場に行って、その仕組みを実地で見てもらうという大変意義のある広報を行ったところでございまして、また、広報誌におきましては、市民の方にもそれを知っていただこうということで、記事にもさせていただきました。

また、今、水車が非常に少なくて珍しいということで、福岡のテレビ会社がわざわざ取材をずっと続けておられまして、菊池市が、まさにその材料といいましょうか、素材となって紹介もされましたんで、本市の取り組みというものが十分伝わってきたんではないかと思います。

ただ、ご指摘のように、現場のところに、これはこういう働きをしてますよというふうな表示は、今、部長が申し上げたとおり、これから掲示をしていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　いずれにしても、事業というのはやっぱり継続性と、そういう確認をしながらやっていかなければいけないと思うんですね。やっぱりこれだけの莫大な財源を使ってやっておりますので、また後からそういう工事を追加してやるということになれば、先ほども申しましたように、経費がかかってくるわけでございますので、最初からそういうちゃんと確認をしながら、当初から発電をしてますよというのがちゃんと市民の方々にもわかるような取り組みをしていただきたかったと思います。

以上でございます。

それでは次に、スペインスエカ市との交流についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、これまで何度も質問、指摘をさせていただきましたが、

今回は熊本市の欧州視察の問題が大きく報道されており、また、先日は熊本市政をよくする会より、市民感覚とかけ離れている視察の成果をどう生かすのか、具体的に答えてほしいと公開質問状も提出されたこともありましたので、改めて市民の方々よりスペインのスエカ市のパエリアの問題はどうなったんですかと問い合わせもございましたので、再度、確認も含め、お尋ねをしたいと思います。

この件は、江頭市長が平成２９年９月８日から９月１６日まで、７泊９日の日程でスペインスエカ市等へ出張されました。目的は、スペインスエカ市長より菊池市の米づくりに興味を示され、日本大会開催の提案を受けて、パエリア国際大会への招待があり、スエカ市を訪問されたもので、目指す成果としては、パエリア日本大会の菊池市での開催を確定するとともに、アジア大会の誘致や、米を初めとしたさまざまな経済交流大会を目指し、将来的には人的交流、文化交流も含めた相互の発展につなげると議会への説明があり、定例会の日程を変更されてまで出張されましたが、これまでの質問に対する答弁では、その後のスエカ市との交流、パエリア大会の誘致については、具体的な進展がないとのことでありました。

私は、この件の最初の質問で、国際交流の難しさを指摘し、今後の確認をお願いしたところでありますが、現在は私が心配した状況にあります。

市長は、平成２９年第４回定例会の答弁で、私がパエリア外交と申し上げたところ、市長は、何か一つ、誤解があるといけませんけど、私は別に外交をやるつもりは全くございません。あくまで商売をして、菊池市を豊かにしたいと、この思いでやっているわけでありまして、言うならば、経済交流というふうにお考えいただければよろしいかというふうに思います。そして、あくまでもスペインスエカ市のほうから自分のところは欧州一の米の産地であると。そういう縁で日本一の米の産地とつながりたいという、こういうふうなご提案があったわけでありますと答えられております。しかし、その後の交流は、経済交流どころか、何も進展していない状況であります。

そこで、改めてお聞きいたしますが、菊池市で行われる予定のパエリア日本大会が、毎年、ほかの地域で開催されているとのことでありますが、菊池市の開催はいつになるのか。また、これまでの経緯も含め、予算も改めてお示しいただきたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　政策企画部長、元島加奈子さん。

［登壇］

○政策企画部長（元島加奈子さん）　私のほうからは、スエカ市訪問のときの経費の内訳について説明をさせていただきます。

訪問時の経費をということでございますが、ヨーロッパ出張はスエカ市訪問のほ

か、本市出身のド・ローラ節子氏と中山豊光氏への、ふるさと菊池親善大使の就任依頼及び菊池市の知名度向上のために開催しました、パリ菊池フェアを初め、ことしで3回目となりました、復興支援コンサートを開催いただいているアヤメ基金の野川理事長へのお礼等も兼ねての出張でございましたので、スエカ市のみの経費算定はできておりません。

ということで、ヨーロッパ出張にかかった経費の内訳でお答えをいたします。

市長及び随行職員の旅費１０４万円、現地でのＰＲ用リーフレット１４万７，０００円、そのほか訪問先へのお土産など１２万９，０００円、経費総額で約１３１万６，０００円でございます。

以上、お答えします。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　それでは、私のほうからは、スエカ市とのパエリア大会の開催の見通しはと、こういう趣旨でのご質問であったというふうに思います。

スエカ市の交流のきっかけにつきましては、今、議員さんのほうからご説明があったとおりでございまして、先方の申し出に沿って、平成２９年の９月に訪問して、大変歓迎を受けたところでございます。

先方の市長とも、ぜひこれを、交流を実現したいねという話で戻ってきたわけでございますけども、このとき、日本開催の全権をこのスエカ市から受けられたのはアジアパエリア協会さんでありまして、その後、平成３０年、訪問の翌年でございますけども、平成３０年のパエリアに本大会は、最終的に詳しい状況はわかりませんけども、先方の事情で５月に民間ベースで愛知県の西尾市で開催されております。

その後も、次期パエリア日本大会の本市開催につきまして、アジアパエリア協会に接触を試みるとともに、スエカ市に対しても開催支援のお願いを続けていたところですけども、いずれも先様からのコンタクトがない状況が続いておりました。

そういう中でありますけども、日本大会の開催権限が、本年になりまして、先ほどのアジアパエリア協会さんから、わずか１年で別の団体に移されたということが確認されております。ことし、令和元年度におきましては、その新しい団体によって、ことしの７月に東京で開催されていたということでございます。

また、あわせて、スエカ市との確認を進めていくうちに、スエカ市においても、本年、市長選挙が行われまして、市長は別の方に交代しているということも判明したところでございます。

こういうことでありますので、パエリア大会の誘致環境や、スエカ市の状況が大きく変わってきております。今後の大会の開催や交流につきましては、交渉のキー

パーソンが全て変わってしまったために、大変残念ではありますけども、一度白紙に戻して、見直しをする必要があるというふうに考えております。

そういうことで、今回の件は、一回、残念ながら断念せざるを得ないと思いますが、今後も引き続き、さまざまな新しいことには積極的に挑戦していきたいというふうに考えております。

やはり地方創生はこの生き残り競争の時代でありますので、やはり失敗を恐れて消極的な市政運営をしていっては市の発展は望めないというふうに私は考えております。ある程度リスクをとってでも、チャレンジをしていくということが、市民の期待に沿って、負託に応えることになるというふうに思います。挑戦が全てうまくいくとはいかないわけでありますけども、やはりトップが腹をくくって、トップセールスで進める姿勢というのは必要だと、引き続き考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　１３１万６，０００円の経費をかけて、今、市長から白紙になっているような状況でございます。ことしは東京都杉並区の馬橋稲荷神社で開催されているようでございます。

もっと早目にきちんとしたコンタクトをとりながら、やっぱり市民の血税を使っているということに緊張感を持って、やっぱりやっていただきたかったなというのが私の考えでございます。これはもう市民の方、みんな思っていると思います。なかなか財政の厳しい中で、やっぱり優先順位をつけながら物事をやっていく。チャレンジはもちろんいいと思いますけれども、現実的な対応はやっぱり政治だと思いますので、そのことは肝に銘じていただきたいと思います。

それでは次に、竜門ダム市町村交付金の龍門地域への活用と龍龍館の現状と対策についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、竜門ダム市町村交付金の一部を龍門地域の活性化のために、龍門ふるさと振興基金として設立していただくように、何度も質問、要望を続けてまいりました。私も龍門地域の現状も含め地域の方々にも提案をしておりましたので、今回、地域の代表の区長様による龍門ふるさと振興基金設立に関する陳情が、令和元年１１月２７日に市長に提出されました。陳情者は龍門地区長、鳳来区長の原本信利様を初めとする龍門地区全員の区長による陳情であります。

ここに、市長に提出された要望書がございますので、議事録に残すためにも読み上げたいと思います。

陳情の理由、平素より格別のご協力、ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。さ

て、国有資産等所在市町村交付金、いわゆる竜門ダム市町村交付金の一部を龍門地域の龍門ふるさと振興基金として設立したく、陳情いたします。

竜門ダムは、皆様もご存じのように、県北唯一の水がめとして、農工業用水の確保、菊池川沿線の洪水防止・軽減、渇水時の水不足の解消等、菊池川流域にとってダム建設が、当初から現在に至るまで、多大なる恩恵をもたらし続けていることは承知のとおりです。

一方で、ダム建設地となってしまった龍門地区は、平成３１年４月１日現在、６５歳以上の高齢人口が５３．１％に達しており、菊池市の中で唯一５０％超えと、過去最悪の高齢化率となっており、同年１０月には龍門地区最後の商店も閉店となり、人口減少に歯どめがかからない状態です。

ご存じのとおり、龍門地区はダム建設による人為的過疎地です。菊池川流域の恩恵とは裏腹に、余りにも恩恵を受けておらず、龍門地区内ではダムは迷惑施設といった声も上がってきております。龍門小学校、龍門ダム等で行われてきた龍門地区活性化のためのイベントや活用方法も、この数字を見る限り、効果は上がっておりません。

竜門ダム交付金は、市町村の一般財源として受け入れるものであり、交付金の一部を基金として創設することは厳しいとのことでしたが、特定目的基金とする場合は、その目的に応じたものとして設立することは可能であると、平成３０年第１回定例会で明言されております。

龍門地区に暮らす人々の将来の希望として、上下水道の完備、残存地区の道路整備と生活環境の整備、地域振興のための観光整備等を目的とした基金設立をお願いいたします。

このような内容であり、龍門地域の方々の切実な思いであり、将来を悲観されていることが十分理解できます。市長におかれましては、龍門地域の思いであることをしっかり受けとめて、検討をよろしくお願いしておきます。

次に、龍龍館の現状と対策についてお尋ねですが、市長は、令和元年第２回定例会において、５月２１日の月例会で、私が龍龍館が５月１日より再スタートしておりますが、市長として見に行かれましたかとお尋ねしたところ、「もちろんです。見に行っています。以上です」と答えられました。

その後、市長に対して正式な議会の月例会の答弁でもありますので、これまで何度も見に行かれたのか確認をさせていただきましたが、曖昧な答えばかりでありますので、今回は正確なお答えをいただきたいと思います。

なぜ、このような確認をするかと申しますと、市長という立場の方が、市民の代弁者である市議会議員、市民のために日夜働いていただいている職員に対して、不

正確な答弁では信頼関係がなくなってしまうからであります。

また、龍龍館については、先般の答弁では、龍龍館はテナントとして置かしていますから、テナント業務については、私どもは直接に関知し得ませんので、監督する立場にはないと思いますと答えておられますが、菊池市交流促進センターのテナント事業に関する契約書では、菊池市長 江頭実と株式会社ＭＯＦＦ代表緒方元一様であり、契約書の中身を確認すれば、関知し得ないとは考えられないと思われます。

また、市長も月例会の答弁では、寄り添って一緒にやっている。今後の整備の中で一緒になって進めていきたいと述べておられます。この点からも、あり得ない答弁であり、訂正を求めるものであります。

龍龍館は、今回のテナント事業に失敗すれば、今後はますます龍門地域が疲弊してしまいます。そこで、改めて、市長の龍龍館に対して、今後の対応についてお尋ねをしたいと思います。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　ただいま、二つの質問であったかと思います。一つは基金設立の件、もう一つは龍龍館の件でございますね。

まず、最初の点でありますけども、先日、龍門地区の区長会の皆様に基金設立の内容の陳情をいただきまして、今、読み上げられたような内容の趣旨の陳情をいただきました。

その際に、区長さんの皆様に、これまで木下議員さんにご説明したのと同じ内容のご説明をいたしました。公有資産、国有資産等所在交付金というのは、いわゆる国、県につきましては、地方税法で定める固定資産税がないので、それにかわるものとしてもらっているんですよと。したがって、固定資産税の発生したところにその税金を戻しますという発想ではなくて、市全体の発展のために使っていただく、その一般財源であります、こういう話をしまして、交付金の一部を基金として創設する考えはないということをご説明しました。

そして、また一方で、実際には今後の発展であるとか、暮らしの改善であるとかについては、具体的に個々に議論していきましょうという話をしまして、実際に、今、寺小野のところの橋のかけかえをやっている話であるとか、やまびこ体育館を避難所として整備をしていくと。こうした具体的な案件を進めていることをお話ししまして、ご理解をいただいたことだというふうに思います。その結果とは思うんですが、その後、一部の区長様からは、陳情を取り消すという申し出を正式にいただいたところでございます。

いずれにしましても、大事なことは、迷惑施設とかいうことではなくて、やはり市全体あるいは流域全体から、大変感謝祭までやっていただいているようなすばらしい施設でございますので、これをどう生かしていくか、そして、それを地域の発展にどうつなげていくかということが一番大事であろうと思いますので、竜門ダム周辺の持っています一番の魅力は、やはり自然の力でありますので、今、都市部の人たちがこうしたところを観光に訪れたいという気持ちが大変強うございます。そうしたものをきちっと捉えて、龍門地域、そして市の発展につなげていきたいと。その考えには変わりはございません。個別具体的にさまざまなご相談を受けていきたいと、こういうふうに考えております。

２点目が龍龍館でございます。

龍龍館につきましては、委託契約でございませんで、テナント事業、その前に、済みません、まず、龍龍館にいつ行ったのかというご質問でありますけども、当時のご質問は、いつ行ったのかというご質問でございました。私は日にちはもう覚えておりませんというお話をした次第でございます。

それから、２点目の契約形態でございますけども、委託契約ではなくて、テナント事業に関する契約を締結して、施設の一部を貸し出しているものであります。したがいまして、前回の説明も、テナント事業者として、契約書の使用目的に沿って適切な運営が行われているのであれば、その一つ一つの業務の内容に市が指導する立場にはございませんので、テナント業務については関知し得ないため、監督する立場にないという発言をした次第でございますので、ぜひ民間業者としての自由な発想で、新たな事業展開を行っていただきたいと。前回同様に考えているところでございます。

いずれにしましても、繰り返しですが、竜門ダム周辺は大変菊池にとっても重要な地域でありますので、菊池らしい観光ファンをつくり出して、地域創生につなげていきたいと、このように考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（柁原賢一君）　木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　龍龍館に行ったかどうかの確認ということでございますが、私は、あのときに、月例会は５月２１日にあったわけですね。私が、緒方元一さん、龍龍館の経営の今度のテナントを受けた方と、１０日に課長と引き合わせて、その間に行ったかどうかという確認をもとに、５月１日からスタートしてますが、行かれましたかということですから、５月１日から１０日以降、また、２０日までの間ですから、覚えてないとか、そういう答弁で答えができるということが、私は不思

議でしようがありません。やはり市長として、あのときに堂々と、もちろんです、見に行ってますという形で、私たち議員も全部おりました。執行部も全部座っている中で、そうやって答弁をされたんですから、そういった形で曖昧な答えになるんであれば、お互いの信頼関係はなくなっていくと思います。

いずれにしても、この問題についても、また再度、質問を続けていきたいと思いますし、龍門地域のことについても、私も一生懸命質問を重ねていきたいと思います。

これで終わります。

○議長（柁原賢一君）　これで、木下雄二君の質問は終わります。

以上で、一般質問は終わります。

本日の議事日程は全部終了しました。

次の会議は、１２月２０日の午前１０時から開き、議案等の採決を行います。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後２時５７分

第　６　号

１２月１２日

令和元年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第６号

令和元年１２月１２日（木曜日）午前１０時開議

第１　議案第６９号　令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）の訂正について
　説明・採決

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　議案第６９号　令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）の訂正について
　説明・採決

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中　教　之	君
２番	福　島　英　徳	君
３番	緒　方　哲　郎	君
４番	後　藤　英　夫	君
５番	平　　直　樹	君
６番	東　　奈津子	さん
７番	坂　本　道　博	君
８番	水　上　隆　光	君
９番	猿　渡　美智子	さん
１０番	松　岡　　譲	君
１１番	荒　木　崇　之	君
１２番	柁　原　賢　一	君
１３番	工　藤　圭一郎	君
１４番	城　　典　臣	君
１５番	大　賀　慶　一	君
１６番	水　上　彰　澄	君
１７番	二ノ文　伸　元	君
１８番	泉　田　栄一朗	君
１９番	木　下　雄　二	君

２０番　山　瀬　義　也　君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江頭　実　君
副市長	芳野勇一郎　君
政策企画部長	元島加奈子　さん
総務部長	上田敏雄　君
市民環境部長	古田浩敏　君
健康福祉部次長	宮村恵美　さん
経済部長	笹本義臣　君
建設部長	中村喜範　君
七城支所長	上村雅一　君
旭志支所長	岩根卓士　君
泗水支所長	梁池哲也　君
財政課長	山田哲二　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中尾孝浩　君
市長公室長	前川幸輝　君
教育長	渡邉和博　君
教育部長	木下徳幸　君
農業委員会事務局長	坂本高秀　君
水道局長	大塚忠康　君
監査委員事務局長	山口浩一郎　君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	徳永裕治　君
事務局課長	歌岡憲一　君
課長補佐	松寺盛親　君
議会係長	安武則貴　君
議会係	吉岡結加里　さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　議案第６９号　説明・採決

○議長（柁原賢一君）　日程第１、議案第６９号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）の訂正の件を議題とします。

この件について、会議規則第１５７条の規定に基づき、資料の配付を許可しております。

執行部の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　改めまして、皆さん、おはようございます。各常任委員会及び分科会の開催中、大変お忙しい中にお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

去る１１月２９日に提出いたしました議案第６９号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）につきまして、表記の誤りがありましたので、その訂正をお願いするものでございます。

今回の件につきましては、事務処理上の確認不足によるものであり、深くおわびを申し上げます。

内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、訂正につきましては、よろしくお取り計らいいただきますようお願いを申し上げます。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　改めまして、皆様、おはようございます。それでは、訂正の内容につきましてご説明させていただきます。

議案書その１の７９ページ及びお手元に配付しております正誤表をお願いいたします。

議案第６９号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）の債務負担行為に

関する調書でございます。

訂正いたします箇所は、事項の欄の上から４段目、ＩＸ回線使用料の当該年度以降の支出予定額の期間がＲ２、つまり、令和２年度と表記されておりますが、これをＲ２からＲ６、令和２年度から令和６年度までに訂正するものでございます。

私どもの確認不足による原因であり、深くおわび申し上げます。

今後、さらなるチェック体制を図ってまいりたいと思います。まことに申しわけございませんでした。

○議長（柁原賢一君）　説明が終わりました。

この件につきましては、質疑、討論を省略し、直ちに採決をします。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第６９号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）の訂正について、承認することにご異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。

よって、議案第６９号の訂正については、承認することに決定しました。

ここで、議長より執行部に申し上げます。

議案等の提出に際しては、細心の注意を払うとともに、さらなるチェック機能の強化を求めます。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午前１０時０２分

第　７　号

１２月２０日

令和元年第３回菊池市議会定例会

議事日程　第７号

令和元年１２月２０日（金曜日）午前１０時開議

第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

――――――――――――――――○――――――――――――――――

追加議事日程（第７号の追加１）

第１　議案第９０号　菊池市長等の給料の特例に関する条例の制定について
　　議案第９１号　令和元年度菊池市一般会計補正予算（第９号）
　上程・説明・質疑・討論・採決
第２　決議案第３号　菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議
　上程・説明・質疑・討論・採決

――――――――――――――――○――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決
日程第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について
追加日程第１　議案第９０号　菊池市長等の給料の特例に関する条例の制定について
　　議案第９１号　令和元年度菊池市一般会計補正予算（第９号）
　上程・説明・質疑・討論・採決
追加日程第２　決議案第３号　菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議
　上程・説明・質疑・討論・採決

――――――――――――――――○――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	田　中	教　之　君
２番	福　島	英　徳　君
３番	緒　方	哲　郎　君
４番	後　藤	英　夫　君
５番	平	直　樹　君
６番	東	奈津子　さん
７番	坂　本	道　博　君

８番	水　上　隆　光　君
９番	猿　渡　美智子　さん
１０番	松　岡　　譲　君
１１番	荒　木　崇　之　君
１２番	柁　原　賢　一　君
１３番	工　藤　圭一郎　君
１４番	城　　典　臣　君
１５番	大　賀　慶　一　君
１６番	水　上　彰　澄　君
１７番	二ノ文　伸　元　君
１８番	泉　田　栄一朗　君
１９番	木　下　雄　二　君
２０番	山　瀬　義　也　君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

説明のため出席した者

市　　長	江　頭　　実　君
副　市　長	芳　野　勇一郎　君
政策企画部長	元　島　加奈子　さん
総　務　部　長	上　田　敏　雄　君
市民環境部長	古　田　浩　敏　君
健康福祉部次長	宮　村　恵　美　さん
経　済　部　長	笹　本　義　臣　君
建　設　部　長	中　村　喜　範　君
七城支所長	上　村　雅　一　君
旭志支所長	岩　根　卓　士　君
泗水支所長	梁　池　哲　也　君
財　政　課　長	山　田　哲　二　君
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	中　尾　孝　浩　君
市長公室長	前　川　幸　輝　君
教　育　長	渡　邉　和　博　君
教　育　部　長	木　下　徳　幸　君

農業委員会事務局長	坂　本　高　秀　君
水　道　局　長	大　塚　忠　康　君
監査委員事務局長	山　口　浩一郎　君

―――――――――――――――○―――――――――――――――

事務局職員出席者

事　務　局　長	徳　永　裕　治　君
事務局課長	歌　岡　憲　一　君
課　長　補　佐	松　寺　盛　親　君
議　会　係　長	安　武　則　貴　君
議　　会　　係	吉　岡　結加里　さん

○議長（柁原賢一君）　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○議長（柁原賢一君）　ただいまより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　各常任委員長報告・質疑・討論・採決

○議長（柁原賢一君）　それでは、日程に従いまして、日程第１、去る１２月４日の会議において、各常任委員会に審査を付託しました議案第６２号から議案第７６号まで及び議案第８１号から議案第８９号並びに請願第２号、陳情第４号について、各常任委員長から審査結果の報告があっておりますので、これを一括して議題といたします。

ただいまから各常任委員会における審査の経過及び結果について、各常任委員長の報告を求めます。

初めに、総務文教常任委員会委員長、水上隆光君。

［登壇］

○総務文教常任委員長（水上隆光君）　おはようございます。総務文教常任委員会委員長報告を行います。

本定例会で総務文教常任委員会に付託されました案件は、条例案３件、議決案６件、請願１件です。

２日間にわたり慎重に審議いたしましたので、委員会における審査の経過及び結果についてご報告申し上げます。

議案第６２号については、地方公務員の臨時、非常勤職員について特別職の任用の適正化を確保し、一般職の会計年度任用職員の任用等に関する制度の明確化や給与等の支給について規定を整備するものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、菊池市が合併してから正規と非正規の割合を教えていただきたいとの質疑に対し、執行部より、平成２７年度正規職員が４８５人、臨時・嘱託が３３５人、平成２８年度４７８人と３６２人、平成２９年度が４８３人と３７５人、平成３０年度が４８５人と３７５人、平成３１年度は４８７人と３６６人である。平成２７年度に比べ平成３１年度における臨時・嘱託の割合が若干増加傾向にあるとの答弁がありました。

また、委員より、期間が１年ということで雇いどめの危険性があると思うが、市としてはいつでも雇いどめする可能性はあるのかとの質疑に対し、執行部より、基本的には会計年度の任用職員となるので年度中が任期となる。能力等により引き続き雇用が可能と判断されれば任期の更新はできるとしているとの答弁がありました。

さらに、委員より、フルタイムとパートタイムは時間で区切られると思うが、どれぐらいで線を引くのか。また処遇の違いはとの質疑に対し、執行部より、フルタイムは正規職員と同じ勤務時間となり、パートタイムはそこまでいかない勤務で、現在の嘱託職員がスライドするとおおむね３０時間前後で整理をするかと思う。処遇については勤務時間に応じて報酬の額も変わる。各種手当については余り変わらないと認識しているとの答弁がありました。

また、委員より、本人にとっては処遇改善にならないケースの可能性はあるのかとの質疑に対し、執行部より、基本的な考えとしては現行の報酬をベースとして算定している。そういったところからすると現行報酬は確保したいと考えているとの答弁がありました。

さらに、委員より、予算はどれぐらいを見込んでいるのかとの質疑に対し、執行部より、現行予算と比較すると、つまごめ荘の民営化等で人数が減るので現在と同程度と推計しているとの答弁がありました。

次に、議案第６３号については、会計年度任用職員の制度の導入について規定するものが主なものであるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第６４号については、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の制定に伴い条例の一部を改正するものであり、成年被後見人または被保佐人が改正により欠格条項から削除されるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第８１号については、平成３０年４月に東日本大震災に伴う合併市町村に係る地方債の特例に関する法律が一部改正された。改正に伴い合併特例債の発効期限が１５年から２０年に延長され、本市においても有利な財源を確保するため、新市建設計画を変更するものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、全国的に合併特例債は使ってしまうとの流れなのかとの質疑に対し、執行部より、各市町村の裁量だと考えている。本市の場合、今後５年間の予定としては庁舎整備等に活用ということでの延長と考えているとの答弁がありました。

次に、議案第８２号については、現在の計画が本年度をもって期間満了を迎えるため、令和２年度から令和６年度までの５カ年を計画とする１２カ所の辺地総合整備計画を策定するものである。事業実施に当たっては予定年度の財政状況やほかの事業の実施状況を考慮した上で実施することになるとの説明を受け、質疑を行いま

した。

委員より、辺地度点数は整備されると下がるのかとの質疑に対し、執行部より、整備されることによって下がるということではない。人口や交通、利便性等を考慮した上での点数であるとの答弁がありました。

また、委員より、消防施設の整備が多く盛り込まれているようだが、防火施設は新規が多いのかとの質疑に対し、執行部より、記載分は新規であるとの答弁がありました。

次に、議案第８５号については、現在の菊池市市民会館の指定管理が今年度末をもって指定管理が終了することに伴い、新たに指定管理者の指定に当たって議会の議決を経る必要があるためであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、指定管理期間の５年間の根拠はとの質疑に対し、執行部より、指定管理制度に関する運用指針の内部規定の中で最初の指定期間は３年、２回目以降の指定については５年と規定しているとの答弁がありました。

次に、議案第８６号については、本年８月中旬から募集要項を公表、９月１７日を申請書の提出期限とし、１０月に入り菊池市指定管理候補者選定委員会の現地調査、応募事業所のプレゼンテーション、審査の結果、当該団体が候補者として選定されたとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、指定管理に応募した事業所はどれぐらいかとの質疑に対し、執行部より、１社であるとの答弁がありました。

さらに、委員より、１社の場合はそのまま決まるのかとの質疑に対し、執行部より、選定委員会での基準点があり、１社であっても６割の点数を取らないと候補者となることはできないとの答弁がありました。

次に、議案第８７号については、熊本市及び菊池市における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約に基づくものであり、熊本市にある図書館５つと公民館合わせて２１施設を菊池市民が利用できるようになるとの協定である。菊池市のほか、宇土市、玉東町、大津町、高森町、西原村、南阿蘇村、御船町、嘉島町、甲佐町、山都町などが参加されているとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、市民がいろんなところで借りて返すことができるようになると連携ができ、将来的には熊本全域でやりとりができるようにしたいとの考えかとの質疑に対し、執行部より、すぐ対応はできないが、図書館協議会でいろんな話をさせていただいているところであるとの答弁がありました。

次に、議案第８８号については、熊本県市町村総合事務組合規約第３条第１項に規定する退職手当の事務に、令和２年４月１日から熊本県後期高齢者医療広域連合が新たに加入するためであるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、請願第２号については、泗水東小学校南側にありました菊池地域農業協同組合住吉農業倉庫の跡地は、自然災害等、有事の際の校区民の避難場所として、送迎の際の乗降車場や行事等の際の臨時駐車場、さらに見学旅行等の貸し切りバスの待機所並びに乗降車場等として利用されていました。今後の土地利用いかんによっては安全な乗降車等ができなくなり、園児並びに児童の活動が制限されることが危惧されるため同地を購入し、今までどおりの使用、活用を請願するものであります。

委員より、農業倉庫跡地ということで菊之池小学校はどういう形になっているかとの質疑に対し、執行部より、ＪＡの所有地となっている。土地については地元の区長、校長とＪＡの組合長の連名により無償で貸与してある状況であるとの答弁がありました。

さらに、委員より、市も財産を減らす方向であり、できればその方向も頭に入れながらと思うがとの質疑に対し、執行部より、防災の面からすると浸水想定区域に隣接している地域であり、避難場所として整備することは防災上の観点からも難しいと考える。保育園等については、近隣の小学校を利用されている状況があり、まずは小学校の空きスペースの有効活用から検討したいとの答弁がありました。

加えて、執行部より、泗水東小学校では平成２７年度に小学校からの要望により駐車スペースを確保しているところである。必ずしも跡地購入しなくても同様に校内での対応が可能というふうに教育委員会では考えているとの答弁がありました。

議員間討議では、あらゆる計画が市民が集まったところで協議され作成されているが、できれば市民プラス議員が入れるようにならないか。特に、新市建設計画になると予算の配分もあるので２回チェックできるよう計画前にも入り、その後、補正予算だったり計画変更だったり決算で見ていく流れができないか今回感じたとの意見や、議会側は別の捉え方で進めるべきで、議会は議会として検証するために専門家を入れたりなど、システムづくりを議会側もしていくべきで、総合計画などをきちんと見る時間をつくることが大事だと思うとの意見がありました。

次に、請願第２号について、地域の方々が一緒になってどうにか考えたいとの請願であり、学校としては十分な機能をつくってあるが、あの水害のときの状況を見ておられるので余計に心配であり、地元の思いをわかってほしいとの請願でもあるので採択してあげたい思いであるとの意見がありました。

以上、議員間討議を踏まえ慎重審議しました結果、当委員会に付託されました議案第６４号、議案第８１号、議案第８２号及び議案第８５号から議案第８８号並びに請願第２号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決、採択すべきものと決定しました。

次に、討論のあった議案第６２号について申し上げます。

委員より、条例案では勤務条件の前進面もあるが、非正規職員に対して法的な根拠を与え非正規化を合法化し、正規職員の非正規化を進めることにつながりかねない。また、１年限定の雇用制度であり、限度を定めて雇いどめすることにもつながる。フルタイムとパート勤務の区分があり、新たな格差が生まれる懸念もある。今求められているのは、任期の定めのない常勤職員を中心とした公務運営の原則を堅持すること、そして非正規職員を正規化すること、非正規職員の雇用安定、待遇改善を図ることであるとの反対討論がありました。

また、委員より、今回の条例制定は正規でない方への処遇を改善するという１点であり、条例制定に関しては賞与が出る点は非常に大きいと思うので制定することはいいかと思うとの賛成討論がありました。

次に、議案第６３号について申し上げます。

委員より、反対の理由は、議案第６２号と同じであるとの反対討論がありました。また、委員より、賛成理由としては先ほど述べた議案第６２号と同様で、必然的に条例改正が必要であるとの賛成討論がありました。

採決の結果、議案第６２号、議案第６３号については、賛成多数により可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、本委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、総務文教常任委員会委員長の報告を終わります。

○議長（柁原賢一君）　次に、福祉厚生常任委員会委員長、猿渡美智子さん。

［登壇］

○福祉厚生常任委員長（猿渡美智子さん）　おはようございます。本定例会で福祉厚生常任委員会に付託されました案件は、条例案３件、議決案件１件です。

２日間にわたり慎重に審議いたしましたので、委員会における審査の経過及び結果についてご報告申し上げます。

まず、議案第６５号は、新たに資源ごみ袋（極小）を作成するために、条例の一部を改正するものである。資源ごみ袋（極小）の作成については、令和３年４月から菊池環境保全組合による新環境工場に菊池全域が加入することに伴い、菊池・七城・旭志地区のごみの分別が変更となるが、特に資源物の出し方が細分化することになる。牛乳パックなどの量がたまりにくい資源物や、高齢者や少人数世帯などごみの量が少ない世帯が排出しやすいように作成するものである。また、昨年より分別の住民説明会を各区に対して行っているが、資源ごみ袋（極小）の作成については、特に強く市民の方から要望があっているものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、資源ごみ袋（極小）の大きさは今までの一般ごみ袋の半分くらいなの

かとの質疑に対し、執行部より、大きさについては、現在ある（大）が４５リットル、（小）が３０リットル、（極小）については１５リットルを考えているとの答弁がありました。

次に、議案第６６号は、令和元年８月１日より施行された災害弔慰金の支給等に関する法律の一部改正に伴い、条例の一部を改正するものである。内容については、災害援護資金の貸し付けに係る償還金の支払猶予について、支払期日に償還金の支払いが著しく困難になったと認められるときには１年間支払いを猶予することができるということ、償還免除については、これまでの死亡や重度障害のほかに破産手続の開始、再生手続の開始が追加されたこと、また、市が償還金の支払猶予や償還免除をするか否かを判断するに当たり、貸し付けを受けた方や保証人の収入などの資産状況を把握できるようにしたこと等であるとの説明を受け、委員より、災害援護資金について、実績として菊池市ではどのくらいの件数の対象者がいるのか。また、返還が難しい状況にある方はいるのかとの質疑に対し、執行部より、貸付件数は４件、残高は４３６万４，５３０円である。現状として貸付年月日が古く、長い年数がたっているため、貸し付けを受けた方が死亡しているものが２件、債務を認めない方が１件、返済が滞っている方が１件、そのうち２件が執行停止となっている。災害援護資金は被災者を支援するものであり、収入が少ない世帯を対象とした貸付制度である。当時は予想していなかった出費がかさんでいたり、収入が減少したため返済が滞っている状況である。災害援護資金は市債権であるので、滞納処分ができない状況でもある。今後は市の債権マニュアルに基づき徴収困難者の状況を把握しながら対応していきたいとの答弁がありました。

次に、議案第６７号は、菊池市特別養護老人ホームつまごめ荘の民営化に伴い、関係する条例６本を廃止するものである。ただし、菊池市特別養護老人ホーム特別会計条例と菊池市特別養護老人ホームつまごめ荘財政調整基金条例については、令和３年４月１日からの施行とする。廃止を１年おくれとするのは、国、県への補助金返還が令和２年度となるためであり、一旦基金へ積み立てておいて特別会計から返還を行うため、特別会計条例と基金条例は補助金返還が終了してから廃止するものであるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第８３号は、菊池市特別養護老人ホームつまごめ荘の民営化に伴う財産の譲渡に当たっては、地方自治法の規定により議会の議決を経る必要があるため提案するものであるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

議員間討議では、議案第６５号に対し、委員より、廃棄物の処理に関して、今まで以上の分別をしなければならないということで、老夫婦などの世帯において分別の方法がわからなかったり、間違ったりしたときの処理の方法について十分考えて

ほしいという意見がありました。関連して、委員より、新たに緑色の資源ごみ袋（極小）をつくるということだが、黄色の不燃ごみや埋め立てごみの袋についても極小があってもいいのではないかという意見がありました。さらに、委員より、４月から試行的に行うために出前講座や冊子等をつくってお知らせをするということだが、市民の方にしっかりと徹底をしてもらうため、周知等に心がけてほしいという意見がありました。

以上、慎重審議しました結果、当委員会に付託されました議案第６５号から議案第６７号及び議案第８３号については討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、本委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、福祉厚生常任委員会委員長の報告を終わります。

○議長（柁原賢一君）　次に、経済建設常任委員会委員長、坂本道博君。

［登壇］

○経済建設常任委員長（坂本道博君）　おはようございます。本定例会で経済建設常任委員会に付託されました案件は、条例案１件、議決案件２件、陳情１件です。

２日間にわたり慎重に審議いたしましたので、委員会における審査の経過及び結果についてご報告申し上げます。

議案第６８号については、水道法の一部改正に伴い、指定給水装置工事事業者制度への指定の更新制の導入をするに当たり、本条例の一部を改正するものであるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

議案第８４号については、公の施設の指定管理者の指定に当たっては、地方自治法の規定により議会の議決を経る必要があるため提案するものである。指定管理者に管理を行わせる公の施設の名称は、菊池渓谷ビジターセンター及び菊池市観光情報発信施設であるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、今回の指定管理者は、他の自治体でも管理を行っているところがあるのか。また、会社の概要はとの質疑に対し、執行部より、過去の実績としては、和水町の和水江田川キャンプ場、玉名市の蛇ヶ谷公園、熊本市の熊本動植物園の駐車場の管理などを行っている。また、事業概要としては、施設の管理、警備等を行っているとの答弁がありました。

また、委員より、年間の指定管理料、今回の応募件数、業務の範囲について教えてほしいとの質疑に対し、執行部より、指定管理料については、令和２年度は１９７万円、令和３年度は１９０万円、令和４年度は１９０万円である。応募件数については１件であった。指定管理の範囲については、ビジターセンターの敷地内と建物内であり、業務内容において、特に地元特産品の販売及び展示、観光情報の収集

及び市内への誘客に関することに力を入れていただきたいと考えているとの答弁がありました。

議案第８９号は、道路法の規定により市道路線の認定をお願いするものである。泗水町永地区にある本路線は、県道原植木線と市道住吉農協線を結んでおり、一般公共道路として利用されているため、今回、市道認定をお願いするものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、地元区からの要望もあり、今回はこういった形で対応していただいたが、公衆用道路で所有権は市にあるが、市道認定されていないところがほかにもあるのではないか。改めてそのような調査をしたほうがよいのではないかとの質疑に対し、執行部より、中にはそういうところもあるかもしれないので、状況を調べて確認し、適正であれば市道認定するといった形でやっていきたいとの答弁がありました。

陳情第４号については、執行部より、有害鳥獣被害の現状と対策について説明を受けました。本市における有害鳥獣の捕獲数は年々増加傾向にあり、農林作物の被害の拡大が懸念されている。最近では、市街地におけるイノシシ、サル、シカ等の目撃情報も寄せられており、今のところ人的被害は発生していないが、その対策もあわせて実施する必要があると考えている。防止対策としては、本市の有害鳥獣捕獲協議会による捕獲が第一の手段となるが、あわせて侵入防止柵、電気木柵やワイヤーメッシュ柵の設置を実施している。基本的な対策としては、鳥獣の餌となるものを放置しないことを市民全体で進めることが重要であると考えている。また、会員が減少している有害鳥獣捕獲協議会への入会を推進しており、狩猟免許取得に向けた情報提供や取得費用の一部支援を行っているところであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、この陳情に関して考えると入り口と出口があって、入り口としては、ハンターをふやしてください、その分のお金を上げてくださいということだと思う。しかし、出口も整備しないと、有害鳥獣をとったはよいが、それから先どうしてよいかわからないとなってくると思う。それがジビエになるのか何になるのかはわからないが、そこから先の考えを持っているのかとの質疑に対し、執行部より、有害鳥獣の処理の対策については、今定例会の一般質問において部長から答弁したとおり、ジビエも含めて総合的に検討していくところであるとの答弁がありました。

また、委員より、まずは有害鳥獣の頭数を減らすことが一番の打開策であると思う。頭数が出て１年間の報奨金が終わった後は補正を組んで、それに見合う報奨金はやっていかないと、報奨金がないからとらないとハンターの方々は言われている。そういうときこそ補正を組んでハンターの方々の要望に応えていかないと、抜本的

な対策にはならないと思うとの質疑に対し、執行部より、昨年度の実績に合わせて、今年度の報奨金は３０万円ほど増額しているが、予算の範囲内での支給となっているため、捕獲頭数が多くなった場合は十分な支払いが行われていないのが現状である。これについては９月定例会での一般質問で答弁したとおり、前向きに検討していきたいとの答弁がありました。

以上、慎重審議しました結果、当委員会に付託されました議案第６８号、議案第８４号及び議案第８９号並びに陳情第４号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決、採択すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、本委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、経済建設常任委員会委員長の報告を終わります。

○議長（柁原賢一君）　次に、予算決算常任委員会委員長、平直樹君。

［登壇］

○予算決算常任委員長（平　直樹君）　おはようございます。去る１２月４日の本会議において、予算決算常任委員会に付託された議案について、１２月１１日、１２日に予算決算常任委員会分科会、１２月４日、１７日に予算決算常任委員会を開催し、慎重に審査しましたので、その経過と結果について報告いたします。

本委員会に付託されました議案は、議案第６９号から議案第７６号まで８議案です。

各分科会において所管する分を慎重に審査し、各分科会長より経過報告がありましたので、その主な内容について報告いたします。

まず、議案第６９号について申し上げます。

消防費の消防施設費１，１５１万１，０００円中、工事請負費８１５万８，０００円については、宅地開発の影響による民地に設置していた防火水槽の撤去の工事費、同時に防火水利を確保するための設置工事が主なものであるとの説明を受け、特に質疑はありませんでした。

次に、教育費の東京２０２０オリンピック・パラリンピック事業１，３３９万９，０００円については、来年５月７日に実施される聖火リレーに係る経費である。東京オリンピック２０２０聖火リレー熊本県実行委員会負担金１，１１９万９，０００円は、聖火リレーの通過市町村ごとに費用を積み上げ算定されており、本市の聖火リレーのルート及びランナーにかかる費用２，２３９万７，０００円を、県と市でそれぞれ２分の１を負担するものである。主な経費の内訳は、交通規制看板等に３６６万４，０００円、交通警備資材等に８３５万４，０００円、警備費用に５０９万６，０００円、ランナー管理費に８３万６，０００円、アンブッシュ対策費用に２２５万円、事業管理委託料に２１９万７，０００円を試算している。県からは

過去の大会で見られる妨害や乱入事例を踏まえ、現時点では最大級の警備体制を見積もっているが、今後の組織委員会や警察との協議の中で簡素化できるところは減らしていくと言われている。市の実行委員会負担金２２０万円については、本市における聖火リレーの出発地及び到着地のセレモニーの費用と、８月１３日から１５日の間に実施する予定のパラリンピックの採火式の費用となり、全額が本市の負担となっている。主な費用の内訳は、事前準備、説明会費用に３２万円、招待者用バス運行委託料、ステージ音響資材費用等の委託料に７０万４，０００円、消耗品３９万５，０００円、パラリンピック採火式費用に２８万４，０００円、予備費として４９万７，０００円であるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、パラリンピックの採火式は、こちらで採火するのかとの質疑に対し、執行部より、希望する自治体ができることになっており、本市も希望し採択されているとの答弁がありました。

また、委員より、一生に一回あるかないかのイベントであり、予算を使ってやろうという事業だが、盛り上げる大事さもあるが、安全対策面ではイメージより大きい予算となっている。地元みんなで盛り上げながら協力し、安全対策が図られる体制をつくっていければと思うがいかがかとの質疑に対し、執行部より、予算上は最大限の見積もりを行っている。できるだけ軽減できる部分は軽減していくよう努めたい。子どもたちを初め市民の皆様の心に残るような聖火リレーにしていきたいとの答弁がありました。

次に、債務負担行為補正で追加されてるＩＸ（アイエックス）回線使用料１，９３６万円については、現在、本庁と各支所間は１００メガｂｐｓが保証された回線で接続され、本庁と生涯学習センター間は２００メガｂｐｓが帯域保証された回線で接続されている。現在の回線ではシンクライアント環境下では動作が遅くなる可能性が高いため、令和２年４月１日より光回線であり１ギガｂｐｓのＩＸ回線に変更する計画にしているため債務負担行為をお願いするものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、回線の変更によりどれぐらい増額となるのかとの質疑に対し、執行部より、月額で８万２，５３３円、年額で９９万３９６円の増額となるとの答弁がありました。

次に、清掃総務一般経費２４万２，０００円については、来年度１年間、七城・菊池・旭志地区において新しいごみ分別方法の試行を行うが、円滑な移行に向けた対策として、スマートフォンやタブレット用のごみ分別アプリを導入する委託料と使用料である。現在ふえている外国人への対応としても、アプリの中に簡易版ではあるが、メニューから各言語を選択して対応できるようにしたいと考えているとの

説明を受け、質疑を行いました。

委員より、従来のごみの出し方で出す人もいると思うがどう対応するのかとの質疑に対し、執行部より、違反したごみについては、こういったことで間違っていますというようなシールをまず張って周知するような方法をとっていきたい。また、区長や生活環境委員と、分別が悪いところについては個別に話をしたりすることで周知を図っていきたいとの答弁がありました。

また、委員より、外国人の方へのアプリの周知はどのようにするかとの質疑に対し、執行部より、外国人の方が転入されるときには市民課に来られるので、そのときに周知することと、各企業に研修生などとして来られるので、企業に連絡して周知したいとの答弁がありました。

次に、子ども子育て支援臨時交付金８，９２４万２，０００円及び子ども子育て支援事業費補助金２８４万５，０００円について、委員より、認可外保育施設等施設利用分４分の１が補助となっているが、菊池市にも認可外に預けられている方がいるということかとの質疑に対し、執行部より、現在認可外に預けているのは、市外の病院に勤めている方で、若干名がそこの託児所に預けているとの答弁がありました。

次に、母子衛生費の母子保健事業１３１万６，０００円について、委員より、母子保健情報連携システム改修委託料の詳細な内容について教えてほしいとの質疑に対し、執行部より、事業内容については、乳幼児健康診査や妊婦健康診査等の情報について、マイナンバー制度を活用し、マイナポータルで市町村間の情報連携を開始するためのものである。転居等をされた場合に予防接種や健診の履歴を、今までは必要に応じて、本人に聞き取りをしたり、文書等で問い合わせをしていたが、連携システムができることにより、市町村間で情報のやりとりができるようになるものであるとの答弁がありました。

次に、畜産業費のアフリカ豚コレラ侵入防止緊急支援事業４，４８０万円については、１２月４日現在で、９つの府県で豚コレラが５０事例発生しており、累計頭数は１５万１，４７５頭となっている。蔓延する原因である野生動物が農場へ侵入するのを防ぐため、養豚農場への柵の設置が令和２年４月より義務化される。その対策として、国が事業費の２分の１、県が３分の１、市が１０分の１を補助するものであり、農家負担は６．７％となる。また、補正額の財源は全て一般財源となっているが、８割は交付税により措置されることとなっているとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、既存の柵の設置は、受益者が自分たちで作業して設置すれば、最終的には負担がなくなるようになっている。今回の場合、受益者が自分たちで設置すれ

ば６．７％の負担はなくなるのかとの質疑に対し、執行部より、補助額については防護柵と可動柵に分かれており、畜舎外周の防護柵は１メーター当たり５，０００円が上限となっており、出口部分の可動柵は１メーター当たり２万円が上限となっているとの答弁がありました。

次に、林業振興費の食べる竹・使う竹・魅せる竹生産支援事業補助金５５４万４，０００円については、県の１００％補助事業であり、竹産業の振興を図るため竹林整備、伐竹機等の導入について、意欲のある伐竹業者等に対し助成を行うものである。泗水地区の株式会社グリーンネクサスから要望があっており、竹林の整備のための補助を行うものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、これまで竹関係の事業をやっていた方に対する補助金なのか、それとも新たにスタートされる方に対する補助金なのかとの質疑に対し、執行部より、以前からやっている業者である。単県事業の交付要綱に、意欲のある伐竹業者とあり、その中に該当する業者であるとの答弁がありました。

次に、繰越明許費の満喫プロジェクト２０２０重点強化連携事業５，１０８万２，０００円については、この事業については、６月議会での補正予算可決後、１１月末に設計を完了している。当初予定では年度内の竣工を見込んでいたが、実施設計を行った結果、歩道・平橋のかけかえに伴う部材作成及び据えつけ、橋の階段改修等に相当の期間を要することになり、４月からの入谷シーズンに間に合わないため、来年のシーズン終了後に現場に入ることとし、５，１０８万２，０００円を繰り越すものであるとの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、１年ずらすということであるが、１年後に金額が上がったり下がったりすることまで想定しているのかとの質疑に対し、執行部より、多少の部材の値上がりは想定しており、余裕を持って予算の繰り越しをかけているとの答弁がありました。

次に、繰越明許費の鴨川公園改修事業８，６００万円については、委員より、前回の定例会で議決した事業であるが、これは県との協議がうまくいっていないということかとの質疑に対し、執行部より、構造的なものについての協議は終わっているが、提出資料のうち、構造計算の書類の中で、一部諸条件が漏れていた箇所があったため、計算のやり直しの指示を受けており、現在、コンサルに計算をやり直させている。それができ上がり次第、書類を差しかえて、申請の手続を進めていくことになっているとの答弁がありました。

議案第７０号から議案第７６号については、特に質疑はありませんでした。

議員間討議では、議案第６９号の東京オリンピック・パラリンピック事業について、聖火リレーの市負担が大きいが、過去の聖火リレー時に暴動等があったことを

考えると仕方ない部分もあると考えるとの意見や、ビッグイベントに対して安全対策等に必要とするとした予算であるが、そこまでかけずに盛り上がるような、子どもたちの記憶に残るような聖火リレーができるように一緒に見守らなければならないと思うとの意見、また、地方から盛り上げたほうがいいという思いで子どもたちをぜひとも見学させていただきたいし、参加できる形をとっていただきたい。子どもたちに夢を与えるものと思うのでぜひともやっていただきたいとの意見や、貴重な体験だと思うので、できるだけ市民が参加できるような体制と呼びかけをやってもらいたいとの意見が委員よりありました。

また、健康推進課の母子連携システムに関して、内容としては、三重県津市で行われている「はっぴぃのーと」の電子版に近いものだと感じた。全国各地で使えるシステムで、マイナンバーカードがあればよりスムーズに使えるということなので、マイナンバーカード普及に対する啓発をより一層進めていただきたい。また、普及率を上げるために、窓口交付よりもコンビニで交付された方が１件当たりの単価が安くなり、例えば３００円が２００円になるといったメリットがあれば、より普及は進んでいくのではないかと感じている。それによって、窓口業務も減って、その人材をほかに充てられるといった相乗効果も出ると思うので、ぜひ検討をお願いしたいとの意見がありました。

さらに、議案第７６号について、委員より、特別養護老人ホームつまごめ荘の民間譲渡について、家族会の方から介護職員の確保や、将来にわたる市としての関与はどうなのかなど、心配の声が上がっている。市として家族会の方の心配を払拭するよう努力するように、また、職員の処遇についても責任を持って当たるようにお願いするとの意見がありました。

以上が、各分科会長からの経過報告となり、分科会長報告に対する質疑は特にありませんでした。

以上、慎重に審議しました結果、議案第６９号から議案第７６号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上、本委員会に付託されました議案の審査経過及び結果について、ご報告いたします。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり速やかにご賛同を賜りますようお願い申し上げ、予算決算常任委員会委員長報告といたします。

○議長（柁原賢一君）　ただいまの各常任委員長の報告に対して質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。議案第６２号から議案第７６号まで及び議案第８１号から議案第８９号並びに請願第２号、陳情第４号について、以上２６案件について討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

東奈津子さん。

［登壇］

○６番（東　奈津子さん）　おはようございます。議席番号６番、日本共産党、東奈津子です。

議案第６２号、菊池市会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定について、反対の立場から討論を行います。

この条例改正は、地方公務員法及び地方自治法の一部を改正し、１年任用の会計年度任用職員という新たな仕組みを導入して、臨時、非常勤の地方公務員の大部分を移すために制定するものです。

条例案では、会計年度任用職員に期末手当を支給するなど勤務条件の前進面もありますが、正規職員に対して法的な根拠を与え、非正規化を合法化し、正規職員の非正規化を進めることにつながりかねません。また、１年限定の雇用制度であり、市は任期期間の限度を１年、５年と定めて、雇いどめすることにもつながります。地方公務員法の無期限任用の原則を覆すことにもなります。また、フルタイム勤務とパート勤務との区分があり、非正規の中に新たな格差が生まれる懸念もあります。

今、求められているのは住民の安心・安全を守るために、任期の定めのない常勤職員を中心とした公務運営の原則を堅持すること、そして、本格的、恒常的業務を担う非正規職員を正規化すること、非正規職員の雇用安定、待遇改善を図ることであります。

以上の理由から、議案第６２号には反対であります。

次に、議案第６３号、地方自治法及び地方公務員法の一部改正等に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について、反対の立場から討論を行います。

反対の理由は、議案第６２号と同じであります。

以上です。

○議長（柁原賢一君）　ただいま議案第６２号、議案第６３号に対する反対討論がありました。

議案第６２号、議案第６３号について、賛成者の発言を許します。

討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで、議案第６２号、議案第６３号に対する討論を終わりま

す。

ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで、討論を終わります。

これより議案第６２号から議案第７６号まで及び議案第８１号から議案第８９号並びに請願第２号、陳情第４号について採決します。

ただいま反対討論がありました議案第６２号及び議案第６３号を除き、一括採決します。

お諮りします。議案第６４号から議案第７６号まで及び議案第８１号から議案第８９号並びに請願第２号、陳情第４号までの以上２４案件については、各常任委員長の報告は原案のとおり可決であります。

各常任委員長の報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、以上２４案件については、各常任委員長の報告のとおり可決、採択することに決定しました。

次に、討論がありました議案第６２号及び議案第６３号については、起立により採決します。

最初に、お諮りします。議案第６２号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第６２号は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第６３号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立多数です。よって、議案第６３号は、原案のとおり可決することに決定しました。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第２　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

○議長（柁原賢一君）　次に、日程第２、委員会の閉会中の継続審査並びに調査についてを議題とします。

議会運営委員会 　１　議会運営等に関する諸問題の調査について 総務文教常任委員会 　１　一般行財政、企画開発、地域振興、情報処理、防災、教育等に関する諸問題の調査について 福祉厚生常任委員会 　１　福祉、環境、市税、健康管理、地籍調査等に関する諸問題の調査について 経済建設常任委員会 　１　農政、林業、商工振興、観光振興等に関する諸問題の調査について 　２　土木、都市計画、公共下水道、水道等に関する諸問題の調査について 予算決算常任委員会 　１　予算及び決算に関すること 議会広報特別委員会 　１　議会広報に関すること 熊本地震からの復旧・復興特別委員会 　１　熊本地震からの復旧・復興に関すること 議会改革検討特別委員会 　１　議会改革に関すること

議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から所管事務調査事項について、議席に配付の閉会中の継続審査並びに調査申し出一覧表のとおり申し出があっております。

お諮りします。議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることにご異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることに決定しました。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

追加日程第１　議案第９０号・議案第９１号　上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（柁原賢一君）　次に、追加日程第１、議案第９０号及び議案第９１号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　改めまして、皆様、おはようございます。それでは、ただいま上程されました追加議案について、ご説明申し上げます。

追加議案書の１ページをお願いいたします。

議案第９０号、菊池市長等の給料の特例に関する条例の制定についてでございます。

市費で支出すべきであった経費の一部を、市が事務局を担当する民間団体の会計から支出したことにより、市民の信頼を損なうこととなった責任を重く受けとめ、市長及び副市長の給料を減額するため、条例を制定するものでございます。

なお、職員分限懲戒審査委員会の審査結果を受けまして、１２月１９日付で当該事業の責任者であります職員の処分を行ったところであります。

本議案につきましては、組織全体の代表者である私と副市長がみずからを律し、減給処分を行うものでございます。

市民の皆様及び菊池市議会の皆様に心よりおわびを申し上げます。まことに申しわけございませんでした。

今後は、市民の皆様の信頼回復のため、公金の支出に関する管理体制を徹底し、業務改善と再発防止に全力で取り組んでまいる所存でございます。

次に、議案第９１号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第９号）につきましては、議案第９０号と同様の理由により、不適切な支出を改めるために提案させていただくものでございます。

以上、内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご賛同賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（柁原賢一君）　総務部長、上田敏雄君。

［登壇］

○総務部長（上田敏雄君）　改めまして、皆様、おはようございます。それでは、提案いたします議案につきましてご説明いたします。

追加議案書の１ページをお願いいたします。

議案第９０号、菊池市長等の給料の特例に関する条例の制定についてでございます。

本市職員が、市が実施したイベント経費において不適切な支出をしたことにより、市民の信頼を損なうこととなった責任を重く受けとめ、市長等の給料を減額するための条例を制定するものでございます。

あけていただき、２ページが制定する条例案でございます。

令和２年１月１日から３月３１日までの３カ月間、市長の給料の１００分の１０

を減額するとともに、令和２年１月１日から１月３１日までの１カ月間、副市長の給料の１００分の１０を減額するものでございます。

なお、この条例は、令和２年１月１日から施行し、３月３１日に限り、その効力を失うこととしております。

次に、追加議案書の３ページをお願いいたします。

議案第９１号、令和元年度菊池市一般会計補正予算（第９号）でございます。

９ページをお願いいたします。

今回の補正は、市が実施したイベントのチラシ作成に係る印刷製本費の補正予算でございます。

なお、同額を同事業の委託料から組み替えしておりますため、歳入歳出予算総額の増減はございません。

今回の追加補正予算につきましては、本市職員による不適切な支出がございましたことから、それを改めるため、提案させていただくものでございます。

このたびはまことに申しわけございませんでした。

以上、追加議案についての説明とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　以上で、議案の説明を終わります。

ここで、暫時休憩します。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

休憩　午前１０時５７分

開議　午前１１時１３分

――――――――――――――――○――――――――――――――――

○議長（柁原賢一君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　議案第９０号、菊池市長の給料の特例に関する条例の制定について質疑を行います。

これにつきましては、市長が１００分の１０を３カ月、副市長が１００分の１０を１カ月ということで、不適切な支出があったということでの減額ということでありますが、これに伴い職員も２人処分されています。

私も職員時代に１０分の１の１カ月をくらったことがあります。ただ、これは裁量権を逸脱した行為であるとして、人事委員会で２年間闘いまして、逆転勝訴いたしました。こういったことから、職員の処分については、私は非常に慎重にやらなきゃいけないと思っています。

このデジタル掛け軸に伴う不正支出というのは、もとを正せば、報道によりますと、１１月４日にこれはあってますけども、決定したのが、この事業を決定したのが１カ月前であります。１カ月前に市長の知人が市長に申し出て、デジタル掛け軸をしたいといってやった。それに対して、職員がどうにか成功させたいという気持ちからやったというふうに思いますけども、確かにやってしまったことは仕方がありません。しかし、やっぱりそのもともとの原因を考えていただいて、市長が懲罰委員会に職員は訓告にとどめてくれないかとか、そういう申し出をされていないのか、お尋ねをいたします。

○議長（柁原賢一君）　市長、江頭実君。

［登壇］

○市長（江頭　実君）　処分委員会におきましては、客観的にご評価をいただくことが一番と考えておりますので、特に私のほうからは意見等は申し上げておりません。

以上でございます。

○議長（柁原賢一君）　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで質疑を終わります。

議案第９０号及び議案第９１号については、会議規則第３７条第２項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

お諮りします。議案第９０号について、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、議案第９０号は、原案のとおり可決することに決定しました。

次に、お諮りします。議案第９１号について、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、議案第９１号は、原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

追加日程第２　決議案第３号　上程・説明・質疑・討論・採決

○議長（柁原賢一君）　次に、追加日程第２、決議案第３号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

荒木崇之君。

［登壇］

○１１番（荒木崇之君）　それでは、決議案第３号、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議案の提案理由を説明いたします。

提案理由でありますが、１点目に、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関してのインボイスの重量及び輸入統計品目番号が輸入許可通知書と全く違うことであります。加えて、総務文教常任委員会に根拠資料として提出されたインボイス及び輸入許可通知書の重要な部分が全て修正液で消されており、公文書偽造に値すること。

２点目に、住民監査請求に係る監査の陳述記録の中で、空輸費の４６万４，０００円の算出根拠について、執行部はきちんと積算し設計を行ったと述べているにもかかわらず、空輸費の４６万４，０００円の積算根拠を証明する資料が一切存在しない。そして、このことに対し、総務文教常任委員会において委員から指摘され、謝罪していること。

３点目に、執行部は、乃村工藝社を卸元として、株式会社教育産業社が納品したとの説明を当初行っていたが、実際の卸元業者は金剛株式会社であり、虚偽の説明を行っていること。

４点目に、執行部は、当初納入予定であったＶｉｔｒａ社製の椅子について、変更理由書に在庫の確認ができる在庫品であると記載しているのにもかかわらず、住民監査請求に係る監査の陳述記録では、受注生産品であったと真逆の陳述を行っていることであります。

以上の４点については、菊池市が椅子の入札について、明らかに不適切な入札を行った証拠であり、毎回、一般質問の答弁と公文書の整合性がとれない執行部のありさまは朝令暮改も甚だしく、何ら信用することができません。

また、この椅子問題について調査を行った総務文教常任委員会では、インボイスの相違も見抜けず、納入業者の聴取さえ行われておりません。もはや総務文教常任委員会での所管事務調査には限界があります。このままでは市政に対する市民の信頼を大きく損ねることになりかねません。今こそ、隠蔽体質のうみを出し切り、百条委員会の場で真相を究明すべきであり、それがこの問題の早期解決を図り、我々

議員に課された責任を果たす第一歩であると考えます。

以上を提案理由として、別紙決議案の内容を読み上げて説明いたします。

１、調査事項

地方自治法第１００条の規定により、次のとおり菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査を行うものとする。

２、特別委員会の設置

本調査は、地方自治法第１０９条及び委員会条例第６条の規定により、委員６名で構成する「菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査特別委員会」を設置し、これに付託して行う。

３、調査権限

本会議は、１に掲げる事項の調査を行うため、地方自治法第１００条第１項及び同法第９８条第１項の権限を「菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査特別委員会」に委任する。

４、調査期間

「菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査特別委員会」は、１に掲げる調査が終了するまで閉会中もなお調査を行うことができる。

５、調査経費

本調査に要する経費は、予算の範囲内とする。

以上、議員各位におかれましては、速やかにご賛同賜りますようお願い申し上げ、決議案第３号の提案理由といたします。

○議長（柁原賢一君）　以上で説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

決議案第３号については、会議規則第３７条第３項の規定によって委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続き審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

緒方哲郎君。

［登壇］

○３番（緒方哲郎君）　今回、提出されました決議案第３号、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議に対しまして、反対の立場で意見を述べさせていただきます。

この案件は、執行権の範囲内であり、住民監査請求に係る監査により指摘はあったものの、問題なしとの答えから違法性はないものと考えます。そうであるとするならば、これから執行部がやらなければならないことは、いただいた指摘を真摯に受けとめて、これからの契約において、しっかりと生かしていくべきだと考えますし、あわせて、私たち議員がこれからやらなければならないことは、その内容をきちんと精査し、チェック機関としてのその機能を十分発揮していくために、建設的かつ前向きに努力していくべきと考えます。

したがって、百条委員会の設置には反対とさせていただき、私の反対討論とさせていただきます。

○議長（柁原賢一君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

二ノ文伸元君。

［登壇］

○１７番（二ノ文伸元君）　皆さん、こんにちは。私は、議席番号１７番、是は是、非は非がモットーの二ノ文伸元でございます。よろしくお願いします。

私は、決議案第３号、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議に賛成の立場で討論をさせていただきます。

まずは、議員の皆さん、我々議員は、市民が納めた税金が適正に使用されることについて、事前事後のチェックが必要とされ、そのことが一つの務めと言えます。このことは当然自覚をされているものと思います。

先日、泗水公民館で行われました議会報告会の最後のほうで、市民の方からのご意見、私たちが納めた税金を１円たりとも無駄にしてはもらいたくないと切実に訴えられたことは、皆さんの記憶の中に残っておることだと思っております。当然この言葉は、我々議員にも執行部にとっても心に響く市民からの訴えであり、市民の代表であるべき我々が肝に銘じていかなければならないことかと考えております。

このことから、各議員に申し上げます。きょう、この場で私たちは公金の使用をチェックする議員の一人として、この提案に反対ありきではなく、公正公平な立場で採決に臨んでいただけるようにお願いをいたします。

今回の提案の理由の根拠は次の４点です。１点目、公文書偽造に値する文書改ざんであること。２点目、空輸費積算根拠を証明する資料が一切存在しないことを総務文教常任委員会の中で執行部が既に謝罪し、不備を認めていること。３点目、執行部が当初示した卸元業者は乃村工藝社であったが、実際は金剛株式会社との取引

であるという虚偽の報告であること。４点目、外国製品の椅子を当初は在庫品であると記載したが、住民監査請求に係る監査の陳述記録では受注生産品と真逆の陳述になっていること。以上４点であります。

このように、現在の時点でも虚偽といえる報告及び執行がたび重なっており、市民への信用失墜行為等が明らかになりました。これまでに明らかになった虚偽の報告の意味、目的、さらには不正の有無を明らかにすることが議会の役割であるはずです。

さらに、こうした点について、調査すべき総務文教常任委員会の機能として、調査内容、権限の限界があることが明白であります。時間を経るごとに虚偽報告などが、不明瞭な市政運営が疑われる中、市政のチェック機関としての正当な市議会運営がなされなければ、誰が市民に説明をするのですか。今、私たちがやるべきではありませんか。

私ごとではありますが、９月議会には私に対する議員辞職勧告決議案が、真意について何らの調査もなかったにもかかわらず、提案者の意見において賛成多数で可決したこともありました。こうした数の暴挙となることなく、全てにおいて真意が明らかにされることが必要です。何のための議員か、誰のための議員か、議員として市政を担う一員として、市民の声の代弁者、チェック機能の役割が果たせられるのかを常に認識することが必要ではないでしょうか。

事なかれ主義、寄らば大樹の陰、臭いものにはふたといった議会ととられかねない議会では、議会そのものの存亡にかかわることであります。現在、不明瞭な点について明らかにすべき説明責任が議会にもあること、さらに、総務文教常任委員会における調査権には限界があり、チェック機能としての役が果たせないため、今回、百条委員会を設置し、強い調査権限をもって事に当たり、市民への説明責任を果たすべきだと考えております。

以上のことから、この決議案に対するご賛同を切にお願いをしまして、私からの賛成の討論とさせていただきます。

以上。

○議長（柁原賢一君）　ほかに討論はありませんか。

木下雄二君。

［登壇］

○１９番（木下雄二君）　皆さん、おはようございます。決議案第３号、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議に、賛成の立場で討論をさせていただきます。

図書館の椅子購入に関しましては、これまで熊日新聞に何度も掲載され、また、

昨年の議会報告会、先般の議会報告会でも住民監査請求棄却の問題、全議員に対して百条委員会の賛否を問う正式な公開質問状をお願いしたのに、無回答の議員がいたことに対して納得がいかない、何のための議員なのか等の厳しい意見も噴出いたしました。菊池市の市民感覚とかけ離れた価値観、金銭感覚に疑問を持っている市民の方々がたくさんおられるのではないでしょうか。

少子高齢化で将来的に厳しい財政状況の中で、高額な椅子の購入、ましてや地場産業育成を考えなければならないのに、海外製を選択している問題、他市ではあり得ない入札の同等品不可の問題、落札後の業者への対応等、また、菊池市中小企業振興基本条例の、市内に事務所または事業所については、従業員が常駐していることが条件等もいまだに確認ができておりません。

また、８月１６日に行われました商工会会員の議員との意見交換会でも、会員の方々より図書館の椅子問題については具体的な指摘もあり、まだまだこの問題は解決していないことを再認識いたしました。そのときに出席された議員はそのことは十分理解をされていると思います。

今回の荒木議員の提案理由で具体的に述べられましたが、総務文教常任委員会の所管事務調査では限界であることは明白であります。私も総務文教常任委員会所管事務調査報告に対しての質疑でも申し上げましたが、これまで何も問題ないと言い続けてきた執行部が、契約事務を含めて適正処置に当たっていきたいと謝罪をしていますが、謝って済む問題ではありません。市民に対してきちんと説明責任を果たす必要があります。

現在の菊池市は、これまで職員の公文書偽造、公用車の車検切れの問題、西郷南洲公園の土砂の損害賠償、先般は映像投影イベント、デジタル掛け軸の経費を外郭団体の資金を無断で流用したことも発覚しております。このようにたび重なる不祥事で市民との信頼関係が大きく崩れております。

また、先日は、菊池市の友好都市の岩手県遠野市の議員より連絡があり、ヤフーニュースで見ましたが、地場産業育成、地産地消、税金の使途の観点から、図書館の椅子の問題については、百条委員会設置に同意する意見をいただきました。このように、この問題は菊池市民はもとより、全国の地方議会が注目をしています。

私たち議員は、市民の代弁者として税金の使途を監視することが仕事であります。今回の図書館の椅子問題は、納入業者の聴取ができる百条委員会を設置する以外、市民の納得のいく解決にはなりません。市の不適切な事務処理による税金の無駄遣いの真相究明によって、議会としての説明責任を果たすためにも、これらのことを重く受けとめて採決に臨んでいただきますようお願いいたしまして、賛成討論といたします。

○議長（柁原賢一君）　ほかに討論はありませんか。

福島英徳君。

［登壇］

○２番（福島英徳君）　皆さん、こんにちは。決議案第３号、菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議に対しまして、賛成の立場で意見を述べます。

これまで、３回にわたって本件について百条委員会の設置が提案されました。そのたびに反対討論も行われた中で、総務文教常任委員会で十分に議論された結論なので問題なしとの発言を複数お聞きしました。本当に所轄である総務文教常任委員会で十分な議論がなされたのでしょうか。

熊日新聞の記事では、令和元年９月１０日付で「椅子空輸すっきりせず」のタイトル、同年９月１２日付では「批判やまぬ高級椅子」のタイトルで、「市の姿勢に不信も」、同年９月１４日付でも「空輸未確認に批判」、同年９月２５日付では「椅子空輸証明書類市議会に提示、しかし、費用は示されず」、そして、今月、１２月１０日付では「椅子送り状にせもの指摘、しかし、市は否定」と大きく記載されました。

９月議会終了後も総務文教常任委員会では継続審議が行われ、先般、委員長からの報告があり、質疑も行われましたが、質疑に対する明確な回答がないばかりか、審議していない等の答弁を繰り返されました。これでも委員会で十分な審議が行われたと言えるでしょうか。税金を投入して行われた審議に対して納得できる回答は得られていません。

このような状況でも反対される議員の方々は、ご自身の家庭で物品購入時に同様の事案があっても問題ないと納得されるのでしょうか。

市民の方々からは、税金の使い方の疑義を問われているにもかかわらず、執行部からの納得しかねる説明の繰り返しに対して、なぜ調査して疑義を問わないのか、百条委員会を設置して調査するのは当然ではないかと、そういった声を多く聞きます。このように、多くの市民の声があるにもかかわらず、議員の大多数が反対されていることは、何か思惑があるのか、市民との感覚がかけ離れているとしか思えません。チェック機関でもある議会が、疑義があり、それに納得できる説明がない事案に対してどのような対応をすべきか、議員の皆様の良心に期待を込めて、私の賛成討論を終わります。

○議長（柁原賢一君）　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○議長（柁原賢一君）　これで討論を終わります。

これより採決します。採決は起立により行います。

お諮りします。決議案第３号について、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（柁原賢一君）　起立少数です。よって、決議案第３号は、否決することに決定しました。

以上をもって本日の議事日程は全部終了し、今定例会に付議されました事件は全て議了しました。

これをもちまして、令和元年第３回菊池市議会定例会を閉会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

閉会　午前１１時４１分

地方自治法第１２３条第２項の規定によりここに署名する。

菊池市議会議長　　柁　原　賢　一

菊池市議会議員　　荒　木　崇　之

菊池市議会議員　　工　藤　圭一郎

付　　録

令和元年第３回定例会付議事件一覧及び審議結果表

（１１月２９日・１２月２０日議決）

議案番号	件名	審議結果
議案第６１号	専決処分の報告及び承認を求めることについて（令和元年度菊池市一般会計補正予算　第７号）	原案承認
議案第６２号	菊池市会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定について	原案可決
議案第６３号	地方自治法及び地方公務員法の一部改正等に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	原案可決
議案第６４号	菊池市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第６５号	菊池市廃棄物の処理及び清掃並びに浄化槽に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第６６号	菊池市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第６７号	菊池市特別養護老人ホーム特別会計条例等を廃止する条例の制定について	原案可決
議案第６８号	菊池市給水条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第６９号	令和元年度菊池市一般会計補正予算（第８号）	原案可決
議案第７０号	令和元年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第７１号	令和元年度菊池市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）	原案可決
議案第７２号	令和元年度菊池市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）	原案可決
議案第７３号	令和元年度菊池市特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）	原案可決
議案第７４号	令和元年度菊池市地域生活排水処理事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第７５号	令和元年度菊池市農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第７６号	令和元年度菊池市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第３号）	原案可決
議案第７７号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第７８号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意

議案番号	件　　名	審議結果
議案第７９号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第８０号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第８１号	新市建設計画の変更について	原案可決
議案第８２号	辺地総合整備計画の策定について	原案可決
議案第８３号	財産の譲渡について	原案可決
議案第８４号	公の施設の指定管理者の指定について（菊池渓谷ビジターセンター及び菊池市観光情報発信施設）	原案可決
議案第８５号	公の施設の指定管理者の指定について（菊池市市民会館）	原案可決
議案第８６号	公の施設の指定管理者の指定について（菊池市総合体育館）	原案可決
議案第８７号	公の施設の他の団体の利用に関する協定の締結について	原案可決
議案第８８号	熊本県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更について	原案可決
議案第８９号	市道路線の認定について	原案可決
議案第９０号	菊池市長等の給料の特例に関する条例の制定について	原案可決
議案第９１号	令和元年度菊池市一般会計補正予算（第９号）	原案可決
請　　願		
請願第　２　号	「菊池地域農業協同組合住吉農業倉庫跡地購入」に関する請願	採　択
陳　　情		
陳情第　４　号	有害鳥獣被害防止対策に関する陳情	採　択
決 議 案		
決議案第３号	菊池市中央図書館の閲覧用椅子購入に関する調査に関する決議	原案否決

議案番号	件　　名	審議結果
報　　告		
報告第２４号	専決処分の報告について（消防積載車物損事故）	原案報告
報告第２５号	専決処分の報告について（庁用車車両事故）	原案報告
報告第２６号	専決処分の報告について（庁用車車両事故）	原案報告